商学・経済学編

COMMERCE & ECONOMICS

商学・経済学編 目次

目次 ……1

商学・経済学の系譜 ……3
凡例 ……6
1. パチョーリ「算術・幾何・比および比例総論」初版 1494年 ……7
2. インピン「新しい手引き」フランス語初版 1543年 ……8
3. タリエンテ「商業算術」1550年 ……9
4. スタッフォード「英国人の不平についての検討」初版 1581年 ……10
5. マン「東インド貿易論」初版 1621年 ……11
6. マリーンズ「商習慣法」初版 1622年 ……12
7. ミセルデン「自由貿易」第2版 1622年 ……13
8. マン「東インド貿易に関する請願」初版 1628年 ……14
9.「貨幣交換者のための法令と手引集」1633年 ……15
10. ダフォルネ「商人の鏡」初版 1636年 ……16
11. シュリ「王室財政回想録」初版 1638年 ……17
12. マン「外国貿易によるイングランドの財宝」初版 1664年 ……18
13. ヴォーン「鋳貨論」初版 1675年 ……19
14. ヤラントン「陸・海におけるイギリスの改良」初版 1677-1681年 …20
15. チャイルド「東インド貿易論」初版 1681年 ……21
16. ペティ「政治算術二論」初版 1687年 ……22
17. ペティ「政治算術五論」初版 1687年 ……23
18. ノース「交易論」初版 1691年 ……24
19. ペティ「アイルランドの政治的解剖」初版 1691年 ……25
20. ロック「貨幣利子論」初版 1692年 ……26
21. ケアリ「英国貿易論」初版 1695年 ……27
22. ロック「貨幣価値引き上げの再考察」初版 1695年 ……28
23. バーボン「貨幣軽鋳論」初版 1696年 ……29
24. ケアリ「アイルランドとスコットランドの貿易」初版 1696年 ……30
25. ケアリ「イングランドの貨幣と信用」初版 1696年 ……31
26. ダヴェナント「東インド貿易論」初版 1696年 ……32
27. ロック「貨幣、利子論集」初版 1696年 ……33
28. ポレックスフェン「交易、貨幣、紙券信用論」初版 1697年 …34
29. ポレックスフェン「イングランドと東インドとの産業は両立せず」初版 1697年 …35
30. ダヴェナント「イングランドの歳入と貿易論」初版 1698年 …36
31. ダヴェナント「下賜と再占有に関する考察」初版 1700年 …37
32. ダヴェナント「海外戦争論」初版 1704年 ……38
33. ロー「貨幣及び交易論」初版 1705年 ……39
34. ヴォーバン「鈍定十分の一税の提案」初版 1707年 ……40
35. マンディヴィル「蜂の寓話」初版 1714年 ……41
36. キング「英国の商人」初版 1721年 ……42
37. デフォー「完全なイングランド商人」初版 1726年 ……43
38. プーランヴィリエ「フランスの国情」初版 1727-1728年 ……44
39. デフォー「イギリスの貿易事情」初版 1728年 ……45
40. ヴァンダーリント「貨幣万能」初版 1734年 ……46
41. ブロッジャ「租税、貨幣及び健全な統治」初版 1743年 ……47
42. ケネー「動物経済に関する物理的論究」第2版 1747年 …48
43. ジョン・スミス「農村商業史」初版 1747年 ……49
44. ガリアニ「貨幣論」初版 1750年 ……50
45. パターソン「スコットランド貿易委員会設立への提案」グラスゴー版 1751年 …51
46. ポッスルスウェイト「商工業大辞典」初版 1751-1755年 ……52
47. カンティヨン「商業一般の性質について」初版 1755年 ……53
48. マッシー「各階級における税の計算」初版 1756年 ……54
49. ミラボー「人間の友」初版 1756(-1760年) ……55
50. ポッスルスウェイト「大英帝国の商業権益」初版 1757年 ……56
51. タッカー「旅行者への指針」私家版 1757年 ……57
52. ハリス「貨幣および鋳貨論」初版 1757-1758年 ……58
53. ルソー「政治経済学」初版 1758年 ……59
54. A・スミス「道徳感情論」初版 1759年 ……60
55. ミラボー「租税の理論」初版 1760年 ……61
56. ミラボー「農業哲学」初版 1763年 ……62
57. デュポン・ド・ヌムール「穀物の輸出入について」初版 1764年 ……63
58. アカリア・デ・セリョーネ「商業によるヨーロッパの国益」仏訳初版 1766年 …64
59. C・スミス「穀物貿易と穀物法」第2版 1766年 ……65
60. ル・メルシェ・ド・ラ・リヴィエール「政治社会の自然的本質的秩序」初版 1767年 …66
61. ミラボー「農業哲学要綱」初版 1767年 ……67
62. ケネー「フィジオクラシー」初版 1767年 ……68
63. スチュアート「経済学原理」初版 1767年 ……69
64. デュポン・ド・ヌムール「新科学の起源と発展」初版 1768年 …70
65. ヤング「イングランド、ウェールズの南部諸州をめぐる6周間の旅」初版 1768年 …71
66. モロー・ド・ポーモン「ヨーロッパにおける課税に関する覚書」初版 1768-1769年 …72
67. ミラボー「経済学」初版 1769年 ……73
68. ガリアニ「小麦取引に関する対話」初版 1770年 ……74
69. ボードー「経済哲学序論」初版 1771年 ……75
70. コンディヤック「商業と統治」初版 1776年 ……76
71. A・スミス「国富論(諸国民の富)」初版 1776年 ……77
72. ル・トローヌ「社会的秩序について」初版 1777年 ……78
73. モオー「フランスの人口に関する研究」初版 1778年 ……79
74. ネッケル「報告書」初版 1781年 ……80
75. ネッケル「フランスの財務行政について」初版 1784年 ……81
76. マソン・ド・ラクール「フランス財政報告集成」初版 1788年 …82
77. テュルゴー「富の形成と分配に関する諸考察」第2版 1788年 …83
78. ヤング「フランス旅行記」初版 1792年 ……84

79. A・スミス「哲学論文集」初版 1795年 ……85
80. ゴドウィン「探求者」初版 1797年 ……86
81. マルサス「人口論」初版 1798年 ……87
82. カナール「経済学原理」初版 1801年 ……88
83. マルサス「人口論」第2版 1803年 ……89
84. セー「経済学概論」初版 1803年 ……90
85. シスモンディ「商富論」初版 1803年 ……91
86. ロウダァディル「公の富の性質と起源」初版 1804年 ……92
87.「ロンドンの売り声」1804年 ……93
88. ミルン「年金評価論」初版 1815年 ……94
89. デュポン・ド・ヌムール「マルサスの人口論に関する考察」初版 1817年 …95
90. リカード「経済学及び課税の原理」初版 1817年……96
91. リカード「経済学及び課税の原理」アメリカ初版 1819年 ……97
92. シスモンディ「経済学新原理」初版 1819年 ……98
93. ゴドウィン「人口について」初版 1820年 ……99
94. マルサス「経済学原理」初版 1820年 ……100
95. セー「マルサス宛セー書簡集」初版 1820年 ……101
96. J.ミル「経済学要綱」初版 1821年 ……102
97. トレンズ「富の生産」初版 1821年 ……103
98. プレース「人口原理の例証」初版 1822年 ……104
99. エヴァレット「人口新論」初版 1823年 ……105
100. ベイリー「リカード価値論の批評」初版 1825年 ……106
101. マカロック「経済学原理」初版 1825年 ……107
102. ミルバーン「東インド貿易要覧」初版 1825年 ……108
103. マルサス「経済学における諸定義」初版 1827年 ……109
104. フーリエ「産業的組合的新世界」初版 1829年 ……110
105. バベジ「機械および製造業経済論」初版 1832年 ……111
106. チャーマーズ「経済学について」初版 1832年 ……112
107. レー「経済学新原理」初版 1834年 ……113
108. シーニア「経済学要綱」初版 1836年 ……114
109. ケアリ「経済学の原理」初版 1837-1840年 ……115
110. リスト「経済学の国民的大系」初版 1841年 ……116
111. ド・クィンシー「経済学の理論」初版 1844年 ……117
112. J.Sミル「経済学の未決の諸問題に関する論文」初版 1844年 …118
113. プルードン「経済的矛盾の体系」初版 1846年 ……119
114. ケアリ「過去、現在および未来」初版 1848年 ……120
115. ヒルデブラント「現在ならびに将来の国民経済学」初版 1848年 …121
116. J.Sミル「経済学原理」初版 1848年 ……122
117. クニース「歴史的方法の立場から見た経済学」初版 1853年 …123
118. ケアリ「社会科学の原理」初版 1858-1862年 ……124
119. ジョーンズ「経済学遺稿集」初版 1859年 ……125
120. クールノー「富の理論の原理」初版 1863年 ……126
121. マンゴルト「国民経済学要綱」初版 1863年 ……127
122. J.Sミル「功利主義」初版 1863年 ……128
123. マルクス「資本論」初版 1867-1894年 ……129
124. ケアリ「国民経済学及び社会科学綱要」ドイツ語初版 1870年 …130
125. シュモラー「19世紀ドイツ小工業史」初版 1870年 ……131
126. ブレンターノ「現代労働組合論」初版 1871-1872年 ……132
127. ジェヴォンズ「経済学の理論」初版 1871年 ……133
128. メンガー「国民経済学原理」初版 1871年 ……134
129. バジョット「ロンバード街」初版 1873年 ……135
130. ケアンズ「経済学主要原理新考」初版 1874年 ……136
131. ロッシャー「ドイツ国民経済史」初版 1874年 ……137
132. ワルラス「純粋経済学要論」初版 1874-1877年 ……138
133. マルクス「資本論」フランス語版 1875年 ……139
134. シュモラー「法および国民経済の根本問題」初版 1875年 …140
135. クールノー「経済学説要論」初版 1877年 ……141
136. メンガー「社会科学特に経済学の方法に関する研究」初版 1883年 …142
137. ウィーザー「経済価値の起源と主要法則」初版 1884年 ……143
138. ベーム・バヴェルク「資本および資本利子」初版 1884-1889年 …144
139. ウィックスティード「経済学入門」初版 1888年 ……145
140. パンタレオーニ「純粋経済学原理」初版 1889年 ……146
141. ウィーザー「自然価値論」初版 1889年 ……147
142. マーシャル「経済学原理」初版 1890年 ……148
143. ヴィクセル「価値、資本および地代」初版 1893年 ……149
144. ワルラス「社会経済学研究」初版 1896年 ……150
145. パレート「経済学講義」初版 1896-1897年 ……151
146. ワルラス「応用経済学研究」初版 1898年 ……152
147. ヴィクセル「利子と物価」初版 1898年 ……153
148. クラーク「分配論」初版 1899年 ……154
149. パレート「社会主義体系」初版 1902年 ……155
150. テイラー「工場管理」初出 1903年 ……156
151. パレート編「経済学史叢書」初版 1903-1929年 ……157
152. テイラー「科学的管理法の原理」初版 1911年 ……158
153. ブレンターノ「イギリス経済発展史」初版 1927-1929年 ……159
154. ケインズ「雇用、利子および貨幣の一般理論」初版 1936年 …160

参考文献……163

著者名索引……164

あとがき……167

十字軍の時代から東地中海方面の各地に拠点を築き、東方貿易を掌握していたイタリアの商業は、15世紀後半になると新興のオスマン・トルコによって商路を阻まれ、その勢力を弱めていた。またアメリカ新大陸やインド航路の発見により大航海時代の幕が開けると、世界商業と植民地活動の主導権はスペイン・ポルトガルなど大西洋岸の国々に移っていった。新しい時代を迎えたヨーロッパの商業圏は、これまでにない規模に拡大し、数多くの新商品や貴金属が流入して商取引が活発になると、商人たちはより合理的で正確な帳簿記入の方法を必要とするようになった。

イタリアの僧侶で数学者パチョーリの通称“ズンマ”と呼ばれる『算術・幾何・比及び比例総覧』(1494年)が著されたのも、こうした時代を背景にしていた。この数学書の末尾に収められた『計算及び記録用論』は、当時ベネチアで行われていた複式簿記法を解説したもので、印刷された最初の簿記書であった。その後、グラマテウス、タリエンテ、ゴトリーブ、マンツォーニなどによって初期の簿記書も著されたが、パチョーリの複式簿記法は、各国語に翻訳されて広くヨーロッパ諸国に普及していった。特に最初のフランス語簿記書といわれる非常に稀少なインピンの著作は、ヨーロッパの商業国の簿記の普及に多大な貢献を果たしている。外国貿易が活発になって、大量の金銀が流入するようになると、国家と商人の結びつきが緊密になり、国家の財政を維持するために、国内の秩序を保って外敵から商人を保護し、その利益を図ろうとする具体的な諸政策が打ち出されるようになった。今日重商主義と呼ばれる思想や、それに関連した諸措置は、こうした必要や欲求から出されたものである。

その重商主義の先駆的思想は、フランスのボダンやモンクレティアン、イタリアのスカルフィ、セルラ、そしてオランダのグロティウスなどに代表されるように、西ヨーロッパ諸国に多く見られるが、重商主義思想が著しい発達を遂げたのはイギリスであった。イギリスにおける重商主義思想の最初の文献は、ヘールズが著した『イングランドの福祉について』(1581)といわれる。本書は、もともと『現下の不平の簡単な検討』の標題をもち、"W.S.Gentleman"の匿名で出版されたもので、シェークスピアやトマス・スミスの著作であるという説もあったが、ケンブリッジ大学のエリザベス・ラモンドの調査でヘールズの著作として考証され、1893年にカニンガムの校訂により、題名を変えて出版されている。重商主義思想が本格化してくるのは、重商主義政策が貿易差額政策を枢軸とするようになる17世紀に入ってからで、マン、チャイルド、ウィラー、マリーンズ、ミッセルデン、テンプル、ヤラントン、ペティ、ロックなどが、その代表者として挙げられる。なかでも、この時代を代表するのがトマス・マンである。マンは、外国貿易は一国の財宝の基準であり、輸出を増加して輸入を減少し、貿易差額を確保することで増加すると主張して、イギリス重商主義を初めて理論的に体系化した。その著『外国貿易によるイングランドの財宝』(1664)は、死後23年にして息子ジョン・マンによって公刊され、経済学史上に不朽の名を残している。

17世紀後半になると、バーボンの『交易論』(1690)やノースの『交易論』(1691)に見られるように、国富の主要な源泉を貿易差額に求めた重商主義政策を批判し、貿易国相互の利益を尊重する自由な外国貿易を求め、これまで統制されていた国内産業を重視した、統制より自由を志向する思想体系が現われてきた。ノースの『交易論』は、死後まもなく少部数で印刷されたため、当時は知られることがなかったが、J.ミルに再発見(1818)され、マカロックによって翻刻(1822)されて以来、自由貿易の先駆的著作としての評価を高めた。それらの思想を批判的に継承して発展させたのが、ダヴェナントやデフォーであり、スチュアートであった。ダヴェナントは、対フランス貿易政策を考慮して、イギリスの重商主義政策による国内の産業保護上の効果に疑念を抱き、外国貿易による国富の増加が国内産業を促進すると主張して、『東インド貿易論』(1696)を著した。これに対し、『交易・貨幣・紙幣信用論』(1697)の著者ポレックスフェンは、インド貿易は国内産業にとって有害無益であると主張し、保護貿易の立場からダヴェナントを批判した。マンおよびその後の学説は、経済理論というより政策論であったが、重商主義の後期を代表するスチュアートの『経済学原理』(1767)になると、人口、農業、商工業、貨幣、信用、財政などの諸問題が明確な方法によって論じられ、経済学の体系的な原理として実質を備えてくる。

“経済学”(économie politique)という成語が表題として初めて用いられたのは、モンクレティアンの著作『経済学概論』(1615)であるが、スチュアートは“経済学”(political economy)という名称を、その著作の題名に与えた最初のイ

ギリス人であった。

16世紀以来、フランスにおいても重商主義政策及びその思想が支配的であったが、コルベールが行った重商主義政策は、都市産業育成による農業の疲弊、戦費調達による重税、貿易や産業の停滞による王室財政の破綻など、その矛盾をはっきりと現わすようになった。17世紀後半になって、コルベールの重商主義政策を批判して、破壊された農業生産力の回復が、フランスの経済危機を救うものだとする見解が現われてきた。ボワギュベールは、ルイ14世末期のフランスの社会経済の現状を詳細に分析し、『フランス詳論』(1695)を著して、過酷な租税を農民に負担させ、農業生産力を萎縮させて、農村を疲弊に追い込んだコルベール体制を批判した。またヴォーバンも『王国十分の一税の提案』(1707)において、農民への重税を批判して税制改革による現状の改善を主張した。両著共に、税制問題を通じて絶対王制を批判したために発禁処分を受けたが、その批判によって重農学派ならびに古典経済学のすぐれた先駆者としての地位を確立した。

ルイ14世の没後、王室財政の危機を切り抜けるために、スコットランド出身のジョン・ローが提唱した経済政策が採用された。銀行貨幣と株式という信用に支えられたロー体制は、フランス経済に一時的なブームを起こしたが、多くの植民会社を設立して投機を煽り、株価維持のために紙幣を乱発したため財政・経済恐慌を招き、1720年にロー体制は崩壊した。経済の繁栄は、土地所有に裏づけられた紙幣と金属貨幣の増大にあるというローの主張は、『貨幣及び交易論』(1705)のなかで展開されているが、ヨーロッパ全土を巻き込んだ経済恐慌は、その後イギリスの新農業技術の導入と共に、破壊されない財産としての土地所有と土地耕作に対する社会的関心を喚起した。アイルランド出身の銀行家カンティロンも、パリで出版した『商業一般の性質について』(1755)において、富の源泉を金・銀に求めるのではなく、土地および労働に求めるという新しい見解を打ち立て、その価値論、貨幣論、貿易論は、重農学派やスミスの経済理論にも深い影響を与えた。本書の英語で書かれた原稿は、1734年に従僕によって惨殺された時に邸宅と共に焼失したが、仏語訳の原稿はミラボーが書写して16年間所持していた。死後21年を経て、その仏語の写本をもとに、英語からの翻訳版であることが明記され、フィッチャー・ガイルズ書店からロンドンで出版されたが、後に本書の存在を発見したジェヴォンズとヒッグズの間で、出版社の真偽について議論され、わずかに存在している巻末の書籍目録から、真の出版社はフランスのバルロア書店ではないかという考証がなされている。

フランスにおける重農主義経済学の創始者ケネーは、ルイ15世の主治医としての経験から、ハーヴィーの『血液循環論』にヒントを得て、3つの社会階級の間で富がいかに循環するかを数量的に図式で示した『経済表』(1758)を印刷した。『経済表』は、1758−59年にかけて1−3版がごく少部数だけ印刷され、数部の3版のほか筆稿と校正刷が知られているだけだが、ケネーの協力者ミラボーの『人間の友』(1756−60)の第6部に「説明付き経済表」として収録され、詳細な説明と共に公表されている。農業こそ経済成長の原動力と考える重農主義の学説は、ケネーがミラボーと共同で著した『農業哲学』(1763)で最も明確に述べられているが、重農主義の名称が呼称されたのは、デュポン・ド・ヌムールが1767−68年に、ケネーの著作を纏め『フィジオクラシー』と題して発表したのが最初であった。チュルゴーは、経済的自由主義者グルネーの影響を受け、『富の形成と分配に関する諸考察』(1769−70)を重農学派の機関誌『市民日誌』に発表し、ケネーの学説に多くの修正を加えながら、農業以外の産業の生産性を認めるなど、ケネーの近代的諸要素を継承し、さらにこれを発展させた。因みに、重農主義の呼称は、スミスが<System of Agriculture>と呼んだことにはじまるといわれている。

18世紀に入っても、実際政策上、また思想上においても重商主義はなお根強い力を持っていたが、その反面17世紀末に台頭していた批判的な思想が、一層明確な形をとって現われ、自由主義へと結実していった。18世紀前期におけるイギリスの自由主義的経済思想の代表者として挙げられるのが、マンデヴィルである。マンデヴィルは、『蜂の寓話』(1714)において、近代社会の諸個人の虚栄心という私的な悪徳が奢侈支出を増大させ、それが多くの労働を提供して国家の繁栄という公的利益を生み出すと主張した。「私悪は公益」というマンデヴィルの言葉は、個人の利益追及と社会的利益の実現との関係を表現したもので、この利己的人間観と社会的分業の原理の関係は、スチュアート、ヒューム、スミスにも強い影響を与えている。マンデヴィルのほかにも、スミスへの道を進む多くの思想家たちが

いた。ヴァンダーリント、バークリー、ハチスン、ヒューム、タッカー、ハリス、ファーガスンなどである。

経済学の歴史は、アダム・スミスと共に、その大きな一歩を踏み出した。スミスは、諸個人の経済活動の動機を利己心ないし自愛心に求め、これが自由に放任され、何ものにも妨げられなければ、神の「見えざる手」の配慮を通じて社会秩序が成立するという自然法の立場に立って、『国富論』(1776)を著し、自由放任主義=自由主義経済思想の基礎を確立した。スミスが「自然的自由の体系」と呼ぶ自由競争のもとでは、諸個人の利己心による利益追及が価格と資本蓄積の機構の作用によって、意図せずに全体社会の利益と富裕を実現することになる。スミスの登場は、重商主義時代の終焉を迎えるとともに、思想が政策に対して史上最大の打撃を与えた出来事であり、ここに古典派経済学が成立することになる。

スミスの死後、3人の偉大な人物が現われて、スミスの仕事を洗練・拡充した。セイ、マルサス、リカードがそれである。マルサスとリカードは、19世紀初頭のイギリスにおいて、スミスの知らなかった貧困と恐慌という、産業革命によって惹起された新しい時代の問題に取り組み、スミスとはまったく対立的な経済学を体系化した。リカードが、主著『経済学及び課税の原理』(1817)の序文で、「分配を左右する諸法則を決定することが、経済学の主要問題である」と述べているように、古典派経済学の問題は、拡大された生産の結果が、生産の関与者である資本家、地主、労働者の3階級にいかなる割合で分配され、社会発達の諸段階においてこの分配の割合が、いかなる自然的変化の過程を辿るかという点に集中した。この歴史的課題を解くために、まず道を開いたのがマルサスの『人口論』(1798)であった。マルサスは、人間の生存に必要な食物と両性間の情欲という2つの公準から出発し、人口の増加力と食物の増加力を対比した上で、結論として「困窮」と「罪悪」の発生を説いた。『人口論』は、ゴドウィンの『探究者』(1797)の中の一論「貧欲と浪費」への批判として執筆が開始されたが、初版本の表題にゴドウィンと『人間精神進歩の歴史』(1795)の著者コンドルセの名が挙げられているように、両者に共通する楽観的な理想社会を批判することを、当初の主題としていた。なかでも、地代論をめぐるリカードとマルサスの対立論争は、激しいものであったが、穀物法の改廃をめぐる政策論争と結びつき、リカード経済学とその流れを汲むJ.ミル、マカロック、シーニア、J.S.ミルの見解が、その時代をとらえた。しかし、1869年、J.S.ミルが『経済学原理』(1848)において定式化した賃金基金説が、ロジンやソーントンの攻撃に屈したことによって、賃金の分配という最後の歴史的課題の前に無力を暴露し、古典派経済学が終焉を告げる一方で、その古典派経済学の精髄を批判的に継承したマルクスによって、“経済学の批判”の仕事が着々と進められつつあった。マルクスの社会主義思想は、スミスやリカードらのイギリス古典派経済学やヘーゲルを中心としたドイツ古典哲学、さらに初期社会主義といった、当時の先進的な3大思想に対する批判的摂取と科学的創造のなかから形成・確立され、『経済学批判』(1859)として結実し、『資本論』(1867)として集大成された。

古典派経済学がその使命を終えたのち、経済学史はリカードやJ.S.ミルの理論を摂取したマーシャルを始祖とする新古典派経済学(ケンブリッジ学派)と、リカード派社会主義の流れを汲むマルクスを創始者とする社会主義経済学の2つの線に沿って新たな道を辿ることになる。

丸善株式会社　木村 潤一郎

凡　例

1. 本書は、広島経済大学図書館が所蔵する「知の系譜」文庫に収蔵されている商学・経済学に関する稀覯書目録であり、2009年4月末日現在で所蔵しているものを掲載した。

2. 本書に収録した稀覯書は、著作の出版年順に掲載している。
出版年が同じの場合は、著者名のABC順とし、出版年と著者名が同じの場合は、書名のABC順とした。

3. 本文には、すべての著作に写真を付し、解題及び書誌事項を記述した。
書誌事項は、著者名、生没年、書名、出版地、出版者、出版年、ページ数、サイズの順に記載し、必要に応じて注記を加えた。
略記号は、以下のとおり
   b.=birth（生まれ）
   ca.=circa（およそ、…のころ）
   cf.=confer（参照せよ）
   d.=died（死没）
   fl.=flourished（活躍する）
   i.e.=id est（すなわち）
   s.l.=sine loco（出版地不明）
   n.d.=no date（出版年不明）
   s.n.=sine nomine（出版者不明）
   PMM=Printing and the Mind of Man（西洋を築いた書物）
   GK=Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature
   Goff=Goff, Frederick R. Incunabula in American Libraries: A Third Census …
   HC=Copinger, W. A., Supplement to Hain's 'Repertorium bibliographicum.
   BMC=Catalogue of Books Printed in the XVth Century Now in the British Museum

4. 索引は、著者名のアルファベット順とした。

1. パチョーリ（1450頃～1520頃）
「算術・幾何・比および比例総論」初版　1494年　パガニウス印行　ヴェニス刊

Pacioli, Luca, ca.1450-ca.1520
Summa di arithmetica, geometria, proporzioni e proporzionalita.
Venice : Paganinus de Paganinis,　Novenber 1494　[8],224+76 leaves. ; 32.5cm
GK 5

パチョーリは、よく複式簿記の祖といわれる。しかし、この表現は必ずしも正しくない。それは複式簿記は誰かが発明したというより、商業の発達に伴って必然的に生まれてきたものであるからだ。歴史的に見ると複式簿記は、すでに13世紀末のフローレンスで用いられていた。複式簿記のあとが見られる会計帳簿のうち、現存する最古のものは、1296～1305年のRinerio and Baldo Finiの帳簿、あるいは1299～1300年のGiovanni Forolfiの支店元帳であるといわれる。それにもかかわらず、彼が複式簿記の祖と呼ばれているのは、本書が複式簿記について記述され、印刷された最初の文献であったからである。

本書は通称ズンマと呼ばれ、2部に分かれ、第1部は主として算術及び代数を取り扱い、第2部では幾何について論述している。そして第1部の第9編論説第11の「計算及び記録に関する詳説」という表題で36の章に分けて、複式簿記についてかなり詳細な記述を行っている。複式簿記についての最古の文献であるといわれる所以である。

初版は約170部が確認されており、印刷順に、A、B、Cの3つの版がある。館蔵書はAタイプのものである。

2. インピン（1485頃～1540）
「新しい手引き」フランス語初版　1543年　アントワープ刊

Nouuelle Instruction,
ET REMONSTRATION DE
la tresexcellente sciẽce du liure de Compte, pour compter & mener comptez, a la maniere d'Itallie, moult prouffitable & necessaire, a tous Marchans, Recepueurs, Fermiers, Maultaultiers, Gabellionnaires, & aultres, informant comment chascun doibt tenir & faire comptes par liures doubles & contredoubles, a la maniere & vsaige q̃ dessusdict est, Par laq̃lle vng chascũ par soy mesmes, pourra percebuoir grande experience, en touttes ses besoingnes & affaires.
Translatte a grande diligence d'Itallian en Flameng, & dudict Flameng en Francoys, par la vesue de feu Iehan Ympyn Cristophle, en son viuant Marchant en la tresnommee & bonne ville d'Anuers: Et nouuellement prouuigniez, au prouffit du commung, en Lan de nostre Seigneur
M.CCCCC.XLIII.
1543
☞ Par grace & Priuilege de sa tressacree Maiesté Imperiallé/ quatre ans durant/comme il est notoire par sa Loppie diceslle.

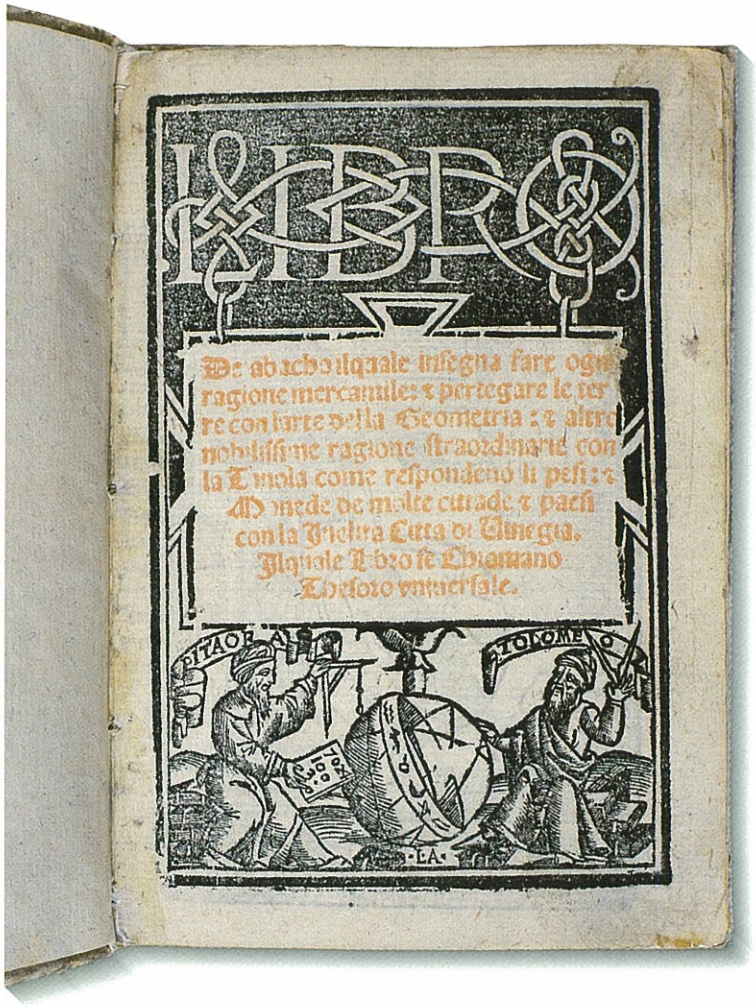
Ympyn. Jan Christoffels, Jan ca.1485-1540
Niuuelle Instruction, et Remonstration de la tresexcellente scie(n)ce du liure de Compte, pour compter & mener comptz…
Antwerp : [n.s.]　1543　1v. ; 23cm

16世紀中葉のオランダでは、新大陸との貿易が盛んに行われ、商工業が興隆するようになった。そこで実践的にも学問的にも複式簿記法であるイタリア式簿記法を導入する基盤が整えられ、簿記論におけるフランドル派ともいえるものが形成された。この学派の代表者が1543年にアントワープで「新しい手引き Nieuwe Instructi」というオランダで最初の簿記書を書いたインピンであり、1608年にライデンで「数学的伝統録」を書いたステフィンであった。

インピンは、アントワープの商人で、ヴェニスに長く滞在してパチョーリの簿記書を知った。したがって、その翻訳がインピンの簿記書の理論的部分をなしているといわれている。インピンの簿記書は、パチョーリ簿記書に酷似しているが、ステフィンが口別計算的損益計算観に立っているのに対して、インピンは棚卸計算による商品売買計算を指向している。期間計算成立の過渡期にあった当時、期間損益計算の発展は簿記書にも反映している。

表題には、イタリア語からオランダ語へ翻訳され、オランダ語からフランス語へ翻訳されたと書かれているが、イタリア語の原本は現存していない。オランダ語版は2冊、フランス語版は3冊が確認されるのみである。

3. タリエンテ（1545頃）
「商業算術」　1550年　ヴェニス刊

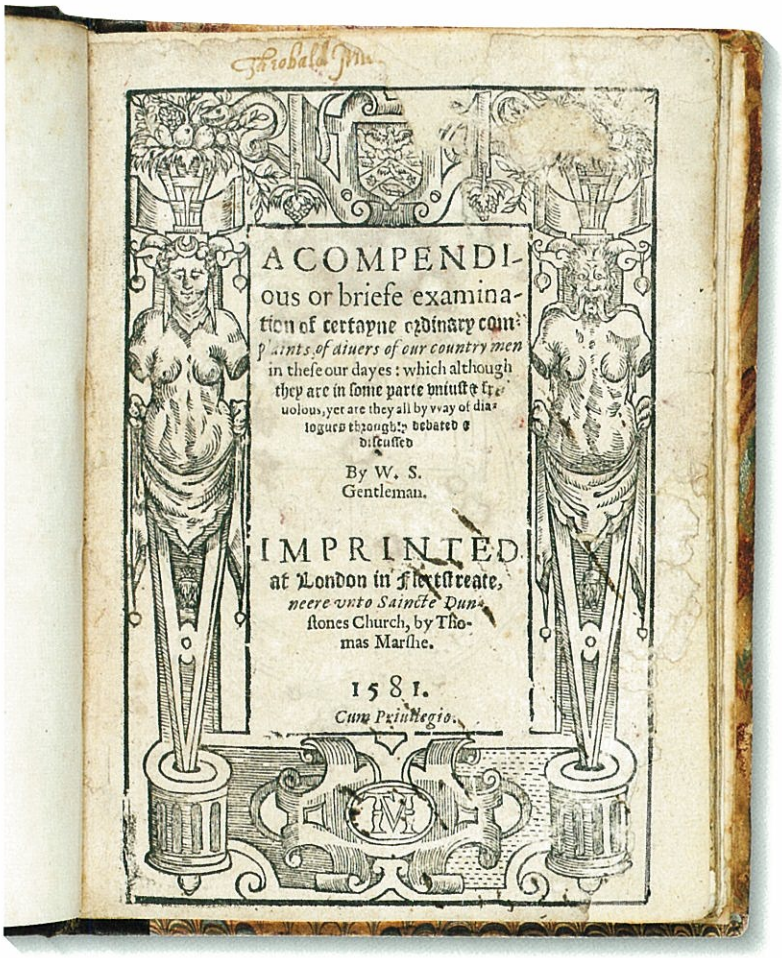


Tagliente, Giovanni Antonio e Girolamo, fl.1545
Libro de abacho il quale insegna fare ogni ragione mercantile: & pertegare le terre con larte della Geometria, & altere nobilissime ragione Straordinarie con la mola come respondeno li pesi & monede de molte cittade & paesi con la iclita citta di Viengia.Il qual Lib. Se chiama Thesoro unversale.
Venice : Giovanni Padovano,　1550　80 leaves. ; 15cm

会計理論に近いものが生まれたのは、イタリアのフランチェスコ派の修道僧パチョーリの著書「算術・幾何・比および比例総論」（1494年）の中の1論「計算及び記録に関する詳説」がはじめとされ、複式簿記法の詳細な解説を記した簿記に関する最古の著書とされている。パチョーリ後の初期の簿記書として、作者の明らかになっている著作としては、イタリアのタリエンテやカルダーノ、ドイツのグラマテウス、ゴトリーブ、マンツォーニのものがあるが、これらのうち三書までは簿記を専門としない人物による著書で、パチョーリの計算方式を模倣したものであった。

タリエンテは、商人でも、またパチョーリのような数学者でもなく、バチカン記録所の書記官であった。本書は、タリエンテが商人に対して、複式簿記を解説する目的で出版したわかりやすい数学書であり、仕訳帳については借方と貸方について実例をあげて解説している。ヴェニスで刊行されたこの版では、商取引に必要な記数法や手技による数字の表現法などに関する簡単な解説がなされ、掛け算九九表、掛算、割算、分数、複式簿記法などについて、図表や卵売りの商取引など、ありふれた題材を描いた木版挿絵を使って解説している。本書の初版は、1515年に出版されている。

4. スタッフォード（1554～1612）
「英国人の不平についての検討」初版　1581年　ロンドン刊



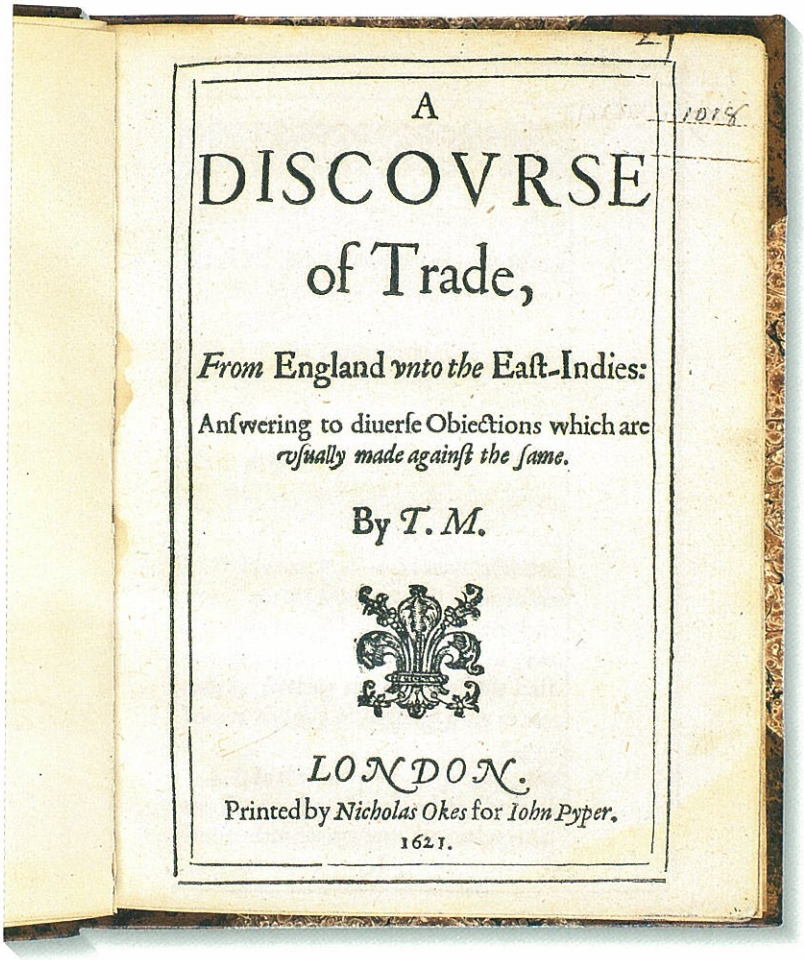
A COMPENDI-
ous or briefe examina-
tion of certayne ordinary com-
plaints of diuers of our country men
in these our dayes: which although
they are in some parte vniuste fri-
uolous, yet are they all by vway of dia-
logues throughly debated &
discussed
By W. S.
Gentleman.
IMPRINTED
at London in Fleetstreate,
neere vnto Saincte Dun-
stones Church, by Tho-
mas Marshe.
1581.
Cum Priuilegio.

Gentleman, W.S [i.e. William Staford.1554-1612]
A compendious or briefe examination of certayne ordinary complaints of diuers of our country men in these our days.
London : Thomas Marshe,　1581　1v. ; 20cm
GK 216

本書は、イギリス経済学の起源とも称されるべき著作である。1549年頃のイギリスの社会問題について論じている。標題には、著者名が「W. S. Gentleman」と書かれており、このイニシャルをめぐって様々な詮索が行われた。一時は劇作家のウィリアム・シェイクスピアではないかとの説もあったが、いまでは、ウィリアム・スタッフォードとされている。しかし、スタッフォードは編者に過ぎず、1581年よりはるか以前（おそらくは、1549年）に、ヘンリ8世もしくはエドワード6世の治世にジョン・ヘイルズによって著されたものとみられている。

本書には、中世より近世へのすべての過渡的特長が表されており、著者は中世的都市経済の境地を脱却して、近世的国民経済の見地から立論している。社会の諸問題のうちから経済的問題を抽出し、それを経済的政策によって解決しようとする構想が、いついかなる国において誰によって生成されたかという質問に答えうる著作である。

5. マン（1571～1641）
「東インド貿易論」初版　1621年　ロンドン刊



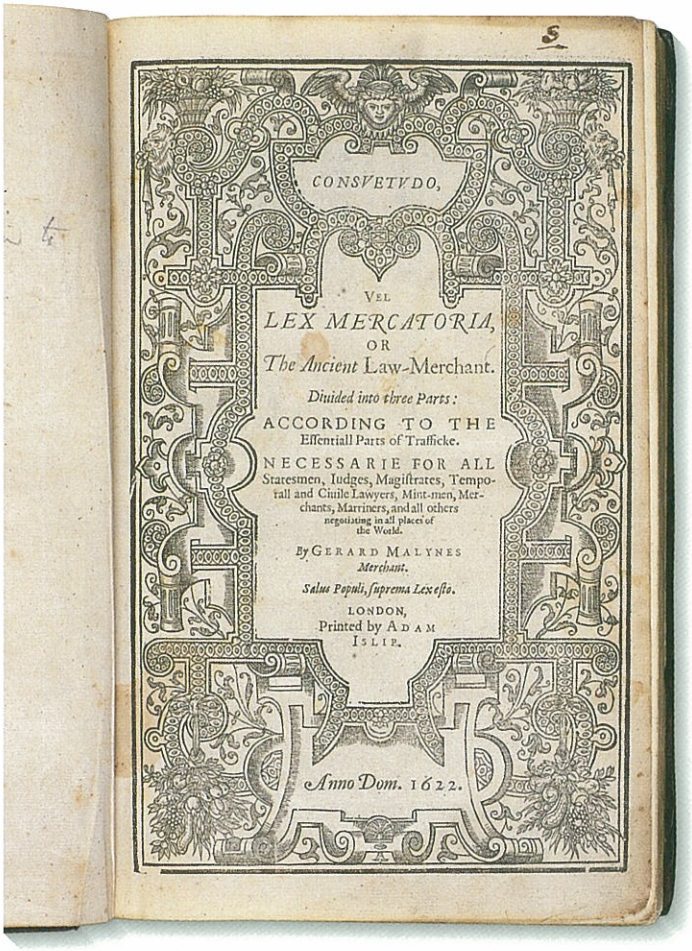
A
DISCOVRSE
of Trade,
From England *vnto the* Eaſt-Indies:
Anſwering to diuerſe Obiections which are *vſually made againſt the ſame.*
By *T. M.*

LONDON.
Printed by *Nicholas Okes* for *Iohn Pyper.*
1621.

Mun, Thomas, 1571-1641
A discourse of trade, from England unto the East-Indies: answering to diuerse Obiections which are usually made against the same.
London : Nicholas Okes for Iohn Pyper, 1621 [6],58p. ; 18cm
GK 499

トーマス・マンは、イギリスの重商主義者。初め貿易に従事し、東インド会社の理事となり、貿易に関する常置委員会委員となる。1620年にイギリスは、深刻な不況に見舞われ、特に毛織物業者が大きな影響を受けた。その為、東インド産の香料の輸入による貨幣の持ち出しが原因で貨幣不足が生じ、毛織物取引の不振を産んでいるとして東インド貿易に対する非難が起こった。それに対し、マンは本書によって、インドから輸入される商品の大半はヨーロッパ大陸へ再輸出することで、より多くの財宝が増加し、多額の貨幣が国内にもたらされると主張し、重商主義の理論を述べた。

6. マリーンズ（1586～1641頃）
「商習慣法」初版　1622年　ロンドン刊



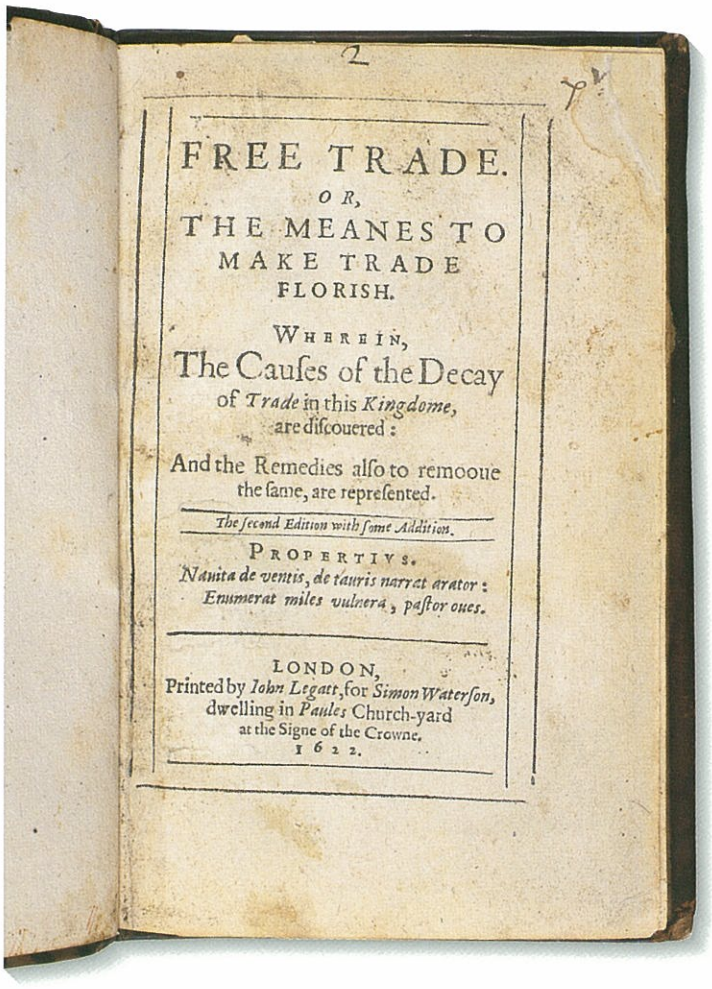
CONSVETVDO,
VEL
LEX MERCATORIA,
OR
The Ancient Law-Merchant.
Diuided into three Parts:
ACCORDING TO THE
Essentiall Parts of Trafficke.
NECESSARIE FOR ALL
Statesmen, Iudges, Magistrates, Temporall and Ciuile Lawyers, Mint-men, Merchants, Marriners, and all others negotiating in all places of the World.
By GERARD MALYNES
Merchant.
Salus Populi, suprema Lex esto.
LONDON,
Printed by ADAM
ISLIP.
Anno Dom. 1622.

Malynes, Gerard, fl.1586-1641
Consuetudo, vel lex mercatoria, or The ancient law-merchant.
London : Adam Islip, 1622　[14],501p. ; 28cm
GK 513

マリーンズは、フィンランド生まれのイギリス商人で、王立為替委員会の委員を務め、経済に関する諸委員会などで活躍した。生没年ははっきりしないが、1586～1641年の間に活動していたことが知られている。彼は、イギリスの貨幣の流失を憂い、貨幣不足を一方では東インド貿易に帰しつつも、他方では万事を＜為替の秘密＞に帰着させて、公権力の為替レートへの介入を説いた。また、彼は代表的な重金主義者で、取引差額説を唱え、貿易差額説を主張するミセルデンとの間で＜為替論争＞を引き起こした。

本書は、商業に関する全知識の百科事典的一集成ともいうべきもので、イタリア並びにオランダの会計法を普及させようとして刊行された。

7. ミセルデン（1608～1654頃）
「自由貿易」第2版　1622年　ロンドン刊



FREE TRADE.
OR,
THE MEANES TO
MAKE TRADE
FLORISH.

WHEREIN,
The Cauſes of the Decay
of *Trade* in this *Kingdome*,
are diſcouered:

And the Remedies alſo to remooue
the ſame, are repreſented.

The ſecond Edition with ſome Addition.

PROPERTIVS.
Nauita de ventis, de tauris narrat arator:
Enumerat miles vulnera, paſtor oues.

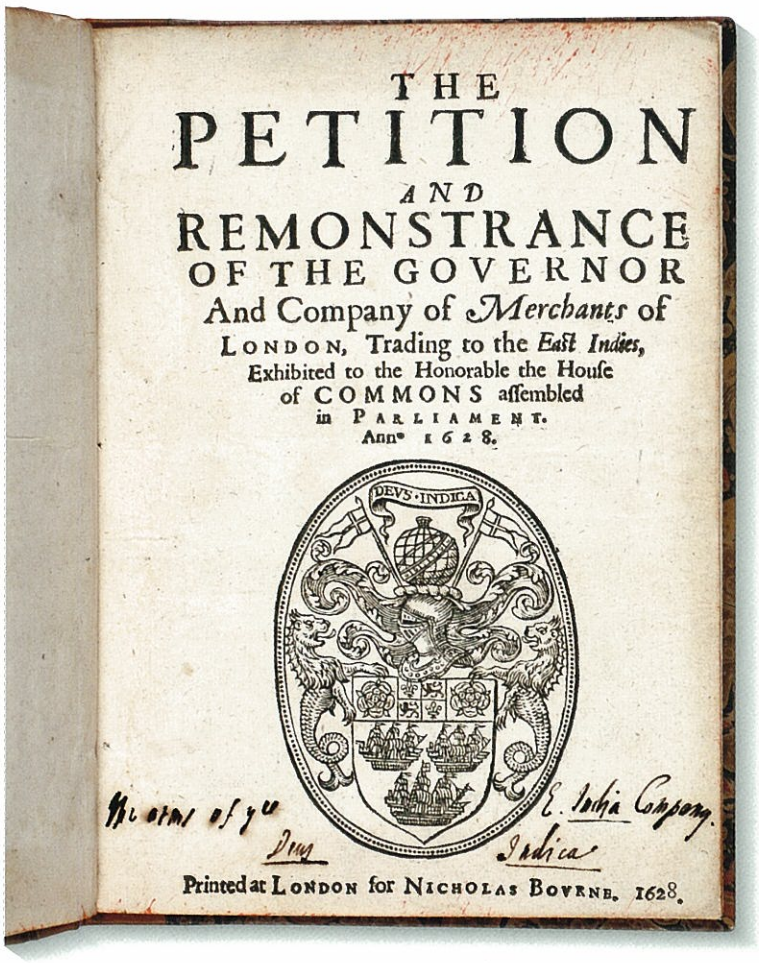
LONDON,
Printed by *Iohn Legatt*, for *Simon Waterſon*,
dwelling in *Paules* Church-yard
at the Signe of the Crowne.
1622.

Misselden, Edward, fl.1608-1654
Free trade. or, the meanes to make trade florish.
The second edition.
London : Iohn Legatt, for Simon Waterson,　1622　[16],134,[2]p. ; 17cm
GK 516

ミセルデンは、イギリスの貿易商人であり、重商主義者。1633年からデルフトにあったマーチャント・アドベンチャーズ会社の副社長を約10年間務めている。本書は、1622年に設立された貿易調査常置委員会の設立に促されて執筆したもので、特にマーチャント・アドベンチャー会社に対する批判を論駁し、これを弁護するために書かれたものである。ミセルデンは、イギリス国内における貨幣欠乏の原因を、イギリスの貨幣価値が高いこと、外国商品の消費が多いこと、東インド貿易の資金要求が多いことなどをあげ、為替取引きの自由や貨幣の名目価値の引上げを主張したが、東インド貿易については首尾一貫しなかった。

館蔵書は、初版の同年に刊行された第2版である。初版では、冒頭の2葉が空白となっているが、第2版では著者の緒言が加えられており、空白葉がなくなっている。また、第2版が発行されたのは、初版を刊行して1ヵ月後くらいと考えられることから、初版の刊行はきわめて小部数であったと思われる。

8. マン（1571～1641）
「東インド貿易に関する請願」初版　1628年　ロンドン刊



THE
PETITION
AND
REMONSTRANCE
OF THE GOVERNOR
And Company of *Merchants* of
LONDON, Trading to the *East Indies*,
Exhibited to the Honorable the House
of COMMONS assembled
in PARLIAMENT.
Ann° 1628.

DEVS·INDICA

Printed at LONDON for NICHOLAS BOVRNE. 1628.

Mun, Thomas. 1571-1641
The Petition and remonstrance of the Governor and Company of Merchants of London,trading to the East Indies, exhibited to the honourable the House of Commons assembled in parliament.
London : Nicholas Bovrne 1628.　37[i.e.36] p. ; 19cm
GK 585

東インド貿易に対する非難に対し、東インド会社は、総裁並びに会社の名においてイギリス下院に請願書を提出した。請願では、東インド会社に対する非難の諸点に対し、もっとも厳粛にして賢明なる考察を下すよう求めた。この請願書を起草したのがトーマス・マンであり、同年に本書は出版された。

この請願書は、下院の調査によって東インド貿易が国家にとって不利だと証明されれば同貿易は禁止されるであろうから、国家にとって利があると議会が宣言するよう主張した。それによって東インド貿易は、援護と推奨を受け、すべての国民と出資者に満足を与えるとともに、更なる投資を奨励することになると述べた。東インド貿易に関して調査すべき項目は、武力、富、安全、金銀、名誉の5項目を主張している。

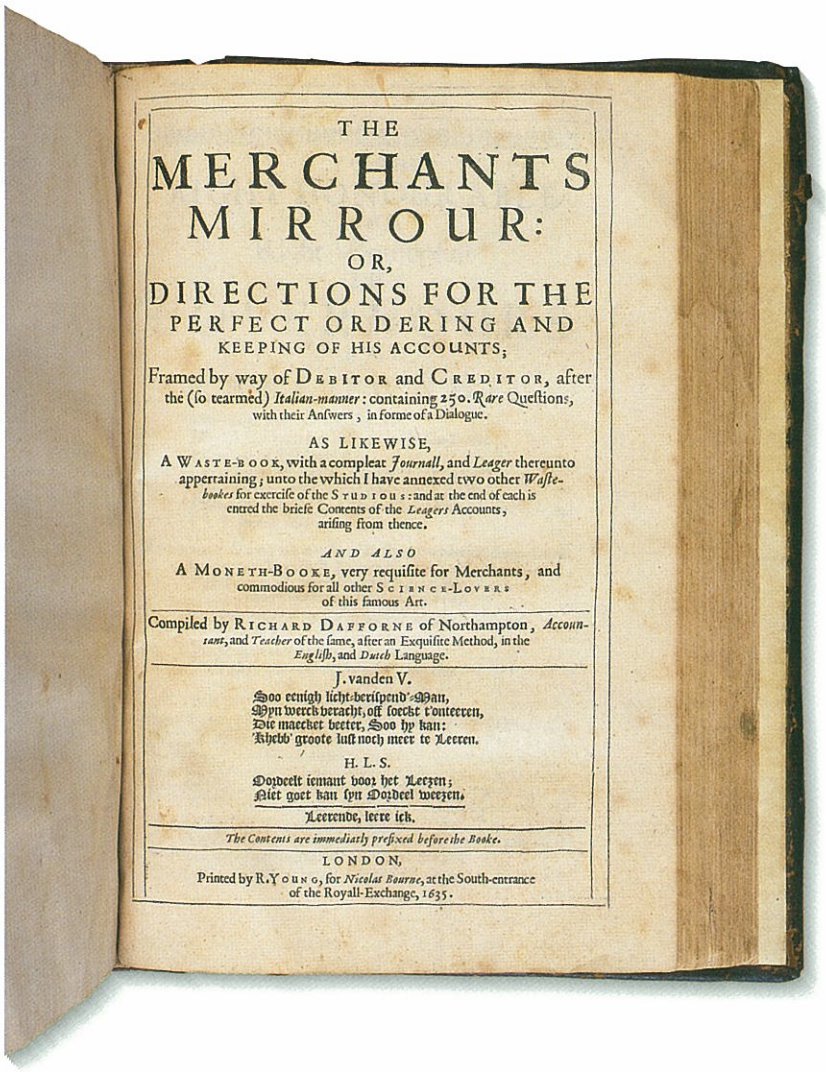
本書は、1664年に刊行されたマンの主著「外国貿易によるイングランドの財宝」の基礎となった。

9.「貨幣交換者のための法令と手引集」　1633年　アントワープ刊

NETHERLANDS (United Provinces, 1581-1795). Laws, statutes, etc.
Ordonnancie ende Instructie naer de Welcke voort-aen hen moeten reguleren die ghesworen Wisselaers ofte Collecteurs vande Goude ende Silvere penningen, …
Antwerp : Hieronymus Verdussen,　1633　[2,248]p. ; 32×11cm
GK 654.0

本書は、17世紀に盛んに行われた貿易のためのハンドブックである。扉に神聖ローマ帝国を支配したハプスブルク家の紋章があり、木版画による国際通貨の実例が多く掲載され、17世紀前半の商業の繁栄をうかがわせる。当時の貿易商が商取引の際、コートや上着のポケットに入れて携帯しやすいよう、留め金具付きで、縦長に製本されている。

10. ダフォルネ（1635頃）
「商人の鏡」初版　1636年　ロンドン刊



THE
MERCHANTS
MIRROUR:
OR,
DIRECTIONS FOR THE
PERFECT ORDERING AND
KEEPING OF HIS ACCOUNTS;
Framed by way of DEBITOR and CREDITOR, after the (so tearmed) *Italian-manner*: containing 250. *Rare* Questions, with their Answers, in forme of a Dialogue.

AS LIKEWISE,
A WASTE-BOOK, with a compleat *Journall*, and *Leager* thereunto appertaining; unto the which I have annexed two other *Waste-bookes* for exercise of the STUDIOUS: and at the end of each is entred the briefe Contents of the *Leagers* Accounts, arising from thence.

AND ALSO
A MONETH-BOOKE, very requisite for Merchants, and commodious for all other SCIENCE-LOVERS of this famous Art.

Compiled by RICHARD DAFFORNE of Northampton, *Accountant*, and *Teacher* of the same, after an Exquisite Method, in the *English*, and *Dutch* Language.

J. vanden V.
Soo eenigh licht-berispend' Man,
Syn werck veracht, off soeckt t'onteeren,
Die maecket beter, Soo hy kan:
Khebb' groote lust noch meer te Leeren.

H. L. S.
Doydeelt iemant door het Leezen;
Niet goet kan syn Doydeel weezen.

Leerende, leere ick.

The Contents are immediatly prefixed before the Booke.

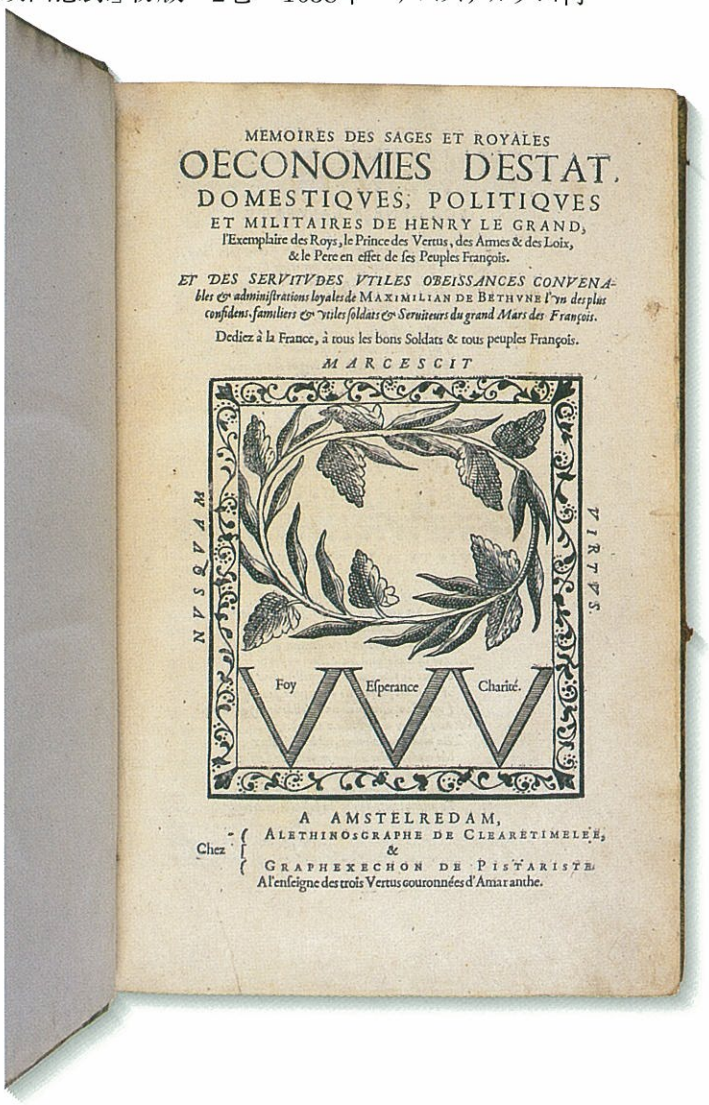
LONDON,
Printed by R. YOUNG, for *Nicolas Bourne*, at the South-entrance of the Royall-Exchange, 1635.

Dafforne, Richard, fl.1635
The merchants mirrour: or, directions for the perfect ordering and keeping of his accounts; …
London : R. Young, 1635　[18],55,[248]p.
Bound with: Malynes, Gerard, fl.1586-1641
Consuetudo, vel lex mercatoria, or, The antient law-merchant.
London : Adam Islip,　1636　[8],333p. ; 30cm

オランダで簿記法を習得したダフォルネが、イギリス商人に簿記を普及するために著したもので、複式簿記としてはイギリスで最初のものである。古代複式簿記法を概観し、教則と取引例題を巧妙に調和して仕訳のルールを解説した実用書で、オランダの簿記者ステフィンの影響を強く受けている。

館蔵書には、1636年に刊行されたマリーンズの「商習慣法」第3版が合冊製本されている。

11. シュリ（1560～1641）
「王室財政回想録」初版　2巻　1638年　アムステルダム刊



MEMOIRES DES SAGES ET ROYALES
OECONOMIES D'ESTAT,
DOMESTIQVES, POLITIQVES
ET MILITAIRES DE HENRY LE GRAND,
l'Exemplaire des Roys, le Prince des Vertus, des Armes & des Loix,
& le Pere en effet de ses Peuples François.

ET DES SERVITVDES VTILES OBEISSANCES CONVENA-bles & administrations loyales de MAXIMILIAN DE BETHVNE *l'vn des plus confidens, familiers & vtiles soldats & Seruiteurs du grand Mars des François.*

Dediez à la France, à tous les bons Soldats & tous peuples François.

MARCESCIT

NVSQVAM VIRTVS.

Foy Esperance Charité.

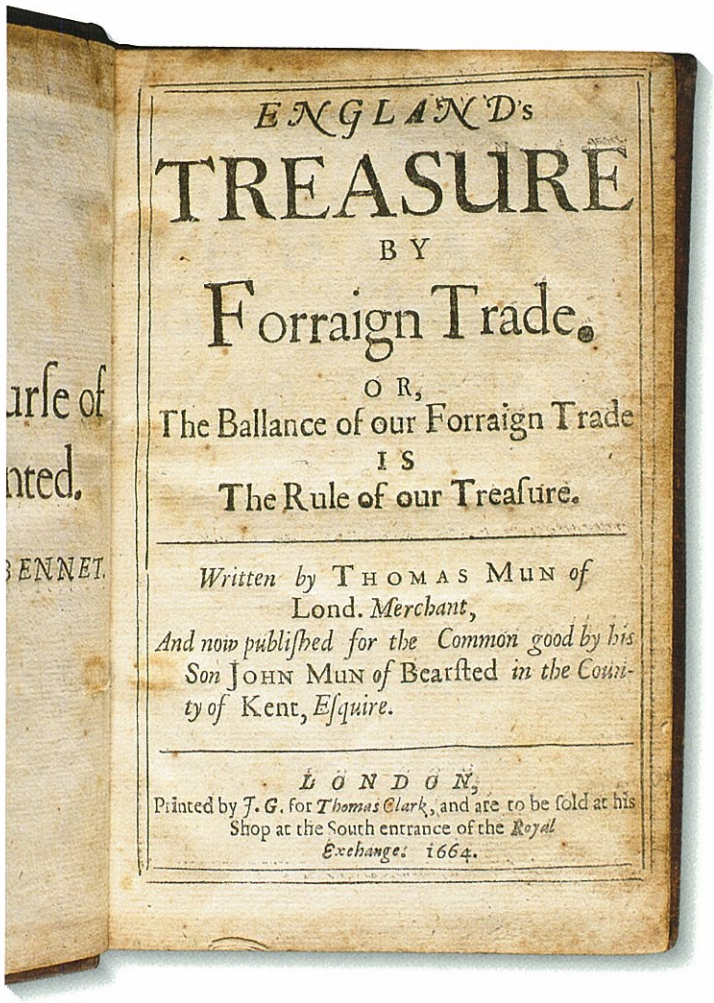
A AMSTELREDAM,
Chez { ALETHINOSGRAPHE DE CLEARETIMELEE, & GRAPHEXECHON DE PISTARISTE.
A l'enseigne des trois Vertus couronnées d'Amaranthe.

Sully, Maximilien De Bethune baron de Rosny de., 1560-1641
Memoires des sages et royales oeconomies d'Estat, domestiques, politiques et militaires de Henry le Grand; et des Sevitudes ...
Amsterdam : Alethinosgraphe de Cleartimelee & Graphexechon de Pistariste…,　1638　2 vols. ; 34cm
GK 687.2　Seigneur de Bellanger 旧蔵書

17世紀初めのフランス社会は、絶対王権にもとづく厳しい税金の取りたてにもかかわらず財政の混乱が甚だしく、財政上の改革を必要としていた。この窮地を救ったのがフランスの財務監査長官であったシュリである。シュリは、財政上の大改革を断行する準備として王室の負債及び収入の詳細な調査を行うため、1599～1611年に会計院並びに記録局を設置し、監査を厳格にするとともに、穀物酒類の輸出税の撤廃、金利引下げの法定化、その他収税制度の改革を行った。財政再建にあたったシュリの理念は、農業を富の源泉と考えこれを奨励し、時流の重商主義に反対し重農主義の立場において＜国富は商業や金・銀になく土地生産物にあり＞と唱え、一般に重農主義思想の先駆者とされている。このシュリの財政改革等を回想的に綴り刊行したものが本書である。

館蔵書は、ドテル・ラ・フォー及びナントウイエ・ラ・ホスの領主であり、Sceauの財務長官を務めたベランジェ公の旧蔵書である。

12. マン（1571～1641）
「外国貿易によるイングランドの財宝」初版　1664年　ロンドン刊



ENGLAND's
TREASURE
BY
Forraign Trade.
OR,
The Ballance of our Forraign Trade
IS
The Rule of our Treasure.

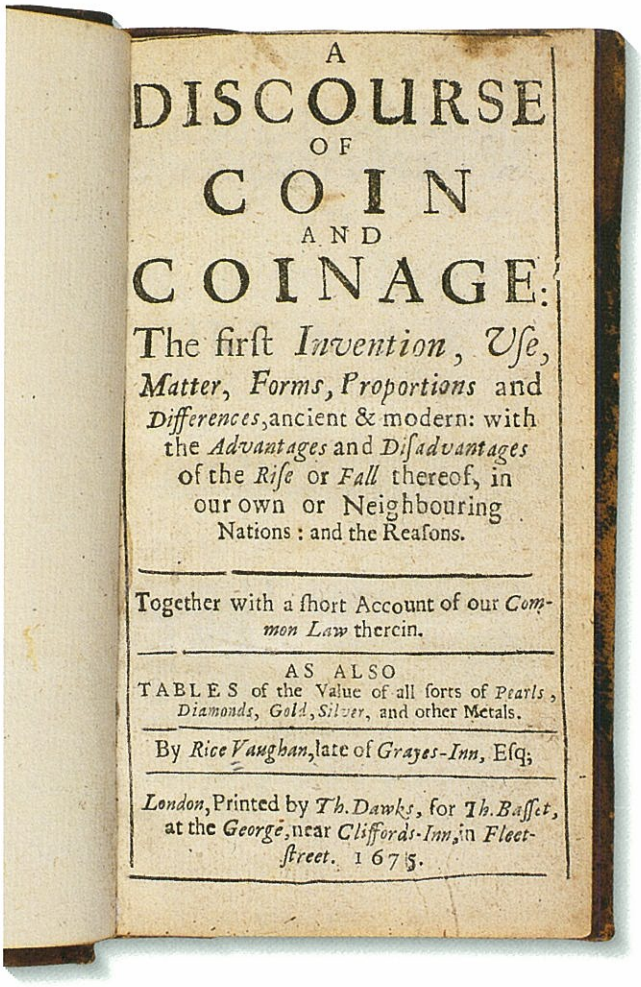
Written by THOMAS MUN *of* Lond. *Merchant,*
And now published for the Common good by his Son JOHN MUN *of* Bearsted *in the County of* Kent, *Esquire.*

LONDON,
Printed by *J. G.* for *Thomas Clark*, and are to be sold at his Shop at the South entrance of the *Royal Exchange.* 1664.

Mun, Thomas, 1571-1641
England's treasure by forraign trade. or, The ballance of our forraign trade is the rule of our treasure.
London : F. G. for Thomas Clark,　1664　[6],220,4p. ; 17cm
PMM 146　GK 1735

東インド会社は、当初毛織物等のイギリスの工業製品を輸出し、それと引き替えに香料等の東洋の物産を輸入する目的で設立されたものであるが、東インドにはイギリス工業製品に対する購買力がなかった。したがって香料の輸入による貿易赤字により、イギリスの金・銀・貴金属が流出した。マンは、イギリスには財宝を生み出すような有望な鉱山がないから、ただ外国貿易のみがそれを生み出す、と主張した。この書は、当時の東インド貿易に対する世論の批判に対し、東インド会社の立場を代弁するために書かれたものであり、「わが国の貿易差額が、わが国の財宝の基準である」とし、貿易差額説を展開した。本書は、マンの没後遺児によって出版され、重商主義の代表者としての彼の名を不朽なものとした。

13. ヴォーン（1638～1672）
「鋳貨論」初版　1675年　ロンドン刊



A
DISCOURSE
OF
COIN
AND
COINAGE:
The first *Invention*, *Use*, *Matter*, *Forms*, *Proportions* and *Differences*, ancient & modern: with the *Advantages* and *Disadvantages* of the *Rise* or *Fall* thereof, in our own or Neighbouring Nations: and the Reasons.

Together with a short Account of our *Common Law* therein.

AS ALSO
TABLES of the Value of all sorts of *Pearls*, *Diamonds*, *Gold*, *Silver*, and other Metals.

By *Rice Vaughan*, late of *Grayes-Inn*, Esq;

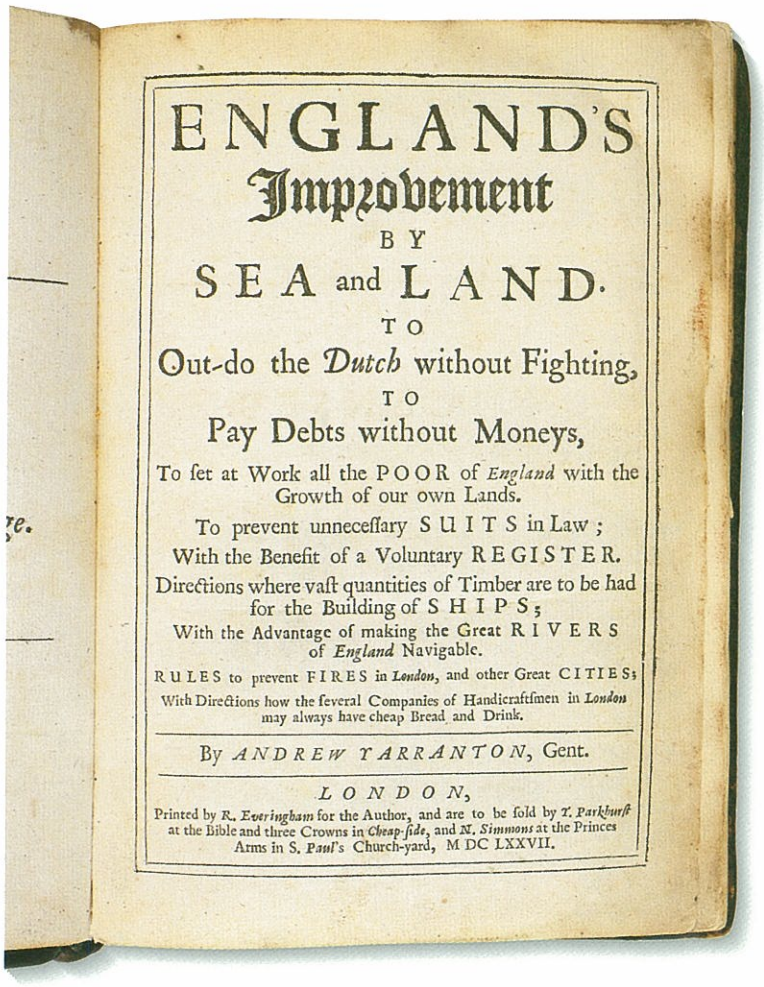
London, Printed by *Th. Dawks*, for *Th. Basset*, at the *George*, near *Cliffords-Inn*, in *Fleet-street*. 1675.

Vaughan, Rice, 1638-1672
A Discourse of Coin and Coinage.
London ; Th. Dawks,　1675　248,[4]p. ; 15cm
GK 2131

ヴォーンはイギリスの経済学者。この著作は貨幣を主題とするものであったが、それと関連して財の価値にもおよび、財の価値及び価格の大きさは希少と豊富によって支配されるとし、価格の倫理学から価格の経済学への推移過程における注目すべき著作となっている。

本書は、イギリスにおける最初の系統的貨幣論であり、物価変動測定の一般的方法を示した点でも注目される。ヴォーンの没後に刊行された。

14. ヤラントン（1616～1684）
「陸・海におけるイギリスの改良」初版　2巻　1677-1681年　ロンドン刊



ENGLAND'S
Improvement
BY
SEA and LAND.
TO
Out-do the *Dutch* without Fighting,
TO
Pay Debts without Moneys,
To ſet at Work all the POOR of *England* with the Growth of our own Lands.
To prevent unneceſſary SUITS in Law;
With the Benefit of a Voluntary REGISTER.
Directions where vaſt quantities of Timber are to be had for the Building of SHIPS;
With the Advantage of making the Great RIVERS of *England* Navigable.
RULES to prevent FIRES in *London*, and other Great CITIES;
With Directions how the ſeveral Companies of Handicraftſmen in *London* may always have cheap Bread and Drink.

By *ANDREW YARRANTON*, Gent.

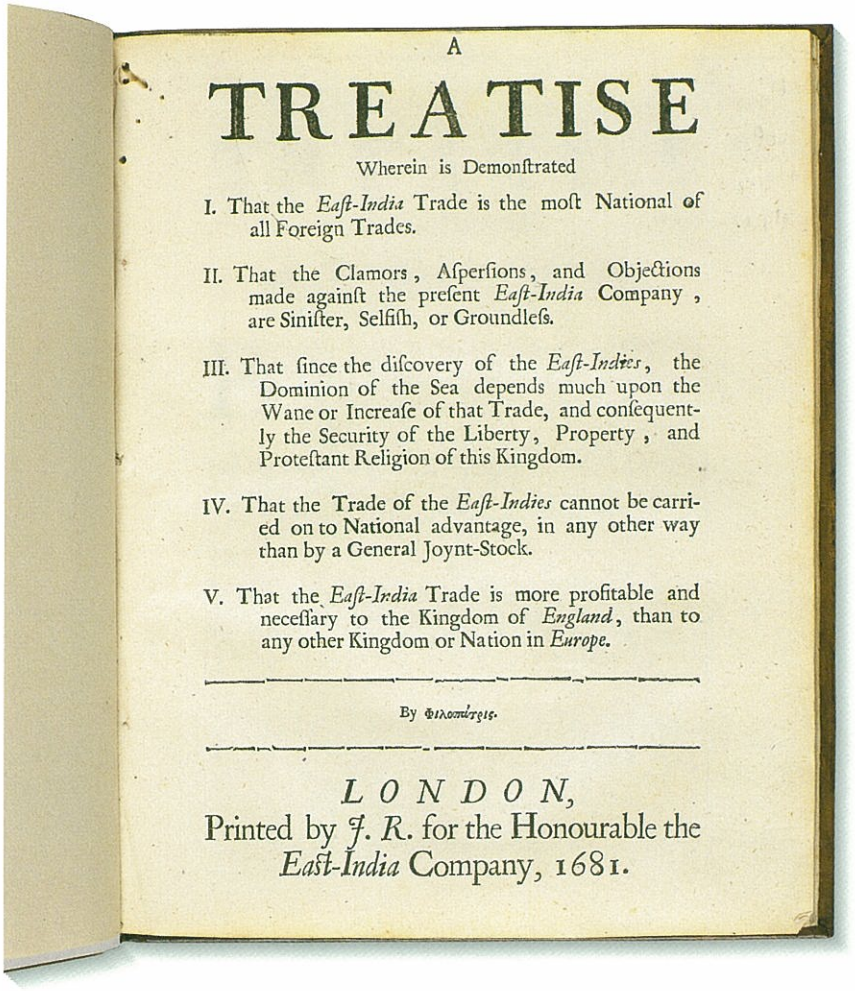
LONDON,
Printed by *R. Everingham* for the Author, and are to be ſold by *T. Parkhurſt* at the Bible and three Crowns in *Cheap-ſide*, and *N. Simmons* at the Princes Arms in S. *Paul's* Church-yard, MDCLXXVII.

Yarranton, Andrew, 1616-1684
England's Improvement by Sea and Land. To out-do the Dutch without fighting, to pay debts without moneys, to set at work all the poor of England with the growth of our own lands.
London : printed by R. Everingham for the Author, 1677, 1681 2 Vols. ; 20cm
GK 2195　GK 2409

ヤラントンは、フォートレイ、テンプルらとともにオランダに対抗すべきイギリスの増強を唱え、本書で戦争によって自然と人為の防備を有するオランダを打ち破ることは難しいと述べ、英国の貿易の振興による商業戦でこれを成し遂げる諸方策を講じている。ヤラントンは、特に目新しい案を提案しているわけではないが、当時の一般的な経済思想を反映するとともに、豊かな実務経験に基づくその論旨には、重商主義者たちにも勝るとも劣らない洞察力が示されている。特に穀物奨励金とアイルランド牧畜法に対する批判は、アダム・スミスにも比肩すべきものと評されている。

本書の初版は、すべて第1巻の72頁から97頁までが原本の印刷時のミスでとんでいる。また、第1巻に8枚、第2巻に7枚の図版が収録されている。

15. チャイルド（1630～1699）
「東インド貿易論」初版　1681年　ロンドン刊



A

TREATISE

Wherein is Demonſtrated

I. That the *Eaſt-India* Trade is the moſt National of all Foreign Trades.

II. That the Clamors, Aſperſions, and Objections made againſt the preſent *Eaſt-India* Company, are Siniſter, Selfiſh, or Groundleſs.

III. That ſince the diſcovery of the *Eaſt-Indies*, the Dominion of the Sea depends much upon the Wane or Increaſe of that Trade, and conſequently the Security of the Liberty, Property, and Proteſtant Religion of this Kingdom.

IV. That the Trade of the *Eaſt-Indies* cannot be carried on to National advantage, in any other way than by a General Joynt-Stock.

V. That the *Eaſt-India* Trade is more profitable and neceſſary to the Kingdom of *England*, than to any other Kingdom or Nation in *Europe*.

By Φιλοπάτρις.

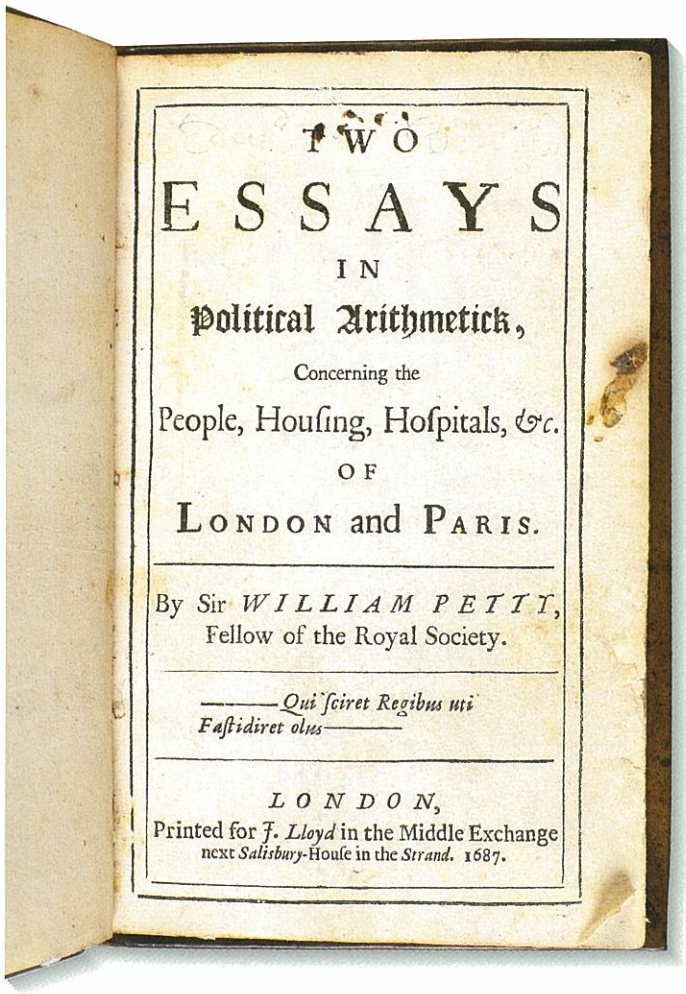
LONDON,
Printed by *J. R.* for the Honourable the *East-India* Company, 1681.

Child, Josiah Sir. 1630-1699
A Treatise Wherein is Demonstrated. I.That the East-India trade is the most national of all foreign trades. II. That the clamors, aspersions, and objections made against the present East-India Company, are sinister, selfish, or groundless. III.That since the discovery of the East-Indies, the dominion of the sea depends much upon the wane or increase of that trade, and consequently the security of the liberty, property, and Protestant religion of this kingdom. IV.That the trade of the East-Indies cannot be carried on to national advantage, in any other waythan by a general joynt-stock. V. That the East-India trade is more profitable and necessary to the kingdom of England, than to any other kingdom or nation in Europe.
London : J. R. for the Honourable the East-India Company, 1681 43,14p. ; 18cm
GK 2414
Bound with;
A Supplement, 1689. to a former treatise concerning the East-India trade, printed 1681.

チャイルドは、ロンドン生まれの貿易商人で、東インド会社の理事や総裁として活躍。イギリスの経済思想家で重商主義の理論家の一人にあげられる。チャイルドの著作は、利子論と東インド貿易論とが特徴であり、彼は、1668年に「交易と貨幣利子についての簡単な考察」を著し、利子法定引下げ論を展開し、低利子率こそ富=経済的繁栄の起因となるものであるからイギリスの最高法定利子率を引き下げるよう主張した。本書は、東インド会社の事実上の支配者としてしばしば会社擁護の論陣を張り、＜現在の東インド会社に対する非難や反対が邪悪で利己的、根拠の無いものである＞ことを示そうとしたチャイルドの主著であり、オランダ、フランス、ポルトガルといった貿易上の競争国について深い知識を披瀝し、貿易の取引代価として金銀に優るものはないと述べ、正金輸出禁止の解除を求めている。

合綴されている補遺は、本編以降の東インド会社の発展を描いたものである。

16. ペティ（1623〜1687）
「政治算術二論」初版　1687年　ロンドン刊



TWO
ESSAYS
IN
Political Arithmetick,
Concerning the
People, Housing, Hospitals, &c.
OF
LONDON and PARIS.

By Sir *WILLIAM PETTY*,
Fellow of the Royal Society.

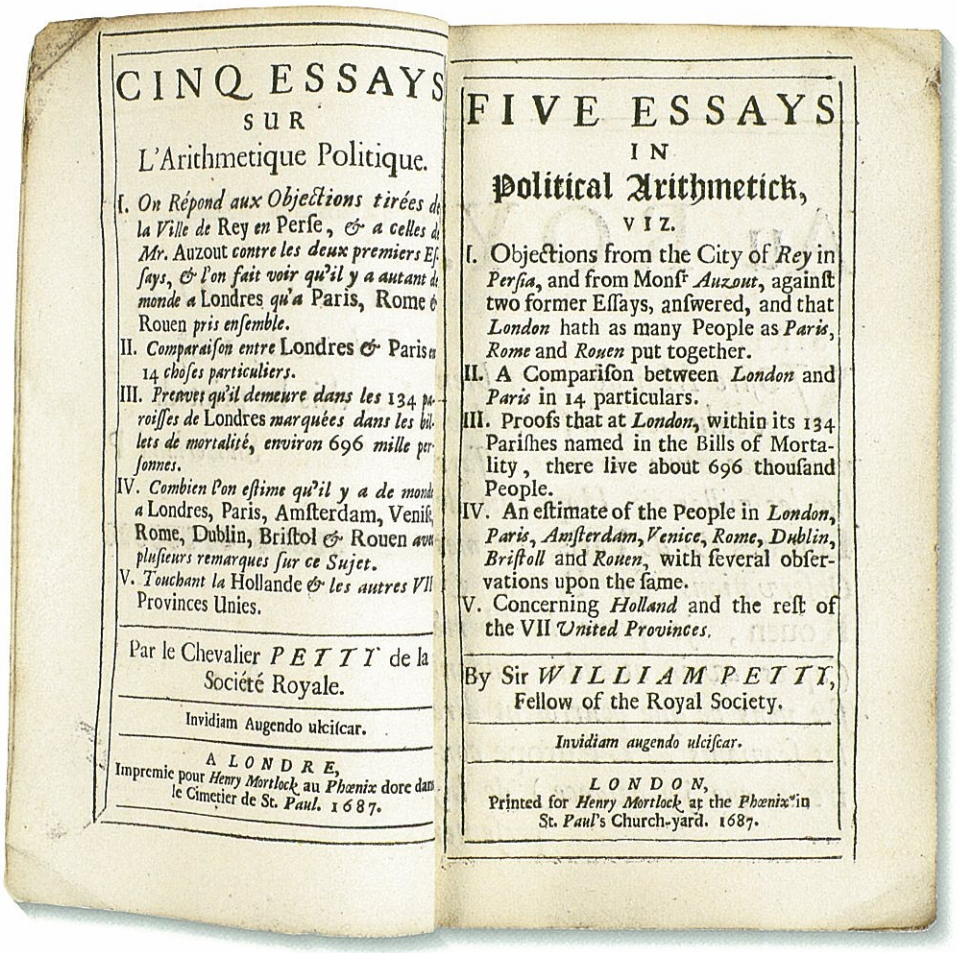
——*Qui sciret Regibus uti*
Fastidiret olus——

LONDON,
Printed for *J. Lloyd* in the Middle Exchange
next *Salisbury*-House in the *Strand*. 1687.

Petty, Sir. William, 1623-1687
Two Essays in Political Arithmetick, concerning the people, housing, hospitals, &c. of London and Paris.
London : J. Lloyd,　1687　[4],21,[3],4p. ; 16cm
GK 2654

ペティは、イギリスの重商主義経済学者。本書は、近代経済学及び統計学の創始者グラントの「政治的・自然的観察」（1661年）を直接継続してペティが著した一連の政治算術論のひとつである。「ロンドン及びパリの人口、居住、病院その他に関する2つの政治算術論」の正式名を持つ第1論文は、ロンドンの死亡票で考察された34教区に、ほぼ96,000名の住民が生活していることを証明しようとしたものである。第2論文は、「ロンドン及びローマ両市に関する考察」と題し、ロンドン、パリ、アムステルダム、ヴェニス、ダブリン、ブリストル及びルーアンの住民数を計算し証明したものである。

17. ペティ（1623～1687）
「政治算術五論」初版　1687年　ロンドン刊



CINQ ESSAYS
SUR
L'Arithmetique Politique.

I. *On Répond aux Objections tirées de la Ville de* Rey *en* Perſe, *& a celles de Mr.* Auzout *contre les deux premiers Eſſays, & l'on fait voir qu'il y a autant de monde a* Londres *qu'a* Paris, Rome *&* Rouen *pris enſemble.*
II. *Comparaiſon entre* Londres *&* Paris *en* 14 *choſes particuliers.*
III. *Preuves qu'il demeure dans les* 134 *paroiſſes de* Londres *marquées dans les billets de mortalité, environ* 696 *mille perſonnes.*
IV. *Combien l'on eſtime qu'il y a de monde a* Londres, Paris, Amſterdam, Veniſe, Rome, Dublin, Briſtol *&* Rouen *avec pluſieurs remarques ſur ce Sujet.*
V. *Touchant la* Hollande *& les autres VII* Provinces Unies.

Par le Chevalier *PETTY* de la Société Royale.

Invidiam Augendo ulciſcar.

A *LONDRE*,
Imprimie pour *Henry Mortlock* au *Phœnix* dore dans le Cimetier de St. *Paul.* 1687.

FIVE ESSAYS
IN
Political Arithmetick,
VIZ.

I. Objections from the City of *Rey* in *Perſia*, and from Monſr *Auzout*, againſt two former Eſſays, anſwered, and that *London* hath as many People as *Paris*, *Rome* and *Rouen* put together.
II. A Compariſon between *London* and *Paris* in 14 particulars.
III. Proofs that at *London*, within its 134 Pariſhes named in the Bills of Mortality, there live about 696 thouſand People.
IV. An eſtimate of the People in *London*, *Paris*, *Amſterdam*, *Venice*, *Rome*, *Dublin*, *Briſtoll* and *Rouen*, with ſeveral obſervations upon the ſame.
V. Concerning *Holland* and the reſt of the VII *United Provinces.*

By Sir *WILLIAM PETTY*,
Fellow of the Royal Society.

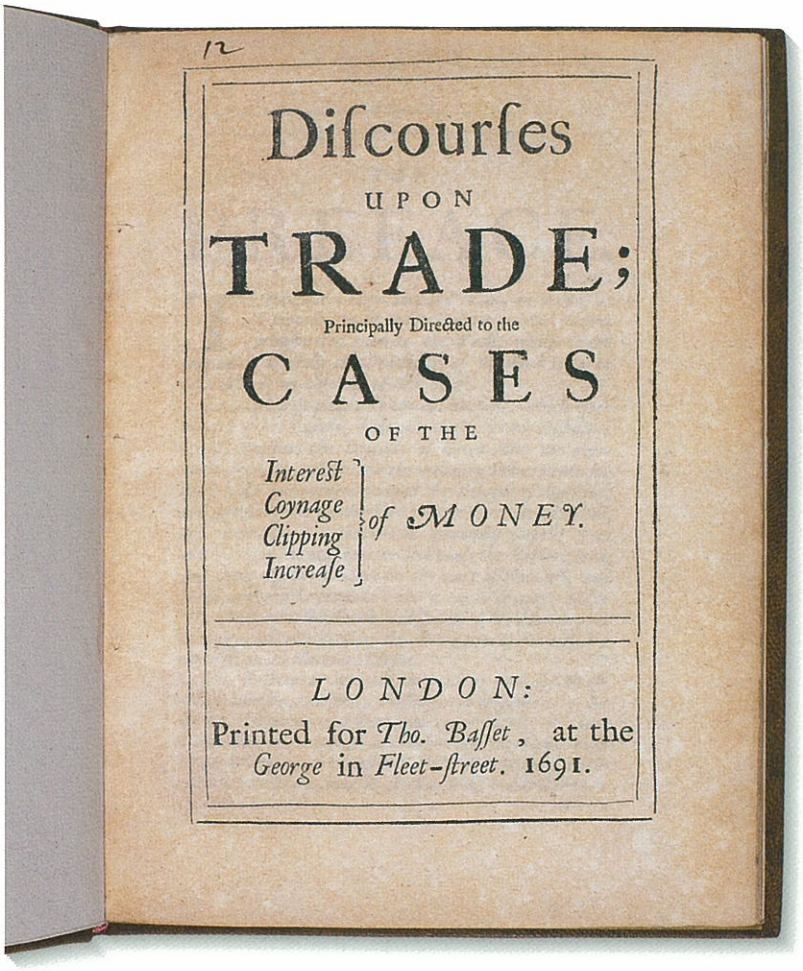
Invidiam augendo ulciſcar.

LONDON,
Printed for *Henry Mortlock* at the *Phœnix* in St. *Paul's* Church-yard. 1687.

Petty, Sir Willam, 1623-1687
Five Essays in political arithmetick, viz. I. Objections from the city of Rey in Persia, and from Monsr. Auzout, against two former essays, answered, and that London hath as many people as Paris, Rome and Rouen put together. II. A comparison between London and Paris in 14 particulars. III. Proofs that at London, within its 194 parishes named in the Bills of Mortality, there live about 696 thousand people. IV. An estimate of the people in London, Paris, Amsterdam, Venice, Rome, Dublin, Bristoll and Rouen, with several observations upon the same. V. Concerning Holland and the rest of the VII United Provinces.
London : Henry Mortlock,　1687　[9],51,[1] p. ; 16cm
GK 2652

古典経済学重商学派の先駆者ペティの主著。彼は、労働価値説を創始し、その理論を社会経済の数量的観察・推理という統計的方法と不可分に結びつけている。グラントの「真の政治学」を発展させた本書では、すべての社会現象を数と重量と尺度とをもって表現し比較するという、彼の基本的な方法論が説明されている。本書は、フランス語と英語の対訳となっており、仏訳のタイトルは"Cinq essays sur L'Arithmetique Politique."である。

18. ノース（1641～1691）
「交易論」初版　1691年　ロンドン刊


12

Diſcourſes
UPON
TRADE;
Principally Directed to the
CASES
OF THE
Interest
Coynage
Clipping
Increaſe
of MONEY.

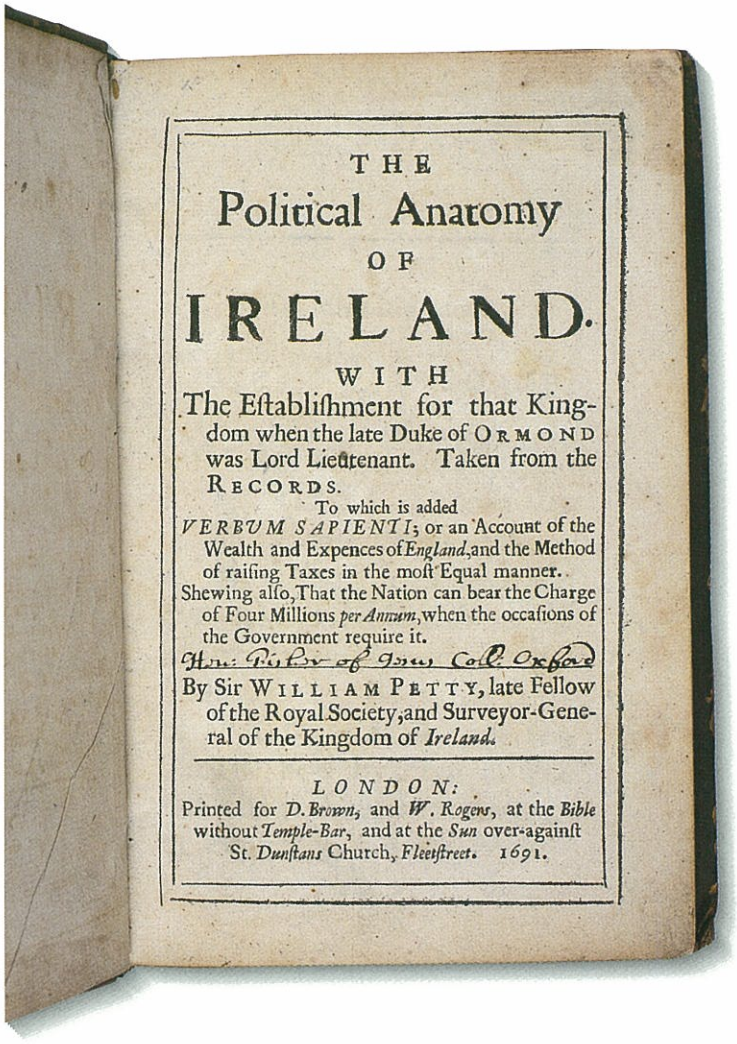
LONDON:
Printed for Tho. Baſſet, at the
George in Fleet-ſtreet. 1691.

[North, Dudley Sir.] 1641-1691
Discourses upon Trade; principally directed to the cases of the interest, coynage, clipping, increase of money
London : Tho. Basset,　1691　[12],23,[5]p. ; 21cm
GK 2897

ノースはイギリスの商人。本書は、ペティ、ロックと並び重商主義期イギリスの三大自由貿易論者と呼ばれる自由主義経済学の先駆者ノースの主著である。副題に「特に貨幣の利子、鋳造、削取、増加の場合における」とある。ノースは、当時の利子率論争について、法定利子率引き下げに反対し、また貨幣改鋳には賛成したが、重金主義や保護政策、特に貿易差額論に反対した。彼は本書において、政策ではなく平和と勤勉と自由のみが富を増大させるといい、貿易に関しては、全世界はひとつの国のごときものであり、利益の追求は公共の利益に合致すると主張して、産業資本の国家的育成に支持を与えなかった。

本書は、出版後すぐに姿を消し、当時でも入手が出来なかったといわれているが、これは貨幣改鋳をめぐりノースと政府との間で意見の対立が起こり、時の政府が発禁を命じたからであるといわれている。1822年に再発見され、その後マカロック及びJ.H.ホランダーによって復刻されている。

19. ペティ（1623～1687）
「アイルランドの政治的解剖」初版　1691年　ロンドン刊



THE
Political Anatomy
OF
IRELAND.
WITH
The Eſtabliſhment for that Kingdom when the late Duke of ORMOND was Lord Lieutenant. Taken from the RECORDS.
To which is added
VERBUM SAPIENTI; or an Account of the Wealth and Expences of *England*, and the Method of raiſing Taxes in the moſt Equal manner.
Shewing alſo, That the Nation can bear the Charge of Four Millions *per Annum*, when the occaſions of the Government require it.
Hen: Pitts of Inn, Coll. Oxford
By Sir WILLIAM PETTY, late Fellow of the Royal Society, and Surveyor-General of the Kingdom of *Ireland*.

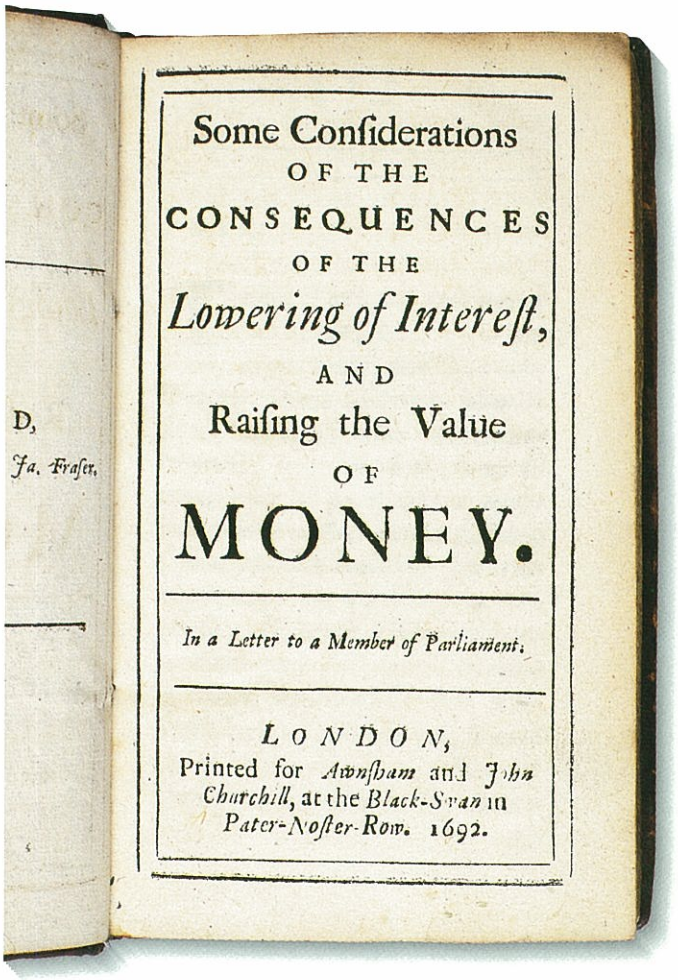
LONDON:
Printed for *D. Brown*, and *W. Rogers*, at the *Bible* without *Temple-Bar*, and at the *Sun* over-againſt St. *Dunſtans* Church, *Fleetſtreet*. 1691.

Petty, Sir William, 1623-1687
The Political Anatomy of Ireland. With the establishment for that kingdom when the late Duke of Ormond was Lord Lieutenant. Taken from the records. To which is added Verbum sapienti; or an account of the wealth and expences of England, and the method of raising taxes in the most equal manner. Shewing also, that the nation can bear the charge of four millions per annum, when the occasions of the government require it.
London : D. Brown, and W. Rogers,　1691　[16],205,[1],24p. ; 17cm
GK 2868

ウィリアム・ペティの主著で「政治算術」（1690年）とほぼ同じ時期に執筆された。本書は、1940～50年代の市民革命を通じてイングランドの近代的植民地となるべく運命づけられたアイルランドを開発し、イングランドの繁栄に資する道を示すために執筆された。新植民地アイルランドを1個の政治的動物になぞらえ、その特徴を徹頭徹尾数字を用いて表現すると同時に、その構造を分析した。

本書は、1667年から1673年のアイルランド滞在中に執筆され、1691年になって出版された。巻末に収録されている「賢者は一語で足りる（Verbum Sapienti）」は、1672年頃に執筆されたわずか24頁の小論ではあるが、貨幣重視説を批判し、また労働価値説の先駆をなす著作として重要である。

20. ロック（1632～1704）
「貨幣利子論」初版　1692年　ロンドン刊



Some Conſiderations
OF THE
CONSEQUENCES
OF THE
Lowering of Intereſt,
AND
Raiſing the Value
OF
MONEY.

In a Letter to a Member of Parliament.

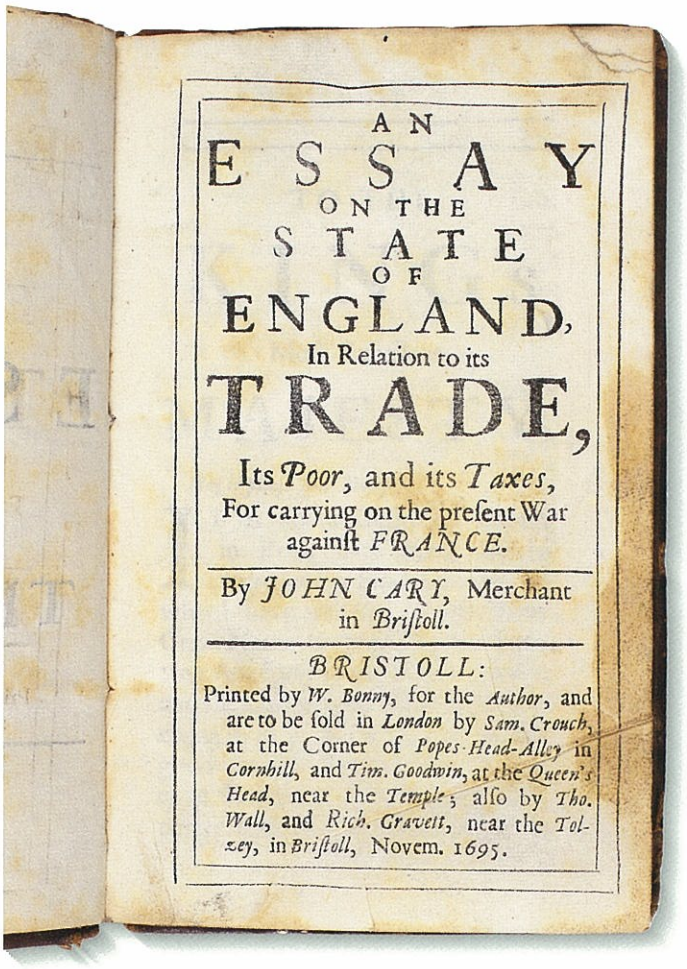
LONDON,
Printed for *Awnſham* and *John Churchill*, at the *Black-Swan* in *Pater-Noſter-Row.* 1692.

[Locke, John,] 1632-1704
Some considerations of the consequences of the lowering of interest, and Raising the Value of Money.
London : Awnsham and John,　1692　192p. ; 16cm
GK 2941

ロックは、イギリスの哲学者。彼は、一般にイギリス経験論哲学者として知られているが、自由主義思想を主張した政治思想家としても高く評価されている。また、功利主義の始祖の一人ともいわれている。ロックは、外国貿易の実務に接触する機会が多く、外国貿易については、貿易差額説を踏襲し重商主義的政策を主張した。

本書の正確な訳名は「貨幣価値引き上げ及び利子引下げの結果に関する考察」であるが、略して「貨幣利子論」ともいう。前半の利子率に関する部分は、1670年頃に執筆され、後半の貨幣論は1690年ごろ執筆されたもので、匿名で出版された。利子率については、チャイルドたちが法定利子率の引下げを主張したのを批判し、貨幣量が豊富になれば利子率はおのずから下がるのだから、貿易差額の拡大により貨幣量をふやすことこそ先決だと主張した。彼はこの「貨幣利子論」の中で、貨幣の名目価値を引き上げようという主張を批判し、貿易差額による貨幣量の増大が必要であると主張している。

21. ケアリ（1720頃没）
「英国貿易論」初版　1695年　ブリストル刊



AN
ESSAY
ON THE
STATE
OF
ENGLAND,
In Relation to its
TRADE,
Its *Poor*, and its *Taxes*,
For carrying on the present War
against *FRANCE*.

By *JOHN CARY*, Merchant
in *Briſtoll*.

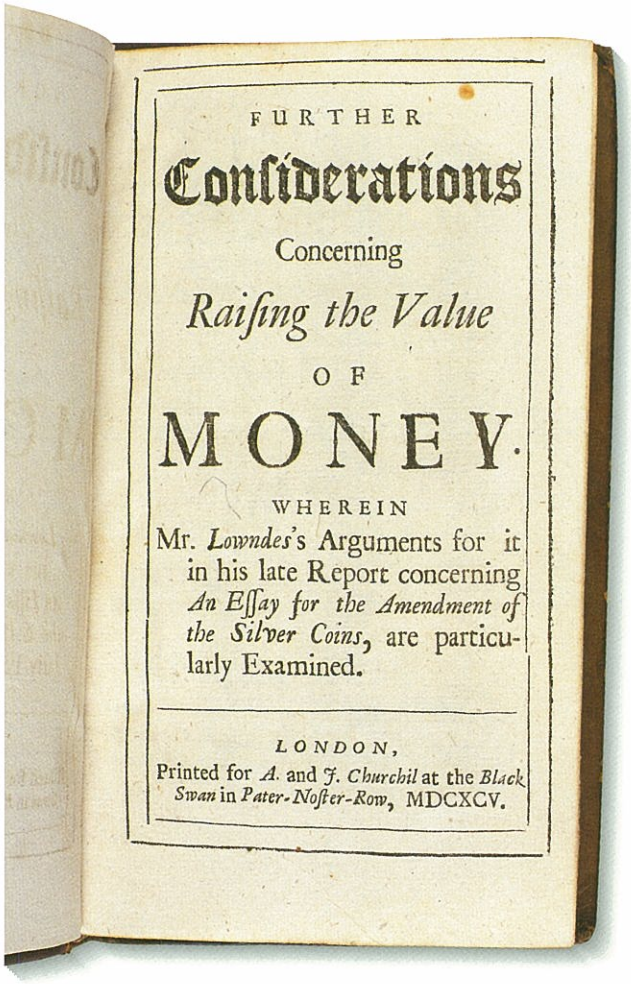
BRISTOLL:
Printed by *W. Bonny*, for the *Author*, and are to be ſold in *London* by *Sam. Crouch*, at the Corner of *Popes-Head-Alley* in *Cornhill*, and *Tim. Goodwin*, at the *Queen's Head*, near the *Temple*; alſo by *Tho. Wall*, and *Rich. Gravett*, near the *Tolzey*, in *Briſtoll*, Novem. 1695.

Cary, John, d.1720?
An essay on the state of England, in relation to its trade, its poor, and its taxes, for carrying on the present war against France.
Bristoll : W. Bonny,　1695　[20],178,[2]p. ; 17cm
GK 3074

ケアリは、ブリストルの商人で生没年は不祥。彼は、イギリス国内羊毛工業の利益を代弁し、保護主義の立場からいわゆる＜キャラコ論争＞に加わった。チャイルドやダヴェナントの東インド貿易擁護論に対し、輸入キャラコがイギリスの織物業を阻害すると激しく非難した。彼は、国内の羊毛を織物として輸出し、また外国産の綿花などの原料を輸入し、加工品を輸出することによって国内の綿織物業の振興を図るべきだとして、原料供給と製品の販路となる植民地確保を提唱している。また、生産力の発展と高賃金を基礎にした国内市場の拡大も構想している。

本書は、ジョン・ロックが“かつて私が読んだこの分野の著作で最もすぐれている”と評したことでも知られる重商主義の名著。

22. ロック（1632～1704）
「貨幣価値引き上げの再考察」初版　1695年　ロンドン刊



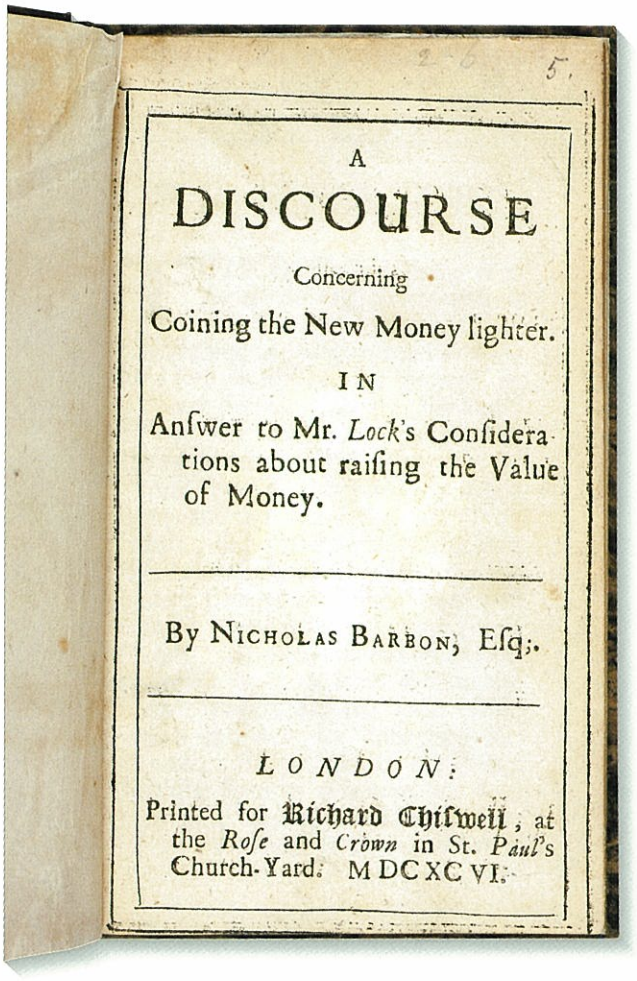
FURTHER
Conſiderations
Concerning
Raiſing the Value
OF
MONEY.
WHEREIN
Mr. *Lowndes*'s Arguments for it in his late Report concerning *An Eſſay for the Amendment of the Silver Coins*, are particularly Examined.

LONDON,
Printed for *A.* and *J. Churchil* at the *Black Swan* in *Pater-Noſter-Row*, MDCXCV.

[Locke, John], 1632-1704
Further considerations concerning raising the value of money. Wherein Mr.Lowndes's argumentsfor it in his late Report concerning an essay for the amendment of the silver coins, are particularly examined.
London : A. and J. Churchiat,　1695　[16],111,[1]p. ; 16cm
GK 3127

本書は、1692年に刊行された「貨幣利子論」の続編であり、貨幣価値の上昇を願っていた財務局秘書官ウイリアム・ラウンズが、1695年に「銀貨改鋳論」で軽鋳論を唱え、貨幣の名目価値の引き上げを主張する報告を提出したのを批判したものである。ラウンズが貨幣法定説の立場から、国王の権利によりその価値を決定しうると主張したのに対し、ロックは、貨幣価値はその含有地金銀量によってのみ決まるとして、貨幣の不足を解決する道は、ただ金銀量の増大以外にはありえないと主張した。ロックが本書で主張した貨幣改鋳案は、政府の貨幣改鋳に際して指導的原理を与え、1696年に政府の手によって貨幣改鋳が断行された。

23. バーボン（1698没）
「貨幣軽鋳論」初版　1696年　ロンドン刊



A
DISCOURSE
Concerning
Coining the New Money lighter.
IN
Anſwer to Mr. *Lock*'s Conſiderations about raiſing the Value of Money.

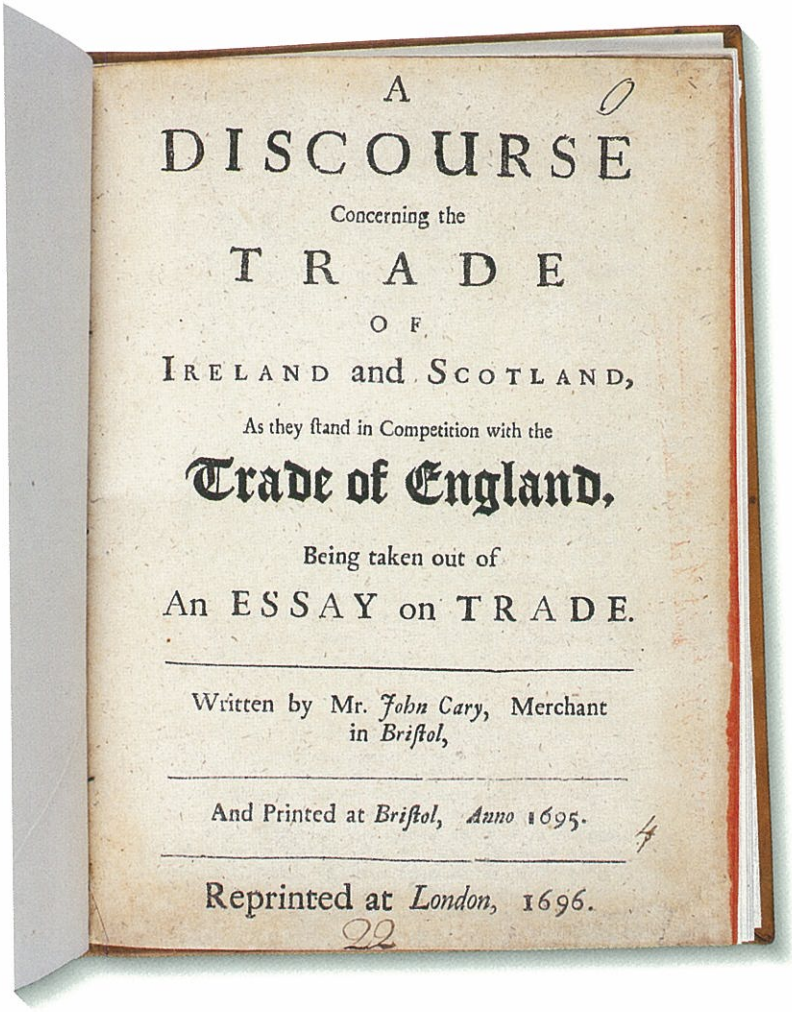
By NICHOLAS BARBON, Eſq;.

LONDON:
Printed for Richard Chiſwell, at the *Roſe* and *Crown* in St. *Paul*'s Church-Yard. MDCXCVI.

Barbon, Nicholas. d.1698
A discourse concerning coining the new money lighter.:in answer to Mr. Lock's Consideration about raising the value of money.
London : Printed for Richard Chiswell　1696　[16],96p. ; 16cm
GK 3248

バーボンはイギリスの経済学者。重商主義の反対者で、自由貿易論者。初め医学を学び、ロンドン大火（1666）後に同市の再建に尽力した。1680年にイギリスで最初に火災保険業を創設した。国会議員になり、Exeter Exchange Land Bankを創設した。晩年の14年間を経済学研究に捧げた。本書でバーボンはロックの重鋳論に反対した。バーボンは、前著の『交易論』で「貨幣を金または銀で造ることが絶対的に必要なわけではない。貨幣の価値はすべて法律によるのだから、どの金属に刻印が押されるかは重要ではない」という名目説を主張し、本書でも同様の趣旨を述べているが、それだけでなくラウンズの軽鋳論を支持している。

24. ケアリ（1720頃没）
「アイルランドとスコットランドの貿易」初版　1696年　ロンドン刊



A
DISCOURSE
Concerning the
TRADE
OF
IRELAND and SCOTLAND,
As they ſtand in Competition with the
Trade of England,
Being taken out of
An ESSAY on TRADE.

Written by Mr. *John Cary*, Merchant in *Briſtol*,

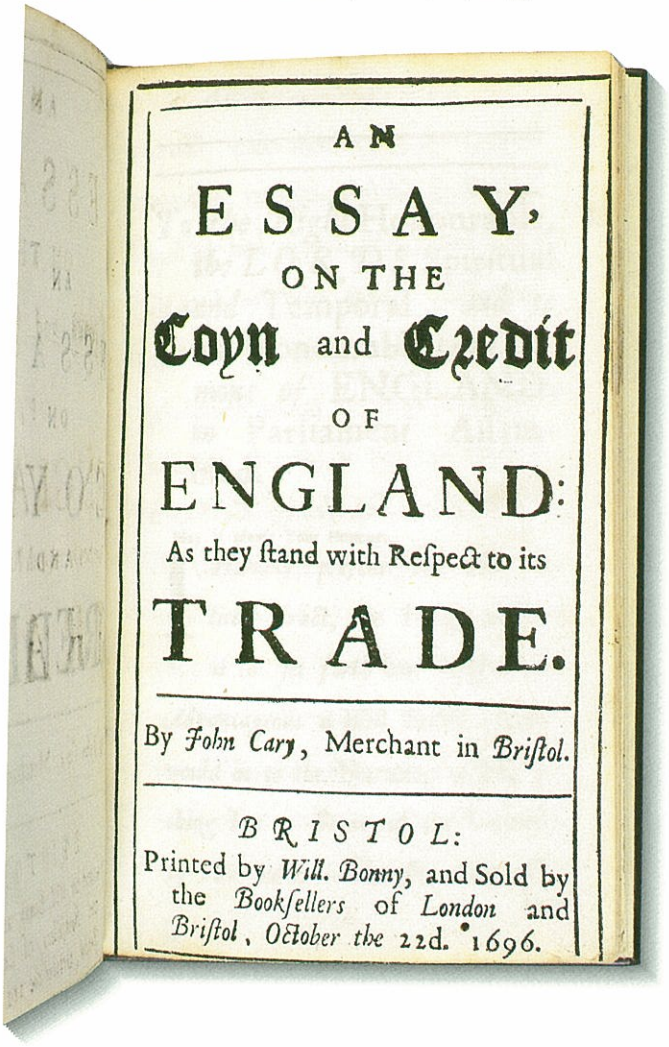
And Printed at *Briſtol*, *Anno* 1695.

Reprinted at *London*, 1696.

Cary, John d.1720?
A Discourse concerning the Trade of Ireland and Scotland, as they stand in competition with the trade of England, being taken out of an essay on trade.
London : W. Bonny,　1696　[2],13p. ; 19cm
GK 3214

ケアリは、17世紀末における貿易論争の旗手として、ポレックスフェンらとともに、チャイルドやダヴェナントを相手に論争を展開した。本書は、ケアリが1695年に著した「イギリス貿易論」から抜粋したものを、翌年にロンドンで刊行したパンフレットで、スコットランドとアイルランドにおいて行われている様々な貿易について分析している。彼は、原料を供給し製品の販路となる植民地の確保、アイルランド及びアメリカなどの植民地と本国との結びつき、アイルランドの繁栄につながる土地開拓と人口増、国内製造業や農業の発展、リンネル、バターや漁業に偏った産業の変革、関税の撤廃などについて論じている。

25. ケアリ（1720頃没）
「イングランドの貨幣と信用」初版　1696年　ブリストル刊



AN
ESSAY,
ON THE
Coyn and Credit
OF
ENGLAND:
As they ſtand with Reſpect to its
TRADE.

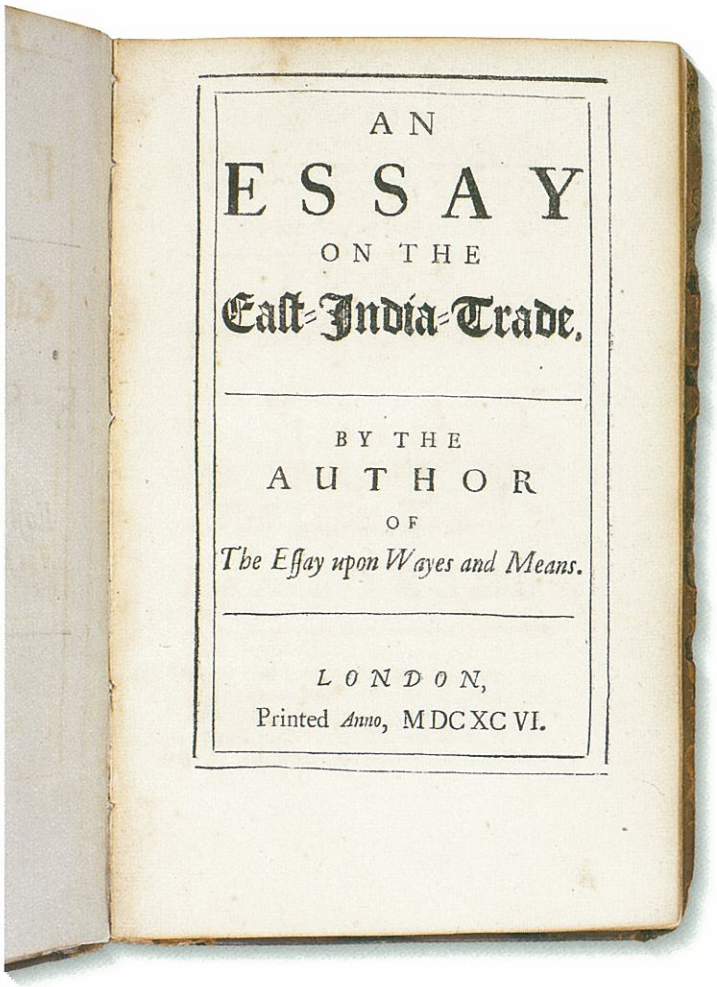
By *John Cary*, Merchant in *Briſtol*.

BRISTOL:
Printed by *Will. Bonny*, and Sold by the *Bookſellers* of *London* and *Briſtol*, *October the* 22d. 1696.

Cary, John d.1720?
An Essay on the Coyn and Credit of England.:as they stand with respect to its trade.
Bristoll : W. Bonny,　1696　[8],40p. ; 16cm
GK 3260

イギリス重商主義時代の保護貿易論者ケアリは、ポレックスフェンと同様に、東インドの完成品を輸入する東インド貿易は、イギリスの織物産業を妨害するとして反対し、原料を輸入して製品を輸出する販路として植民地制を構想する立場から、貿易差額や貨幣改鋳、信用、利子に関して論じている。ケアリは貿易差額論においては、総合差額論に対し基本的には個別差額論の立場をとった。

26. ダヴェナント（1656～1714）
「東インド貿易論」初版　1696年　ロンドン刊



AN
ESSAY
ON THE
East-India-Trade.

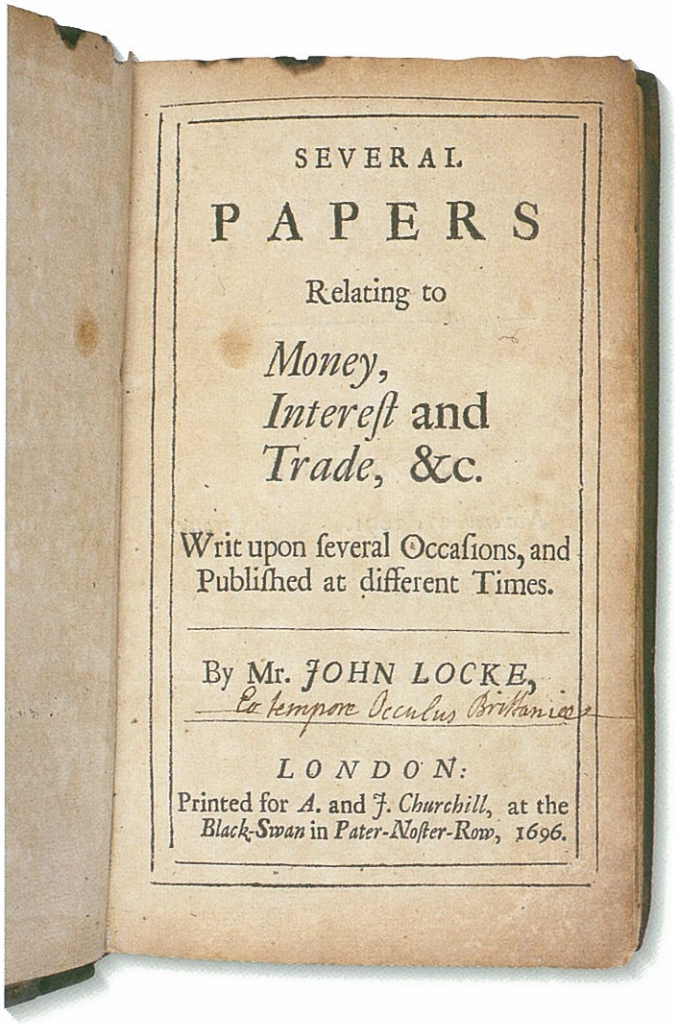
BY THE
AUTHOR
OF
The Essay upon Wayes and Means.

LONDON,
Printed *Anno*, MDCXCVI.

[Davenant, Charles,] 1656-1714
An essay on the East-India-trade. By the author of The essay upon wayes and means.
London : [s.n.], 1696　62p. ; 20cm
GK 3219

本書は、イギリス重商主義者ダヴェナントの主著のひとつである。彼は、東インド産のキャラコと呼ばれる綿織物の輸入が著しく増大し、イギリス産の毛織物と競合したことに対して、運賃取得、船舶の増加、海員の養成を通して得られるイギリスの遠隔地貿易の有利性を本書で主張した。自国を強大にし、国内に新たな富をもたらすのは外国貿易だけであり、国内産業は貿易によって増進されると主張し、保護貿易論者ポレックスフェンと論争した。彼は、重商主義的立場をとったが、一国の経済的発展にとってはある程度の貿易の自由が必要であるとした。本書は、国務大臣を務めたウィリアム・トランブル宛ての書簡の形式で書かれている。

27. ロック（1632～1704）
「貨幣、利子論集」初版　1696年　ロンドン刊



SEVERAL
PAPERS
Relating to
Money,
Interest and
Trade, &c.

Writ upon several Occasions, and
Published at different Times.

By Mr. *JOHN LOCKE*,
Ea tempore Oculus Britannicus

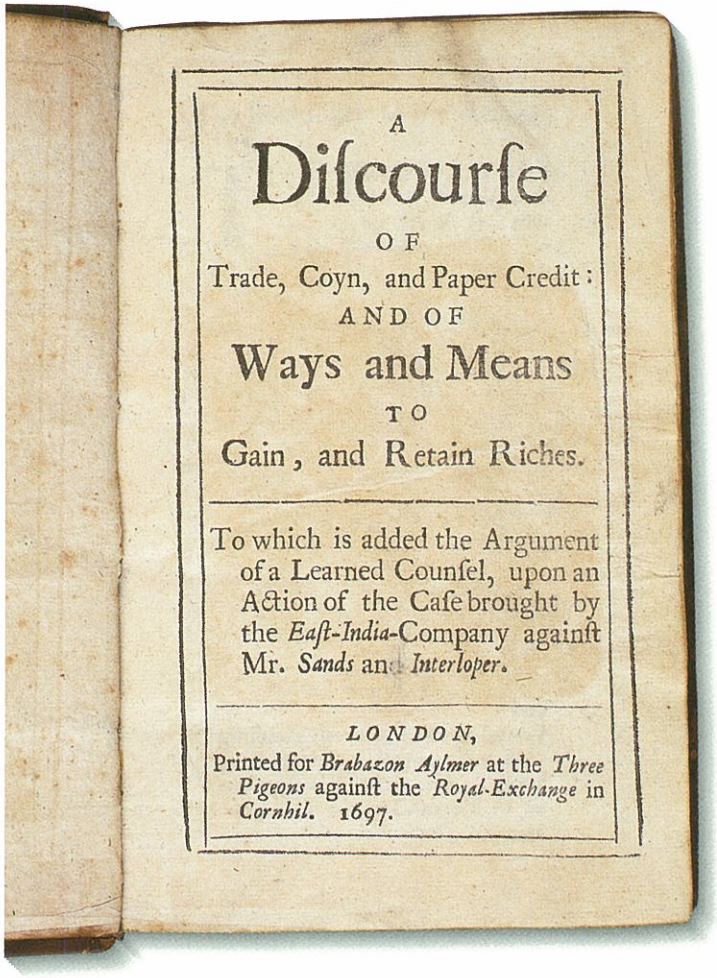
LONDON:
Printed for *A.* and *J. Churchill*, at the
Black-Swan in *Pater-Noster-Row*, *1696.*

Locke, John, 1632-1704
Several Papers relating to Money, Interest and Trade, &c. Writ upon several occasions, and published at defferent times.
London : A. and J. Churchill,　1696　112p. ; 16cm
GK 3315

ロックは貨幣数量説の立場をとりながら、やはり金銀＝富という重商主義思想から抜け出ることが出来なかった。ただその土台に生産力の問題を考え、産業保護主義への傾向を示している。

本書は「貨幣利子論」（1691年）と「貨幣の価値の引き上げに関する再考察」（1695年）を収載している。

28. ポレックスフェン（1675～1697頃）
「交易、貨幣、紙券信用論」初版　1697年　ロンドン刊



A
Diſcourſe
OF
Trade, Coyn, and Paper Credit:
AND OF
Ways and Means
TO
Gain, and Retain Riches.

To which is added the Argument of a Learned Counſel, upon an Action of the Caſe brought by the *Eaſt-India*-Company againſt Mr. *Sands* and *Interloper*.

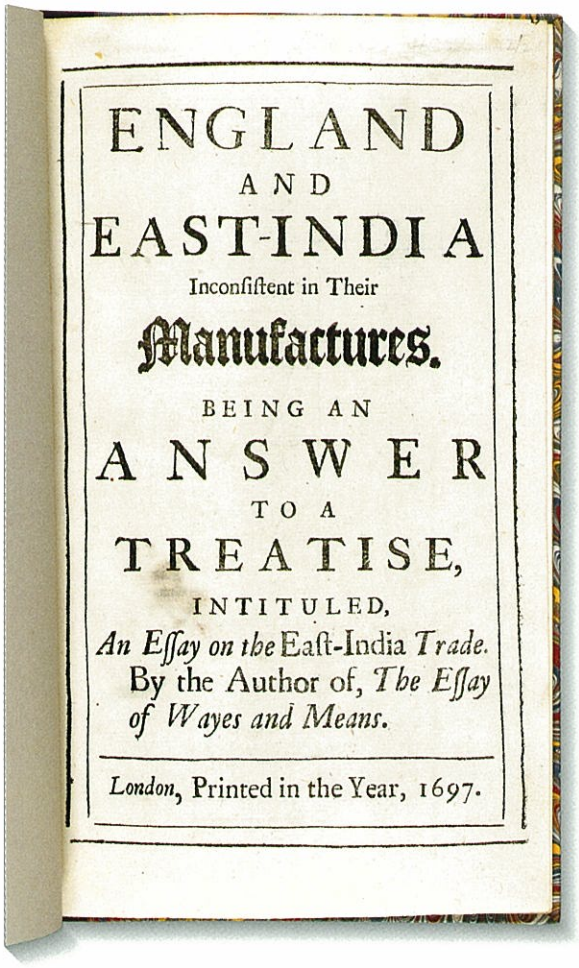
LONDON,
Printed for *Brabazon Aylmer* at the *Three Pigeons* againſt the *Royal-Exchange* in *Cornhil*. 1697.

[Pollexfen, John], fl.1675-1697
A Discourse of Trade,Coyn, and Paper Credit: and of Ways and Means to Gain, and Retain Riches. To Which is added the Argument of a Learned Counsel, upon an Action of the Case brought by the East-India-Company against Mr. Sands and Interloper.
London : Brabazon Aylmer, 1697 [6],167p. ; 17cm
Bound with: Sand, Thomas
The Argument of a learned counsel, upon an action of the case brought by the East-India-Company, ageinst.
GK 3401

ポレックスフェンは、イギリスの経済学者。本書は、イギリス重商主義時代の代表的な保護貿易論者ポレックスフェンの主著で、イングランドの海外貿易を分析する中から、国内製品と競合するキャラコや絹、陶器などの完成品を輸入する東インド貿易を批判して、自由貿易論者のチャイルドやダヴェナントと論争した。本書でポレックスフェンは、東インド貿易に対する主たる攻撃の論拠を貨幣から富の理論に置いて論駁した。

館蔵書は、Sir John Percivale of Burton, Corkの紋章入りの蔵書票がついている。

29. ポレックスフェン（1675～1697頃）
「イングランドと東インドとの産業は両立せず」初版　1697年　ロンドン刊



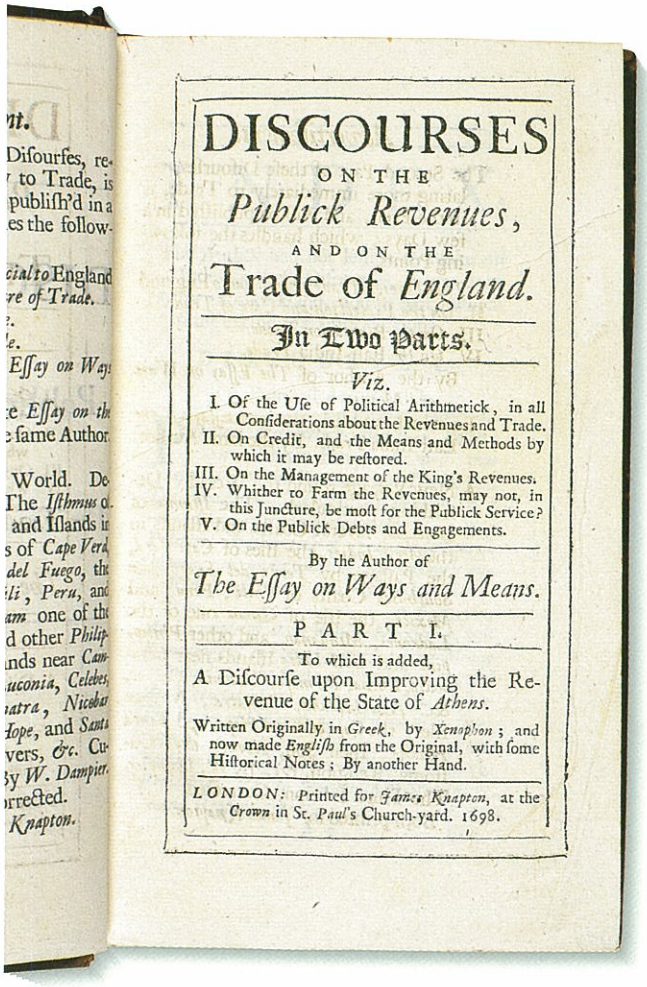
ENGLAND
AND
EAST-INDIA
Inconſiſtent in Their
Manufactures.
BEING AN
ANSWER
TO A
TREATISE,
INTITULED,
An Eſſay on the Eaſt-India *Trade.*
By the Author of, *The Eſſay of Wayes and Means.*

London, Printed in the Year, 1697.

[Pollexfen, John] fl.1675-1697
England and East-India Inconsistent in Their Manufactures. Being an answer to a treatise, Intitued, An Essay on the East-India trade,
London : [s.n.]　1697　59p. ; 18cm
With: Some reflections on a pamphlet intituled England and East-India inconsistent in their manufactures.
London : [s.n.]　1696　30p. ; 18cm

東インド貿易に対する非難に対して匿名で出版されたポレックスフェンの著書。彼は、本書において、交易の維持及び増加に対して第一の目的は資本を取得することであり、貨幣あるいは一国民の富や財宝について論じるべきでないと主張した。

30. ダヴェナント（1656～1714）
「イングランドの歳入と貿易論」初版　2巻　1698年　ロンドン刊



DISCOURSES
ON THE
Publick Revenues,
AND ON THE
Trade of *England*.

In Two Parts.

Viz.

I. Of the Use of Political Arithmetick, in all Considerations about the Revenues and Trade.
II. On Credit, and the Means and Methods by which it may be restored.
III. On the Management of the King's Revenues.
IV. Whither to Farm the Revenues, may not, in this Juncture, be most for the Publick Service?
V. On the Publick Debts and Engagements.

By the Author of
The Essay on Ways and Means.

PART I.

To which is added,
A Discourse upon Improving the Revenue of the State of *Athens*.

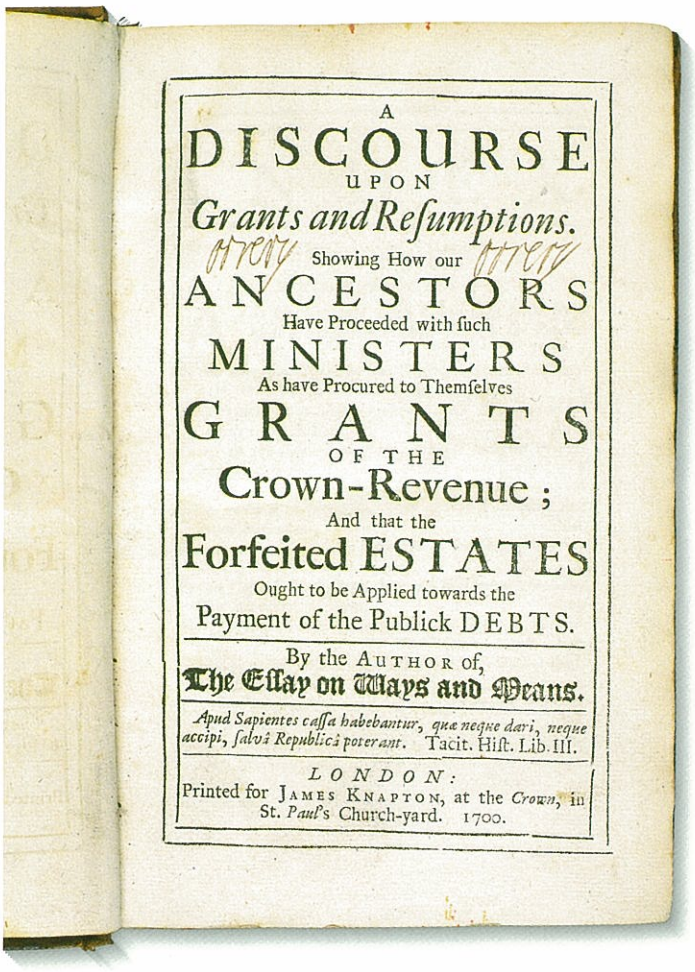
Written Originally in *Greek*, by *Xenophon*; and now made *English* from the Original, with some Historical Notes; By another Hand.

LONDON: Printed for *James Knapton*, at the *Crown* in St. *Paul's* Church-yard. 1698.

[Davenant, Charles], 1656-1714
Discourses on the publick revenues, and on the Trade of England.
London : James Knapton,　1698　2 Vols. ; 19cm
GK 3523

ダヴェナントは、イギリスの経済学者であり政治思想家である。国内消費税委員及び輸出入総督を歴任した。ロック、ノースらが経済論を展開した時代の指導的時事経済パンフレット作家であり、本書において、良好な貿易差額により生ずる利益が政治力の源泉であることを強調し、人口増加を支持し、嗜侈品の消費を非難した。また、貿易は本来自由なものであるとの見解から、インドからの綿織物輸入の禁止を非難してインド貿易を擁護した。政治的にはトーリー派に属し、方法的にはペティの「政治算術」を受け継いで統計を多く用い、貨幣＝富という初期重商主義思想から脱却しているが、貿易差額による富の増大の必要を力説し、むしろ生産力差額論というべき立場への傾向を示した。

31. ダヴェナント（1656～1714）
「下賜と再占有に関する考察」初版　1700年　ロンドン刊



A
DISCOURSE
UPON
Grants and Resumptions.
Showing How our
ANCESTORS
Have Proceeded with such
MINISTERS
As have Procured to Themselves
GRANTS
OF THE
Crown-Revenue;
And that the
Forfeited ESTATES
Ought to be Applied towards the
Payment of the Publick DEBTS.

By the AUTHOR of,
The Essay on Ways and Means.

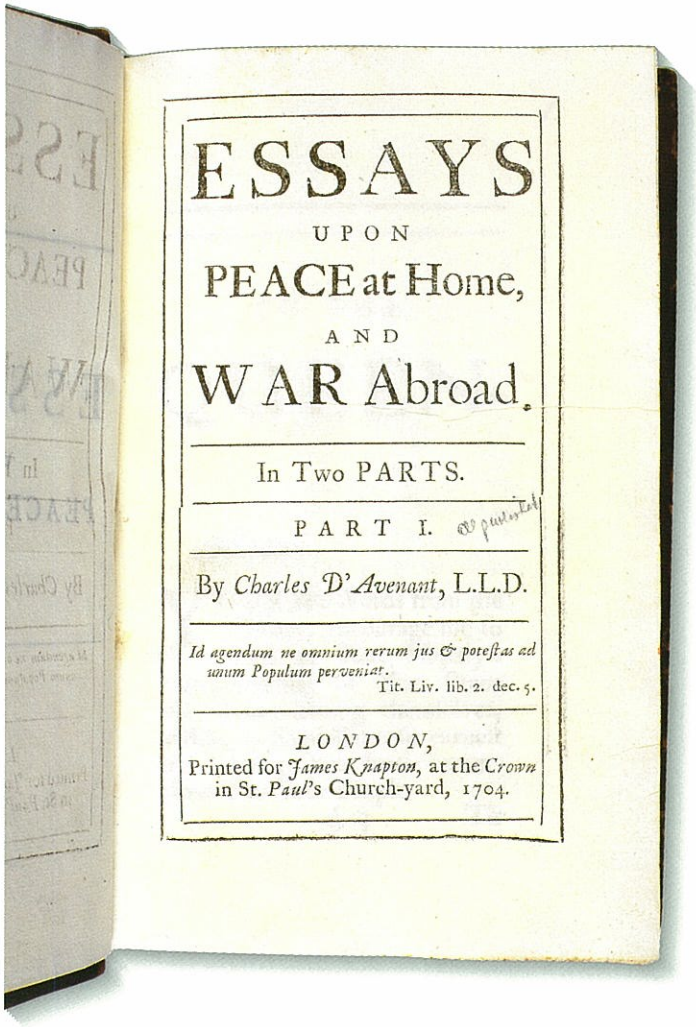
Apud Sapientes cassa habebantur, quæ neque dari, neque accipi, salvâ Republicâ poterant. Tacit. Hist. Lib. III.

LONDON:
Printed for JAMES KNAPTON, at the *Crown*, in St. *Paul's* Church-yard. 1700.

[Davenant, Charles], 1656-1714
A discourse upon grants and resumptions. Showing how our ancestors have Proceeded with such ministers as have procured to themselves grants of the crown-revenue; and that the for feited estates ought to be applied towards the payment of the publick debts. By the author of, the Essay on ways and means.
London : James Knapton,　1700　[16],448p. ; 19cm
GK 3683

公債をもって戦費にあてることを激しく論難し、国内消費税が最良で最も公平な租税であると主張したダヴェナントは、本書で私有権の失効した多くの私有地が、国王によって国家の財源を補うために乱用されていることを鋭く批判している。すなわち、国庫に没収された私有地の下賜に反対し、これの再占有によって重税の負担を軽くすべきだと述べている。

32. ダヴェナント（1656～1714）
「海外戦争論」初版　1704年　ロンドン刊



ESSAYS
UPON
PEACE at Home,
AND
WAR Abroad.

In Two PARTS.

PART I.

By *Charles D'Avenant*, L.L.D.

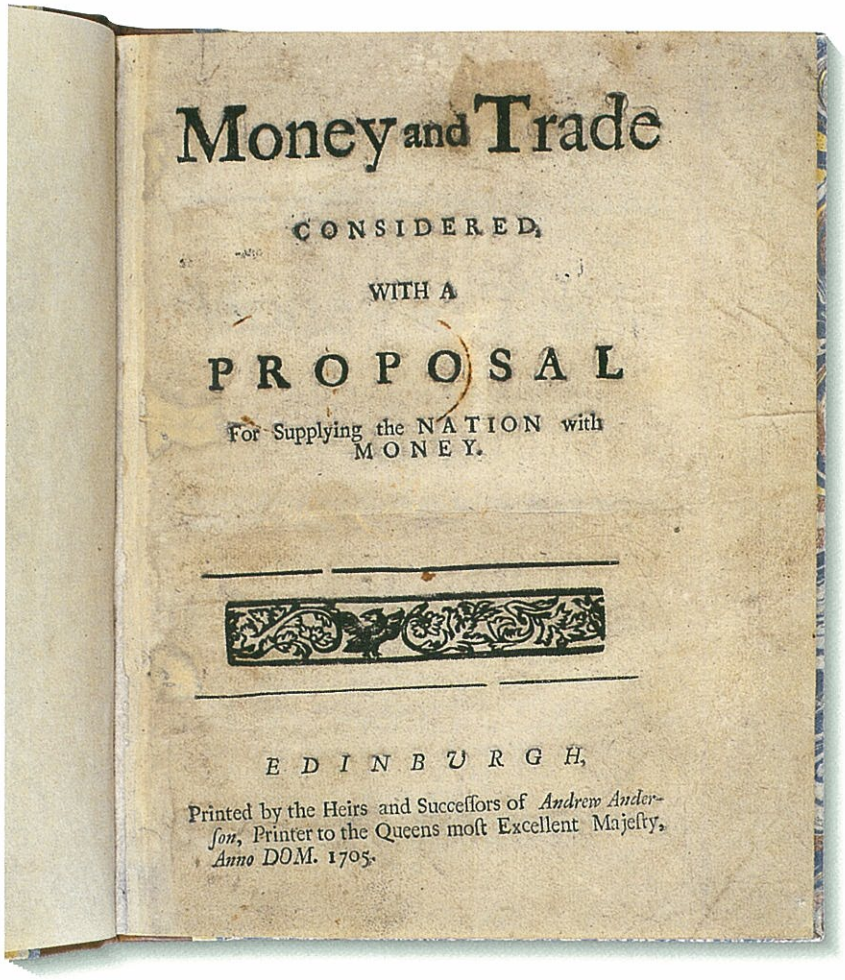
Id agendum ne omnium rerum jus & potestas ad unum Populum perveniat.
Tit. Liv. lib. 2. dec. 5.

LONDON,
Printed for *James Knapton*, at the *Crown* in St. *Paul's* Church-yard, 1704.

Davenant, Charles, 1656-1714
Essays upon peace at home, and war abroad.
London : James Knapton,　1704　[10],425,[7]p. ; 19cm
GK 4036

本書は、ハリファクス侯の依頼によって執筆されたといわれ、アン王女に献呈されている。国内のあらゆる政党が合同し、当時イギリスが参戦していた大陸での大戦争に対処する必要性を説いたものである。ダヴェナントは、熱心な政党員であったが、本書によって党派間の争いはやめるべきだと主張したため、彼の変節は以前の支持者から多くの批判を招いた。

33. ロー（1671～1729）
「貨幣及び交易論」初版　1705年　エディンバラ刊



Money and Trade

CONSIDERED,

WITH A

PROPOSAL

For Supplying the NATION with MONEY.

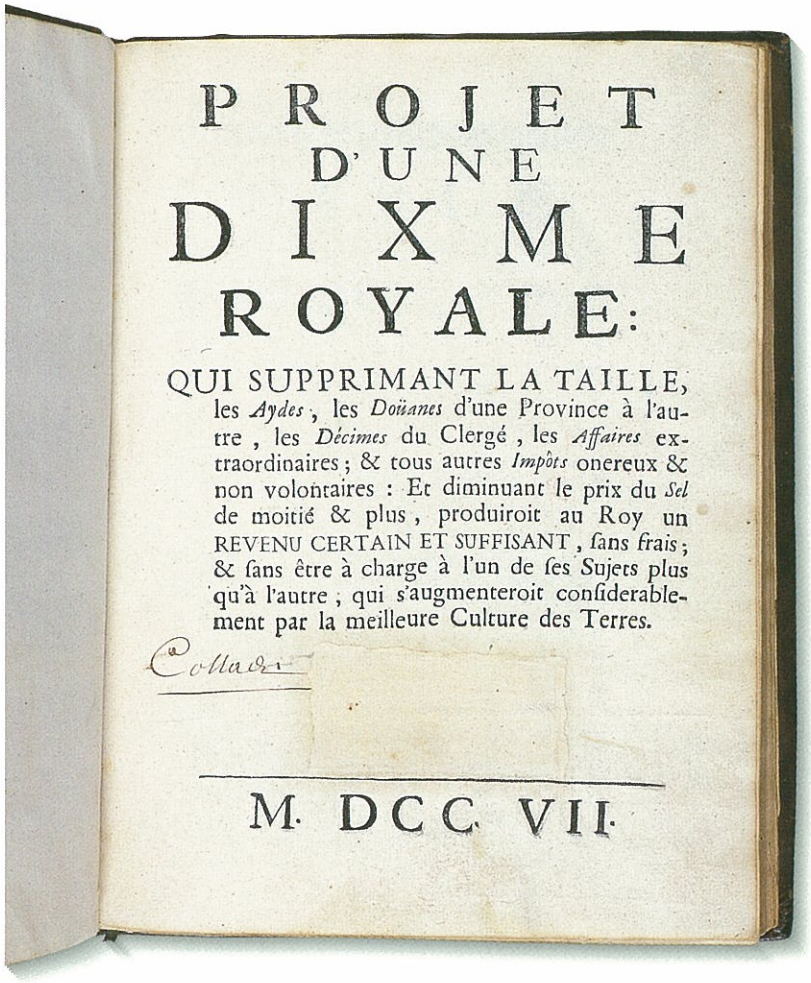
EDINBURGH,

Printed by the Heirs and Succeſſors of *Andrew Anderſon*, Printer to the Queens moſt Excellent Majeſty, *Anno DOM.* 1705.

[Law, John.] 1671-1729
Money and trade considered, with a proposal for supplying the nation with money.
Edinburgh : Heirs and Successors of Andrew Anderson, 1705 120p. ; 19cm
GK 4224

ジョン・ローは、スコットランド生まれの経済思想家で、フランスの財務監督官も務めた。本書の正確な書名は、「貨幣貿易論—国家に貨幣をもたらす提案」である。本書は、ローがスコットランド議会へ、発券銀行の設置を要望したもので、ローによれば一国の富裕の土台は大量の貨幣を持つことにあるが、この貨幣は必ずしも貴金属である必要はなく、土地などの不動産を担保とする紙幣であってもよいとしている。また、紙幣を大量に発行することによって、利子率は下がり、物価は上がって、産業の発展が促進されるであろうと述べている。この主張は、のちにフランスで実行に移されたが失敗に終わった。

34. ヴォーバン（1633～1707）
「欽定十分の一税の提案」初版　1707年　パリ刊



PROJET
D'UNE
DIXME
ROYALE:

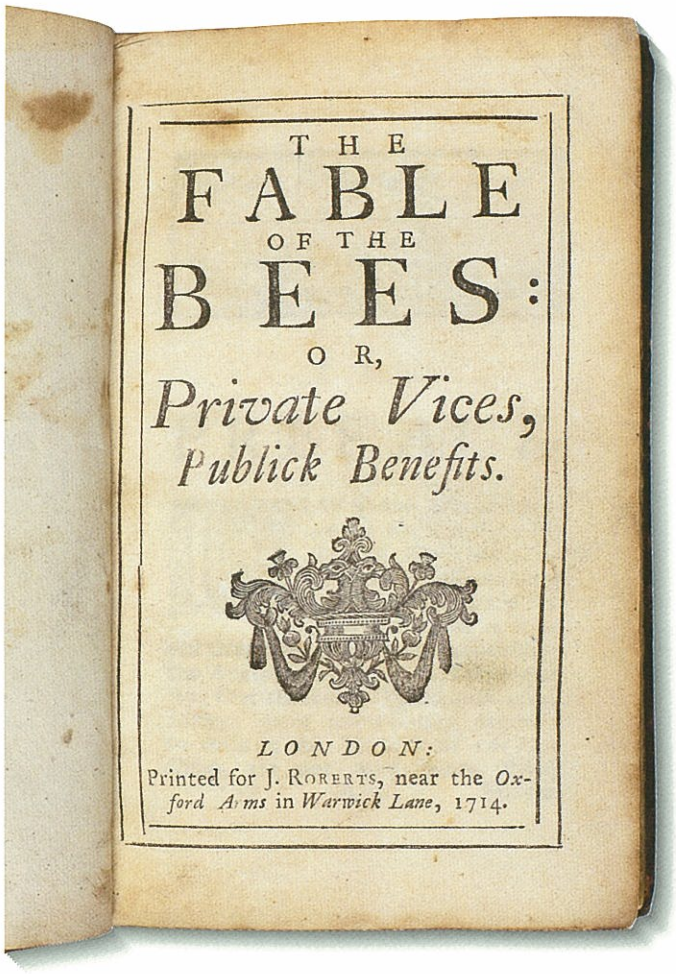
QUI SUPPRIMANT LA TAILLE, les *Aydes*, les *Doüanes* d'une Province à l'autre, les *Décimes* du Clergé, les *Affaires* extraordinaires; & tous autres *Impôts* onereux & non volontaires: Et diminuant le prix du *Sel* de moitié & plus, produiroit au Roy un REVENU CERTAIN ET SUFFISANT, ſans frais; & ſans être à charge à l'un de ſes Sujets plus qu'à l'autre; qui s'augmenteroit conſiderablement par la meilleure Culture des Terres.

M. DCC. VII.

[Vauban, Sébastian Le Prestre de,] 1633-1707
Projet d'une Dixme Royale: qui supprimant la taille, les aydes, les doüanes d'une Province à l'autre, les décimes du clergé, les affaires extraordinaires; & tous autres impôts onereux & non volontaires: et diminuant le prix du sel de moitié & plus, produiroit au Roy un REVENU CRETAIN ET SUFFISANT, sans frais; & sans être à charge à l'un de ses Sujets plus qu'a l'autre, qui saugmenteroit considerablement par la meilleure culture des terres.
[Paris] : [s.n.], 1707 [6],204,[20]p. ; 25cm
GK 4431

ヴォーバンは、フランスの軍人、工学者、経済学者である。彼は、ルイ14世の築城などに重大な役割を演じた名将であり、フランス重農主義の先駆者の一人といわれる。本書は、ヴォーバンが、フランスの富の衰退の原因が税制の乱れにあるとして、その改革案を提案した一書である。封建貴族、僧侶などの免税特権を無効にし、また租税の物納を許すことによって農業経営者を救済しようとしたもので、当時においては先進的な意義のある著作であったが、その激しい現状批判のために没収され、発行禁止の処分を受けた。ヴォーバンは、1699年の初めに完成されていたこの著作原稿を1706年末にルーアンで密かに印刷し、1707年にパリで300部を製本したが、発禁処分を受けたため、没収を逃れた一部を除いて公刊されることはなかった。発禁処分を受けた後、様々な形で同書が出版され、1707年の日付が記された版本だけでも7種類が記録されている。

35. マンディヴィル（1670～1733）
「蜂の寓話」初版　1714年　ロンドン刊

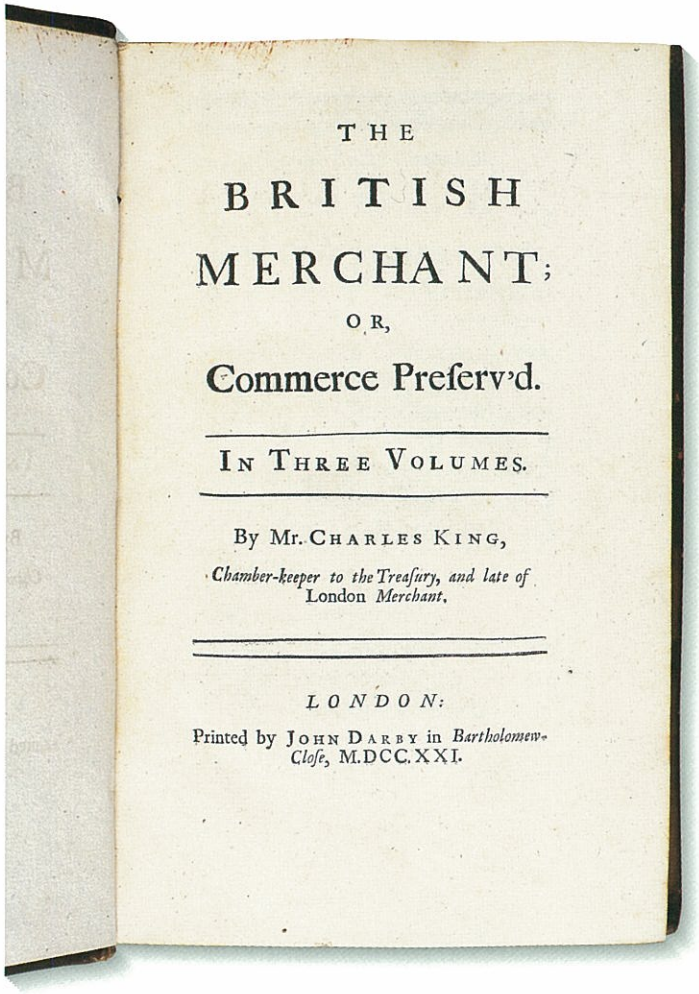

THE
FABLE
OF THE
BEES:
OR,
Private Vices,
Publick Benefits.

LONDON:
Printed for J. Rorerts, near the *Oxford Arms* in *Warwick Lane*, 1714.

[Mandeville, Bernard,] 1670-1733
The fable of the bees: or, private vices publick benefits.
London : J. Rorerts,　1714　[24],228p. ; 16cm
GK 5094

マンディヴィルは、オランダ生まれのイギリスのモラリスト。本書は“個人の悪徳は熟練した政治家の巧妙な管理によって公益に変えられる”というパラドックスの主張により、当時のイギリス社会を風刺したものである。彼は経済活動の動機として利己心を重視し、これに基づいて市民社会を分業・交換社会としてとらえ、自由放任論への傾斜を示しており、スミス経済思想の生成に対する貢献が見られる。

36. キング（1713頃）
「英国の商人」初版　3巻　1721年　ロンドン刊



THE
BRITISH
MERCHANT;
OR,
Commerce Preſerv'd.

IN THREE VOLUMES.

By Mr. CHARLES KING,
Chamber-keeper to the Treaſury, and late of London *Merchant.*

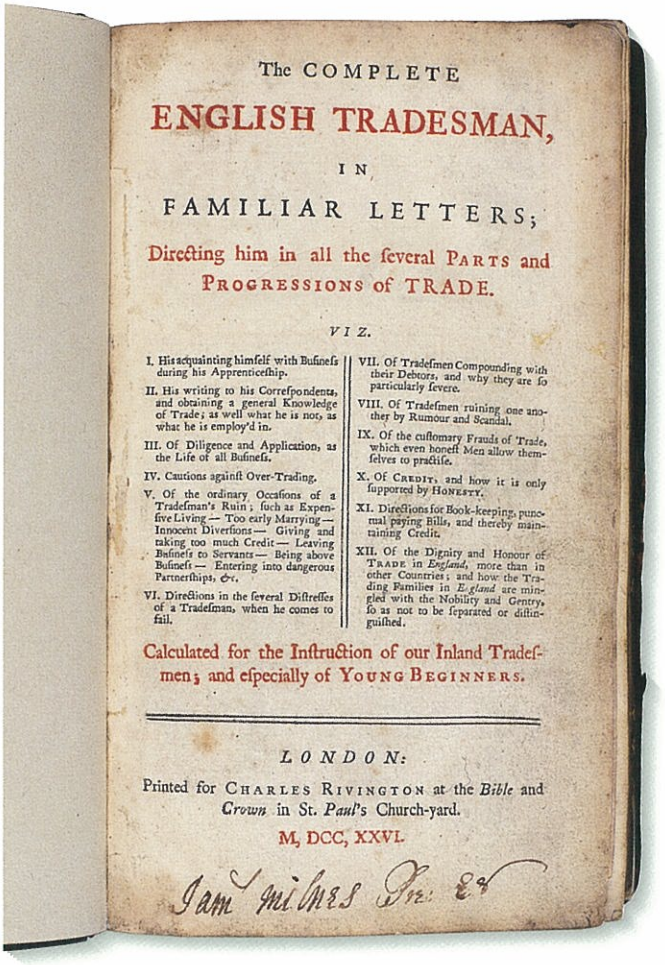
LONDON:
Printed by JOHN DARBY in *Bartholomew-Cloſe*, M.DCC.XXI.

King, Charles, fl.1713
The British merchant; or, commerce preserv'd.
London : John Darby,　1721　3Vols. ; 22cm
GK 5943　John Wallop 旧蔵書

本書は、1713年8月7日から翌年の7月30日まで刊行された雑誌で、トーリー派に属するデフォーの Mercator ; or, Commerce Retrievedに対して論陣を張り、ホイッグ党の主張を述べている。ユトレヒト条約に端を発したこの論争でキングは、デフォーがボリングブルックの意を受けて商業の互恵主義を説き、貿易解放を主張したのを批判し、英国は高賃金ゆえに後進国との競争のためには、保護関税を必要とすると主張した。結局条約の修正よるホイッグ党の勝利に終わり、本書は当時のウォルポール政権の経済政策を理論的に支える文献として利用され、ウォルポールが政権に返り咲いた1721年に刊行させたものである。

館蔵書は、リミントン子爵であり、1717年には大蔵大臣も務めたジョン・ウオーロップの旧蔵書である。

37. デフォー（1660～1731）
「完全なイングランド商人」初版　1726年　ロンドン刊



The COMPLETE

ENGLISH TRADESMAN,

IN

FAMILIAR LETTERS;

Directing him in all the ſeveral PARTS and PROGRESSIONS of TRADE.

VIZ.

I. His acquainting himſelf with Buſineſs during his Apprenticeſhip.

II. His writing to his Correſpondents, and obtaining a general Knowledge of Trade; as well what he is not, as what he is employ'd in.

III. Of Diligence and Application, as the Life of all Buſineſs.

IV. Cautions againſt Over-Trading.

V. Of the ordinary Occaſions of a Tradeſman's Ruin; ſuch as Expenſive Living — Too early Marrying — Innocent Diverſions — Giving and taking too much Credit — Leaving Buſineſs to Servants — Being above Buſineſs — Entering into dangerous Partnerſhips, *&c.*

VI. Directions in the ſeveral Diſtreſſes of a Tradeſman, when he comes to fail.

VII. Of Tradeſmen Compounding with their Debtors, and why they are ſo particularly ſevere.

VIII. Of Tradeſmen ruining one another by Rumour and Scandal.

IX. Of the cuſtomary Frauds of Trade, which even honeſt Men allow themſelves to practiſe.

X. Of CREDIT, and how it is only ſupported by HONESTY.

XI. Directions for Book-keeping, punctual paying Bills, and thereby maintaining Credit.

XII. Of the Dignity and Honour of TRADE in *England*, more than in other Countries; and how the Trading Families in *England* are mingled with the Nobility and Gentry, ſo as not to be ſeparated or diſtinguiſhed.

Calculated for the Inſtruction of our Inland Tradeſmen; and eſpecially of YOUNG BEGINNERS.

LONDON:

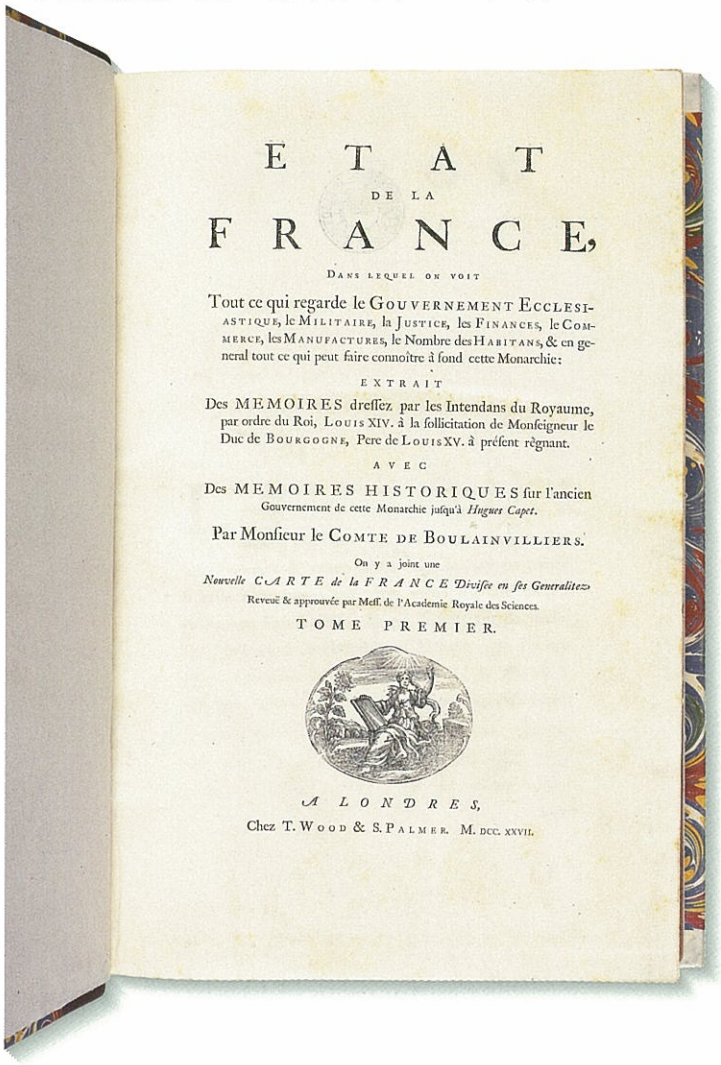
Printed for CHARLES RIVINGTON at the *Bible* and *Crown* in St. *Paul's* Church-yard.

M, DCC, XXVI.

[Defoe, Daniel] 1660-1731
The complete English Tradesman, in familiar letters; directing him in all the several parts and progressions of trade. ... Calculated for the instruction of our inland tradesmen; and especially of young beginners.
London : Charls Rivington,　1726　xv,[2],447p. ; 20cm
GK 6445

デフォーは、イギリスのジャーナリストで小説家と考えられているが、商業や経済についても深い透察力をもっていた。「ロビンソン・クルーソー」における合理的人間像や、本書における生成期のブルジョワ的経済倫理や商業技術など、彼の思想は、近代への過渡期を体現している。

38. ブーランヴィリエ（1658～1722）
「フランスの国情」初版　3巻　1727-1728年　ロンドン刊

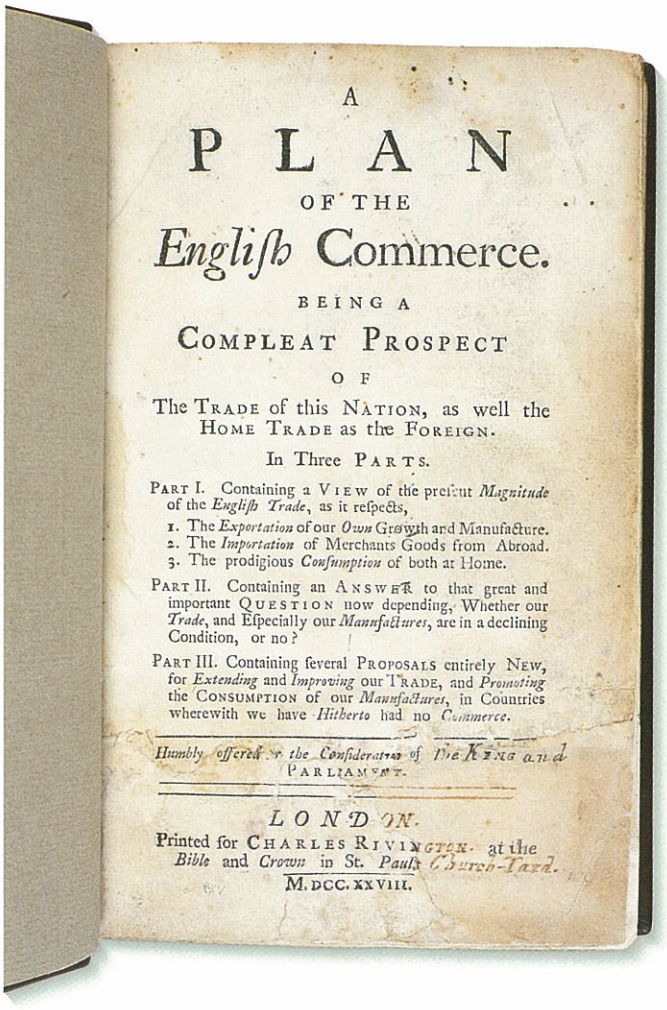


ETAT
DE LA
FRANCE,
DANS LEQUEL ON VOIT
Tout ce qui regarde le GOUVERNEMENT ECCLESIASTIQUE, le MILITAIRE, la JUSTICE, les FINANCES, le COMMERCE, les MANUFACTURES, le Nombre des HABITANS, & en general tout ce qui peut faire connoître à fond cette Monarchie:
EXTRAIT
Des MEMOIRES dressez par les Intendans du Royaume, par ordre du Roi, LOUIS XIV. à la sollicitation de Monseigneur le Duc de BOURGOGNE, Pere de LOUIS XV. à présent règnant.
AVEC
Des MEMOIRES HISTORIQUES sur l'ancien Gouvernement de cette Monarchie jusqu'à *Hugues Capet*.
Par Monsieur le COMTE DE BOULAINVILLIERS.
On y a joint une
Nouvelle CARTE de la FRANCE Divisée en ses Generalitez
Reveuë & approuvée par Mess. de l'Academie Royale des Sciences.
TOME PREMIER.
A LONDRES,
Chez T. WOOD & S. PALMER. M. DCC. XXVII.

Boulainvilliers, H Henri, comte de. 1658-1722
Etat de la France, dans lequel on voit tout ce qui regarde le gouvernement ... commerce, ... habitans, ... extrait des memoires dressez par les intendans ... Par Monsieur le Comte de Boulainvilliers. On y a joint une nouvelle carte de la France divisee en ses generalitez, ...
London : T. Wood & S. Palmer,　1727-28　3 Vols. ,plate, map ; 35cm
GK 6496

ブーランヴィリエはフランスの歴史家。ノルマンディのサン=セールにこもって膨大な史料をもとにまとめあげられた本書は、封建制を捧持したブーランヴィリエの主著である。絶対王政に批判的なその内容がはばかられたため、生前には刊行されなかった。しかし、早くから写本が流布するなど、同時代の人々から注目されていた。本書は、ルイ14世の下命により、フランスの歴史と国情について各地域の情報を集大成しまとめたものである。フランス王制の始まりであるカペー朝のユーグ・カペーからルイ14世までの治世の歴史とあわせ、ブーランヴィリエ自身の財政計画とフランス各地域の長官から得た情報により、行政、司法、軍隊、財政、商工業、人口などについて詳述している。第3巻には議会の歴史についても述べられており、フランスの経済社会史を考察する上で貴重な書物である。

39. デフォー（1660～1731）
「イギリスの貿易事情」初版　1728年　ロンドン刊



A
PLAN
OF THE
English Commerce.
BEING A
COMPLEAT PROSPECT
OF
The TRADE of this NATION, as well the HOME TRADE as the FOREIGN.
In Three PARTS.

PART I. Containing a VIEW of the present *Magnitude* of the *English Trade*, as it respects,
1. The *Exportation* of our *Own* Growth and Manufacture.
2. The *Importation* of Merchants Goods from Abroad.
3. The prodigious *Consumption* of both at Home.

PART II. Containing an ANSWER to that great and important QUESTION now depending, Whether our *Trade*, and Especially our *Manufactures*, are in a declining Condition, or no?

PART III. Containing several PROPOSALS entirely NEW, for *Extending* and *Improving* our TRADE, and *Promoting* the CONSUMPTION of our *Manufactures*, in Countries wherewith we have *Hitherto* had no *Commerce*.

Humbly offered to the Consideration of the KING *and* PARLIAMENT.

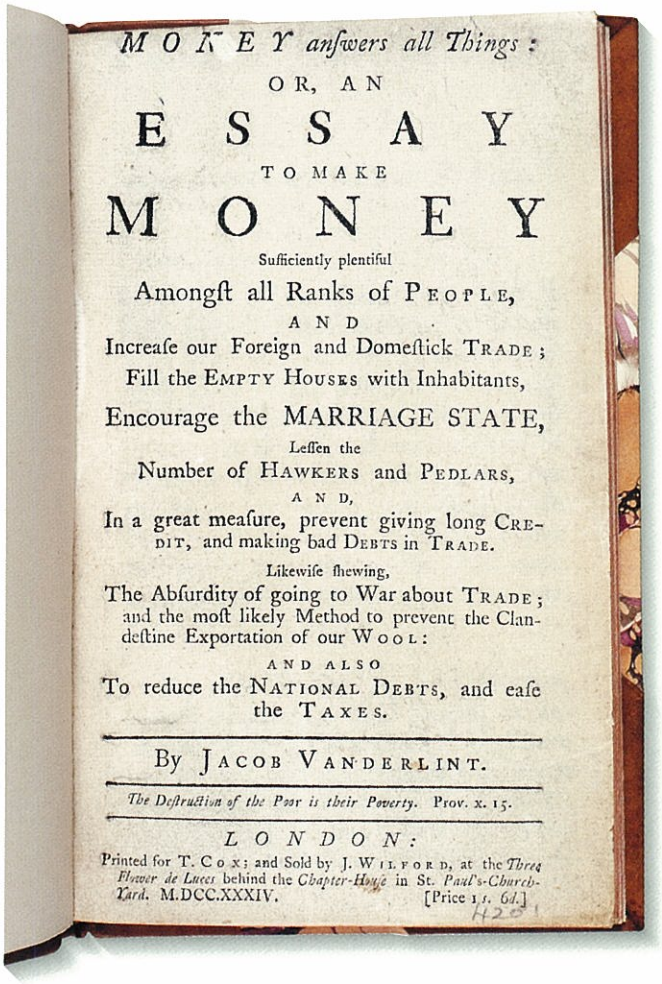
LONDON.
Printed for CHARLES RIVINGTON, at the *Bible* and *Crown* in St. *Paul's Church-Yard*.
M.DCC.XXVIII.

[Defoe, Daniel] 1660-1731
A plan of the English commerce. Being a compleat prospect of the trade of this nation, as well the home trade as the foreign. ... Humbly affered to the consideration of the King and Parliament.
London : Charles Rivington, 1728 xvi,[8],368p. ; 20cm
GK 6594

本書は彼の構想をよく示し、副題「わが国の内外商業についての十分なる展望」が示すように自信に満ちており、イギリスの生産力の発展に基づく自由貿易論にのっとり、イギリスの国内市場、外国貿易などの経済事情に関する＜詳細な研究＞であることを意図している。

彼は自由貿易の立場から、本書においてフランス商品に対する1660年代以降の禁止法令を廃止し、英仏貿易に最恵国特権を与えようとするユトレヒト条約を弁護した。

40. ヴァンダーリント（1740没）
「貨幣万能」初版　1734年　ロンドン刊



MONEY answers all Things:
OR, AN
ESSAY
TO MAKE
MONEY
Sufficiently plentiful
Amongst all Ranks of PEOPLE,
AND
Increase our Foreign and Domestick TRADE;
Fill the EMPTY HOUSES with Inhabitants,
Encourage the MARRIAGE STATE,
Lessen the
Number of HAWKERS and PEDLARS,
AND,
In a great measure, prevent giving long CREDIT, and making bad DEBTS in TRADE.
Likewise shewing,
The Absurdity of going to War about TRADE; and the most likely Method to prevent the Clandestine Exportation of our WOOL:
AND ALSO
To reduce the NATIONAL DEBTS, and ease the TAXES.

By JACOB VANDERLINT.

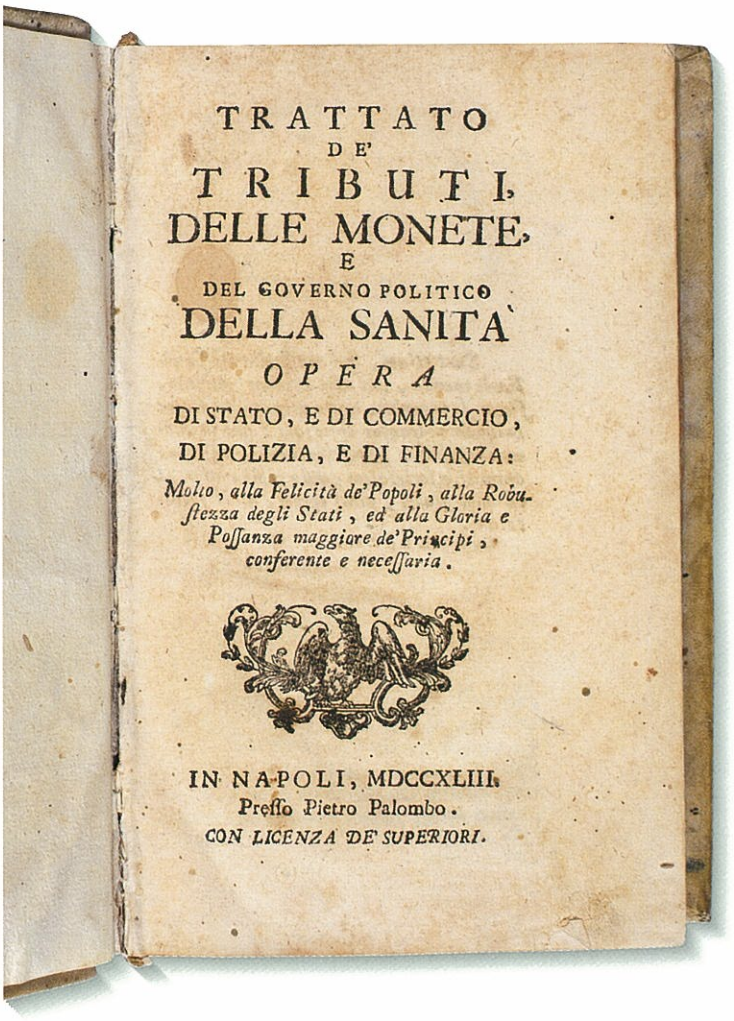
The Destruction of the Poor is their Poverty. Prov. x. 15.

LONDON:
Printed for T. COX; and Sold by J. WILFORD, at the *Three Flower de Luces* behind the *Chapter-House* in St. *Paul's-Church-Yard*. M.DCC.XXXIV. [Price 1 s. 6d.]

Vanderlint, Jacob. d.1740
Money answers all things: or, An essay to make money sufficiently plentiful amongst all ranks of people, and increase our foreign and domestick trade : Fill the empty houses with inhabitants, encourage the marriage state ... and, in a great measure, prevent giving long credit, and making bad debts in trade ... and also to reduce the national debts, and ease the taxes
London : T. Cox,　1734.　ii,168p. (The following pages missing.) ; 19cm
GK 7227

ヴァンダーリントは、オランダ出身の商人で、イギリスに帰化してロンドンに住んだ。本書は、貨幣数量説と国際間における貨幣量の自動的調節機能論（平準化）とを初めて結合させて重商主義の貿易差額説を批判し，スミスの先駆者として自由貿易論を唱えた。また、勤労大衆の立場からその生活水準の上昇を土地独占の制限によって計ろうとし、一方これに基づく穀価と名目賃金との下落によって商品の外国市場を守ろうとした。さらに土地単税論をも唱えている。ロックの影響が大きいが、原始的蓄積の進行によって没落していく独立農民層のラディカルな抵抗のエネルギーを反映し、ウィッグ体制への批判を強めている。反時流的な性格のために同時代に印象を与え得なかったが、マルクスはヒュームがこの書の内容をひそかに継承したことを指摘している。

41. ブロッジャ（1696～1776）
「租税、貨幣及び健全な統治」初版　1743年　ナポリ刊



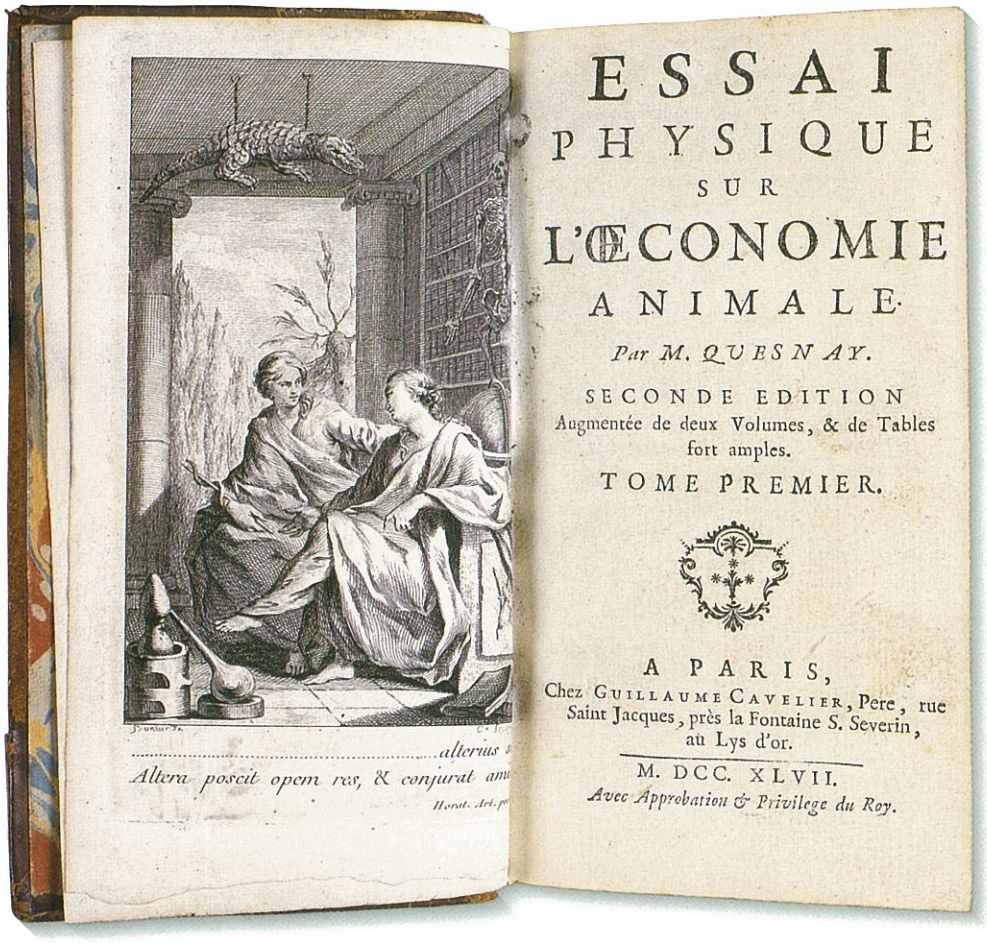
TRATTATO
DE'
TRIBUTI,
DELLE MONETE,
E
DEL GOVERNO POLITICO
DELLA SANITA'
OPERA
DI STATO, E DI COMMERCIO,
DI POLIZIA, E DI FINANZA:
Molto, alla Felicità de'Popoli, alla Robustezza degli Stati, ed alla Gloria e Possanza maggiore de'Principi, conferente e necessaria.

IN NAPOLI, MDCCXLIII.
Presso Pietro Palombo.
CON LICENZA DE' SUPERIORI.

[Broggia, Carlo Antonio], 1696-1776
Trattato de' tributi, delle monete, e del governo politico della sanita opera distato, e di commercio, di polizia, e de finanza: ...
Napoli : Presso Pietro Palombo,　1743　[14],xviii,572,[4]p. ; 18cm
GK 7984

ブロッジャは、イタリアの商人で政治家。本書は、ブロッジャの課税に関する著作で、ドイツ語にも翻訳されている。課税は、国家の繁栄の基礎になる財源であり、農業、工業、商業の発展を阻害するものであってはならないとして、消費税、国内関税、土地税、不動産税、十分の一税などについて分析しながら、誤った徴税方法を諌め、最良の課税方法について述べている。

42. ケネー（1694～1774）
「動物経済に関する物理的論究」第2版　3巻　1747年　パリ刊

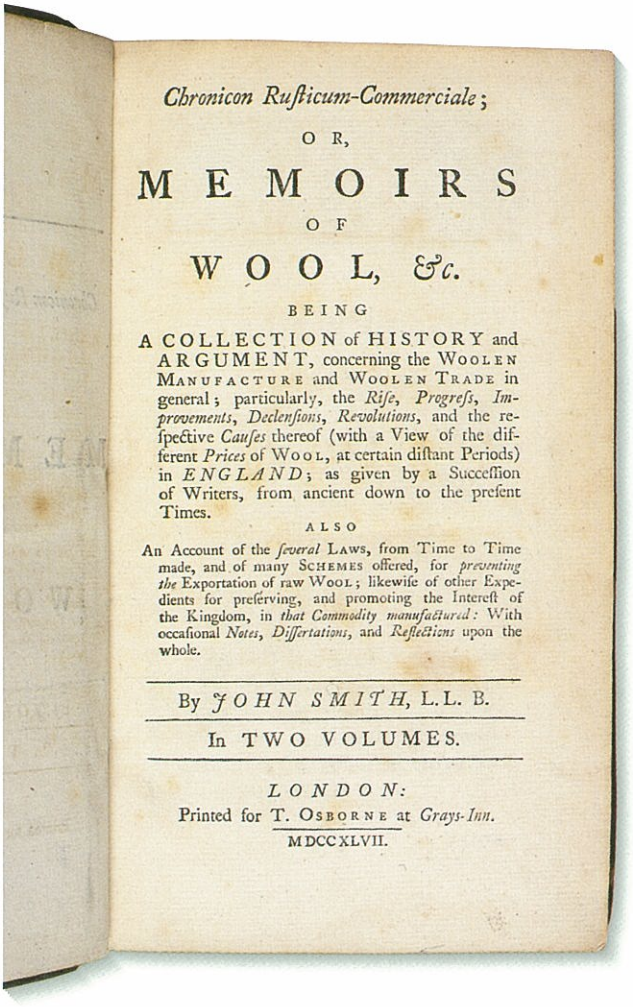


Quesnay, Francoi, 1694-1774
Essai Physique sur l'Oeconomie Animale.
Paris : Guillaume Cavelier,　1747　3 Vols. ; 17cm
c.f.GK 7346 or 7457.2

ケネーは、フランスの経済学者で重農学派の創始者である。ケネーは初め医学を修め、ルイ15世の侍医にもなった。啓蒙思想家と交際し、時局を論じるうちに次第に哲学や経済への関心を深めた。1753年頃から経済学の研究を始め、ディドロたちが編集した「百科全書」にも寄稿した。彼の名声を不朽のものにしたのは1758年に著した「経済表」においてである。

本書は、重農主義の創始者ケネーの生理学に関する著述であり、初版は1736年に刊行されている。

43. ジョン・スミス（1742～1757頃）
「農村商業史」初版　2巻　1747年　ロンドン刊



Chronicon Rusticum-Commerciale;

OR,

MEMOIRS

OF

WOOL, *&c.*

BEING

A COLLECTION of HISTORY and ARGUMENT, concerning the WOOLEN MANUFACTURE and WOOLEN TRADE in general; particularly, the *Rise*, *Progress*, *Improvements*, *Declensions*, *Revolutions*, and the respective *Causes* thereof (with a View of the different *Prices* of WOOL, at certain distant Periods) in *ENGLAND*; as given by a Succession of Writers, from ancient down to the present Times.

ALSO

An Account of the *several* LAWS, from Time to Time made, and of many SCHEMES offered, for *preventing the* Exportation of raw WOOL; likewise of other Expedients for preserving, and promoting the Interest of the Kingdom, in *that Commodity manufactured:* With occasional *Notes*, *Dissertations*, and *Reflections* upon the whole.

By *JOHN SMITH*, L.L. B.

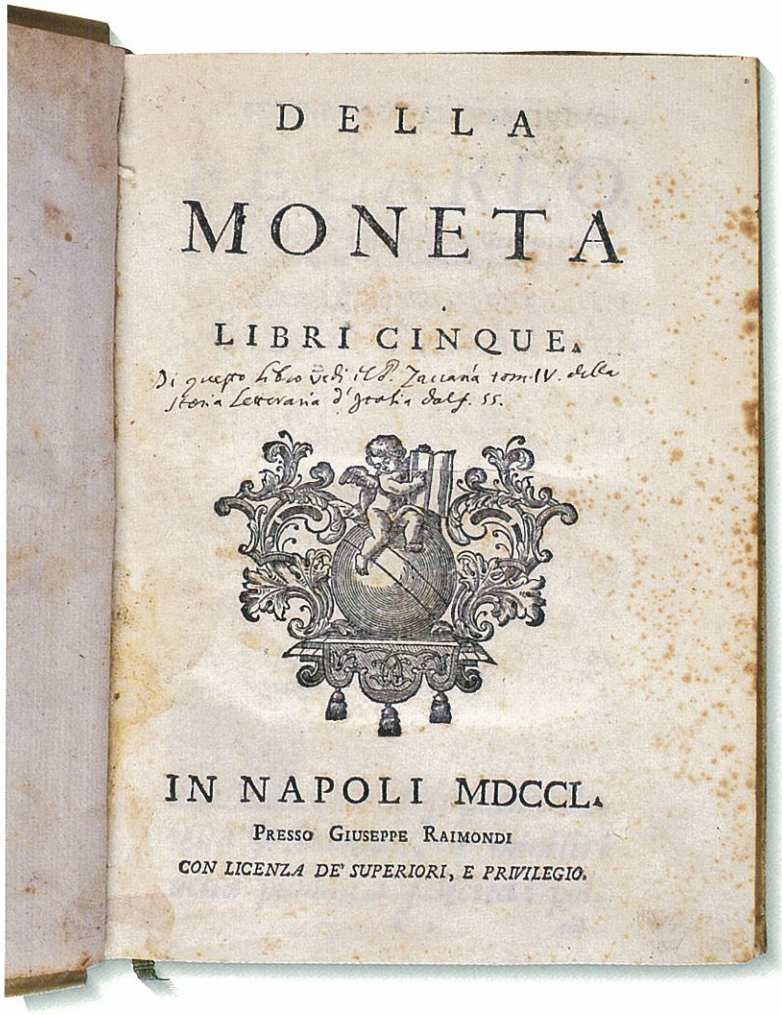
In TWO VOLUMES.

LONDON:
Printed for T. OSBORNE at *Grays-Inn.*
MDCCXLVII.

Smith, John, fl.1742-1757
Chronicon rusticum-commerciale; or, memoirs of wool, &c. Being a collection of history and argument, concerning the woolen manufacture and woolen trade in general; ...
London : T. Osborne,　1747　2 vols. ; 20cm
GK 8283

本書は、副題に「羊毛回想録」となっているように、イギリス羊毛工業、羊毛貿易の起源と発展に関する記述の他、羊毛を中心とする商工業にかかわる様々な事件や法律を、議会への請願書、判例、各治世の諸特許などから丹念に調査している。また、あまり知られていない経済作家を含めた著書、論文の概要を抜粋し、集大成した一書である。本書の中には、重商主義文献のほぼすべての部分的抜き書きがあり、今日では経済学史上不可欠な文献として重視されている。アダム・スミスも「国富論」第4編第8章で本書を引用参考し、またアーサー・キングやマカロックによっても絶賛されている。

44.（ガリアニ）（1728～1787）
「貨幣論」初版　1750年　ナポリ刊



DELLA

MONETA

LIBRI CINQUE.

Di questo libro vedi il Ch. Zaccaria tom. IV. della Storia Letteraria d'Italia dal p. 55.

IN NAPOLI MDCCL.

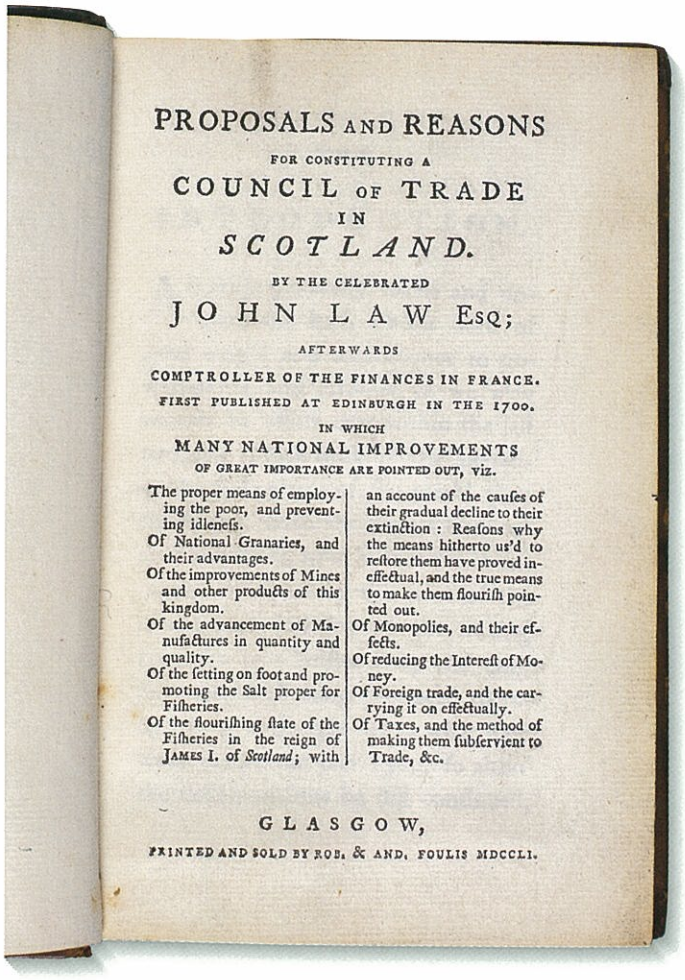
PRESSO GIUSEPPE RAIMONDI

CON LICENZA DE' SUPERIORI, E PRIVILEGIO.

[Galiani, Ferdinando], 1728-1787
Della moneta libri cinque.
Napoli : Giuseppe Raimondi,　1750　[16],416p. ; 21cm
GK 8528

本書は、イタリアの経済学者ガリアニの5編からなる金属・貨幣の性質、貨幣価値、貨幣流通、貨幣利子に関する著作で、弱冠22歳の1750年に無署名で刊行された。この「貨幣論」は、価値論、貨幣理論における先駆的な業績であり、ロックやカンティヨン等をはるかに超え、近代経済学の水準まで近づいている。本書の刊行年は、実はタイトルページに記された年の翌年、1751年である。

45. パターソン（1658～1719）
「スコットランド貿易委員会設立への提案」グラスゴー版　1751年　グラスゴー刊



PROPOSALS AND REASONS
FOR CONSTITUTING A
COUNCIL OF TRADE
IN
SCOTLAND.
BY THE CELEBRATED
JOHN LAW Esq;
AFTERWARDS
COMPTROLLER OF THE FINANCES IN FRANCE.
FIRST PUBLISHED AT EDINBURGH IN THE 1700.
IN WHICH
MANY NATIONAL IMPROVEMENTS
OF GREAT IMPORTANCE ARE POINTED OUT, viz.

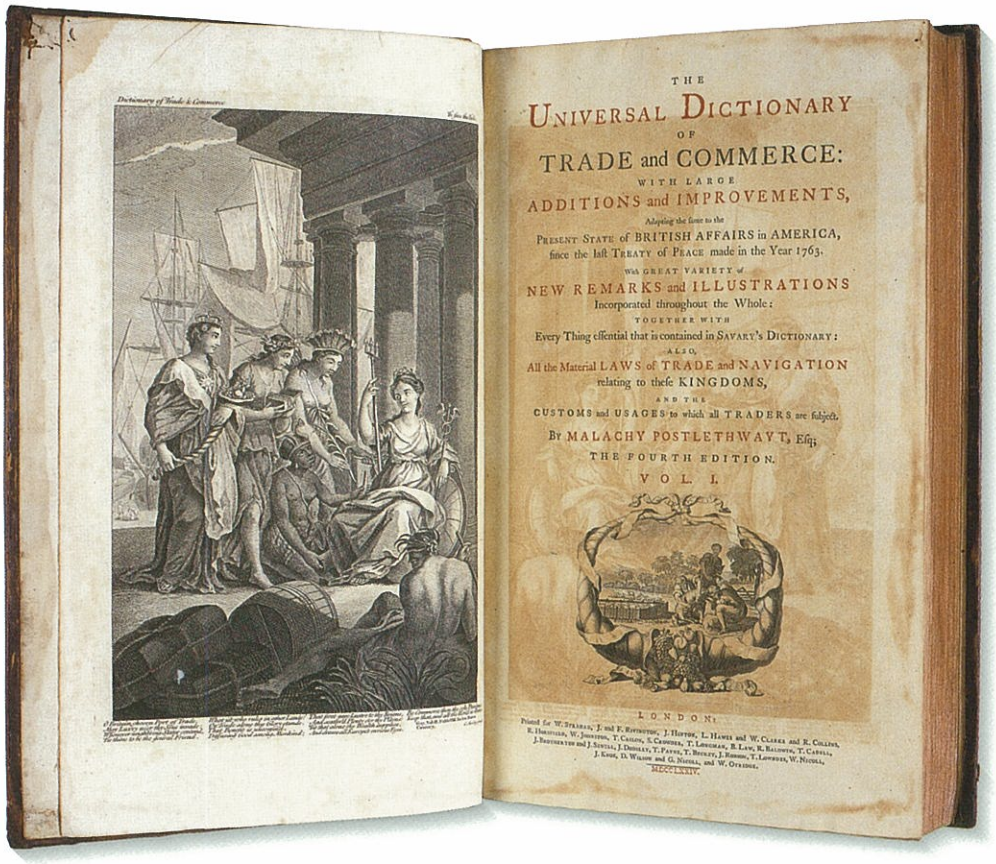
The proper means of employing the poor, and preventing idleneſs.
Of National Granaries, and their advantages.
Of the improvements of Mines and other products of this kingdom.
Of the advancement of Manufactures in quantity and quality.
Of the ſetting on foot and promoting the Salt proper for Fiſheries.
Of the flouriſhing ſtate of the Fiſheries in the reign of JAMES I. of *Scotland*; with an account of the cauſes of their gradual decline to their extinction: Reaſons why the means hitherto us'd to reſtore them have proved ineffectual, and the true means to make them flouriſh pointed out.
Of Monopolies, and their effects.
Of reducing the Intereſt of Money.
Of Foreign trade, and the carrying it on effectually.
Of Taxes, and the method of making them ſubſervient to Trade, &c.

GLASGOW,
PRINTED AND SOLD BY ROB. & AND. FOULIS MDCCLI.

[Paterson, William], 1658-1719
Proposals and reasons for constituting a council of trade in Scotland.
Glasgow : Robert. & Andrew. Foulis,　1751　xx,282,[2]p. ; 16cm
GK 8588

英蘭銀行の創始者ウィリアム・パターソンの著作。1701年に出版されたエディンバラ版は匿名で出版されたが、このグラスゴー版にはジョン・ローの名が記されていたため、長くこの書はジョン・ローの著作とみなされていた。本書には、1700年に書かれた著書の序文がそのまま掲載されている。

46. ポッスルスウェイト（1707～1767）
「商工業大辞典」初版　2巻　1751−1755年　ロンドン刊

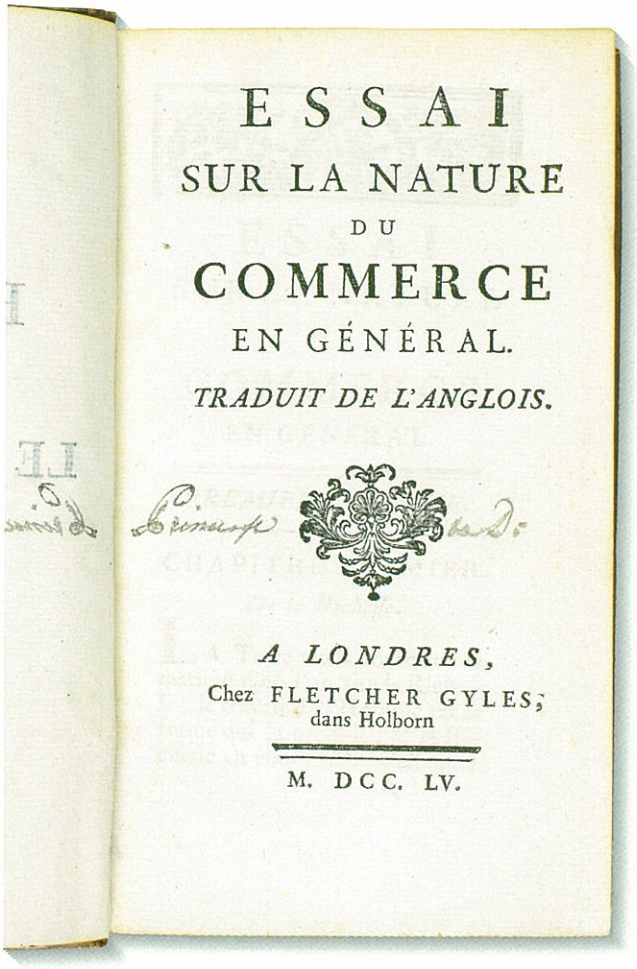


Postlethwayt, Malachy,1707-1767
The universal dictionary of trade and commerce, translated from the French of the celebrated Monsieur Savary inspector-General of the manufactures for the king, at the custon-house of Paris : with large additions and improvements incorporated throughout the whole work ; which more particularly accommodate the same to the trade and navigation of these kingdoms, and the laws, customs, and usages, to which all Traders are subject.
London : Printed for J. and P. Knapton,　1751-1755　2 Vols. ,plate ; 42cm
GK 8594

ポッスルスウェイトは、イギリスの経済学者で、商業、工業、貿易に関する辞書や著作がある。本書の正式なタイトルは「貿易、商業大事典、1763年に結ばれた最後の講話条約以来アメリカにおけるブリテン問題の現状に本事典を適応させる大きな追加と改善を付す」である。この商業辞典は、フランスのサヴァリ兄弟が著した『商業総事典』を模範として増補・翻訳されたものであるが、18世紀における貿易及び商業に関するもっとも重要で、人気を博した商業辞典といわれている。ポッスルスウェイトの20年間の研究成果の集大成と言えるもので、単なるサヴァリの商業事典の翻訳にとどまらず古今内外の古典や研究による補充を行い、それらを世に役立てることを念願して著されている。

本書には、欧州各地域の商業事情や綿毛、香料、鉱物、農産物の生産、技術、価格などの基準やそれに関する事項が詳細に記述され、また商業上で必要な簿記など商業、産業、貿易に従事する者にとって欠かせない知識についても論述されているが、特にイギリスの国家財政の改善を求める観点からイギリスにかかわる事柄が数多く加えられている。1774年に最終版として第4版が刊行されており、この最終版も「知の系譜」文庫に収蔵されている。

47. カンティヨン（1697～1734）
「商業一般の性質について」初版　1755年　ロンドン刊



ESSAI
SUR LA NATURE
DU
COMMERCE
EN GÉNÉRAL.
TRADUIT DE L'ANGLOIS.

A LONDRES,
Chez FLETCHER GYLES,
dans Holborn

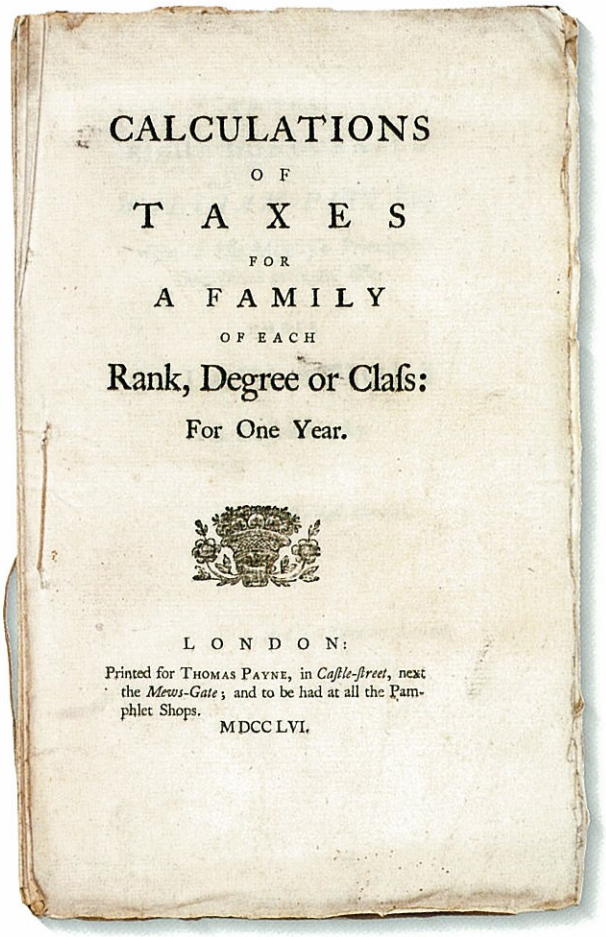
M. DCC. LV.

Cantillon, Richard, 1697-1734
Essai sur la nature du commerce en général. Traduit de l'anglois.
London [i.e. Paris] : Fletcher Gyles,　1755　[4],430,[6]p. ; 17cm
GK 8989

カンティヨンはスコットランドの経済学者で重農主義の先駆者。本書のもととなった原稿は、初め英語で書かれ、自ら仏訳したといわれている。重農学派として活躍したミラボー侯がこの原稿を16年間も所蔵し、一時は自分の名前で刊行しようとさえ考えたといわれているが、結局1755年にカンティヨンのものとして、その死後21年目にようやく出版された。カンティヨンが本書で掲げた「土地は、富を引き出す源泉及び材料であり、人間の労働は、これに形態を付与する」というテーゼは重農主義者に多大な影響を与えたが、カンティヨン自身は重商主義の基本的ドグマである貿易差額論を擁護するなど、純粋に重商主義的見地に立っていた。また、彼は理論的裏づけとして一般的方法を定式化するため数学的計算や表を利用した。このため数理学派の創始者ジェヴォンズは、カンティヨンを近世経済学の創始者としている。

本書は1881年にジェヴォンズによって取り上げられ、以来経済学史におけるカンティヨンの重要性が再認識され今日に至っている。本書は3編に分かれており、第1編は主に価値・価格論、第2編は貨幣・利子論、第3編は外国貿易・為替論であり、アダム・スミスの「国富論」以前の経済学書としては最も体系的なものといわれている。

48. マッシー（1784 没）
「各階級における税の計算」初版　1756年　ロンドン刊



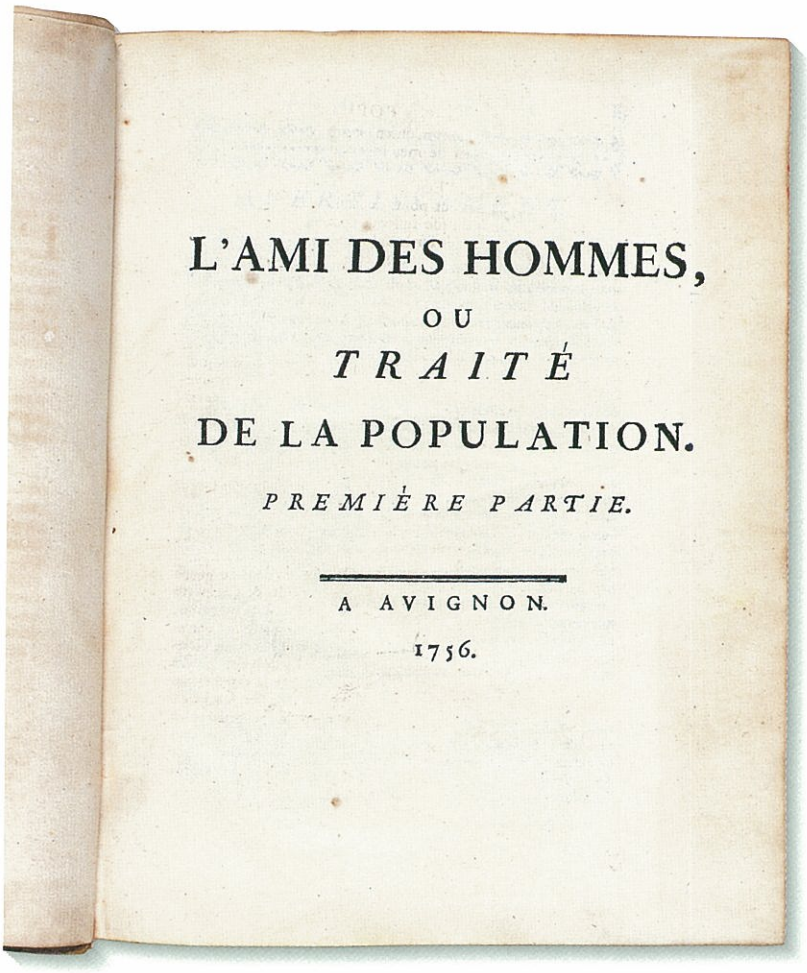
CALCULATIONS
OF
TAXES
FOR
A FAMILY
OF EACH
Rank, Degree or Clafs:
For One Year.

LONDON:
Printed for THOMAS PAYNE, in *Caſtle-ſtreet*, next the *Mews-Gate*; and to be had at all the Pamphlet Shops.
MDCCLVI.

[Massie, Joseph] d.1784
Calculations of Taxes for a Family of each Rank, Degree or Class : London : Printed for Thomas Payne,　1756　16,[30]p. ; 23cm
GK 9163

マッシーの生涯は不明であるが、18世紀の英国経済史上に於いて重要な地位を占めていた。彼は12年以上もかけて英国の商業、鋳貨及び植民地に関する資料を1,500点以上も収集していたが1760年にすべて売却した。マッシーは本書の献呈されているウィリアム・ピットを支持するためにこの小冊子を刊行したと思われる。本書の中でマッシーは、グラント、ペティ、キングといった人々に批判的な立場を取り、税の計算は①国民の総数、②彼らの収入あるいは出費の総額、③課税によって引き起こされる物価と労賃双方の上昇金額、④王国全体の毎年の納税額のすべてのデータに基づいたものでなければ有効にはなり得ないとした。年間2万ポンドの地代収入のある裕福な貴族から週6シリングの収入しかない労働者まで30の階級について調査されている。

49. ミラボー（1715～1789）
「人間の友」初版　5巻（3冊）　1756（-1760）年　アヴィニョン刊



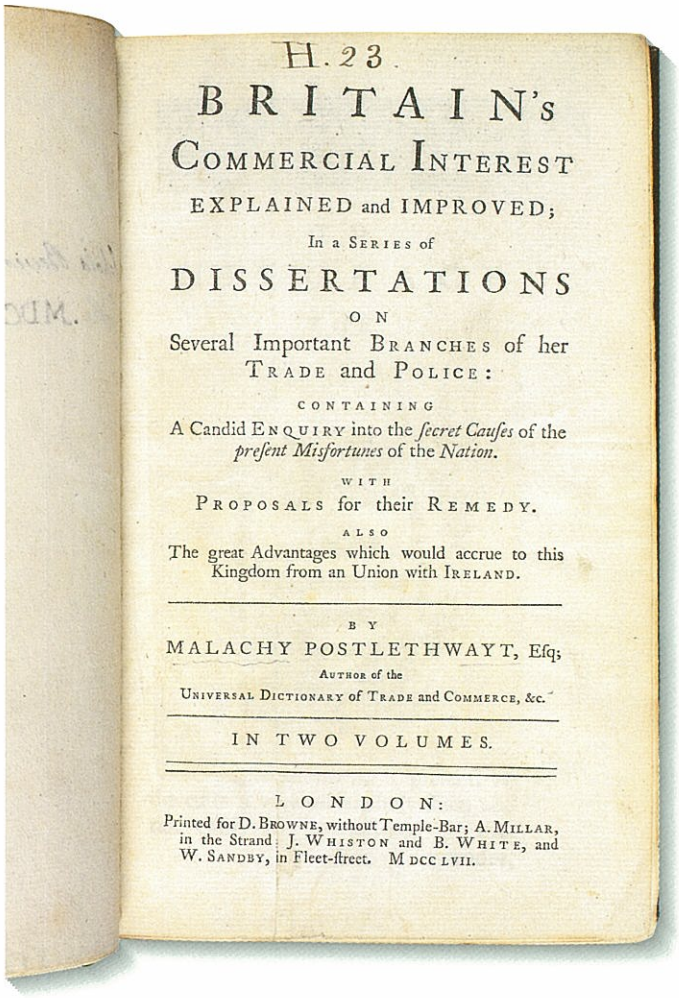
L'AMI DES HOMMES,
OU
TRAITÉ
DE LA POPULATION.
PREMIÉRE PARTIE.
A AVIGNON.
1756.

[Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de.] 1715-1789
L'ami des hommes, ou, Traité de la population.
Avignon : [s.n.], 1756-[60] 5 vols.(in three) ; 25cm
GK 9093

ミラボーは、フランスの経済学者で重農学派の一人。若い時しばらく軍籍にあったが、のち経済学の研究に入った。1757年にケネーと会見して彼に完全に同調し、以後重農学派のもっとも有力な一人となった。第1巻は、ケネーとの会見によって重農主義理論に“改宗”する以前のもので、ペティやカンティヨンの影響で大きな人口は国富を増進させるもので望ましい、という重商主義的見解をとっていた。また、大地主の不在所有制を激しく攻撃し、小農経営を推奨していたが、それは人口増殖主義の立場に立っていたからである。ケネーに自説を論破されたミラボーは、ケネーの最初の熱狂的な学徒となり、「小経営は大経営よりも不利である」という立場をとるにいたった。

本書は、その清新はつらつたる文章によって、非常な評判となり、版を重ねること40回、数か国語に翻訳され、その書名の頭文字L.D.H.は著者の異名となった。

50. ポッスルスウェイト（1707～1767）
「大英帝国の商業権益」初版　2巻　1757年　ロンドン刊



H. 23.

BRITAIN's
COMMERCIAL INTEREST
EXPLAINED and IMPROVED;
In a SERIES of
DISSERTATIONS
ON
Several Important BRANCHES of her
TRADE and POLICE:
CONTAINING
A Candid ENQUIRY into the *secret Causes* of the
present Misfortunes of the *Nation*.
WITH
PROPOSALS for their REMEDY.
ALSO
The great Advantages which would accrue to this
Kingdom from an Union with IRELAND.

BY
MALACHY POSTLETHWAYT, Esq;
AUTHOR of the
UNIVERSAL DICTIONARY of TRADE and COMMERCE, &c.

IN TWO VOLUMES.

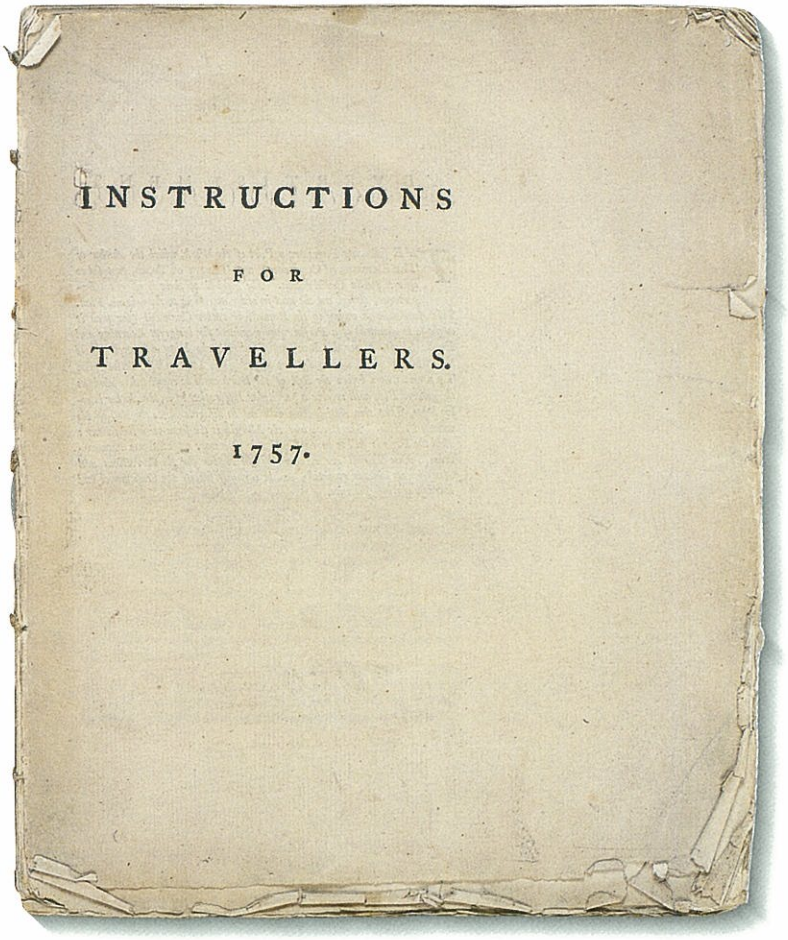
LONDON:
Printed for D. BROWNE, without Temple-Bar; A. MILLAR,
in the Strand; J. WHISTON and B. WHITE, and
W. SANDBY, in Fleet-street. MDCCLVII.

Postlethwayt, Malachy,1707-1767
Britain's commercial interest explained and improved; in a series of dissertations on several important branches of her trade and police: ...
London : D. Browne; A. Millar and Others　1757　2 vols. ; 20cm
GK 9209

ポッスルスウェイトは、イギリスの経済学者で、政治評論家でもあった。

本書は、ヨーロッパ各国の商業事情や貿易促進について書かれたもので、特にフランスに対抗するための国家による貿易・産業促進策や奴隷貿易、アフリカ貿易についても、狡猾な重商主義的・国家主義者的観点から力説されている。

51. タッカー（1712～1799）
「旅行者への指針」私家版　1757年　ロンドン刊



INSTRUCTIONS

FOR

TRAVELLERS.

1757.

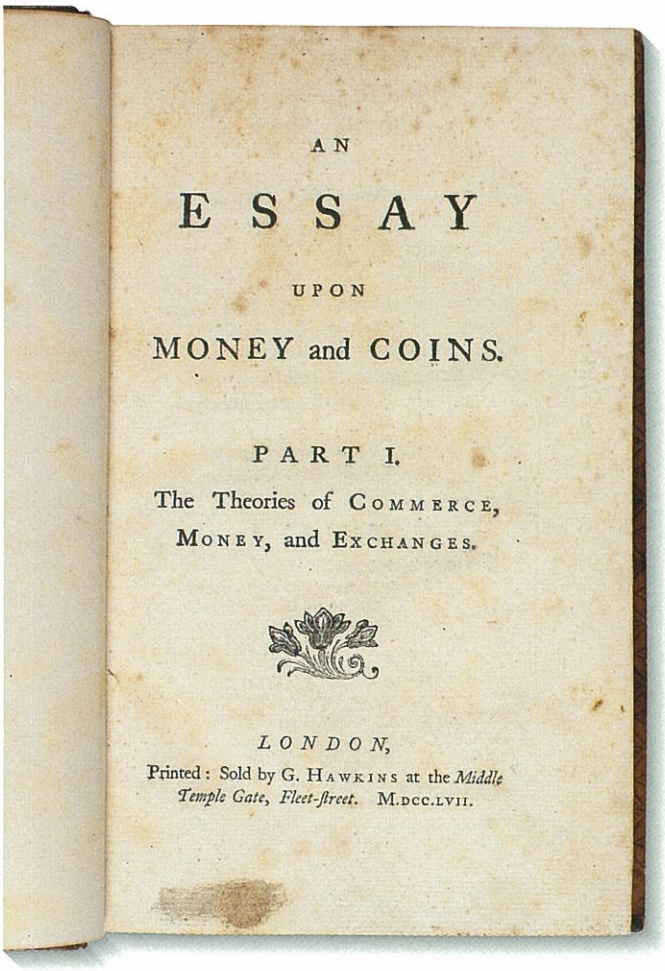
Tucker, Josiah, 1712-1799
Instructions for travellers.
[London] : [s.n.], 1757 March 24 63,[1]p. ; 30cm
GK 9213

タッカーはイギリスの聖職者で経済学者。彼は国教会の牧師として初めブリストルに住み、のちグロスターの副監督となり多くの経済論説を書いた。本書は、1755年にブリストルで書かれたタッカーの代表的著作であるが、「商業提要」の続稿の一部として前書と同じく私家版としてロンドンで刊行されたものである。

本書において、タッカーは名誉革命以降のイギリス重商主義の中で、毛織物工業に次ぐ重要な位置を占めていたミッドランドの金属諸工業について分析し、工場において精密道具が近代的な機械にまで進歩して、それが広汎に実用化されている産業革命開始期の実態とその経済的意義を的確に捉え、また近代化による熟練労働者の排除や生産過程での利潤の成立などについて言及している。

タッカーは、自由貿易論の信奉者で、あらゆる人為的独占、特権、生産に対する政治的制限に反対しており、アダム・スミスの「国富論」の先駆とされる。

52. ハリス（1702～1764）
「貨幣および鋳貨論」初版　1757-1758年　ロンドン刊



AN

ESSAY

UPON

MONEY and COINS.

PART I.

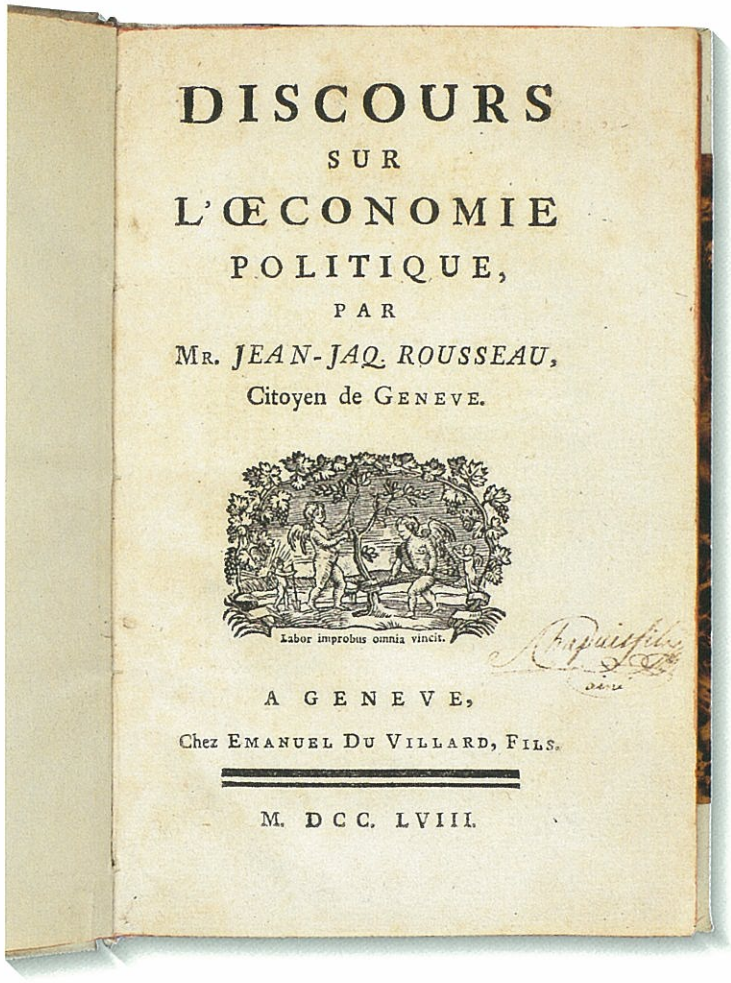
The Theories of COMMERCE,
MONEY, and EXCHANGES.

LONDON,
Printed: Sold by G. HAWKINS at the *Middle Temple Gate, Fleet-street.* M.DCC.LVII.

[Harris, Joseph] 1702-1764
An essay upon money and coins.
London : G. Hawkins,　1757　viii,130p. ; 21cm
GK 9259

ハリスはイギリスの経済思想家で鋳弊所の役人。アダム・スミスの直接の先駆者の一人で、カンティヨンの影響下に富、価値、労賃、分業、貿易などを論じ、スミスが「国富論」執筆に際し参考にしたであろうと思われる学説を展開している。本書は、貨幣論を中心とする、富、価値、分業、貿易論に関する第1部と、第2部「いかなる口実にせよ、貨幣の現行の水準をおかしたり変更したりすべきではないという論証」（いわゆる貨幣の改悪防止論）とからなる。基礎的な経済理論が簡潔に述べられているとともに、高度な貨幣・貿易論が展開されている。貨幣数量説の立場から貿易差額説を批判し、アダム・スミスの「国富論」に影響を与えたといわれており、スミス以前の経済学史上の重要な文献のひとつとなっている。しかし、その貿易差額説批判は不十分であり、国内市場論もまだ未成熟であった。

53. ルソー（1712～1778）
「政治経済学」初版　1758年　パリ刊



DISCOURS
SUR
L'ŒCONOMIE
POLITIQUE,
PAR
MR. JEAN-JAQ. ROUSSEAU,
Citoyen de GENEVE.

Labor improbus omnia vincit.

A GENEVE,
Chez EMANUEL DU VILLARD, FILS.

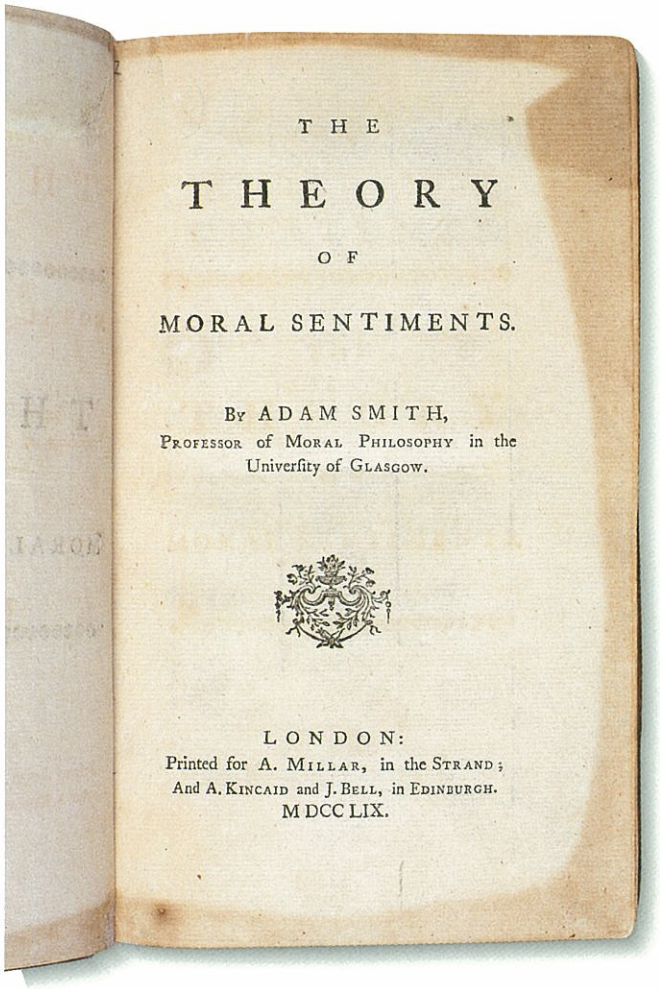
M. DCC. LVIII.

Rousseau, Jean Jacques, 1712-1778
Discours sur l'œconomie politique.
Geneve [i.e.Paris] : Emanuel du Villard,　1758　iv,75p. ; 19cm
GK 9320

ルソーは、教会を痛烈に批判した「学問芸術論（Discours sur les sciences et les arts:1750）」の成功で一躍フランス思想界に名を成し、その後は自己を社会と対決させる時期を迎えた。本書は最初、ディドロ、ダランベール監修により1755年に刊行された「百科全書」の一項目として書かれたもので、1758年になって単行本の形で出版された。この中でルソーは「一般意思」に従う人民のための国家のあり方を追及している。

タイトルページには、出版地がジュネーブとあるが、おそらくパリで刊行されたものである。

54. A.スミス（1723～1790）
「道徳感情論」初版　1759年　ロンドン刊



THE

THEORY

OF

MORAL SENTIMENTS.

By ADAM SMITH,
Professor of Moral Philosophy in the
University of Glasgow.

LONDON:
Printed for A. Millar, in the Strand;
And A. Kincaid and J. Bell, in Edinburgh.
MDCCLIX.

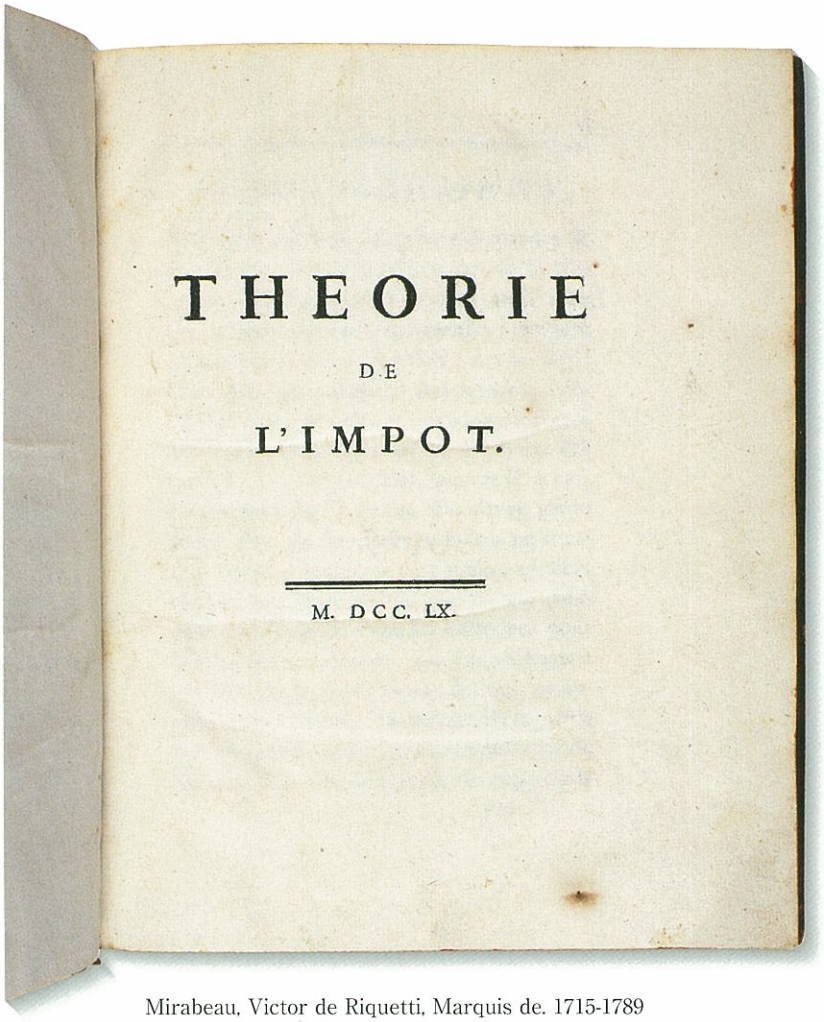
Smith, Adam, 1723-1790
The theory of moral sentiments.
London : A. Millar and others,　1759　[12],1-316,[1],338-551,[1]p. ; 21cm
GK 9537

アダム・スミスは、1723年にスコットランドのカーコディに生まれた。グラスゴー大学で学園生活を送った後、オックスフォード大学に留学し、帰郷後しばらくして母校グラスゴー大学の道徳哲学の教授に就任した。

本書は、「諸国民の富」とともに彼の二大著作のひとつである。スミスが社会哲学に関する思索の成果として出版したものであり、狭義の倫理学、政治学及び法学、経済学など人間の社会的行為の全体系を基礎づける社会哲学原理を説いている。彼は、人間行為の徳性はどこに成り立つか、この徳性をつかみとる人間の心的能力は何かという2つの問題を柱に論述し、人間の様々な行為について具体的に考察しており、道徳と法と経済の関連をも示している。

本書を刊行後、スミスは残りの一生のほとんどを本書と「諸国民の富」の改訂に費やした。「道徳感情論」は、初版刊行後1761年に第2版を出し、スミスが亡くなる1790年には第6版が刊行されている。

55. ミラボー（1715～1789）
「租税の理論」初版　1760年　パリ刊



THEORIE

DE

L'IMPOT.

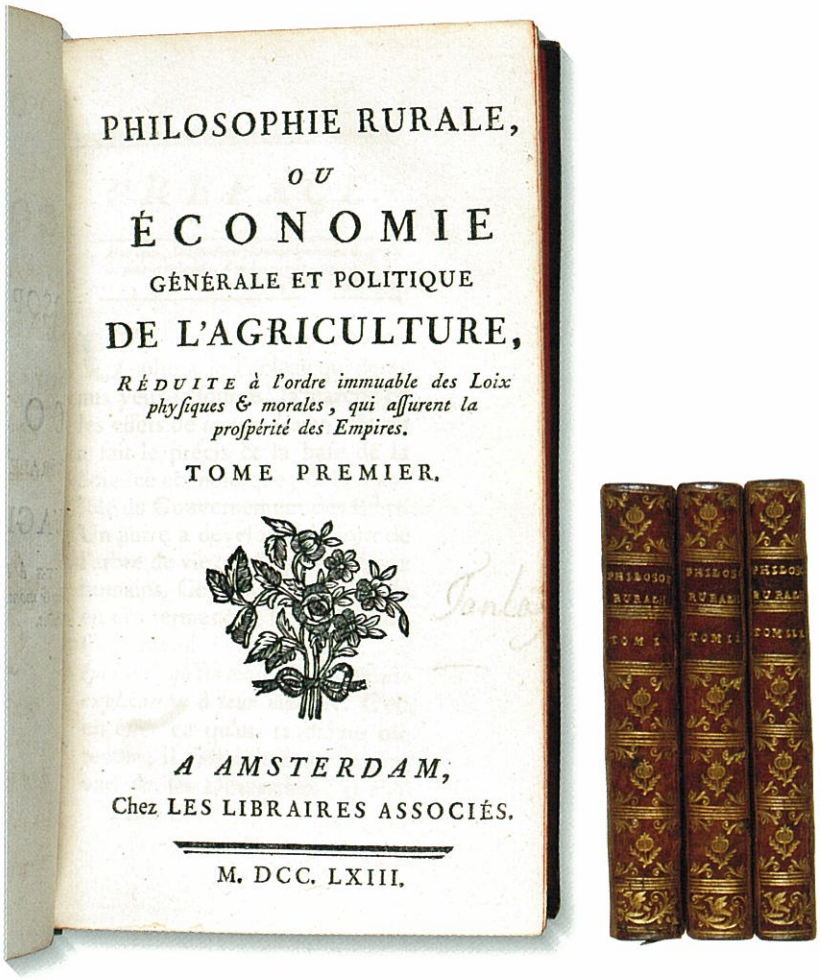
M. DCC. LX.

Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de. 1715-1789
Theorie de l'impot.
[Paris] : [s.n.], 1760　Viii,336p. ; 25cm
GK 9602

本書は、ミラボー侯の主著のひとつ。9編の対話と経済表の説明とからなっていて、国家財政及び行政方針に対して勇敢な攻撃を試みたもので、金融業者と徴税請負人とに対する憎しみとののしりの言葉に満ちていた。そのため本書の刊行後非常な人気を博したにもかかわらずミラボーは告発され、幽閉されてしまった。

本書は、多くの貴重な議論を含んでおり、財政理論史の上で重要な文献のひとつである。

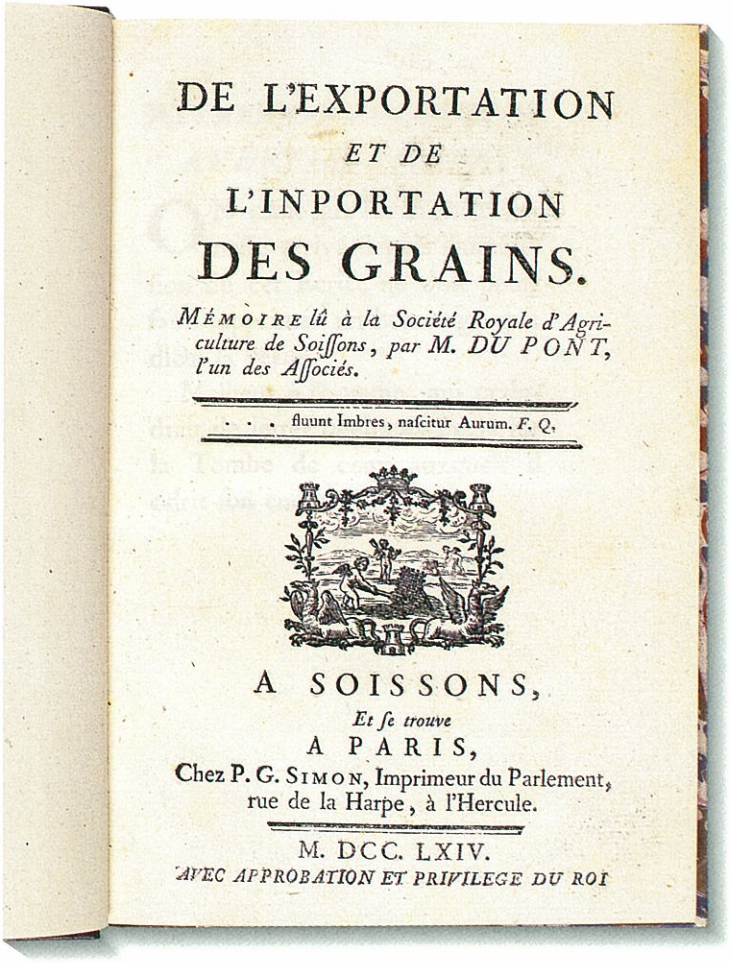
56. ミラボー（1715〜1789）
「農業哲学」初版　3巻　1763年　アムステルダム刊


PHILOSOPHIE RURALE,
OU
ÉCONOMIE
GÉNÉRALE ET POLITIQUE
DE L'AGRICULTURE,
RÉDUITE à l'ordre immuable des Loix physiques & morales, qui assurent la prospérité des Empires.
TOME PREMIER.
A AMSTERDAM,
Chez LES LIBRAIRES ASSOCIÉS.
M. DCC. LXIII.

Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de. 1715-1789
Philosophie rurale ou Économie générale et politique de l'agriculture, Réduite à l'ordreimmuable des Loix physiques & morales, qui assurent la prospérité des empires.
Amsterdam : Les Libraires Associes, 1763 3 vols. ; 17cm
GK 9836

ミラボーは、初めカンティヨンの影響を受け重商主義の立場から人口増殖主義を主張し、大農経営よりも小農経営を推奨していたが、ケネーとの会見によってその説を完全に論破され、本書によって完全に重農主義への“改宗”を示した。

57. デュポン・ド・ヌムール（1739～1817）
「穀物の輸出入について」初版　1764年　パリ刊



DE L'EXPORTATION
ET DE
L'INPORTATION
DES GRAINS.

MÉMOIRE lû à la Société Royale d'Agriculture de Soissons, par M. DU PONT, l'un des Associés.

. . . fluunt Imbres, nascitur Aurum. *F. Q.*

A SOISSONS,
Et se trouve
A PARIS,
Chez P. G. SIMON, Imprimeur du Parlement, rue de la Harpe, à l'Hercule.

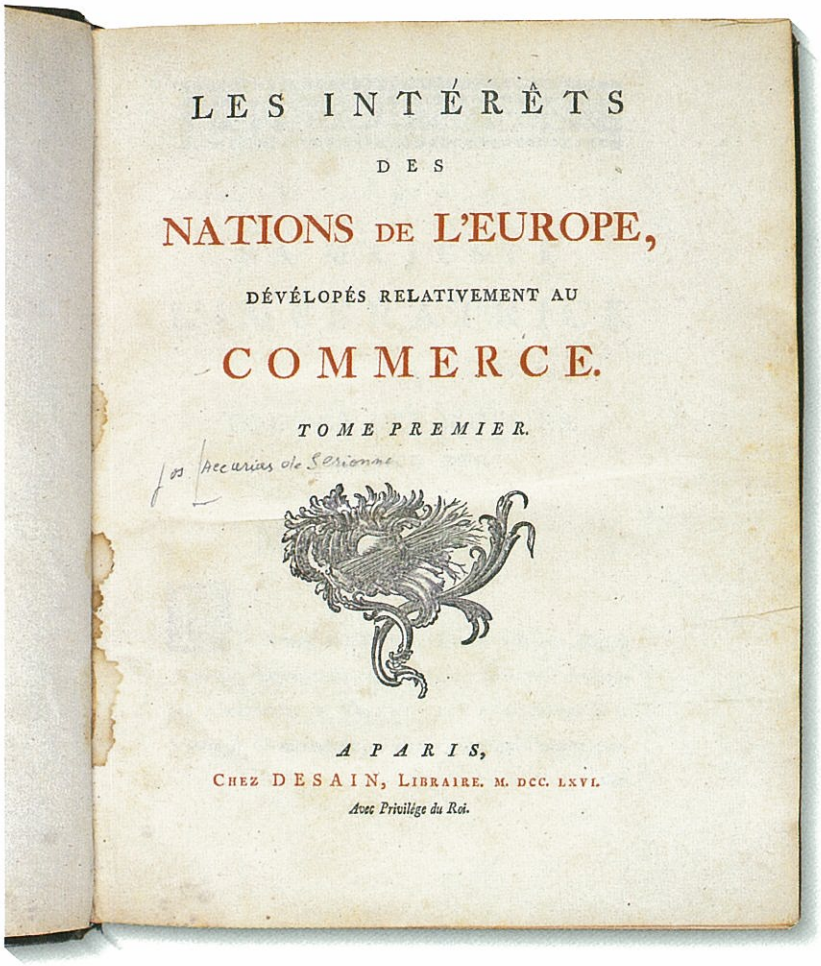
M. DCC. LXIV.
AVEC APPROBATION ET PRIVILEGE DU ROI

Du Pont de Nemours, Pierre Samuel.　1739-1817
De l'exportation et de l'inportation des grains. Mèmoire lû à la Sociètè Royale d'Agriculture de soissons, par M. Du Pont, l'un des associès.
Paris : P. G. Simon,　1764　viii,174,[2]p. ; 18cm
GK 9977

デュポン・ド・ヌムールは、フランスの経済学者で、重農学派の有力な一人。ケネーを師として経済学を修めた。重農学派の雑誌（Journal de l' Agliculture や Ephèmèrides de Citroyen）の主筆を務め、テュルゴーが大臣に就任すると経済顧問としてテュルゴーを補佐した。アメリカ独立のための対イギリス交渉に尽力し、独立後外交官としてアメリカに駐在し、イギリスとの通商条約の締結にも貢献をした。フランス革命に際しては、国民議会の一員として活躍したが、革命の激化とともにアメリカに亡命した。

本書は、デュポン・ド・ヌムールが24歳の時に執筆した初期の著作で、穀物貿易の自由を唱えたものであり、ケネーやミラボーの教えを忠実に展開している。

58. アカリア・デ・セリョーネ（1706～1792）
「商業によるヨーロッパの国益」仏訳初版　2巻　1766年　パリ刊

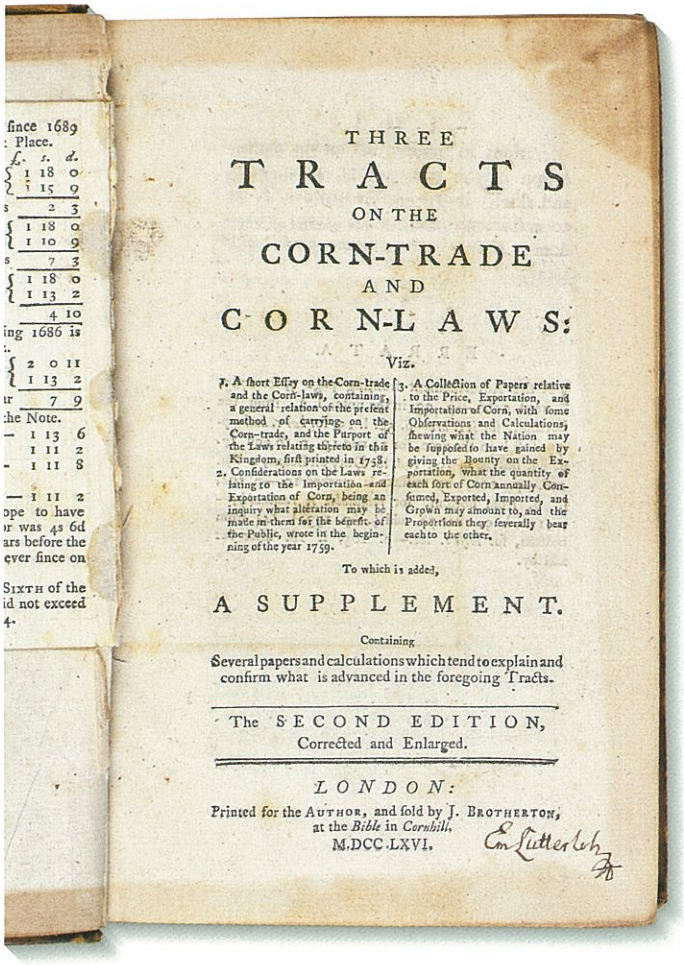


LES INTÉRÊTS
DES
NATIONS DE L'EUROPE,
DÉVÉLOPÉS RELATIVEMENT AU
COMMERCE.
TOME PREMIER.
A PARIS,
CHEZ DESAIN, LIBRAIRE. M. DCC. LXVI.
Avec Privilége du Roi.

[Accarias de Sarionne, Jacques,] 1706-1792
Les intérêts des nations de l'Europe, dévèlopés relativement au commerce.
Paris : Desain,　1766　2 vols. ; 26cm

18世紀におけるヨーロッパ諸国の財政事情、銀行、金銀等貴金属、東インド会社、商法、交易商品、航海貿易を含む商業活動一般について著述された一書。本書は、同年に出版されたライデン版と同一の奥書で出版されたパリ版である。

59. C.スミス（1713～1777）
「穀物貿易と穀物法 」第2版　1766年　ロンドン刊



THREE
TRACTS
ON THE
CORN-TRADE
AND
CORN-LAWS:
Viz.

1. A short Essay on the Corn-trade and the Corn-laws, containing, a general relation of the present method of carrying on the Corn-trade, and the Purport of the Laws relating thereto in this Kingdom, first printed in 1758.
2. Considerations on the Laws relating to the Importation and Exportation of Corn, being an inquiry what alteration may be made in them for the benefit of the Public, wrote in the beginning of the year 1759.
3. A Collection of Papers relative to the Price, Exportation, and Importation of Corn, with some Observations and Calculations, shewing what the Nation may be supposed to have gained by giving the Bounty on the Exportation, what the quantity of each sort of Corn annually Consumed, Exported, Imported, and Grown may amount to, and the Proportions they severally bear each to the other.

To which is added,

A SUPPLEMENT.

Containing
Several papers and calculations which tend to explain and confirm what is advanced in the foregoing Tracts.

The SECOND EDITION,
Corrected and Enlarged.

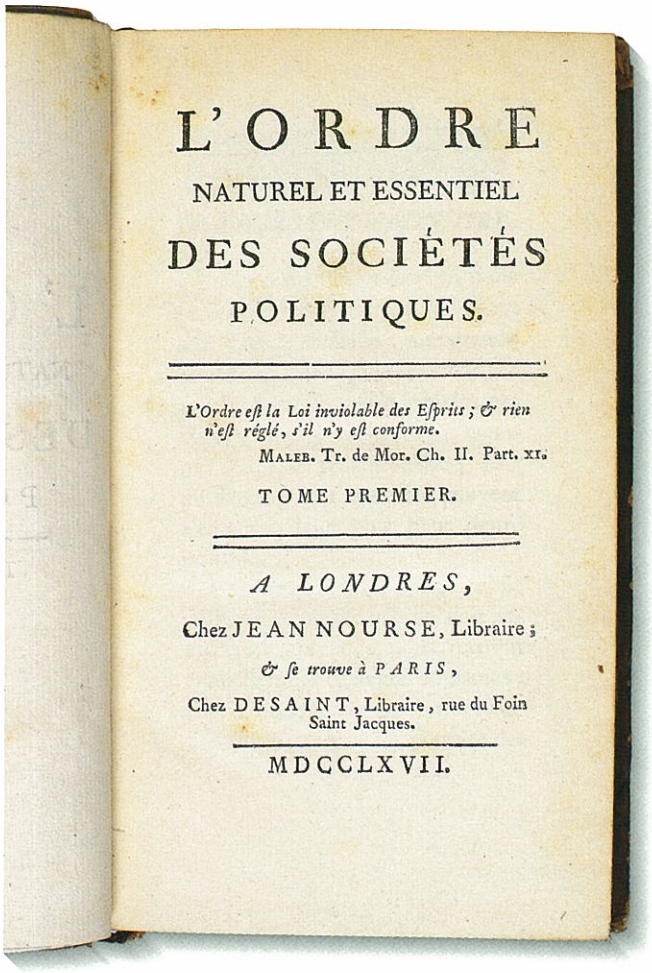
LONDON:
Printed for the AUTHOR, and sold by J. BROTHERTON,
at the *Bible* in *Cornhill*.
M.DCC.LXVI.

[Smith, Charles] 1713-1777
Three tracts on the corn-trade and corn-laws: ... to which is added, a supplement. Containing several papers and calculations which tend to explain and confirm what is advanced in the foregoing tracts. Second edition.
London : J. Brotherton, 1766 iv,235,[1],iv,59,[2],34p. ; 20cm
GK 10183

本書は、製粉工場の経営者であったスミスが1758年から1759年にかけて出版した穀物貿易及び穀物法に関する三つの論文をひとつにまとめて出版したもの。本書に収録されている論文は、いずれも初期の穀物貿易に関する著作として高く評価され、アダム・スミスによって「国富論」の中でも賞賛されている。

初版は、1766年に刊行されており、本書は、同じ年に出版された第2版である。

60. ル・メルシェ・ド・ラ・リヴィエール（1720～1794）
「政治社会の自然的本質的秩序」初版　2巻　1767年　パリ刊



L'ORDRE
NATUREL ET ESSENTIEL
DES SOCIÉTÉS
POLITIQUES.

L'Ordre eſt la Loi inviolable des Eſprits ; & rien n'eſt réglé, s'il n'y eſt conforme.
MALEB. Tr. de Mor. Ch. II. Part. XI.

TOME PREMIER.

A LONDRES,
Chez JEAN NOURSE, Libraire ;
& ſe trouve à PARIS,
Chez DESAINT, Libraire, rue du Foin Saint Jacques.

MDCCLXVII.

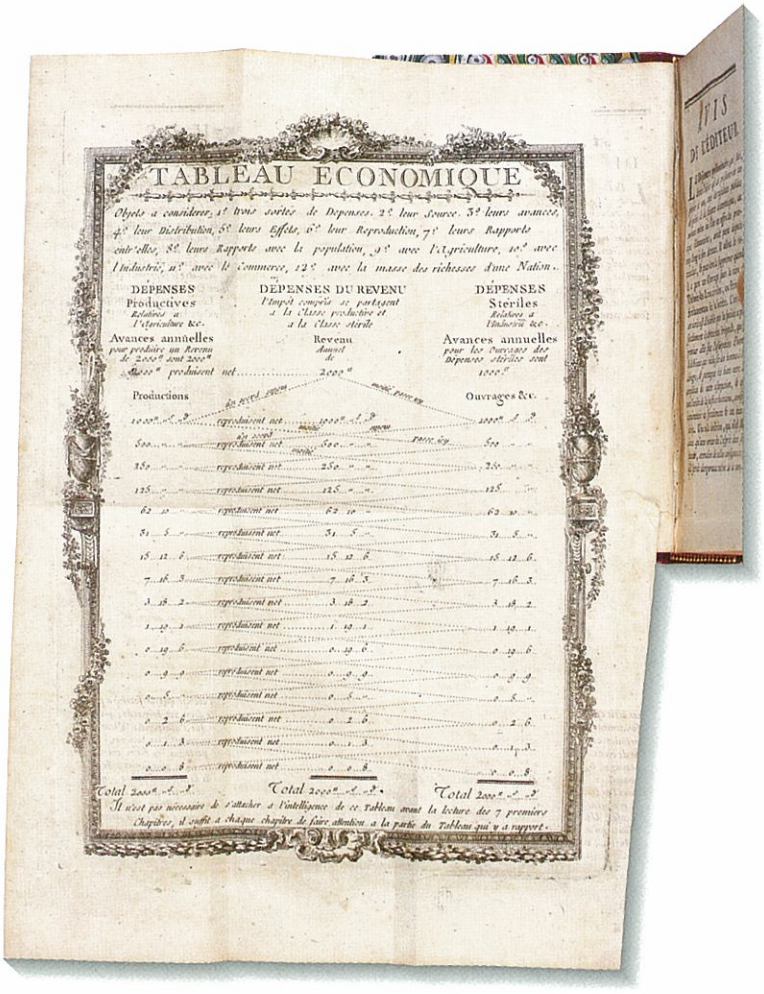
Le Mercier de la Riviere, Pierre-Paul,1720-1794
L'ordre naturel et essentiel des sociètés politiques. ...
London [i.e. Paris] : Jean Nourse, Desaint,　1767　2 vols. ; 17cm
GK 10270

ル・メルシェ・ド・ラ・リヴィエールは、フランスの重農主義経済学者。彼は本書において、まず“自然的秩序”の原理を詳しく説明し、この原則から財産権、自由、政治論、さらに純生産論、租税論、農業の生産性、内外貿易の自由にいたるまで、フィジオクラートの学説の全領域にわたって論じている。デュポン・ド・ヌムールの「新科学の起源と進歩」は本書を巧みに要約したものとされている。また、アダム・スミスは、主著「国富論」においてこの派の学説を最も明瞭に体系づけた著作として推賞し、ヴォルテールが匿名で風刺小説「40エキュを持てる人間」を著したこともよく知られている。

ケネー以後、重農主義の政治論を最も詳細に展開したリヴィエールは、本書において社会の自然的秩序の諸法則に従う専制政体として＜資本主義的改革を実施する絶対王政＞をあげ、これを「合法的専制政体」としてとらえた。

タイトルページには、出版地がロンドンと書かれているが、パリで刊行したと思われる。

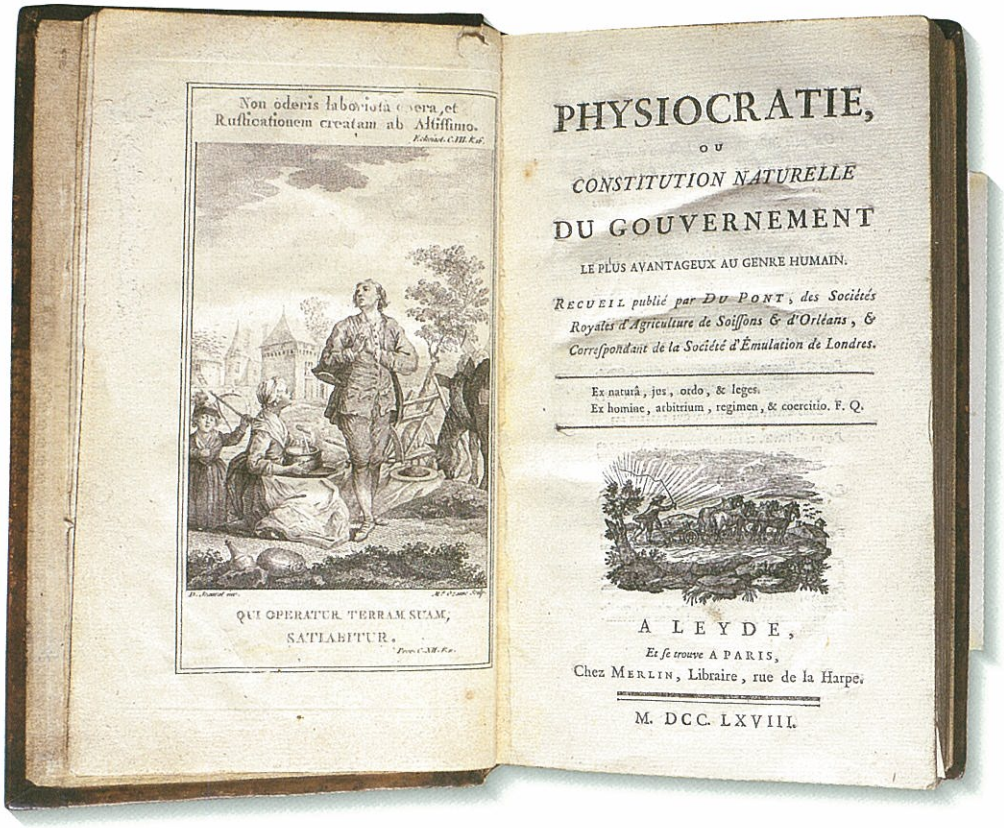
61. ミラボー（1715～1789）
「農業哲学要綱」初版　1767年　ハーグ刊



[Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de.], 1715-1789
Elemens de la philosophie rurale.
Hague : Les Libraires Associes,　1767　cvi,339,[2]p. ; 17cm
GK 10275

ミラボーは、初めカンティヨンの影響を受け重商主義の立場から人口増殖主義を主張し、大農経営よりも小農経営を推奨していたが、ケネーとの会見によってその説を完全に論破され、「農業哲学」（1763年）によって完全に重農主義への“改宗”を示した。本書は、その「農業哲学」の要約版で、巻頭に「経済表」が収録されている。

62. ケネー（1694～1774）
「フィジオクラシー」初版　1767年　ライデン刊

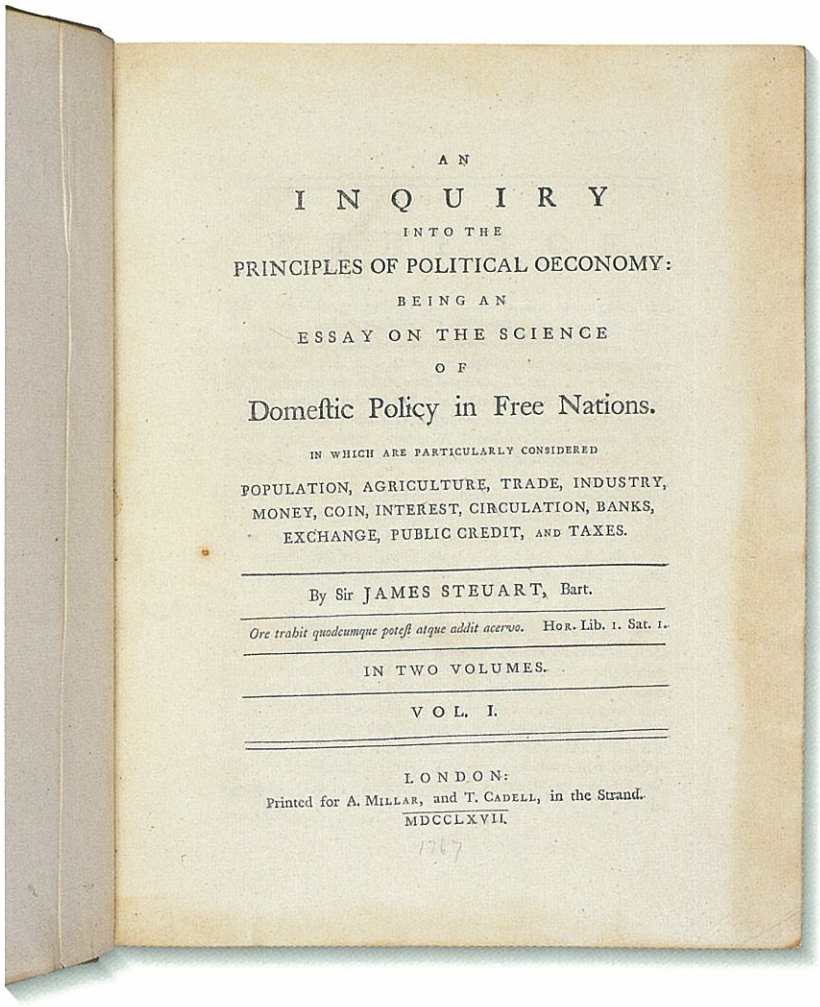


Quesnay, Francois, 1694-1774
Physiocratie, ou constitution naturelle du gouvernement le plus avantageux au genre humain.
Leyden : Merlin,　1768[i.e.1767]　[2],cxxx,520p. ; 20cm
GK 10391

ケネーは、農民の立場に関心を持ち、当時のフランス社会で、農民の租税公課負担が過重になっていることや、重商主義の強行により労賃の低下を目的として穀物の輸出禁止を行い、その結果農産物価格の下落を招来するような措置などに対して強く反対し、フランス農業再建のために、税制の改革と穀物輸出自由の必要性を説いた。

本書は、彼の弟子デュポン・ド・ヌムールがケネーの主要論文を編纂して刊行したもので、ケネーの「自然権論」（1765年）について解説したデュポンの101頁にわたる長文の序文がついている。ケネーの学説にフィジオクラシーという名称が与えられるようになったのはこの書名によってであるといわれている。タイトル頁には1768年の刊年が印刷されているが、本書は1767年11月に公刊されており、この刊記は誤って印刷されたものである。

63. スチュアート（1712～1780）
「経済学原理」初版　2巻　1767年　ロンドン刊



AN
INQUIRY
INTO THE
PRINCIPLES OF POLITICAL OECONOMY:
BEING AN
ESSAY ON THE SCIENCE
OF
Domeſtic Policy in Free Nations.
IN WHICH ARE PARTICULARLY CONSIDERED
POPULATION, AGRICULTURE, TRADE, INDUSTRY,
MONEY, COIN, INTEREST, CIRCULATION, BANKS,
EXCHANGE, PUBLIC CREDIT, AND TAXES.

By Sir JAMES STEUART, Bart.

Ore trahit quodcumque poteſt atque addit acervo. HOR. Lib. I. Sat. I.

IN TWO VOLUMES.

VOL. I.

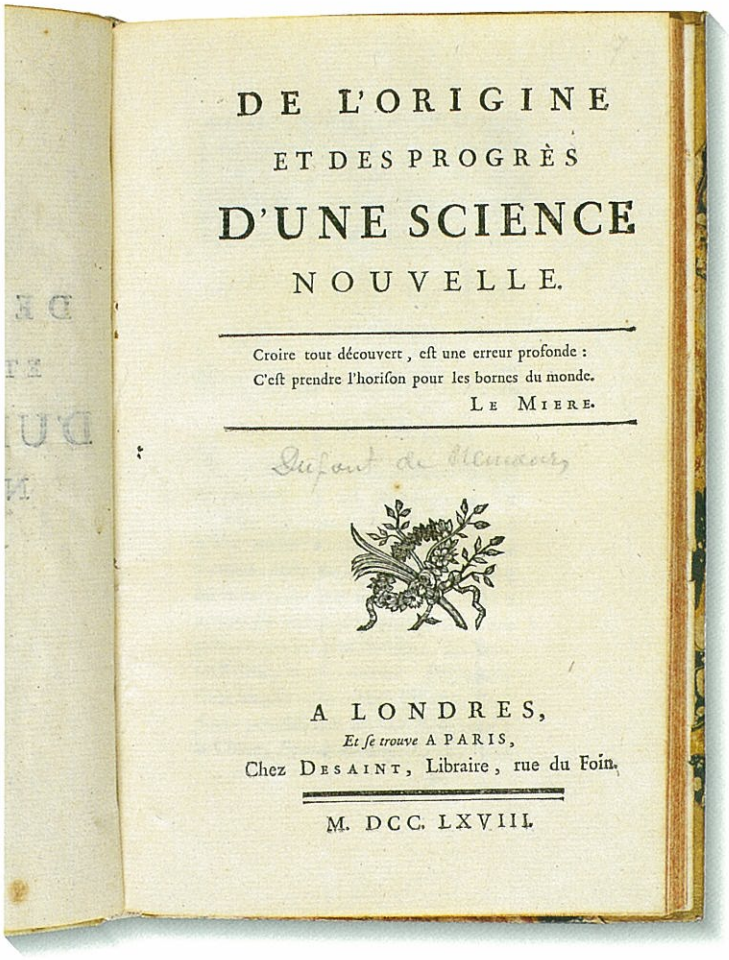
LONDON:
Printed for A. MILLAR, and T. CADELL, in the Strand.
MDCCLXVII.

1767

Steuart, James Denham, Sir. 1712-1780
An inquiry into the principles of political oeconomy: being an essay on the science of domestic policy in free nations. In which are particularly considered population, agriculture, trade, in dustry, money, ...
London : A. Millar, and T. Cadell,　1767　2 vols., tables ; 30cm
GK 10276

スチュアートはスコットランドの貴族で、青年期にヨーロッパ諸国を歴遊したが、1745年にジャコバイトの反乱に加わって大陸に追放され、1763年に故国に帰るまでフランス、ドイツ、イタリアなどの諸国を歩いた。この間に経済学の研究を始めて本書の執筆にとりかかり、1757年に第1編を南ドイツのチュービンゲンで書き始め、1760年に第3編を仕上げ、帰国後に残りの2編を完成し出版した。スチュアートは、本書において資本の本源的蓄積過程の理論化に成功したが、反面農業革命に支えられた産業革命の急進展に対する認識を欠き、資本の把握を欠いたため資本制的蓄積の理論となり得なかった。

64. デュポン・ド・ヌムール（1739～1817）
「新科学の起源と発展」初版　1768年　パリ刊



DE L'ORIGINE
ET DES PROGRÈS
D'UNE SCIENCE
NOUVELLE.

Croire tout découvert, eſt une erreur profonde :
C'eſt prendre l'horiſon pour les bornes du monde.
LE MIERE.

A LONDRES,
Et ſe trouve A PARIS,
Chez DESAINT, Libraire, rue du Foin.

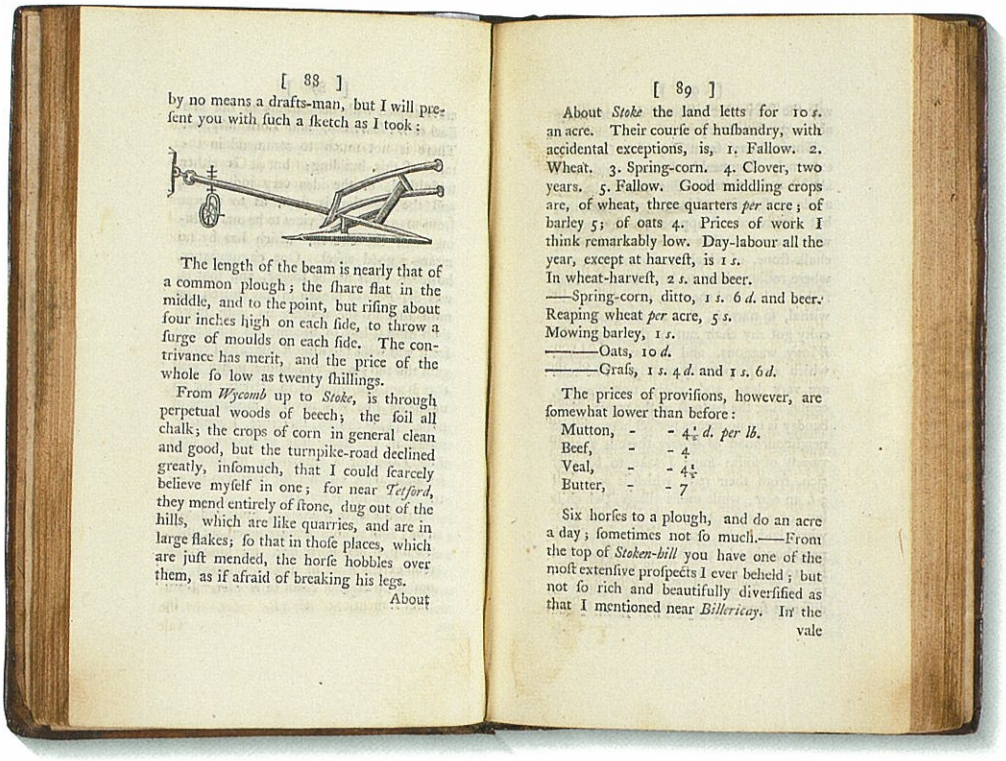
M. DCC. LXVIII.

[Dupon de Nemours, Pierre Samuel] 1739-1817
De l'Origine et des Progrès d'une Science Nouvelle.
London[i.e.Paris] : Desaint, 1768 [4],84,[2]p. ; 18cm
GK 10390

ケネーの学説体系を最初に“フィジオクラシー”という言葉で表現し、重農学派の理論の普及に大きく寄与したデュポン・ド・ヌムールの主著。重農学派生成史の略述とメルシェ・ド・ラ・リヴィエールの「政治社会の自然的本質的秩序」（1767年）の要約の2部から構成される小冊子で、理論的な内容よりも重農学派の簡単な解説書として、ボードー神父の「経済哲学序論」（1771年）と並び経済学史上の双璧をなしている。

タイトルページには、出版地をロンドンと記されているがパリで刊行されたものである。

65. ヤング（1741～1820）
「イングランド、ウェールズの南部諸州をめぐる6周間の旅」初版　1768年　ロンドン刊



[88]

by no means a drafts-man, but I will present you with ſuch a ſketch as I took:

The length of the beam is nearly that of a common plough; the ſhare flat in the middle, and to the point, but riſing about four inches high on each ſide, to throw a ſurge of moulds on each ſide. The contrivance has merit, and the price of the whole ſo low as twenty ſhillings.

From *Wycomb* up to *Stoke*, is through perpetual woods of beech; the ſoil all chalk; the crops of corn in general clean and good, but the turnpike-road declined greatly, inſomuch, that I could ſcarcely believe myſelf in one; for near *Teſford*, they mend entirely of ſtone, dug out of the hills, which are like quarries, and are in large flakes; ſo that in thoſe places, which are juſt mended, the horſe hobbles over them, as if afraid of breaking his legs.

About

[89]

About *Stoke* the land letts for 10 *s.* an acre. Their courſe of huſbandry, with accidental exceptions, is, 1. Fallow. 2. Wheat. 3. Spring-corn. 4. Clover, two years. 5. Fallow. Good middling crops are, of wheat, three quarters *per* acre; of barley 5; of oats 4. Prices of work I think remarkably low. Day-labour all the year, except at harveſt, is 1 *s.*
In wheat-harveſt, 2 *s.* and beer.
——Spring-corn, ditto, 1 *s.* 6 *d.* and beer.
Reaping wheat *per* acre, 5 *s.*
Mowing barley, 1 *s.*
———Oats, 10 *d.*
———Graſs, 1 *s.* 4 *d.* and 1 *s.* 6 *d.*

The prices of proviſions, however, are ſomewhat lower than before:

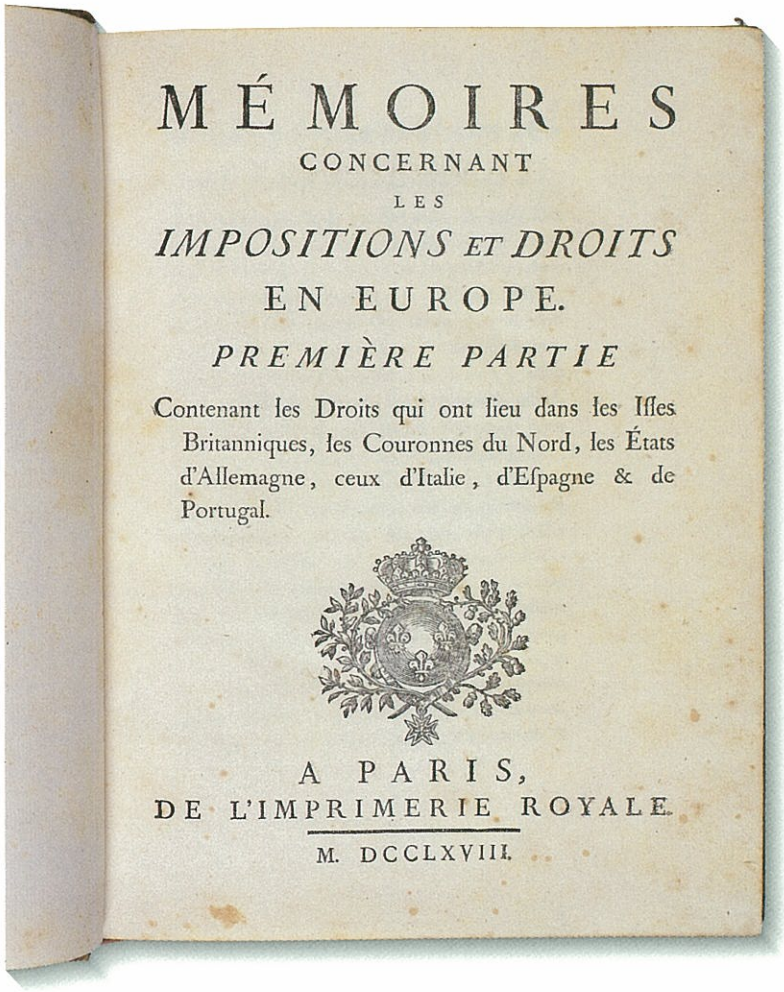
Mutton,	-	- $4\frac{1}{2}$ *d. per lb.*
Beef,	-	- 4
Veal,	-	- $4\frac{1}{2}$
Butter,	-	- 7

Six horſes to a plough, and do an acre a day; ſometimes not ſo much.——From the top of *Stoken-hill* you have one of the moſt extenſive proſpects I ever beheld; but not ſo rich and beautifully diverſified as that I mentioned near *Billericay*. In the vale

Young, Arthur, 1741-1820
A Six weeks tour, through the Southern Counties of England and Wales.
London : W. Nicoll,　1768　[4].284p. ; 21cm
PMM 214　GK 10407

ヤングは、イギリスの経済学者、農学者。商人修行から出発したが、すぐに文筆に親しみ10代に4つの小説を刊行、1761年自費で発刊した雑誌が失敗すると、母の財産である農場の経営にたずさわり、「イギリス人にあてた農業者の手紙;Farmer's letters to people of England」（1767）で農学者としてのスタートを切った。
各地の農場経営を比較検討するための彼の最初の見聞記で、ノーフォーク農法の実際と原理を初めて世に紹介した。

66. モロー・ド・ボーモン（1715～1785）
「ヨーロッパにおける課税に関する覚書」初版　4巻　1768-1769年　パリ刊



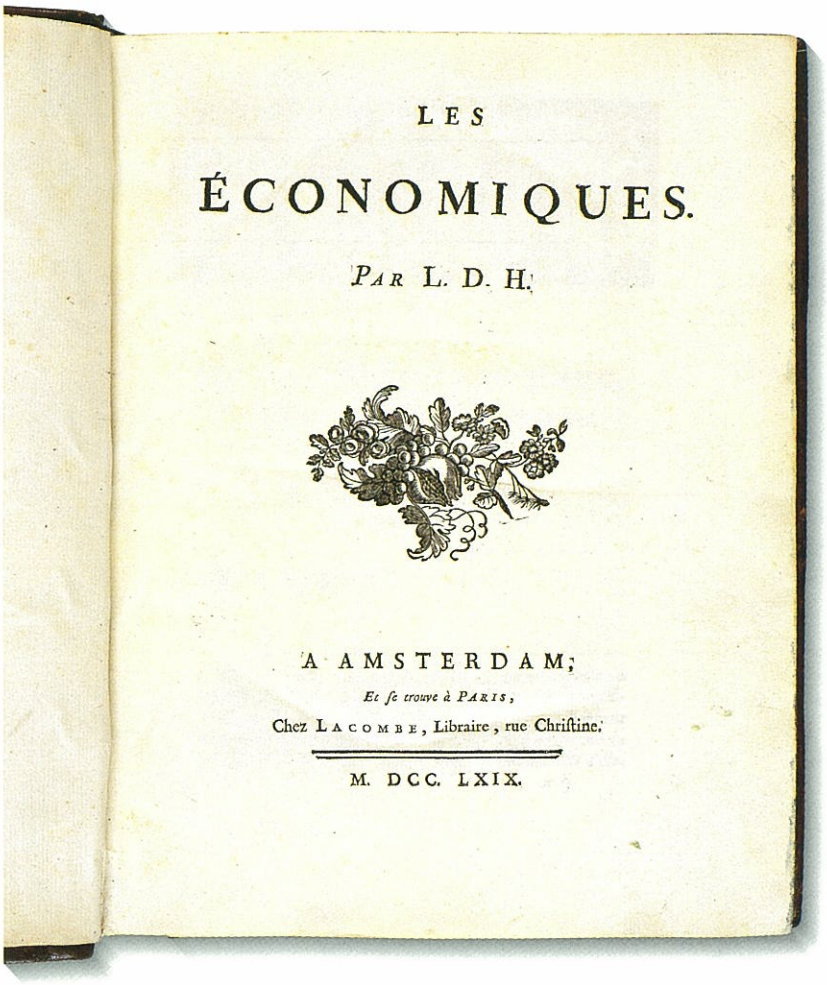
MÉMOIRES
CONCERNANT
LES
IMPOSITIONS ET DROITS
EN EUROPE.
PREMIÈRE PARTIE
Contenant les Droits qui ont lieu dans les Iſles Britanniques, les Couronnes du Nord, les États d'Allemagne, ceux d'Italie, d'Eſpagne & de Portugal.

A PARIS,
DE L'IMPRIMERIE ROYALE.
M. DCCLXVIII.

[Moreau de Beaumont, Jean Louis.] 1715-1785
Mémoires concernant les Impositions et Droits en Euorpe.
Paris : de L'Imprimerie Royale,　1768-69　4 vols. ; 26cm
GK 10467　Adam Smith 旧蔵書

モロー・ド・ボーモンは、パリ高等法院の参事官で、財政監督官。本書は、宮廷の命令によってフランスの適切な財政改革の諸方策を考察する目的で、委員会で使用するためだけに編集されたもので、18世紀フランスの租税に関する重要な記述が含まれている。第1巻「ヨーロッパにおける課税に関する覚書」第2～4巻「フランスにおける課税に関する覚書」の全4巻で構成され、非公刊物として約100部ほどが印刷された。アダム・スミスは「国富論」の収入論の多くを本書に依拠したと推察され、事実本文中で典拠資料を明らかにしなかったスミスには珍しく、第5編第2章第2節において本書を実名で示している。

67. ミラボー（1715～1789）
「経済学」初版　1769年　パリ刊



LES

ÉCONOMIQUES.

PAR L. D. H.

A AMSTERDAM;

Et se trouve à PARIS,

Chez LACOMBE, Libraire, rue Christine.

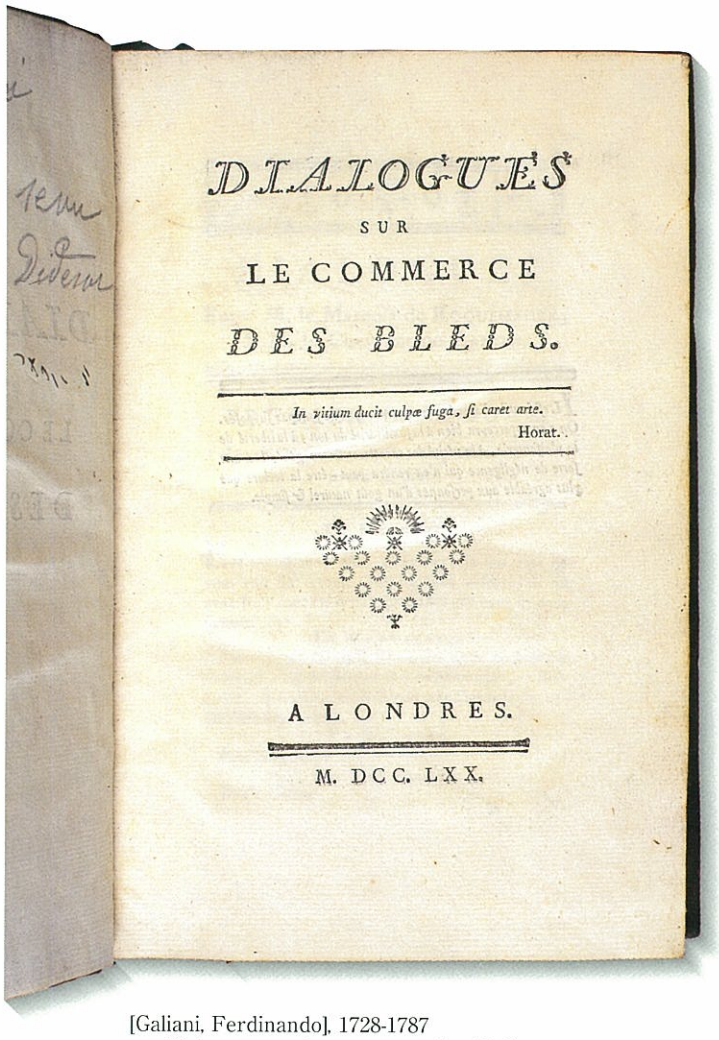
M. DCC. LXIX.

Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de. 1715-1789
Les Économiques.
Amsterdam[i.e.Paris] : Lacombe,　1769　xii,396p. ; 25cm
GK 10516.9

本書は、ミラボーが出版した重農主義経済学の貴重で希少な著作のひとつ。1769年にパリで刊行されたこの第1巻だけが知られ、第2巻はこれまで書誌学者たちの目に触れることがなかったために、刊行されなかったと思われてきたが、近年になってパリで1771年に刊行されていることが判明した。

著者表記のL.D.H.は、ミラボーの主著『人間の友（L'ami Des Hummes）』の書名の頭文字で、その著作の評判とともにL.D.H.は、ミラボーの異名となった。

68. ガリアニ（1728～1787）
「小麦取引に関する対話」初版　1770年　ロンドン刊



DIALOGUES
SUR
LE COMMERCE
DES BLEDS.

In vitium ducit culpæ fuga, si caret arte.
Horat.

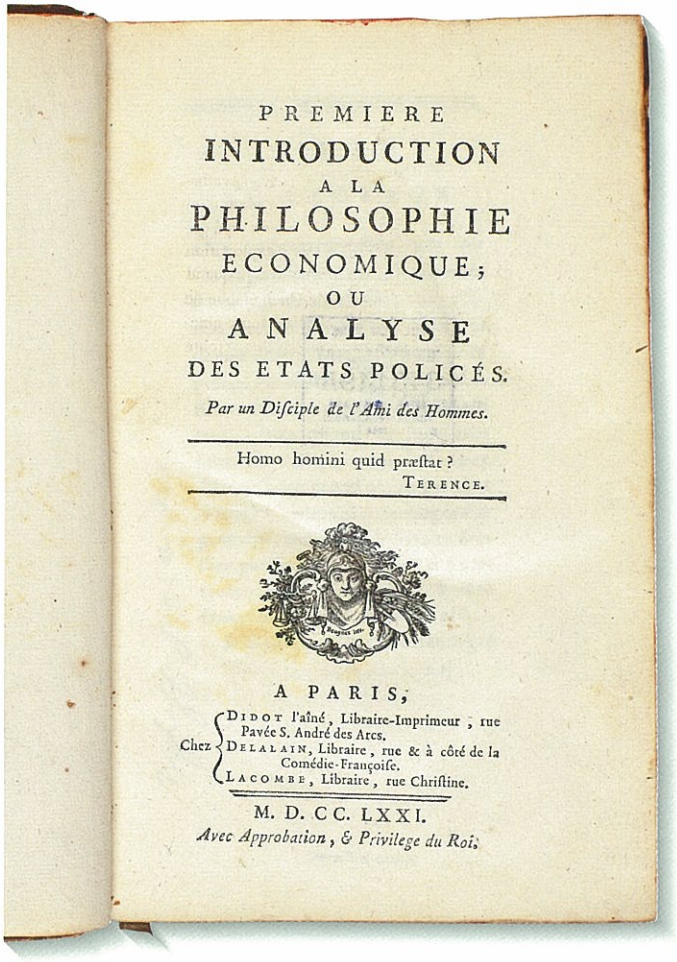
A LONDRES.

M. DCC. LXX.

[Galiani, Ferdinando], 1728-1787
Dialogues sur le commerce des bleds.
London : [s.n.], 1770 [4],314,[2]p. ; 20cm
GK 10640

イタリアの経済学者ガリアニが、フランスの穀物取引の自由化の問題をめぐり、その重農主義的政策を批判して著した一書。穀物貿易に関する法制は、国々の経済諸制度の特質、及びその異なる条件に適応させるべき必要性を強調し、また商工業の生産性、主観的価値についても独創的な見解を示している。本書はガリアニが自ら公刊したものではなく、彼が残した手記をディドロが仏訳して印刷したものである。国際貿易論上の古典的文献としてギョーマンの「主要経済学者叢書」の第15巻にも組み入れられている。

69. ボードー（1730～1792）
「経済哲学序論」初版　1771年　パリ刊



PREMIERE
INTRODUCTION
A LA
PHILOSOPHIE
ECONOMIQUE;
OU
ANALYSE
DES ETATS POLICÉS.
Par un Disciple de l'Ami des Hommes.

Homo homini quid præstat ?
TERENCE.

A PARIS,
Chez DIDOT l'aîné, Libraire-Imprimeur, rue Pavée S. André des Arcs.
DELALAIN, Libraire, rue & à côté de la Comédie-Françoise.
LACOMBE, Libraire, rue Christine.

M. D. CC. LXXI.
Avec Approbation, & Privilege du Roi.

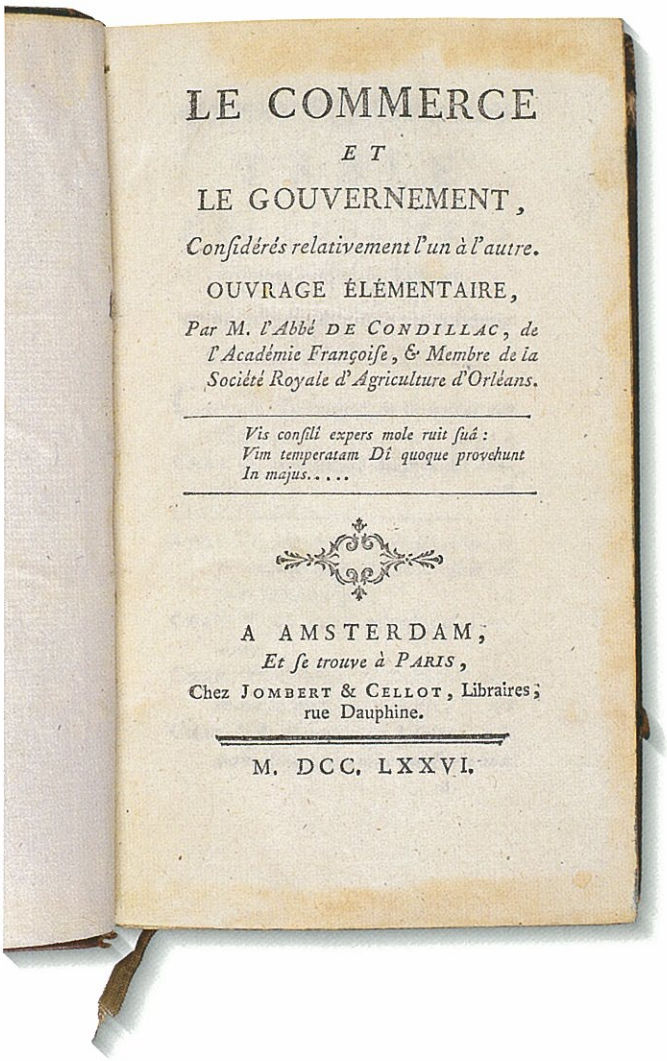
[Baudeau, Nicolas], 1730-1792
Premiere introduction a la philosophie economique; ou Analyse des etats policés.
Paris : Didot [etc.], 1771　8,[ix]-xii,497[3]p. ; 20 cm
GK 10727.1

ボードー神父は、当初重商主義的見地から重農主義学派に批判的だったが、後に転向し、熱心なケネー学派の普及者として活躍した。また、彼が主筆として経済問題を論じた「市民日誌(Ephémérides du citoyen)」（1765創刊）は、刊行者の転向にともない重農学派の機関紙として紆余曲折を経ながらも1766年まで存続した。

本書は、デュポン・ド・ヌムールの「新科学の起源と発達」とともにこの学派の簡潔な解説書の双璧と称される著作で、理論に関してこそケネーの諸説を体系的に整理した一書という域を出ないが、機械性大工業の優越性を予見した点は大いに評価される。

著者名は、ミラボー（LDH）の弟子と印刷されている。

70. コンディヤック（1714～1780）
「商業と統治」初版　1776年　アムステルダム刊



LE COMMERCE
ET
LE GOUVERNEMENT,
Considérés relativement l'un à l'autre.
OUVRAGE ÉLÉMENTAIRE,
Par M. l'Abbé DE CONDILLAC, *de l'Académie Françoise, & Membre de la Société Royale d'Agriculture d'Orléans.*

Vis consilî expers mole ruit suâ :
Vim temperatam Di quoque provehunt
In majus.....

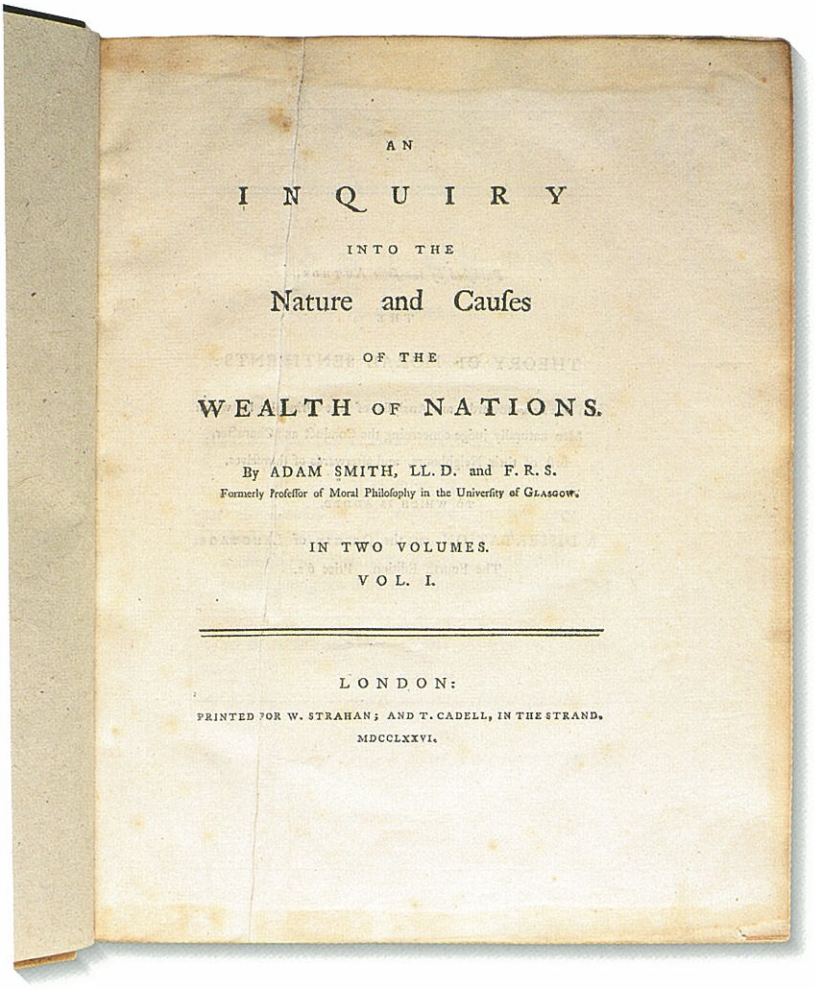
A AMSTERDAM,
Et se trouve à PARIS,
Chez JOMBERT & CELLOT, Libraires, rue Dauphine.

M. DCC. LXXVI.

Condillac, Etienne Bonnot de.1714-1780
Le commerce et le gouvernement, considérés relativement l'un à l'autre.
Ouvrage élémentaire.
Amsterdam : Jombert & Cellot, 1776 [2],vj,ii,586p. ; 17cm
GK 11373

コンディヤックは、感覚論を展開したフランスの哲学者。本書は「相関的考察」と副題されており、複雑な経済現象を単純化してその基本概念を規定しようとしたもので、全体は2部に分かれている。第1部は、価値・価格論、生産・再生産論、貨幣論、交換論などの原理論、第2部は1部における原理規定を踏まえた踏まえた上で、商業と政治との相互関連性を主題としている。コンディヤックは、主観的価値説を展開して、交換はいかなる場合にも等価ではないと結論し、その価値論に立脚して利潤学説を樹立している。本書において、等価交換に関するテーゼと、農業のみを生産的とする重農学派のふたつの決定的なテーゼが全面的に批判されたため、ケネーの後継者であるル・トローヌとの間で激しい論戦が行われた。

71. A.スミス（1723～1790）
「国富論（諸国民の富）」初版　2巻　1776年　ロンドン刊



AN

INQUIRY

INTO THE

Nature and Caufes

OF THE

WEALTH OF NATIONS.

By ADAM SMITH, LL. D. and F. R. S.
Formerly Profeffor of Moral Philofophy in the Univerfity of GLASGOW.

IN TWO VOLUMES.
VOL. I.

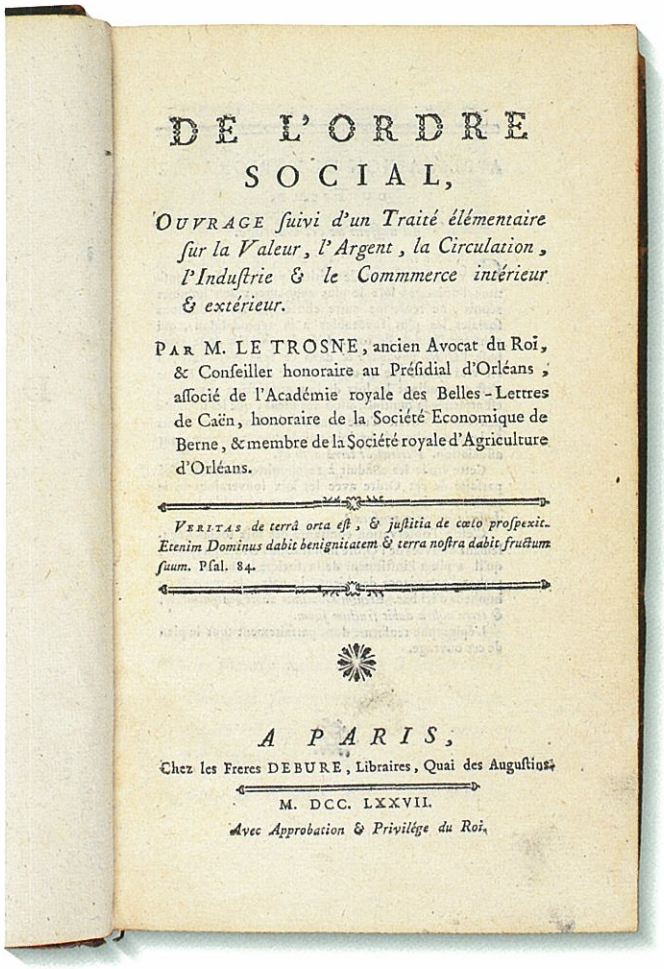
LONDON:
PRINTED FOR W. STRAHAN; AND T. CADELL, IN THE STRAND.
MDCCLXXVI.

Smith, Adam, 1723-1790
An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations.
London : W. Strahan; and T. Cadell,　1776　2 vols. ; 29cm
PMM 221　GK 11392

アダム・スミスの「国富論」は、経済学における古典中の古典であり、近代市民社会を初めて総合的かつ体系的に解明した名著である。その業績によってアダム・スミスは、“経済学の父”と呼ばれている。経済学史上、19世紀以降に分化したあらゆる学派の源流となっており、すべての学説は多かれ少なかれスミスを出発点として発展してきたのである。

「国富論」の初版は、1776年3月9日クォート版（四つ折判）2巻本として公刊された。第1巻は第1・2編及び3編を収録し、本文510頁、また第2巻は第4・5編を収め本文587頁で、序文も索引もなく、全編の目次は第1巻の巻頭に印刷されている。1784年に改訂第3版がオクタボ版（八つ折判）の3巻本で公刊され、第3版への増補・改訂の内容が「アダム・スミス博士の諸国民の富の性質及び諸原因に関する研究第1版及び第2版の増補及び訂正」という表題で、同年にクォート版80頁の別刷りで公刊された。この別刷は、通常第2版の装丁本の巻末に見られる場合が多いが、館蔵書には第2巻の巻末にこの別刷りが合冊製本されている。

72. ル・トローヌ（1728～1780）
「社会的秩序について」初版　2巻（1冊）　1777年　パリ刊



DE L'ORDRE
SOCIAL,

OUVRAGE suivi d'un Traité élémentaire sur la Valeur, l'Argent, la Circulation, l'Industrie & le Commmerce intérieur & extérieur.

PAR M. LE TROSNE, ancien Avocat du Roi, & Conseiller honoraire au Présidial d'Orléans, associé de l'Académie royale des Belles-Lettres de Caën, honoraire de la Société Economique de Berne, & membre de la Société royale d'Agriculture d'Orléans.

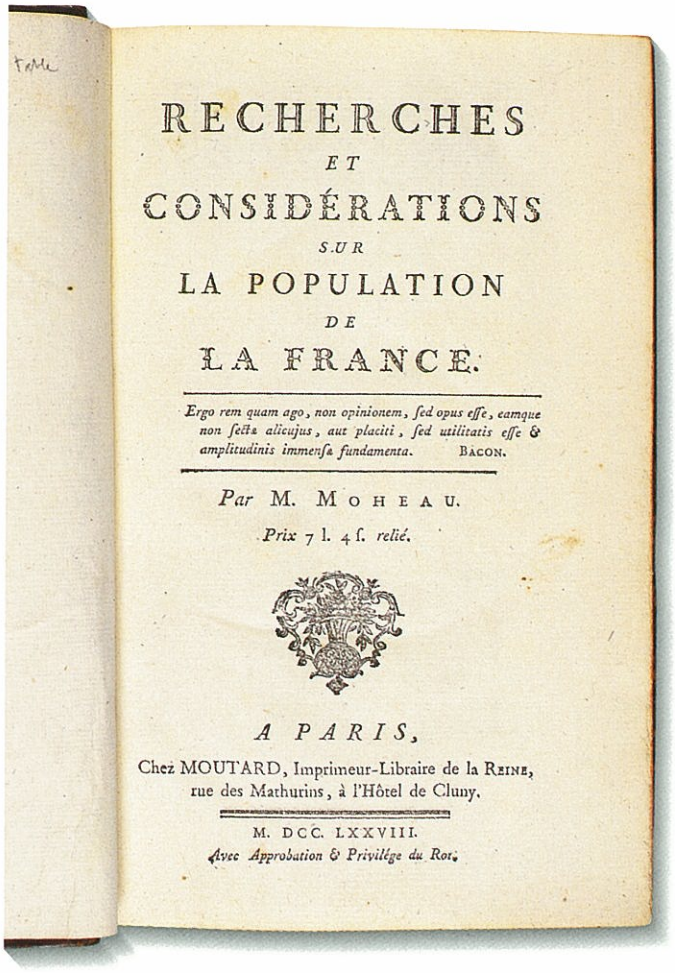
VERITAS de terrâ orta est, & justitia de cœlo prospexit. Etenim Dominus dabit benignitatem & terra nostra dabit fructum suum. Psal. 84.

A PARIS,
Chez les Freres DEBURE, Libraires, Quai des Augustins.
M. DCC. LXXVII.
Avec Approbation & Privilége du Roi.

Le Trosne, Guillaume Francois, 1728-1780
De l'ordre social, ouvrage suivi d'un traité élémentaire sur la valeur, l'argent, la circulation, l'industrie & le commerce intérieur & extérieur.
Paris : les Freres Debure,　1777　xxxi,488,[3],492-728p. ; 20cm
GK:11539

ル・トローヌは、製造工業及び商業の非生産性に関するフィジオクラシーの学理に対するコンディヤックの攻撃に対し、反駁を加えた人として有名である。本書の第1巻は社会的秩序に関するものであるが、第2巻は価値、貨幣、流通、産業、内外通商に関する諸経済理論が明快に説かれている。館蔵書は、全2巻が1冊に合冊製本されている。

73. モオー（1745～1794）
「フランスの人口に関する研究」初版　1778年　パリ刊



RECHERCHES
ET
CONSIDÉRATIONS
SUR
LA POPULATION
DE
LA FRANCE.

Ergo rem quam ago, non opinionem, sed opus esse, eamque non sectæ alicujus, aut placiti, sed utilitatis esse & amplitudinis immensæ fundamenta. BACON.

Par M. MOHEAU.

Prix 7 l. 4 s. *relié.*

A PARIS,

Chez MOUTARD, Imprimeur-Libraire de la REINE, rue des Mathurins, à l'Hôtel de Cluny.

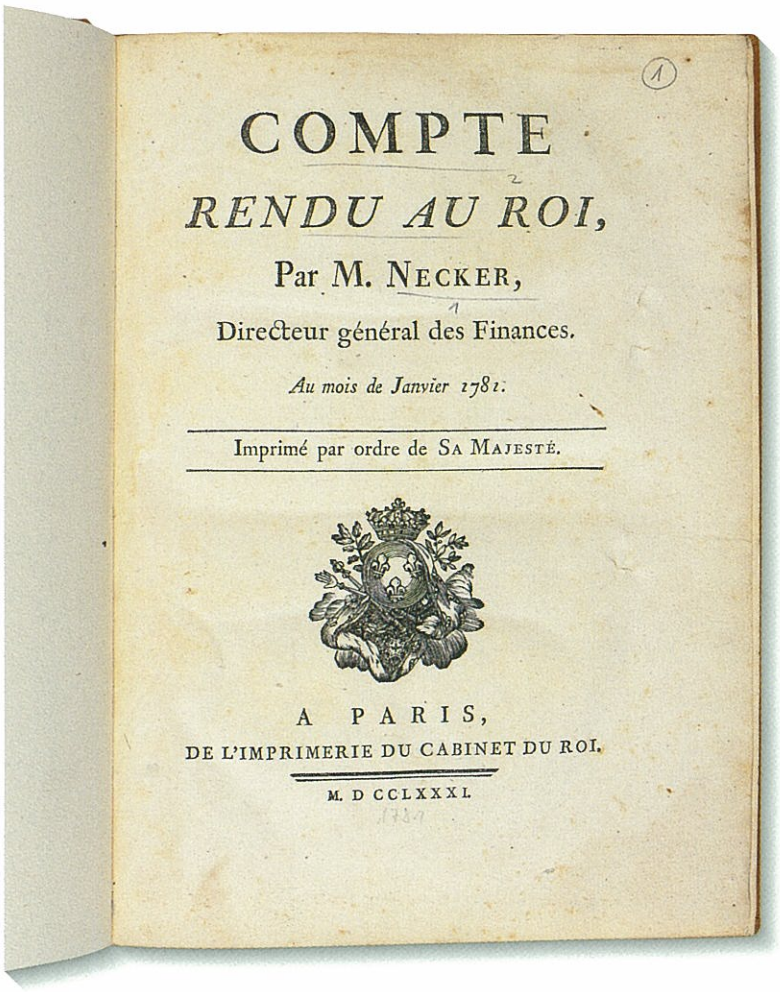
M. DCC. LXXVIII.

Avec Approbation & Privilége du Roi.

Moheau, Jean-Baptiste, 1745-1794
Recherches et considérations sur la population de la France.
Paris : Moutard, 1778 xv,[1],280,[1]-157,[4]p. ; 20cm
GK 11690

モオーは、フランス人であるが、オージェ・ドモンティオン男爵の秘書という以外は詳しいことは知られていない。本書も匿名で出版されたため、一時男爵の著作と考えられていたこともあった。本書は、2部からなり、第1部は死亡率、誕生率、未婚人口などを示しながら人口の実態を述べ、第2部は人口変動の要因について考察している。フランスの人口現象に基づいて統計的研究を行い、男女の人口構成における比例を男16対、女17とし、気候条件によってこの比率が異なり、温暖であるほど女性の比率が高まるとしている。これに対して出生率は16対15であるものの、死亡率は男の方が高く、また幼齢であるほど高いためこの逆転が生じると論じている。マカロックは、本書を人口統計研究の模範的著作として高く評価しており、マルサス以前の＜人口論＞の呼称に耐えうる最初の著作として重視されている。

74. ネッケル（1732～1804）
「報告書」初版　1781年　パリ刊



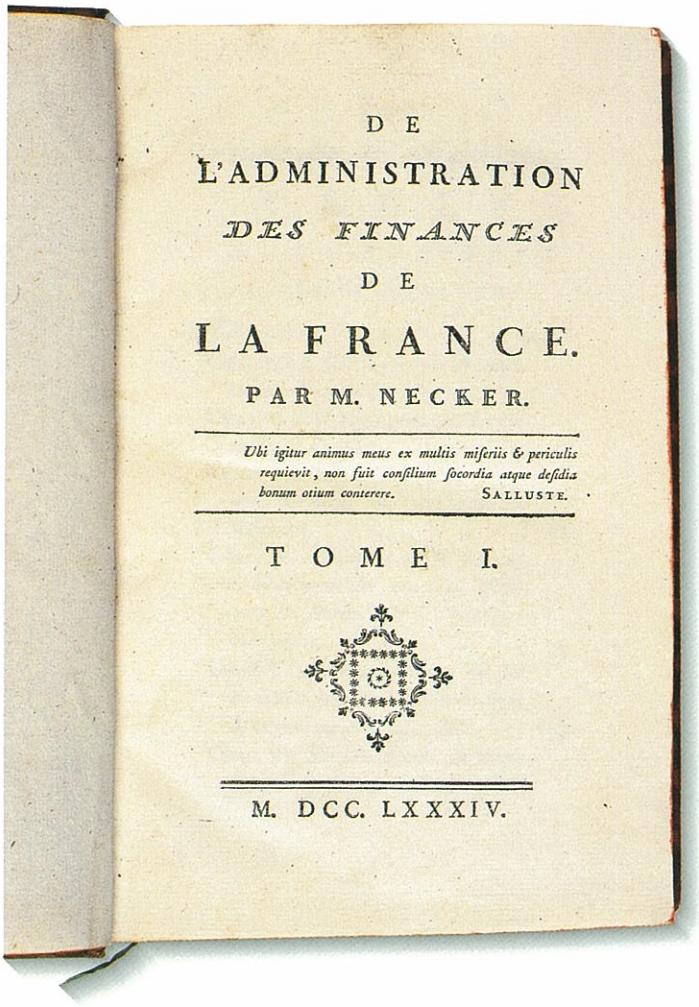
COMPTE
RENDU AU ROI,
Par M. NECKER,
Directeur général des Finances.
Au mois de Janvier 1781.
Imprimé par ordre de SA MAJESTÉ.

A PARIS,
DE L'IMPRIMERIE DU CABINET DU ROI.
M. D CCLXXXI.

Necker, Jacques, 1732-1804
Compte rendu au Roi, par M. Necker, Directeur général des Finances. Au mois de Janvier 1781. Imprime par ordre de Sa Majeste.
Paris : De L'imprimerie du cabinet du roi,　1781　[4],116,20p.,plates,tables, maps ; 26cm
GK 12183

ネッケルはフランスの財政家。ジュネーブでドイツ系の新教徒の家庭に生まれ、パリで銀行に勤務した。テュルゴーの後任として1776年財政総監になり、ルイ16世の赤字財政処理に当たって、自由主義改革を行ったが、貴族層の反対で1781年に辞職した。同年に刊行された本書は、爆発的な売れ行きを示し、ベストセラーとなりヨーロッパ諸国に普及した。同年には、すでにドイツ語版が数種刊行されている。しかし、本書の財政の数字にはかなりの虚構があると言われている。

75. ネッケル（1732〜1804）
「フランスの財務行政について」初版　3巻　1784年　パリ刊



DE
L'ADMINISTRATION
DES FINANCES
DE
LA FRANCE.
PAR M. NECKER.

Ubi igitur animus meus ex multis miseriis & periculis requievit, non fuit consilium socordia atque desidia bonum otium conterere. SALLUSTE.

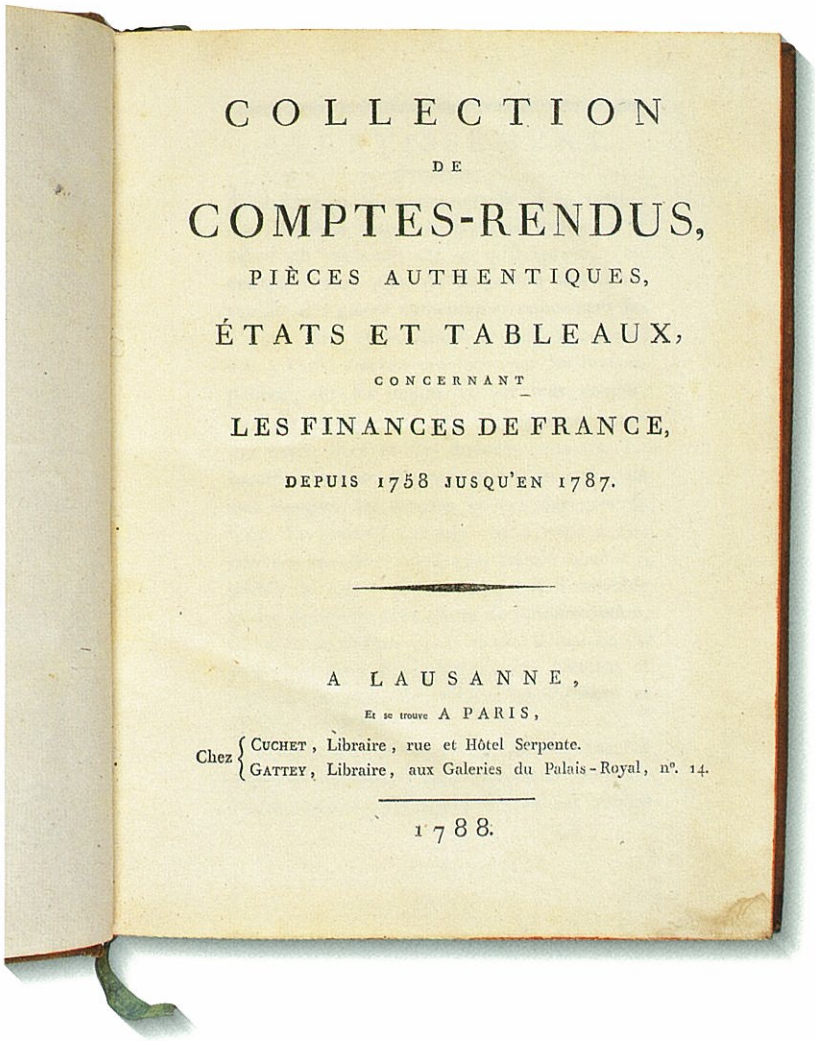
TOME I.

M. DCC. LXXXIV.

Necker, Jacques, 1732-1804
De l'administration des finances de la France.
[i.e.Paris] : [s.n.], 1784　3 vols. ; 20cm
GK 12732

本書は、ルイ16世の財務官、財務総監を歴任したフランスの財政家ネッケルの財務行政に関する著作で、1781年に刊行された「報告書」と並び18世紀フランスの財政政策の研究にとって、重要な文献である。「報告書」は、ベストセラーとなったが、彼の著作としては本書の方が有名である。しかし、財政の数字に虚構があり、また自己の施策の弁明が多く、理論的内容に乏しい面があるといわれる。

76. マソン・ド・ラクール（1738～1793）
「フランス財政報告集成」初版　1788年　ローザンヌ刊



COLLECTION
DE
COMPTES-RENDUS,
PIÈCES AUTHENTIQUES,
ÉTATS ET TABLEAUX,
CONCERNANT
LES FINANCES DE FRANCE,
DEPUIS 1758 JUSQU'EN 1787.

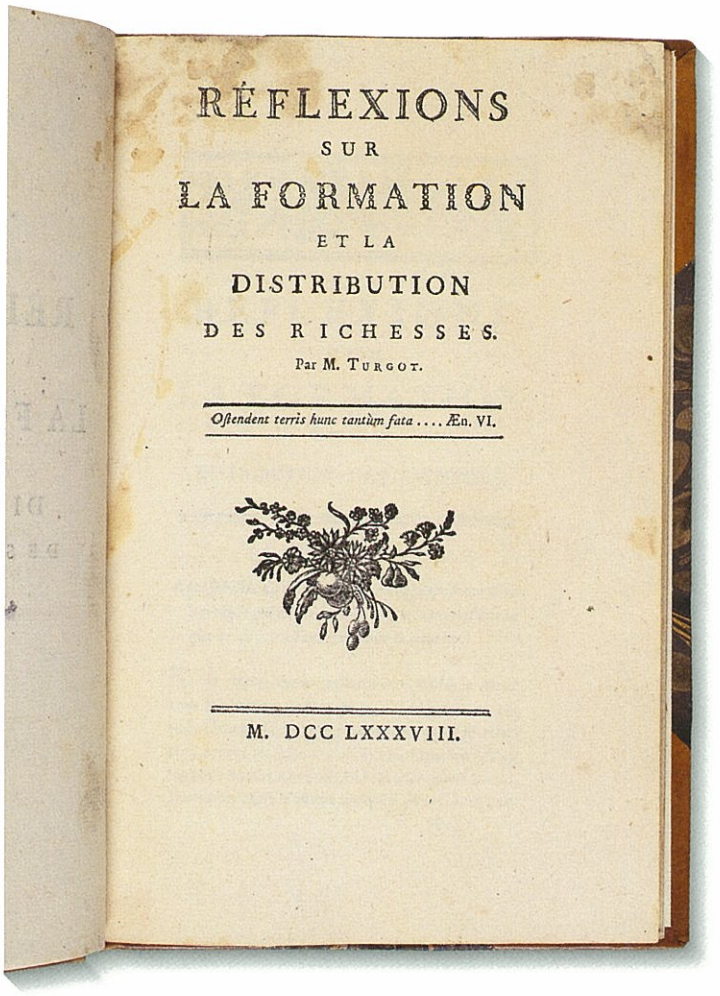
A LAUSANNE,
Et se trouve A PARIS,
Chez { CUCHET, Libraire, rue et Hôtel Serpente.
GATTEY, Libraire, aux Galeries du Palais-Royal, n°. 14.

1788.

[Mathon de la Cour, C. J.], 1738-1793
Collection de compte-rendus, pièces authentiques, états et tableaux, concernant les de France, depuis 1758 jusqu'en 1787.
Lausanne, et se trouve a Paris : Cuchet et Gattey,　1788　xii,[2],231,xiv,183p. ; 26cm

マソン・ド・ラクールは、フランス革命期に博識で知られ、財政改革を唱えた文筆家である。本書は、彼が数学に関するすぐれた知識を駆使して、1758年から1788年までのフランス財政に関する報告書、信頼性の高い文書や覚書類を図表とともに収録した財政資料である。

77. テュルゴー（1727～1781）
「富の形成と分配に関する諸考察」第2版　1788年　パリ刊



RÉFLEXIONS
SUR
LA FORMATION
ET LA
DISTRIBUTION
DES RICHESSES.
Par M. TURGOT.

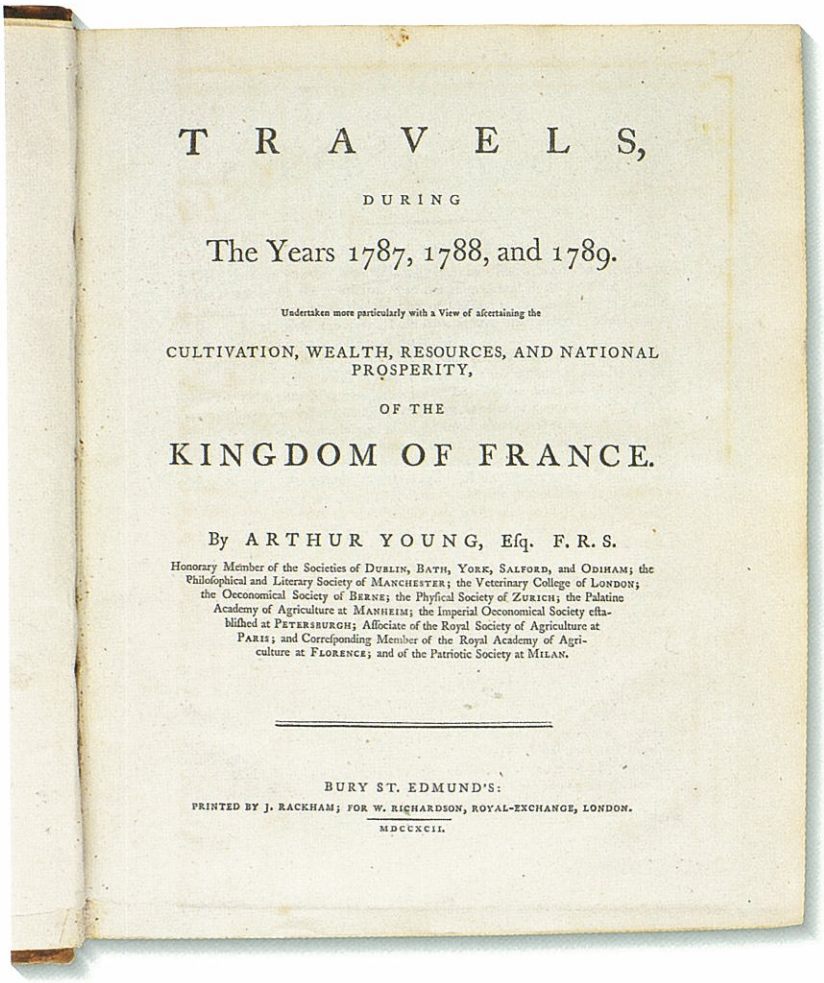
Ostendent terris hunc tantùm fata .... Æn. VI.

M. DCC LXXXVIII.

Turgot, Anne-Robert-Jacques, baron de l'Aulne,1727-1781
Réflexions sur la formation et la distribution des richesses.
Paris : [s.n.], 1788　136p. ; 20cm
GK 13536

本書は、スミスの「国富論」が出版される約10年前に執筆され、そこには分業、労働の生産性、企業の自由、競争などスミスによって体系化された多くの思想が述べられている。この著作は1766年11月に中国からの留学生が帰国するのに際し、経済学の大要を説明するために執筆されたものであり、テュルゴーは当初、本書を公表するつもりではなかった。その後、デュポン・ド・ヌムールの懇請により1770年に当時の重農学派の機関誌“Ephémérides de Citroyen”に掲載した際、デュポンはこの原稿を勝手に書き直して掲載したため、これに憤慨したテュルゴーは訂正を求めると同時に、1776年にこれを単行本として出版した。初版は、僅か100～150部しか印刷されておらず、この1788年版も非常にめずらしいものである。

78. ヤング（1741～1820）
「フランス旅行記」初版　1792年　ベリ・セント・エドモンズ刊



TRAVELS,

DURING

The Years 1787, 1788, and 1789.

Undertaken more particularly with a View of aſcertaining the

CULTIVATION, WEALTH, RESOURCES, AND NATIONAL PROSPERITY,

OF THE

KINGDOM OF FRANCE.

By ARTHUR YOUNG, Eſq. F. R. S.

Honorary Member of the Societies of DUBLIN, BATH, YORK, SALFORD, and ODIHAM; the Philoſophical and Literary Society of MANCHESTER; the Veterinary College of LONDON; the Oeconomical Society of BERNE; the Phyſical Society of ZURICH; the Palatine Academy of Agriculture at MANHEIM; the Imperial Oeconomical Society eſtabliſhed at PETERSBURGH; Aſſociate of the Royal Society of Agriculture at PARIS; and Correſponding Member of the Royal Academy of Agriculture at FLORENCE; and of the Patriotic Society at MILAN.

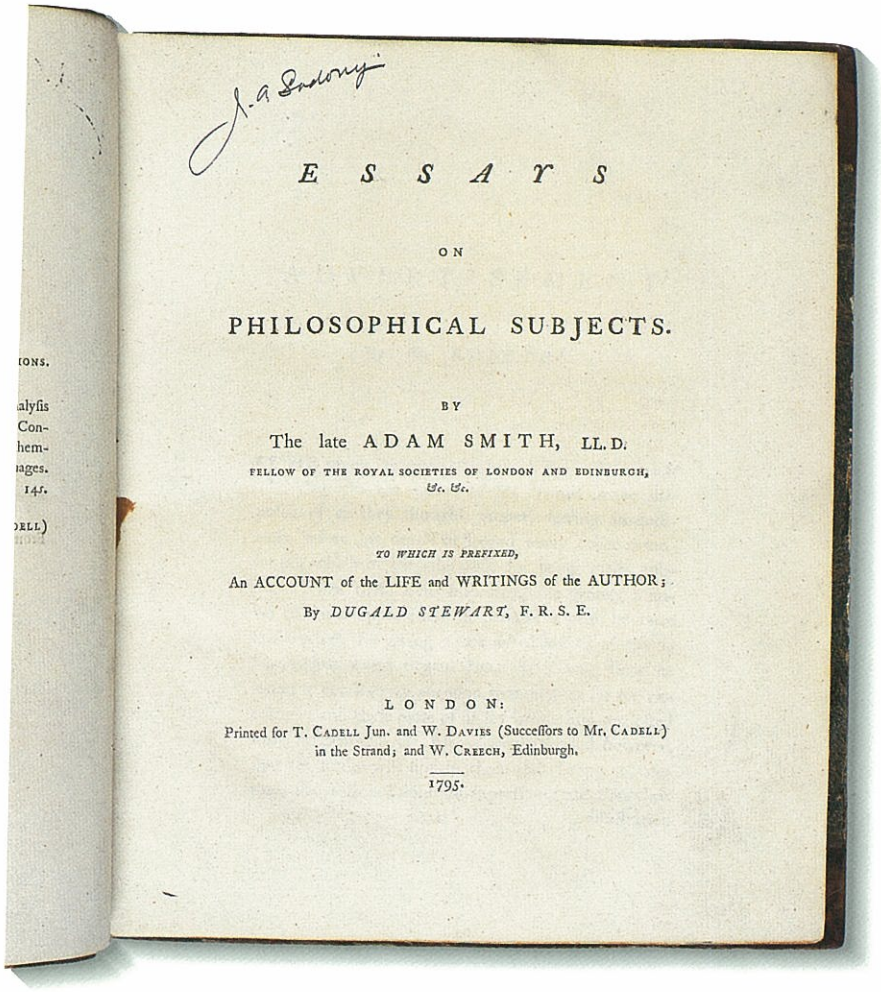
BURY ST. EDMUND'S:
PRINTED BY J. RACKHAM; FOR W. RICHARDSON, ROYAL-EXCHANGE, LONDON.
MDCCXCII.

Young, Arthur, 1741-1820
Travels, during the years 1787, 1788, and 1789. undertaken more particularly with a view of ascertaining the cultivation, wealth, resources, and national prosperity, of the kingdom of France.
Bury St. Edmund's : J. Rackham; for W. Richardson,　1792　viii,566,[4]p.,plates, maps ; 27cm
GK 15095

本書は、「特にフランス王国の耕作、富、資源及び国民的繁栄を確認するために行われた1787, 1788,1789年のあいだの旅行」の略称で、1787年から89年までのフランス旅行の記録である。ちょうどこの時期は、フランス革命の直前から革命の勃発の時期であり、旧制度末期のフランス農村の疲弊を生々しく伝えるとともに、始まったばかりの革命に対して自由主義者としての共感と好意を寄せている。彼は、フランスの農業が、小土地所有と小農経営を基礎としていることを鋭く批判し、その結果として貧窮と人口過剰が生じたものと見ている。

本書は、生涯をかけて農業改良とその普及に貢献したヤングが、革命の直前から勃発までの時期におけるフランス国内を縦横に調査して編集した見聞録であり、人口、商業、税制、交易、借地制、農業生産の状況などの他、革命そのものに関しても章を設けている。フィレンツェ、ヴェネチアなどイタリアに関する記述も収録されている。

79. A.スミス（1723～1790）
「哲学論文集」初版　1795年　ロンドン刊



ESSAYS

ON

PHILOSOPHICAL SUBJECTS.

BY

The late ADAM SMITH, LL. D.

FELLOW OF THE ROYAL SOCIETIES OF LONDON AND EDINBURGH, &c. &c.

TO WHICH IS PREFIXED,

An ACCOUNT of the LIFE and WRITINGS of the AUTHOR;

By DUGALD STEWART, F. R. S. E.

LONDON:

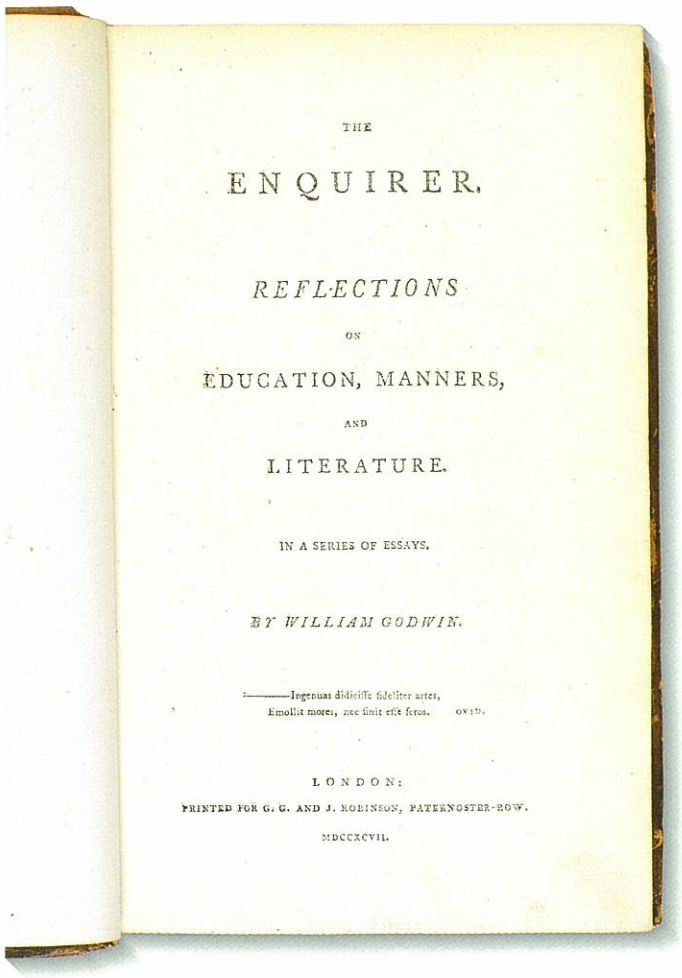
Printed for T. CADELL Jun. and W. DAVIES (Successors to Mr. CADELL) in the Strand; and W. CREECH, Edinburgh.

1795.

Smith, Adam,1723-1790
Essays on philosophical subjects. By the late Adam Smith, LL. D. fellow of the Royal Societies and Edinburgh, To which is prefixed, An account of the life and writings of the author; by Dugald Stewart, F.R.S.E.
London : T. Cadell Jun. And Others,　1795　xcv,244p. ; 26cm
GK 16227.13

晩年スミスは、ヒュームを遺言執行人に指名して未定稿の処分を依頼した。しかし、ヒュームが死亡したため1787年になってスミスの旧友で科学者のJ.ブラックとJ.ハットンの二人を遺言執行人として指名し、出版する価値があると判断した原稿を除く大部分の未定稿の焼却を依頼した。1790年に入り容態が悪化して衰弱が激しくなると自らの命が短いことを悟ったスミスは、二人に改めて焼却の約束を確認した後、7月17日に他界した。ブラックとハットンは焼却をまぬがれた天文学史、音楽・舞踏・詩などの芸術の模倣論に関するこれらの未定稿をまとめ、デュガルト・スチュアートによるアダム・スミスの初めての伝記と批評を収録して、1795年に出版したのが本書である。

80. ゴドウィン（1756〜1836）
「探求者」初版　1797年　ロンドン刊



THE

ENQUIRER.

REFLECTIONS

ON

EDUCATION, MANNERS,

AND

LITERATURE.

IN A SERIES OF ESSAYS.

BY WILLIAM GODWIN.

———Ingenuas didicisse fideliter artes,
Emollit mores, nec sinit esse feros. OVID.

LONDON:

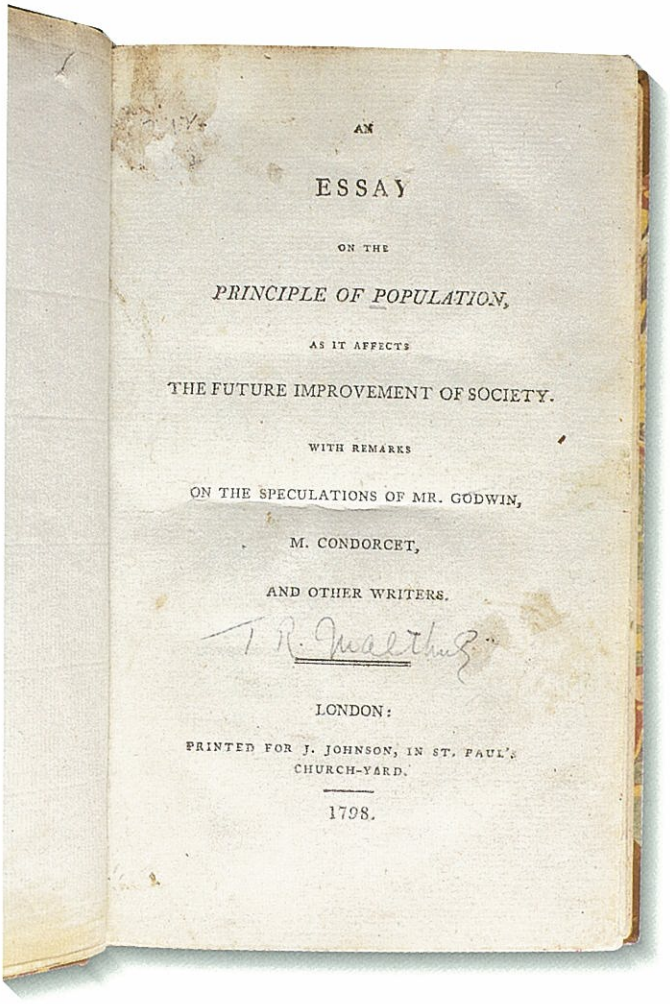
PRINTED FOR G. G. AND J. ROBINSON, PATERNOSTER-ROW.

MDCCXCVII.

Godwin, William, 1756-1836
The enquirer. Reflections on education, manners, and literature. in a series of essays.
London : G. G. and J. Robinson,　1797　xii,481p. ; 21cm
GK 16911

マルサスが「人口論」の序において述べているように、直接マルサスの「人口論」執筆のきっかけを作った著作として知られている。ゴドウィンは、政府及び私有財産を否定して、社会的生産物を平等に分配する社会を主張して、1793年に「政治的正義」を出版し小市民的急進主義の理論的指導者となった。本書は、これに続いて「貪欲と浪費」という論文を掲載して公刊したものである。マルサスは、この問題に関して父ダニエルと議論をし、それが発端となって、ゴドウィンの無政府主義思想を否定するため「人口論」を執筆した。

81. マルサス(1766〜1834)
「人口論」初版　1798年　ロンドン刊



AN

ESSAY

ON THE

PRINCIPLE OF POPULATION,

AS IT AFFECTS

THE FUTURE IMPROVEMENT OF SOCIETY.

WITH REMARKS

ON THE SPECULATIONS OF MR. GODWIN,

M. CONDORCET,

AND OTHER WRITERS.

T. R. Malthus

LONDON:

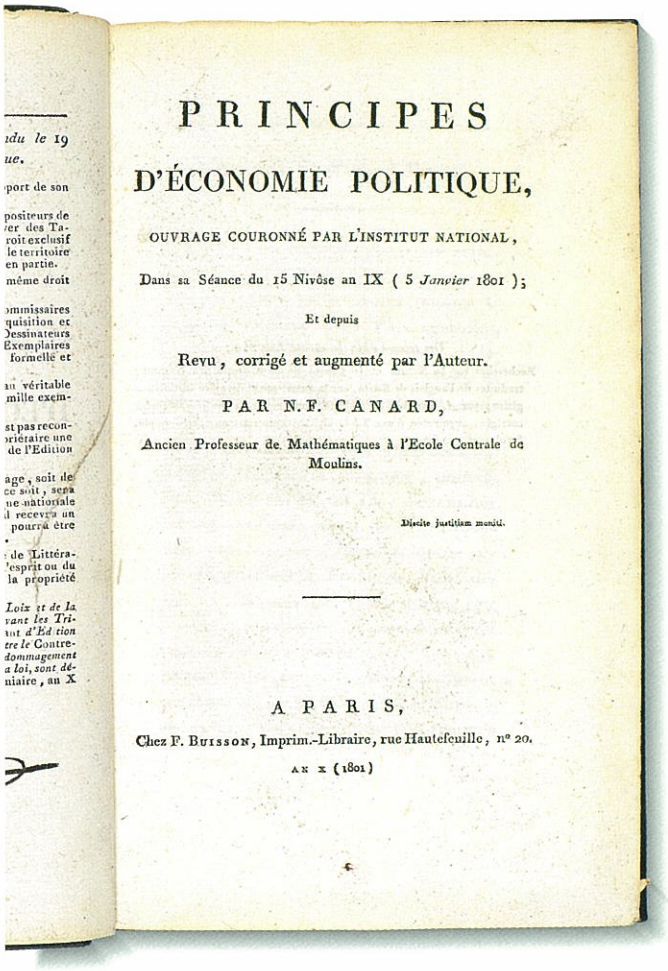
PRINTED FOR J. JOHNSON, IN ST. PAUL'S
CHURCH-YARD.

1798.

[Malthus, Thomas Robert], 1766-1834
An essay on the principle of population, as it affects the future improvement of society.
With remarks on the speculations of Mr. Godwin, M. Condorcet, and other writers.
London : J. Johnson, 1798 [2],v,[1],ix,[1],396p. ; 21cm
PMM 251 GK 17268

マルサスは、イギリスの古典派経済学者。「人口論」は当時思想界に君臨していたルソー、ゴドウィン、コンドルセらの見解を否定するために、ゴドウィンの著「探求者」(1797年)について、父ダニエルと議論を交わした結果をまとめ、匿名で出版したものである。原題は「人口の原理に関する一試論、この原理が将来の社会の改善に及ぼす影響、並びに ゴドウィン氏、コンドルセ氏及びその他の著述家たちの思索に対する批評」である。マルサスの人口理論は、その当時のあらゆる経済学者が同意した生存費賃金説(高賃金は人口増加を刺激するので、賃金というものは常に労働者の生存に必要な水準へ下落する傾向がある)を合理的に説明した。しかし、彼が批判した論述家たちの攻撃は激しく、そのためマルサスは生涯にわたって本書を改訂し続けなければならなかった。

82. カナール（1750〜1833）
「経済学原理」初版　1801年　パリ刊



PRINCIPES

D'ÉCONOMIE POLITIQUE,

OUVRAGE COURONNÉ PAR L'INSTITUT NATIONAL,

Dans sa Séance du 15 Nivôse an IX (5 *Janvier* 1801);

Et depuis

Revu, corrigé et augmenté par l'Auteur.

PAR N. F. CANARD,

Ancien Professeur de Mathématiques à l'Ecole Centrale de Moulins.

Dicite justitiam monti.

A PARIS,

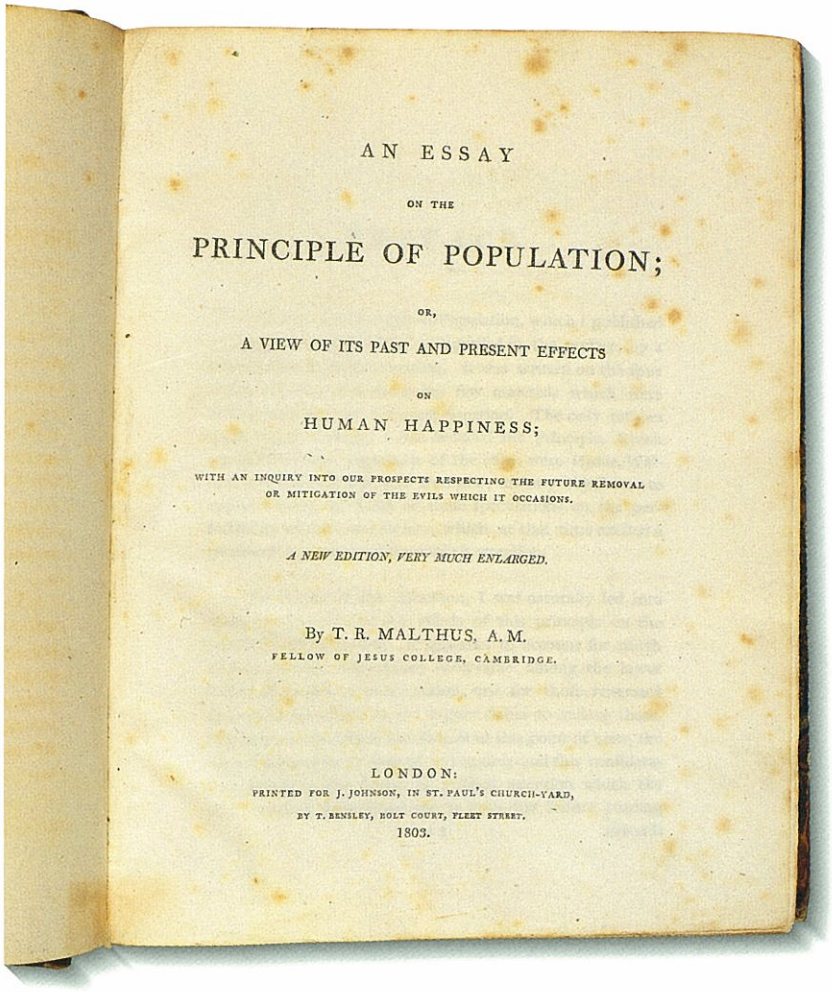
Chez F. Buisson, Imprim.-Libraire, rue Hautefeuille, n° 20.

AN X (1801)

Canard, Nicolas Franmmis, 1750-1833
Principes d'économie politique, ouvrage couronné par l'Institut National, dans sa séance du 15 Nivôse an IX (5 Janvier 1801); et depuis revu, corrigé et augmenté par l'auteur ...
Paris : F. Buisson,　1801　[4],236p. fold, plates. ; 22 cm
GK 18122

フランスの経済学者、数学者カナールの主著。経済学の一般理論に数学的方法を取り入れた最初の著作とされ、経済分析の発展において重要な位置を占めている。本書は、もともと“L' institute National”の受賞論文で、初版の刊行にあたって訂正、追加を行っている。マルクスは、剰余価値学説史においてこのカナールの著作に言及し、「カナールは『経済学原理』において＜富＞を＜過剰労働の蓄積＞と定義している。もし彼が、富というのは労働者を労働者として生活を維持させるためには余分の労働のことだと言ったとすれば、この定義は正しい」と述べている。

83. マルサス(1766〜1834)
「人口論」第2版　1803年　ロンドン刊



AN ESSAY

ON THE

PRINCIPLE OF POPULATION;

OR,

A VIEW OF ITS PAST AND PRESENT EFFECTS

ON

HUMAN HAPPINESS;

WITH AN INQUIRY INTO OUR PROSPECTS RESPECTING THE FUTURE REMOVAL OR MITIGATION OF THE EVILS WHICH IT OCCASIONS.

A NEW EDITION, VERY MUCH ENLARGED.

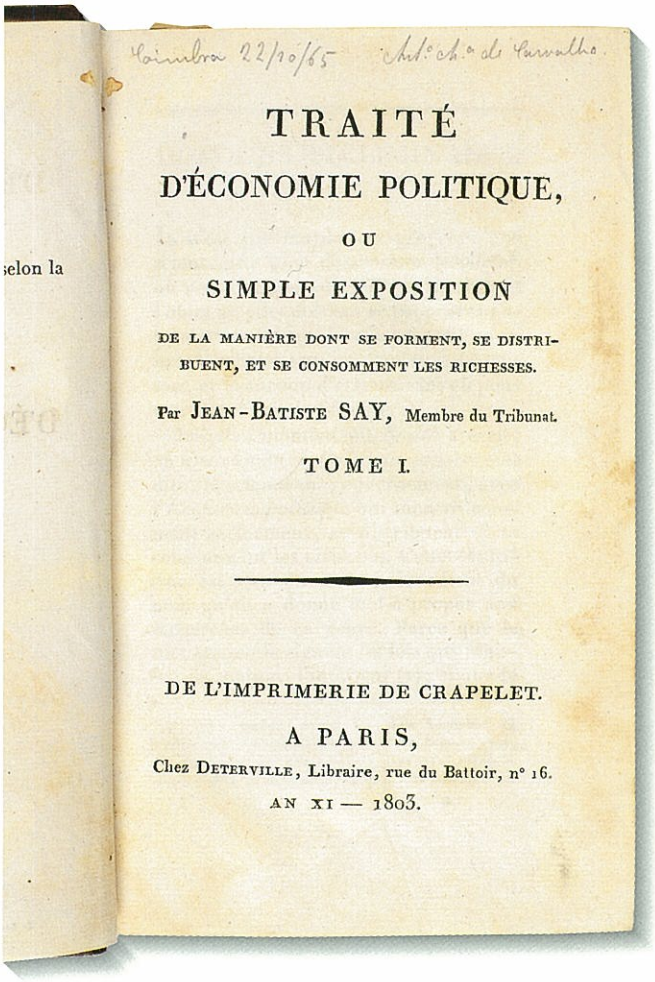
By T. R. MALTHUS, A. M.
FELLOW OF JESUS COLLEGE, CAMBRIDGE.

LONDON:
PRINTED FOR J. JOHNSON, IN ST. PAUL'S CHURCH-YARD,
BY T. BENSLEY, BOLT COURT, FLEET STREET.
1803.

Malthus, Thomas. Robert, 1766-1834
An essay on the principle of population; or, A view of its past and present effects on human happiness; with an inquiry into our prospects respecting the future removal or mitigation of the evils which it occasions. A new ed., very much enlarged ...
London : J. Johnson,　1803　viii,[4],610p. tables. ; 26cm
GK 18640

人口増加率と食料増加率のギャップによる貧困と悪徳の横行、そしてその抑制要因を主題として書かれた「人口論」は、経済界及び読書界の話題となり、不徳の非難も浴びることとなった。このため「人口論」は出版と同時に売切れ、発行部数が少なく当時から初版の入手は困難であったため、第2版の刊行が待ち望まれていた。初版の反響があまりにも大きかったため、マルサスは生涯を「人口論」の添削改に費やし、その主張の強化のために経済学の研究に没頭することになる。今日では初版と第2版とは、異なった論文として見なされている。マルサスは以後も研究を深め、版を重ねて生前第6版(1826年)まで出している。

84. セー（1767～1832）
「経済学概論」初版　2巻　1803年　パリ刊



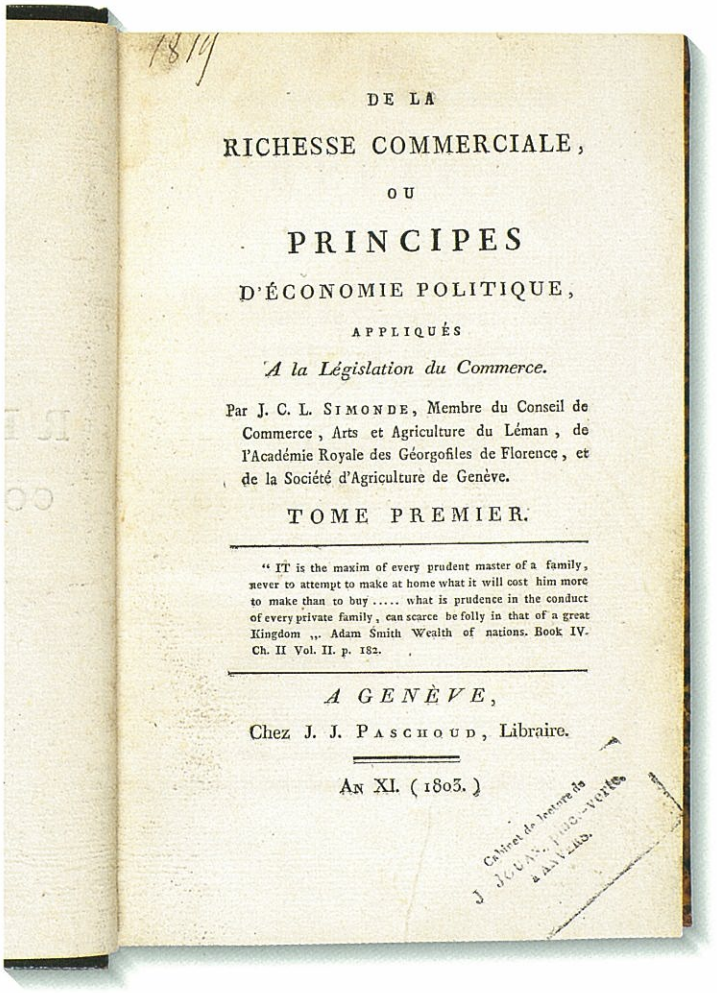
TRAITÉ
D'ÉCONOMIE POLITIQUE,
OU
SIMPLE EXPOSITION
DE LA MANIÈRE DONT SE FORMENT, SE DISTRIBUENT, ET SE CONSOMMENT LES RICHESSES.
Par JEAN-BATISTE SAY, Membre du Tribunat.
TOME I.

DE L'IMPRIMERIE DE CRAPELET.
A PARIS,
Chez DETERVILLE, Libraire, rue du Battoir, n° 16.
AN XI — 1803.

Say, Jearn-Baptiste, 1767-1832
Traite d'économie politique, ou simple exposition de la manière dont se forment, se distribuent, et se consomment les richessés ...
Paris : Deterville,　1803　2 vols. ; 20cm
GK 18616

セーは、1787年頃「国富論」を読んでその影響のもとに経済学の研究に入ったといわれ、スミスの経済的自由主義を継承し、＜フランスのアダム・スミス＞と呼ばれた。本書は、セーの主著で、「富が生産され、分配され、消費される方法についての簡単な説明」という副題に見られるように、生産、分配、消費の3分法によってスミスの経済学説を解説し、ヨーロッパに普及させた書物として知られている。但し、価値論ではコンディヤックの主観価値説を取り入れ、効用を重視してスミスの労働価値論を効用価値論に置き換えている。1799年にセーは、ナポレオン執政政府の法制委員会の委員になり、本書を執筆し刊行するが、ナポレオンⅠ世の財政政策と対立し、修正を拒否して辞職した。

85. シスモンディ(1773～1842)
「商富論」初版　2巻　1803年　ジュネーブ刊



1814

DE LA

RICHESSE COMMERCIALE,

OU

PRINCIPES

D'ÉCONOMIE POLITIQUE,

APPLIQUÉS

A la Législation du Commerce.

Par J. C. L. SIMONDE, Membre du Conseil de Commerce, Arts et Agriculture du Léman, de l'Académie Royale des Géorgofiles de Florence, et de la Société d'Agriculture de Genève.

TOME PREMIER.

" IT is the maxim of every prudent master of a family, never to attempt to make at home what it will cost him more to make than to buy ..... what is prudence in the conduct of every private family, can scarce be folly in that of a great Kingdom ,,. Adam Smith Wealth of nations. Book IV. Ch. II Vol. II. p. 182.

A GENÈVE,

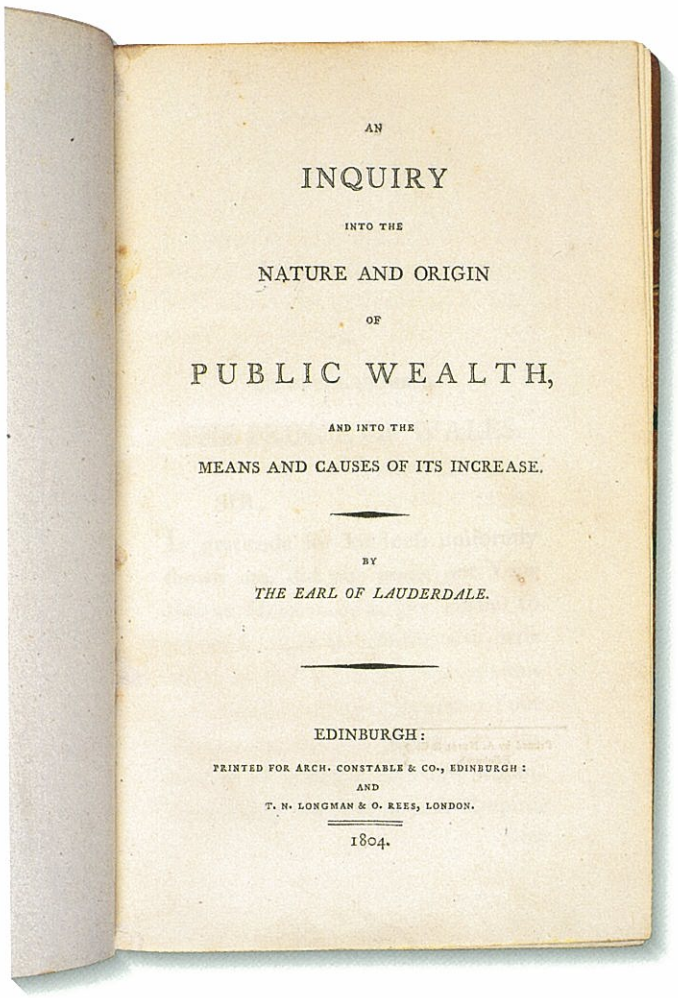
Chez J. J. PASCHOUD, Libraire.

AN XI. (1803.)

Sismondi, Jean Charles Leonard Simonde de. 1773-1842
De la richesse commerciale; ou, Principes d'économie politique, appliqués a la législation du commerce.
Geneve : J. J. Paschoud, 1803　2 vols. ; 20 cm
GK 18617

シスモンディは、ジュネーブの牧師の子として生まれ、ルソーの影響を強く受けた。彼は経済学だけでなく、文学者、歴史学者としても知られ、ジュネーブ大学では古代史、文学史、経済学を講義した。彼は、フランス古典経済学の最後の巨人の一人であり、ロマン派経済学の創始者と呼ばれる。本書は、シスモンディの経済学に関する最初の著作であり、アダム・スミスの「国富論」の理論をフランスに適用させた解説書で、これによってシスモンディは大陸におけるスミス学説の普及者として知られることとなった。本書において彼は自由主義を主張しているが、後に資本主義の弊害を認め、主著「経済学新原理」では王統派経済学及び資本主義を批判している。

86. ロウダァディル（1759～1839）
「公の富の性質と起源」初版　1804年　エディンバラ刊



AN

INQUIRY

INTO THE

NATURE AND ORIGIN

OF

PUBLIC WEALTH,

AND INTO THE

MEANS AND CAUSES OF ITS INCREASE.

BY

THE EARL OF LAUDERDALE.

EDINBURGH:

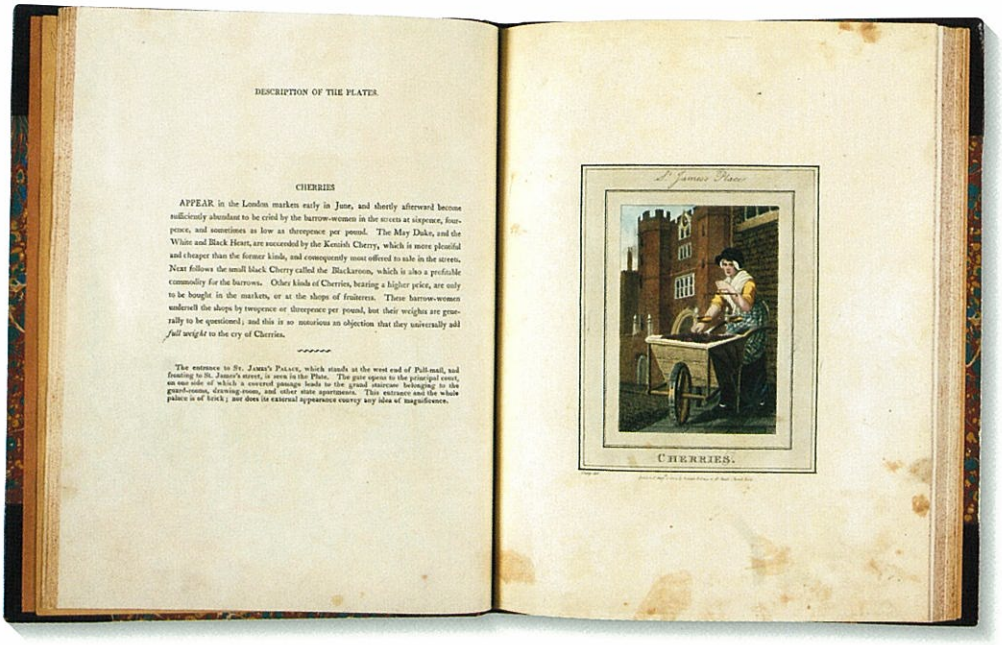
PRINTED FOR ARCH. CONSTABLE & CO., EDINBURGH:
AND
T. N. LONGMAN & O. REES, LONDON.

1804.

Lauderdale, James Maitland, 1759-1839
An inquiry into the nature and origin of public wealth, and into the means and causes of its increase.
Edinburgh : Arch. Constable. T. N. Longman　1804　[6],482p. tables (1 fold.) ; 22cm
GK 18801

ロウダァディルは、スコットランドの政治家、経済学者。初め法律を学び、21歳で議会に入って、当時の政治問題に関心をもった。本書の正確な書名は「公の富の性質と起源並びに その増加の手段と原因に関する研究」である。ロウダァディルは本書に於て、純粋な需要供給説を主張し、「国富論」におけるスミスの労働価値尺度説を批判した。スミスが混同していた私富と公富の区別を明確にすべきとし、真に重視すべきは私富ではなく公富であると主張した。また、価値決定における需給説、利潤における資本の生産力説など特異な理論を展開するが、その論証は独断的であり、同時代の経済学者への影響は大きくはなかった。

87.「ロンドンの売り声」　1804年　ロンドン刊



DESCRIPTION OF THE PLATES.

CHERRIES

APPEAR in the London markets early in June, and shortly afterward become sufficiently abundant to be cried by the barrow-women in the streets at sixpence, fourpence, and sometimes as low as threepence per pound. The May Duke, and the White and Black Heart, are succeeded by the Kentish Cherry, which is more plentiful and cheaper than the former kinds, and consequently most offered to sale in the streets. Next follows the small black Cherry called the *Blackaroon*, which is also a profitable commodity for the barrows. Other kinds of Cherries, bearing a higher price, are only to be bought in the markets, or at the shops of fruiterers. These barrow-women undersell the shops by twopence or threepence per pound, but their weights are generally to be questioned; and this is so notorious an objection that they universally add *full weight* to the cry of Cherries.

The entrance to St. James's Palace, which stands at the west end of Pall-mall, and fronting to St. James's street, is seen in the Plate. The gate opens to the principal court, on one side of which a covered passage leads to the grand staircase belonging to the guard-rooms, drawing-room, and other state apartments. This entrance and the whole palace is of brick; nor does its external appearance convey any idea of magnificence.

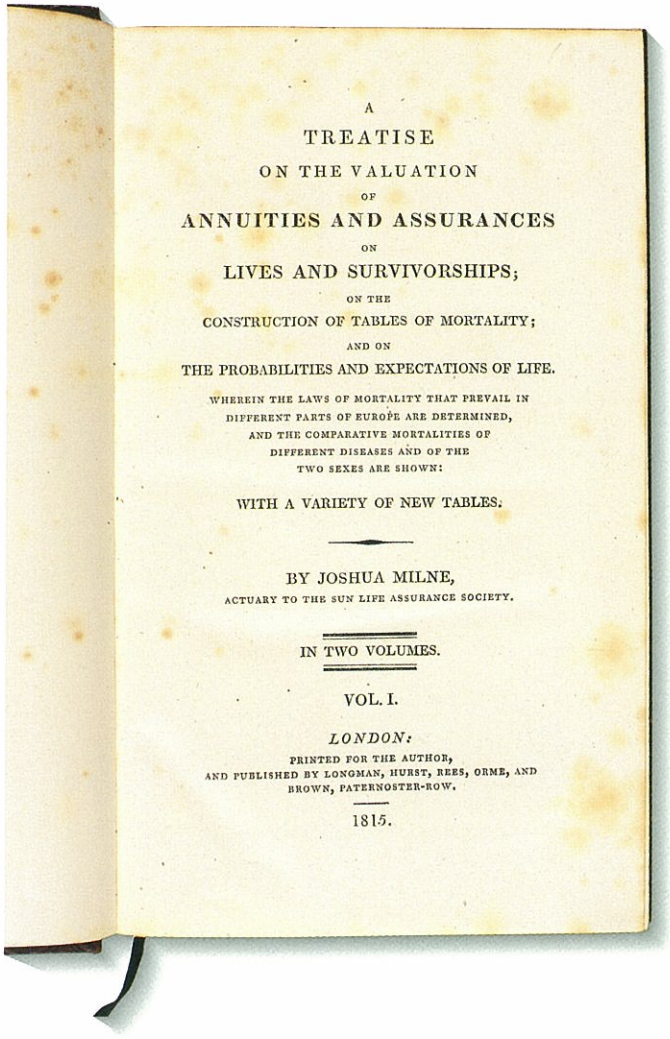
St James's Place

CHERRIES.

Description of the plates, representing the itinerant traders of London in their ordinary costume
London : [s.n.]　1804　1 vol.(31plates) ; 26cm

19世紀初期のロンドンに見られた呼び売り商人の様子を、鮮やかな手彩色の版画で描いた図版集。古着、果物、籠、パンなどの行商人の背景にはチャリング・クロスやラッセルスクウェアなど、ロンドンの様々な場所や建物が描かれている。それぞれの図版には、その行商人と場所に関する解説が付されている。

88. ミルン（1776～1851）
「年金評価論」初版　2巻　1815年　ロンドン刊



A
TREATISE
ON THE VALUATION
OF
ANNUITIES AND ASSURANCES
ON
LIVES AND SURVIVORSHIPS;
ON THE
CONSTRUCTION OF TABLES OF MORTALITY;
AND ON
THE PROBABILITIES AND EXPECTATIONS OF LIFE.

WHEREIN THE LAWS OF MORTALITY THAT PREVAIL IN
DIFFERENT PARTS OF EUROPE ARE DETERMINED,
AND THE COMPARATIVE MORTALITIES OF
DIFFERENT DISEASES AND OF THE
TWO SEXES ARE SHOWN:

WITH A VARIETY OF NEW TABLES.

BY JOSHUA MILNE,
ACTUARY TO THE SUN LIFE ASSURANCE SOCIETY.

IN TWO VOLUMES.

VOL. I.

LONDON:
PRINTED FOR THE AUTHOR,
AND PUBLISHED BY LONGMAN, HURST, REES, ORME, AND
BROWN, PATERNOSTER-ROW.

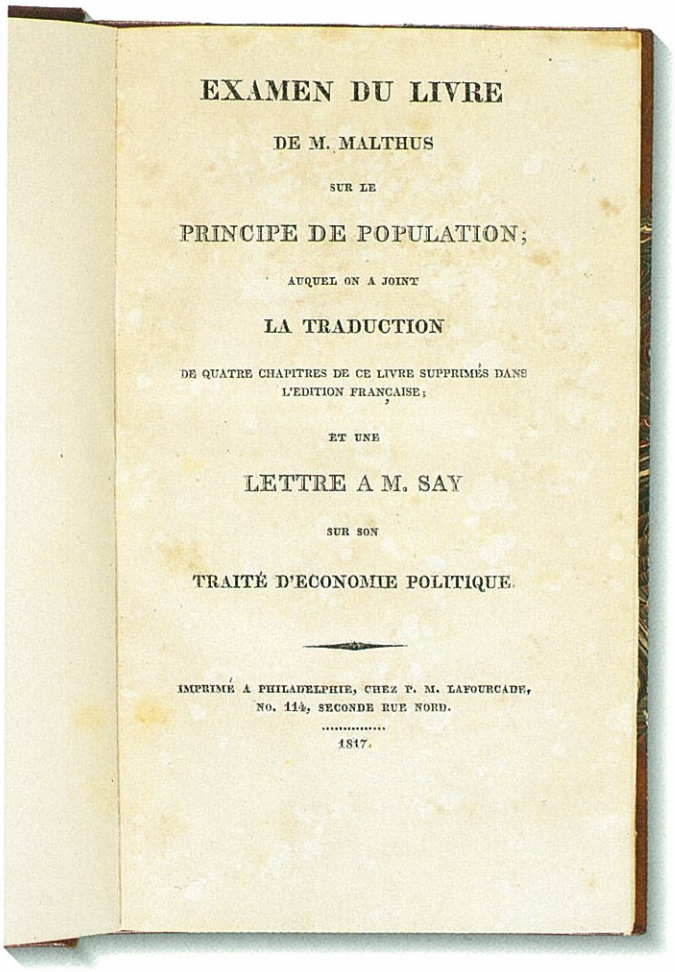
1815.

Milne, Joshua, 1776-1851
A treatise on the valuation of annuities and assurances on lives and survivorships; on the construction of tables of mortality; and on the probabilities and expectations of life ...
London : Longman, Hurst, Rees, Orme, and Brown,　1815　2 vols. tables. ; 22cm
GK 21236

ミルンは、1810年に生命保険協会の保険計理人となった。当時用いられていた生命表は教会の埋葬記録から推定されたものだったが、ミルンは深い数学的知識に基づき生命表を再構成した。1779～87年のカーライル市の死亡者を、1779年及び1787年に行われた同市の生存者調査と比較したもので、ミルンの生命表には、生命表作成の近代的技術が始めて導入され、彼は一躍有名になった。その後、本書を刊行したが、この成果は保険学の革命であった。彼が基礎としなければならなかった資料が限られていたことを考慮すると、ミルンの表は極めて正確であり、保険会社は標準的なものとしてこれを用いた。

19世紀初めの統計学史上で最も興味ある著作であり、マカロックは、「科学的、実用的いずれの面でも卓越した価値と重要性をもつ著作である」と評した。

89. デュポン・ド・ヌムール（1739～1817）
「マルサスの人口論に関する考察」初版　1817年　フィラデルフィア刊



EXAMEN DU LIVRE

DE M. MALTHUS

SUR LE

PRINCIPE DE POPULATION;

AUQUEL ON A JOINT

LA TRADUCTION

DE QUATRE CHAPITRES DE CE LIVRE SUPPRIMÉS DANS L'EDITION FRANÇAISE;

ET UNE

LETTRE A M. SAY

SUR SON

TRAITÉ D'ECONOMIE POLITIQUE.

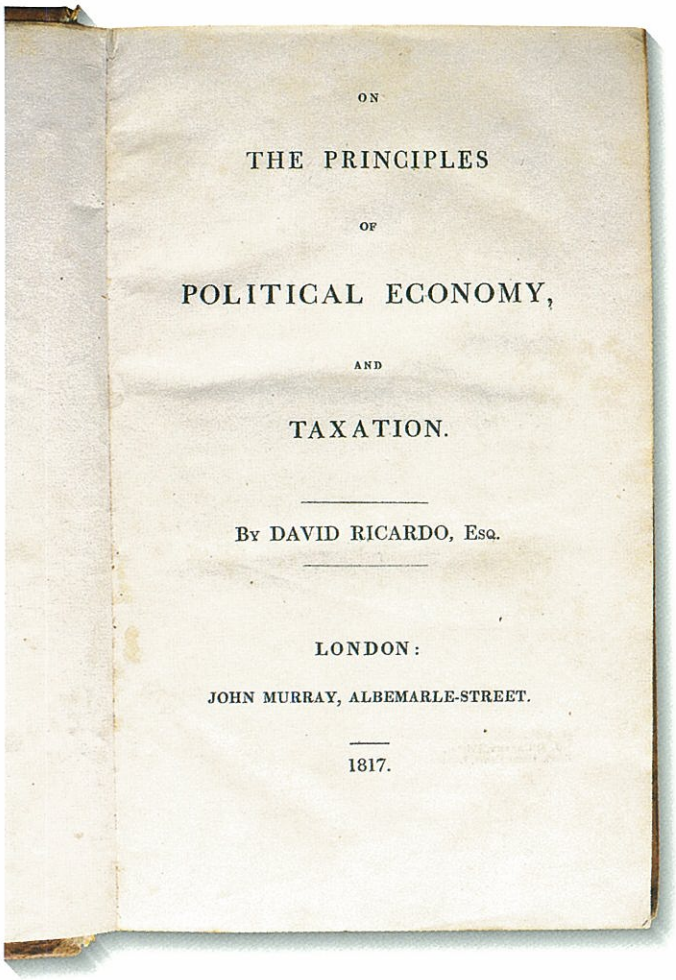
IMPRIMÉ A PHILADELPHIE, CHEZ P. M. LAFOURCADE, NO. 114, SECONDE RUE NORD.

1817.

[Dupon de Nemours, Pierre Samuel,] 1739-1817
Examen du livre de M. Malthus sur le principe de population; auquel on a joint la traduction de quatre chapitres de ce livre supprimés dans l'Eition française; et une lettre A M. Say sur son traité d'economie politique.
Philadelphia : P. M. Lafourcade,　1817　[4],159p. ; 22 cm

重農学派の理論の普及に大きな寄与を果たしたデュポン・ド・ヌムール最後の著作。著者は、本書が刊行されたその年にアメリカのデラウェアで没した。晩年、交友のあったセーに宛てた「政治経済学概論」に関する書簡を収めている。

90. リカード（1772～1823）
「経済学及び課税の原理」初版　1817年　ロンドン刊



ON

THE PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY,

AND

TAXATION.

By DAVID RICARDO, Esq.

LONDON:

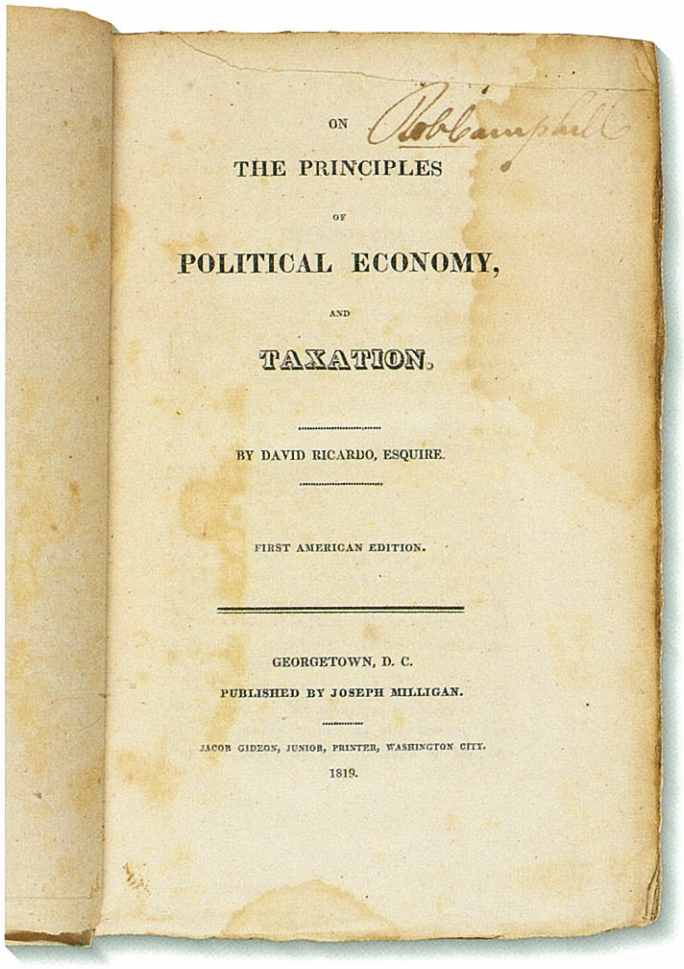
JOHN MURRAY, ALBEMARLE-STREET.

1817.

Ricardo, David, 1772-1823
On the principles of political economy, and taxation.
London : J. Murray,　1817　viii,589,[14]p. ; 23 cm
PMM 277　GK 21734

リカードは、イギリスの経済学者。アダム・スミスによって創設された古典派経済学の完成者である。ユダヤ系の証券仲介業者の子として生まれ、実業によって財をなした。アダム・スミスの著書に接して経済学への関心をもち、実業界を去って経済学の体系化に努めた。経済学の課題を「富の性質と原因」にあるというよりは、地代・利潤・賃金の分配を規定する法則を定めることであるとし、そのために古典派の価値論を完成させた。スミスによって創設された古典派経済学における彼の地位は極めて大きい。本書は単にリカードの主著であるだけでなく、古典派経済学の完成を記念する金字塔として不朽の名著となっている。

91. リカード(1772〜1823)
「経済学及び課税の原理」アメリカ初版　1819年　ジョージタウン刊



ON

THE PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY,

AND

TAXATION.

BY DAVID RICARDO, ESQUIRE.

FIRST AMERICAN EDITION.

GEORGETOWN, D. C.

PUBLISHED BY JOSEPH MILLIGAN.

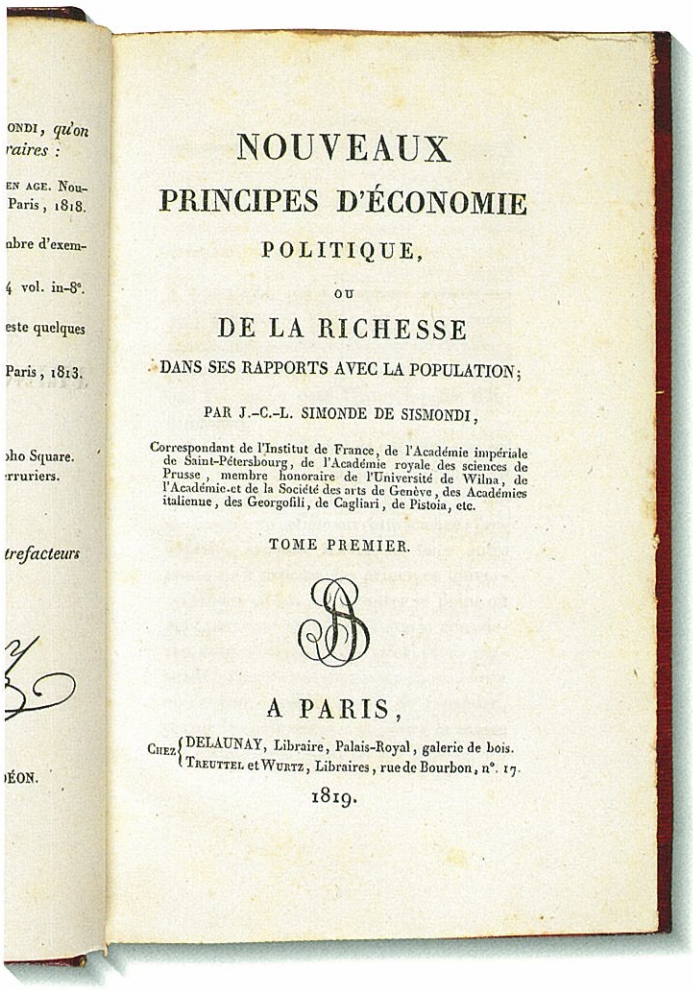
JACOB GIDEON, JUNIOR, PRINTER, WASHINGTON CITY.

1819.

Ricardo, David, 1772-1823
On the principles of political economy, and taxation.
First American ed.
Georgetown D. C. : Joseph. Milligan,　1819　viii,448,[8]p. ; 23 cm
cf.PMM 277　GK 22323

ロンドン版に基づいて出版され、19世紀においてリカードをアメリカに紹介した最初の本となった。トマス・ジェファーソンは、ミリガン書店が出版を企画した際に、内容が難解である点を指摘して出版を懸念したが、ミリガン書店は500部の出版に踏み切った。この出版はジェファーソンが指摘した通り失敗に終わったが、リカードの経済理論とその思想はカルドゾ、ヴェテーク、クーパーなどの経済学者によってアメリカに普及されることになった。

92. シスモンディ(1773〜1842)
「経済学新原理」初版　2巻　1819年　パリ刊



NOUVEAUX
PRINCIPES D'ÉCONOMIE
POLITIQUE,
OU
DE LA RICHESSE
DANS SES RAPPORTS AVEC LA POPULATION;

PAR J.-C.-L. SIMONDE DE SISMONDI,

Correspondant de l'Institut de France, de l'Académie impériale de Saint-Pétersbourg, de l'Académie royale des sciences de Prusse, membre honoraire de l'Université de Wilna, de l'Académie et de la Société des arts de Genève, des Académies italienne, des Georgofili, de Cagliari, de Pistoia, etc.

TOME PREMIER.

A PARIS,

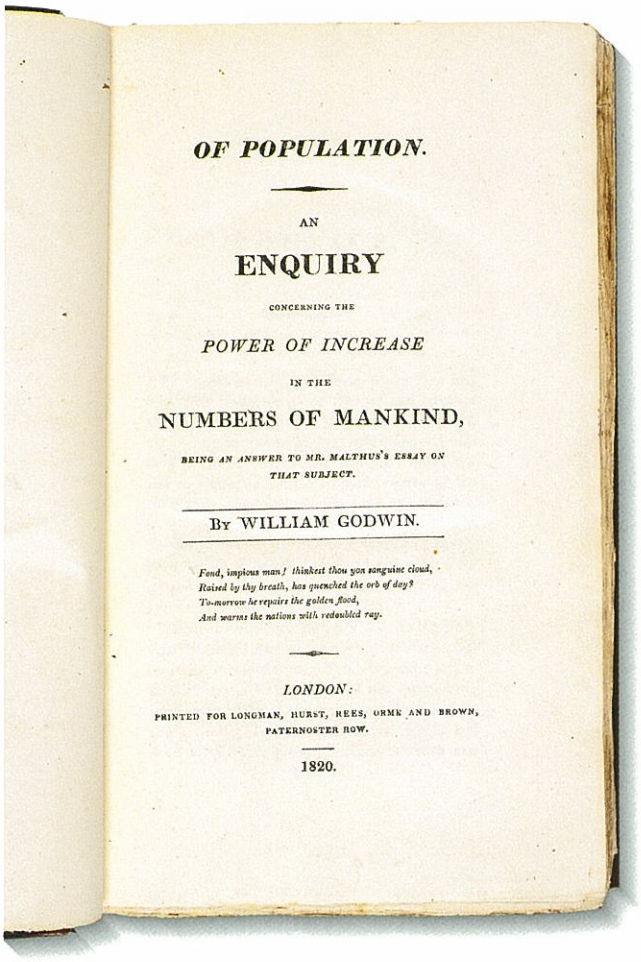
CHEZ { DELAUNAY, Libraire, Palais-Royal, galerie de bois.
TREUTTEL et WURTZ, Libraires, rue de Bourbon, n°. 17.

1819.

Sismondi, Jean Charles Leonard Simonde de. 1773-1842
Nouveaux principes d'économie politique, ou de la richesse dans ses rapports avec la population;
Paris : Delaunay, Treuttel et Wurtz　1819　2 vols. ; 21cm
GK 22333

本書は、シスモンディが1818年にエディンバラ百科全書の刊行に際し、経済学の部分を担当執筆したことで、シスモンディ自身の理論的体系化へ進み結実をみたものである。彼は、本書の中で経済学史上初めて全般的過剰生産的恐慌の必然に注目した。彼の過少消費説的恐慌論はマルサスへと継続されるが、セーの批判を契機に恐慌論争へと発展したことで知られる。また、彼の思想は、19世紀末のロシア人民主義へも受け継がれたが、レーニンによる厳しい批判の的となった。本書は、ナポレオン敗退後にウィーン体制によって成立したヨーロッパの政治的反動と、1815年以降の恐慌を契機に、それまで標榜していたスミスの体系に修正を加え、自らの経済学上の新原理を宣言したもので、資本主義分析を定着させた著作として知られている。

93. ゴドウィン（1756～1836）
「人口について」初版　1820年　ロンドン刊



OF POPULATION.

AN

ENQUIRY

CONCERNING THE

POWER OF INCREASE

IN THE

NUMBERS OF MANKIND,

BEING AN ANSWER TO MR. MALTHUS'S ESSAY ON THAT SUBJECT.

BY WILLIAM GODWIN.

Fond, impious man! thinkest thou yon sanguine cloud,
Raised by thy breath, has quenched the orb of day?
To-morrow he repairs the golden flood,
And warms the nations with redoubled ray.

LONDON:

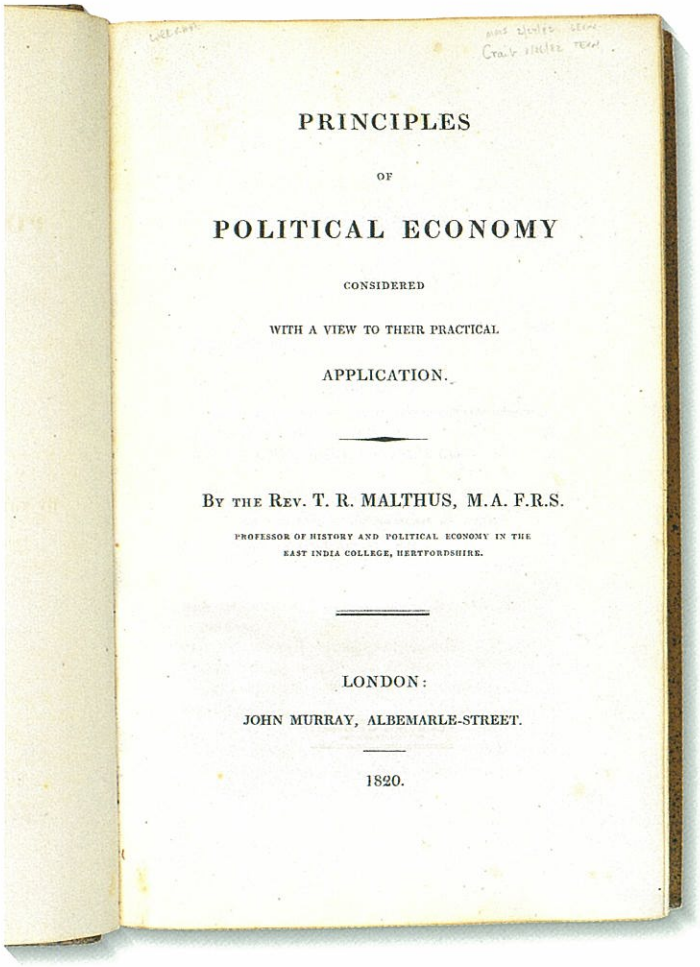
PRINTED FOR LONGMAN, HURST, REES, ORME AND BROWN, PATERNOSTER ROW.

1820.

Godwin, William, 1756-1836
Of population. An enquiry concerning the power of increase in the numbers of mankind, being an answer to Mr. Malthus's essay on that subject.
London : Longman, Hurst, Rees, Orme and Brown,　1820　22,626p. ; 23cm
GK 22818

ゴドウィンは、イギリスの無政府主義者。啓蒙思想の影響を受けて、非国教徒の牧師から無神論者に転向した。本書は、1801年に出版した<Thoughts on occasioned by the perusal of Dr.Parr's spital Sermon>以来の沈黙を破って表明したマルサスの「人口論」に対する批判書である。ゴドウィンは、主著「政治的正義」で名声を得たが、マルサスの「人口論」によってゴドウィン的理想社会を空想に過ぎないと批判され致命傷を受けた。そのためマルサスに回答書を書くが、過去の名声は戻らなかった。

94. マルサス（1766～1834）
「経済学原理」初版　1820年　ロンドン刊



PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY

CONSIDERED

WITH A VIEW TO THEIR PRACTICAL

APPLICATION.

BY THE REV. T. R. MALTHUS, M.A. F.R.S.

PROFESSOR OF HISTORY AND POLITICAL ECONOMY IN THE
EAST INDIA COLLEGE, HERTFORDSHIRE.

LONDON:

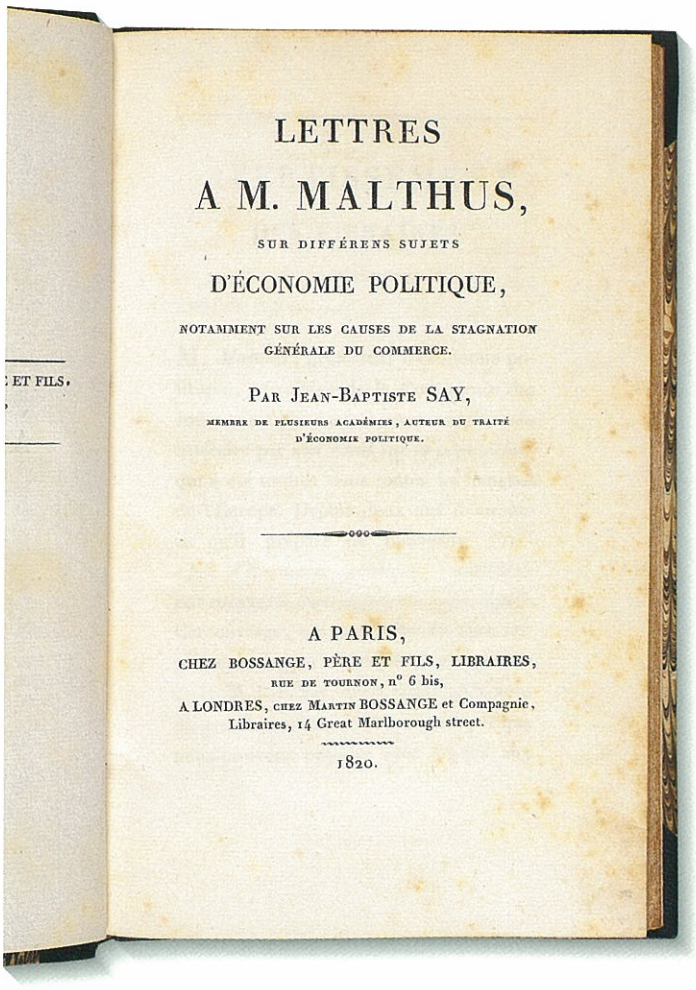
JOHN MURRAY, ALBEMARLE-STREET.

1820.

Malthus, Thomas Robert, 1766-1834
Principles of political economy considered with a view to their practical application.
London : John. Murray,　1820　vi,601p. ; 22cm
GK 22767

本書は、「人口論」で有名なマルサスが、リカードの「政治経済学および課税の原理」の刊行に触発されて、東インド大学における自己の講義をまとめて出した経済学上の主著である。この中で、マルサスはリカードの説に反対して富、労働、価値、差額地代、恐慌などに関する自説を主張しているが、本書の主なねらいは、当時の進歩的階級であった産業資本家の立場に立つリカードの学説を、反動的階級たる地主の立場から論難しようとするところにおかれた。

95. セー（1767～1832）
「マルサス宛セー書簡集」初版　1820年　パリ刊



LETTRES

A M. MALTHUS,

SUR DIFFÉRENS SUJETS

D'ÉCONOMIE POLITIQUE,

NOTAMMENT SUR LES CAUSES DE LA STAGNATION GÉNÉRALE DU COMMERCE.

PAR JEAN-BAPTISTE SAY,

MEMBRE DE PLUSIEURS ACADÉMIES, AUTEUR DU TRAITÉ D'ÉCONOMIE POLITIQUE.

A PARIS,

CHEZ BOSSANGE, PÈRE ET FILS, LIBRAIRES,

RUE DE TOURNON, n° 6 bis,

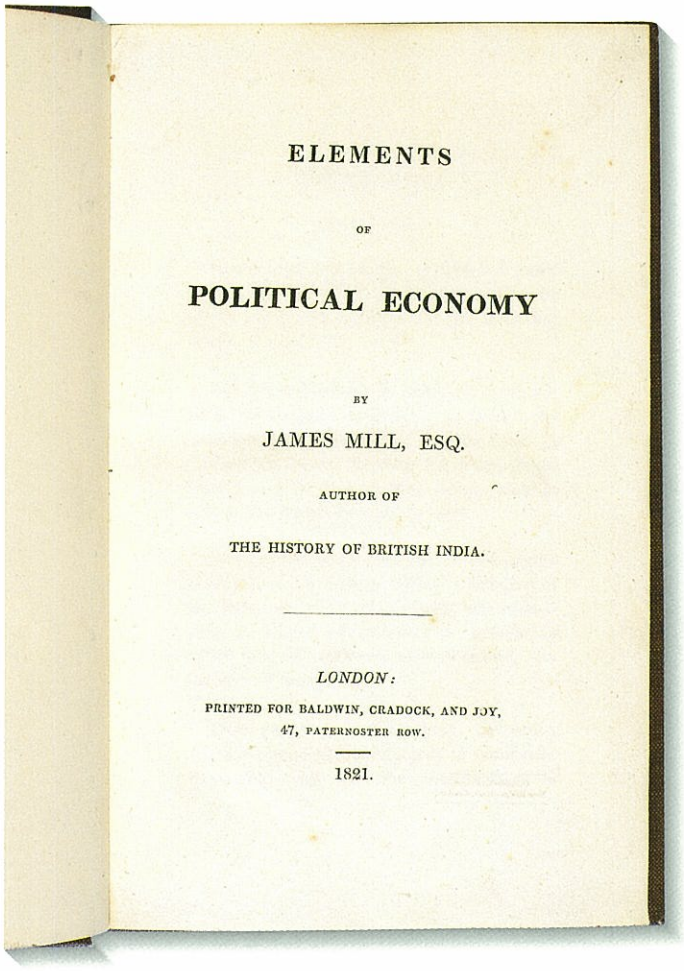
A LONDRES, CHEZ MARTIN BOSSANGE et Compagnie, Libraires, 14 Great Marlborough street.

1820.

Say, Jearn-Baptiste, 1767-1832
Lettres A M Malthus, sur différens sujets d'économie politique, notamment sur les causes de la stagnation générale du commerce.
Paris : Bossange,　1820　[8],184p. ; 20cm
GK 22780

シスモンディ、マルサス対セーの論争は、1819年にシスモンディが「経済学新原理」の中で、最初に恐慌論を説いたことに端を発している。セーは、本書簡集において、ナポレオン戦争後の恐慌との関連で、シスモンディ、ついでマルサスの恐慌論＝過少消費説に対して「販路の理論」をもって反駁している。マルサスは、「経済学原理」第3版の改訂にあたって、このセーの書簡集を参考にしたといわれている。

96. J.ミル（1773〜1836）
「経済学要綱」初版　1821年　ロンドン刊



ELEMENTS

OF

POLITICAL ECONOMY

BY

JAMES MILL, ESQ.

AUTHOR OF

THE HISTORY OF BRITISH INDIA.

LONDON:

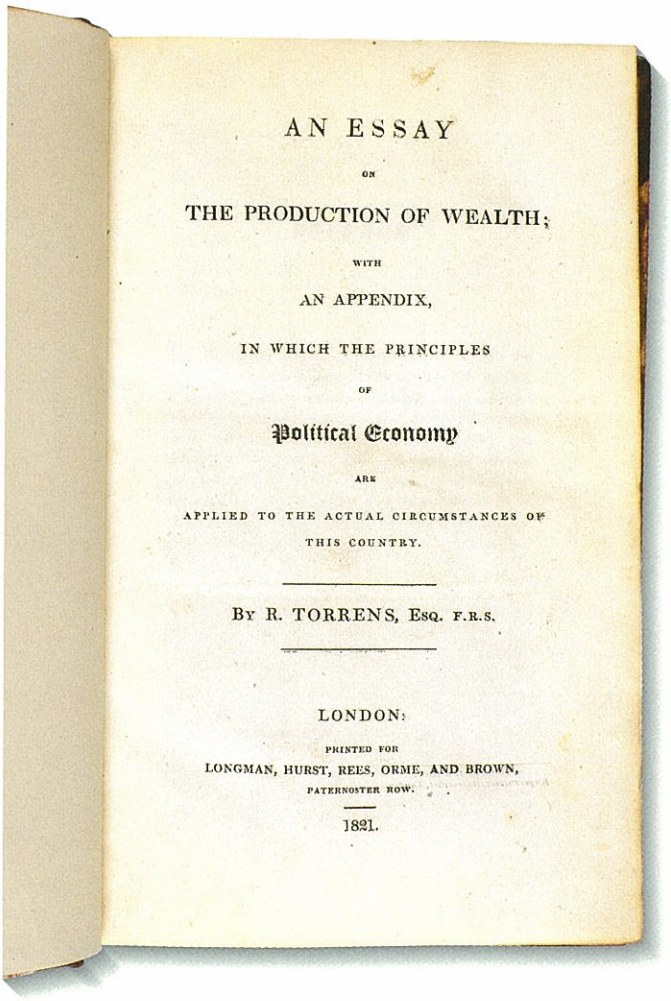
PRINTED FOR BALDWIN, CRADOCK, AND JOY,
47, PATERNOSTER ROW.

1821.

Mill, James, 1773-1836
Elements of political economy.
London : Baldwin, Cradock and Joy,　1821　viii,240p. ; 22 cm
GK 23118

J.ミルは、イギリスの政治思想家であり、J.S.ミルの父親として知られる。功利主義の代表者の一人。本書は、息子J.S.ミルと毎日の散策の中で講述したものを素材として、イギリスで最初の4分法（生産、分配、交換、消費）を採用し、難解なリカードの経済学を平易に解説したものである。リカードの主著「経済学及び課税の原理」に対する普及版、あるいは教科書として書かれた。リカードの経済学を俗流に導くことになり、マルサスやベイリーに批判されることになった。

97. トレンズ（1780～1864）
「富の生産」初版　1821年　ロンドン刊



AN ESSAY

ON

THE PRODUCTION OF WEALTH;

WITH

AN APPENDIX,

IN WHICH THE PRINCIPLES

OF

Political Economy

ARE

APPLIED TO THE ACTUAL CIRCUMSTANCES OF

THIS COUNTRY.

BY R. TORRENS, ESQ. F.R.S.

LONDON:

PRINTED FOR

LONGMAN, HURST, REES, ORME, AND BROWN,

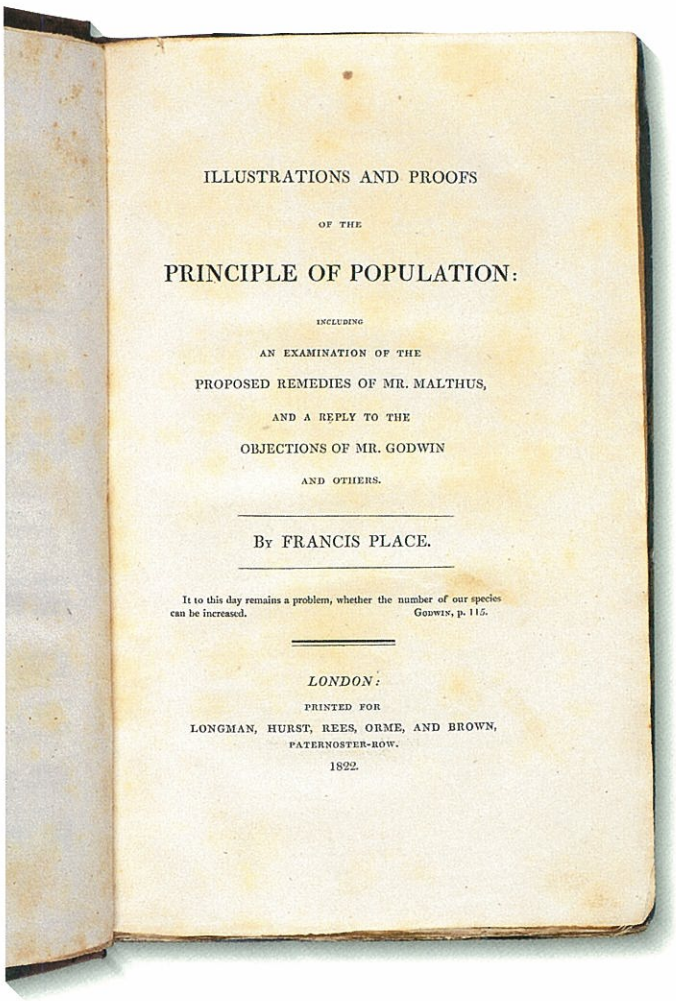
PATERNOSTER ROW.

1821.

Torrens, Robert, 1780-1864
An essay on the production of wealth:
with an appendix in which the principles of political economy are applied to the actual circumstances of this country.
London : Longman, Hurst, Rees, Orme and Brown,　1821　xvi,430p. ; 21cm
GK 23151

トレンズは、イギリスの軍人で経済学者。軍務に服し、国会議員にもなり、退役して経済学を研究した。マルサス、リカードとともに古典派経済学説の建設者の一人で、地代論、労賃論、利潤論を発展させ、リカードと並んで比較生産費説の代表者である。穀物法には早くから反対し、通貨主義の主要な代表者の一人として、ピールの行った改革に原理的根拠を与えた。本書は、トレンズの主著で、副題に「付録を含む、その付録の中で政治経済学の原理がこの国の現状に適用される」とあり、その付録が別冊として刊行される予定だったが、結局刊行されなかった。

98. プレース（1771～1854）
「人口原理の例証」初版　1822年　ロンドン刊



ILLUSTRATIONS AND PROOFS

OF THE

PRINCIPLE OF POPULATION:

INCLUDING

AN EXAMINATION OF THE

PROPOSED REMEDIES OF MR. MALTHUS,

AND A REPLY TO THE

OBJECTIONS OF MR. GODWIN

AND OTHERS.

BY FRANCIS PLACE.

It to this day remains a problem, whether the number of our species can be increased. GODWIN, p. 115.

LONDON:

PRINTED FOR

LONGMAN, HURST, REES, ORME, AND BROWN,

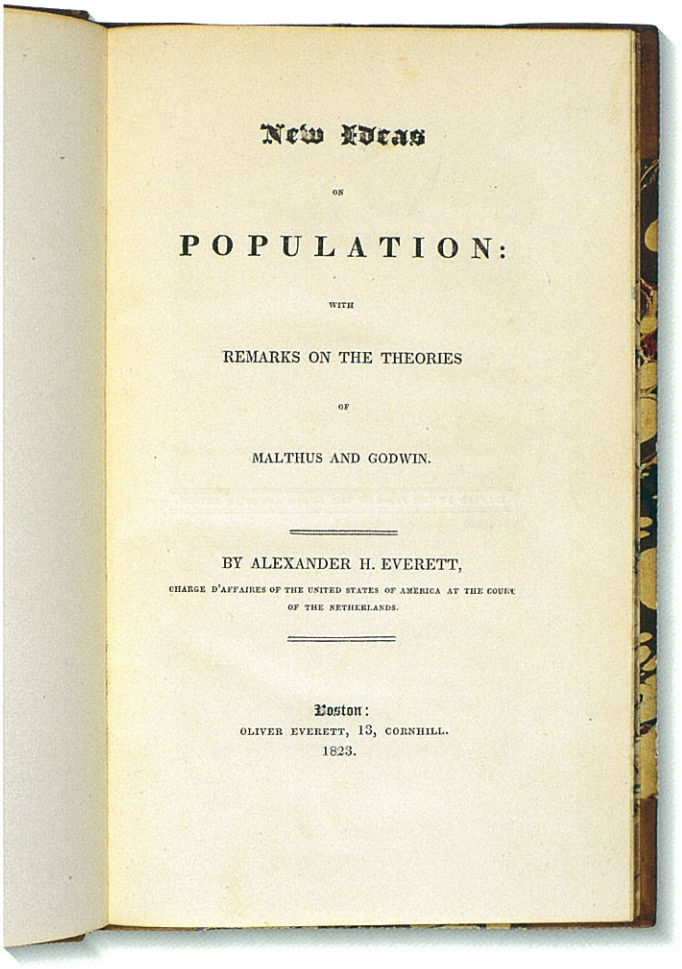
PATERNOSTER-ROW.

1822.

Place, Francis, 1771-1854
Illustrations and proofs of the principle of population : including an examination of the proposed remedies of Mr. Malthus, and a reply to the objections of Mr. Godwin and others.
London : Longman, Hurst, Rees, Orme and Brown,　1822　16,xv,280p. ; 23cm
GK 23493

本書は、1820年に、マルサスの「人口論」を批判してゴドウィンが著した「人口について（Of Population）」への答弁として書かれたもので、人口増加の制御のために産児制限が提示され、新マルサス主義の最初の体系的著述として、またマルサスの「人口論」論争史上でも特に重要な地位を占めている。プレースは執筆にあたり、ゴドウィンの理論的矛盾を暴露しようと試み、マルサスの学説を承認しながらも、マルサス的な抑制論の独善性と非現実性を批判し、都市の産業労働者の無知と貧困を救い、特に婦人の開放や子供の教育向上のために多産による家族の圧迫を避ける手段として、結婚後の産児制限を提唱した。

99. エヴァレット（1790～1847）
「人口新論」初版　1823年　ボストン刊



New Ideas

ON

POPULATION:

WITH

REMARKS ON THE THEORIES

OF

MALTHUS AND GODWIN.

BY ALEXANDER H. EVERETT,

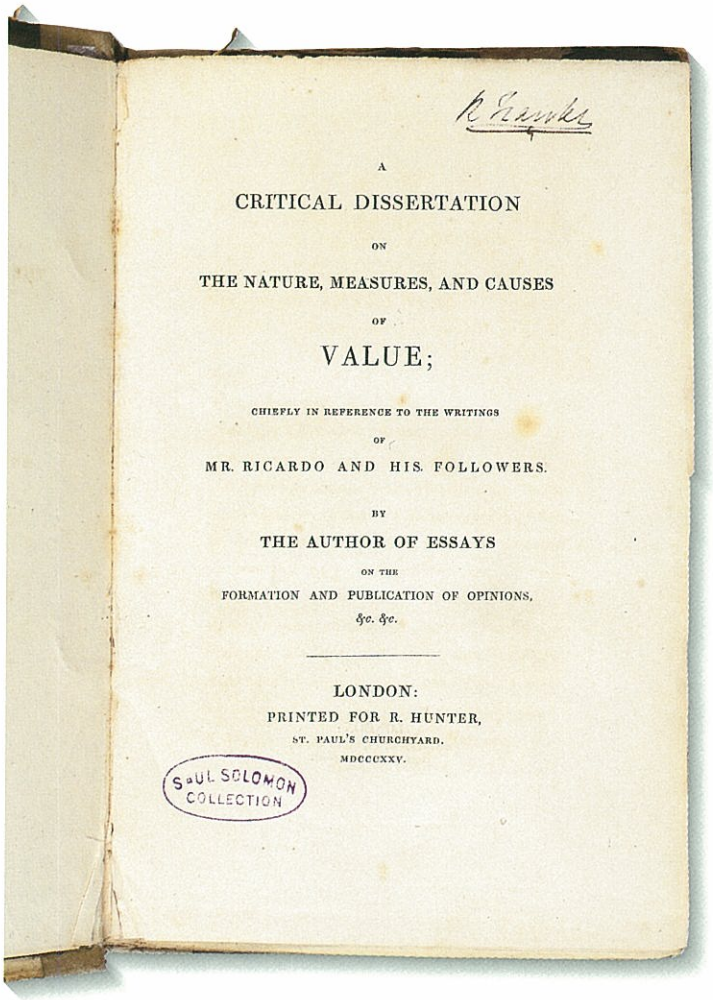
CHARGE D'AFFAIRES OF THE UNITED STATES OF AMERICA AT THE COURT OF THE NETHERLANDS.

Boston:
OLIVER EVERETT, 13, CORNHILL.
1823.

Everett, Alexander Hill, 1790-1847
New ideas on population : with remarks on the theories of Malthus and Godwin.
Boston : Oliver Everett,　1823　125p. ; 22cm
GK 23786

エヴァレットは、プレースやタムソンとともにマルサスの「人口論」に先行する著名な人口論者の一人。本書は、マルサスとゴドウィンの人口論に対する反駁書。マルサスをめぐる人口論争の中でも重要な著作のひとつとして位置づけられている。本書においてエヴァレットは、マルサスが人口増加を生活資糧の消費への影響面のみを考慮し、その供給への作用を無視していることや、人口増加が供給に比較して労働生産物への重要増加をもたらし、それが困難と希少をもたらすと結論づけている点などについて批判し、外交官を務めるかたわら、マルサスと直接会見してこれらの論点について論議を行っている。

100. ベイリー（1791～1870）
「リカード価値論の批評」初版　1825年　ロンドン刊



A

CRITICAL DISSERTATION

ON

THE NATURE, MEASURES, AND CAUSES

OF

VALUE;

CHIEFLY IN REFERENCE TO THE WRITINGS

OF

MR. RICARDO AND HIS FOLLOWERS.

BY

THE AUTHOR OF ESSAYS

ON THE

FORMATION AND PUBLICATION OF OPINIONS,

&c. &c.

LONDON:

PRINTED FOR R. HUNTER,

ST. PAUL'S CHURCHYARD.

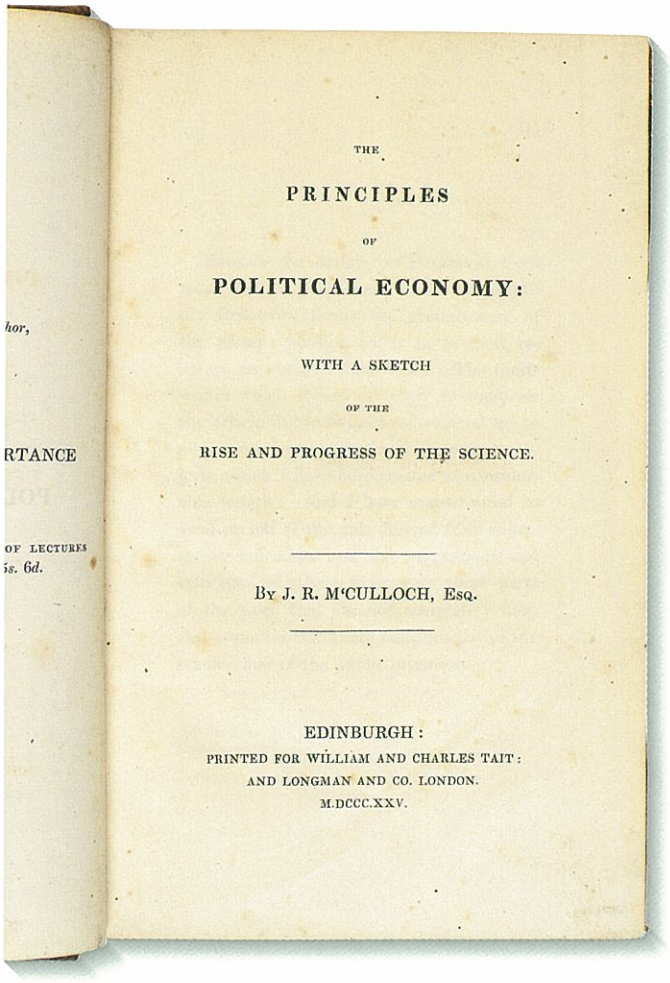
MDCCCXXV.

SAUL SOLOMON COLLECTION

[Balley, Samuel], 1791-1870
A critical dissertation on the nature, measures, and causes of value; chiefly in reference to the writings of Mr. Ricardo and his.
London : R. Hunter,　1825　xxviii,255p. , table ; 20cm
GK 24381

本書は、イギリスの哲学者、経済学者ベイリーがリカードの死後2年経った1825年に匿名で発表したリカードの価値論批判で、リカード派経済学に対して当時最も激しく攻撃した論文であった。「ウェストミンスター・レビュー」においてジェームズ・ミルが匿名で本書を激しく論駁し、またマカロック、トレンズ、トゥークなど当時出典を明らかにしない傾向にあった時代に多数の人々がこの著作を引用し、攻撃していることなどから、この著作がもたらした衝撃の大きさが計り知れる。

101. マカロック（1789～1864）
「経済学原理」初版　1825年　エディンバラ刊



THE

PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY:

WITH A SKETCH

OF THE

RISE AND PROGRESS OF THE SCIENCE.

By J. R. M'CULLOCH, Esq.

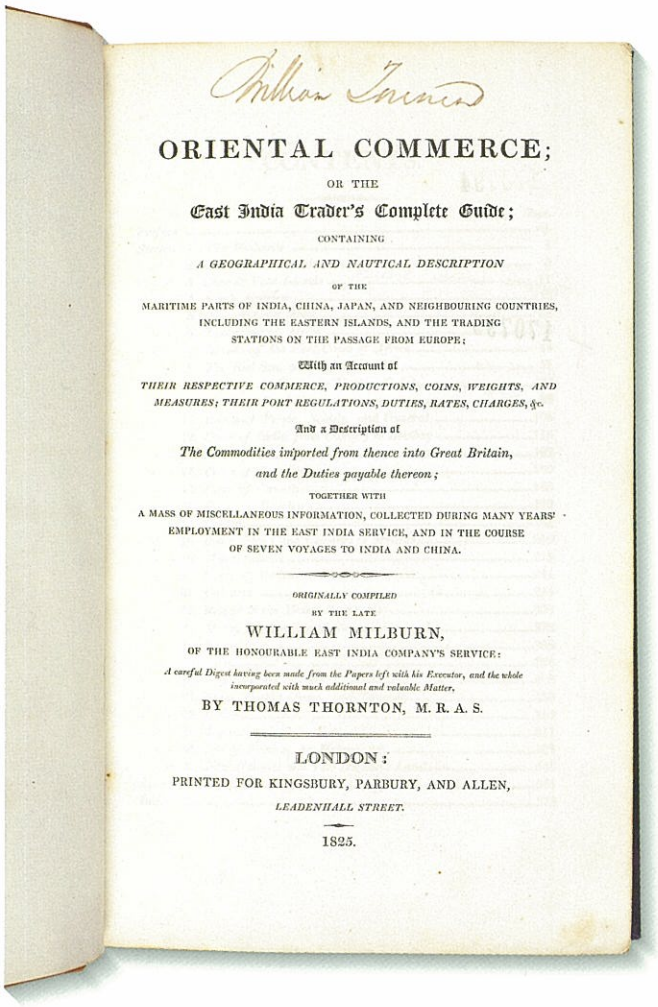
EDINBURGH:
PRINTED FOR WILLIAM AND CHARLES TAIT:
AND LONGMAN AND CO. LONDON.
M.DCCC.XXV.

McCulloch, John Ramsay, 1789-1864
The principles of political economy : with a sketch of the rise and progress of the Science.
Edinburgh : W. and C. Tait,　1825　x,423p. ; 22cm
GK 24417

マカロックは、スコットランドの経済学者。彼は、1816年に刊行した「国債の利子引下げについての一論」で文筆生活に入り、リカードとの友人関係が始まった。マカロックは、ロンドン大学の教授であった1828～37年の間を除き、主な収入源は原稿料であったためか彼の著作は極めて多く、エディンバラ・レヴュー誌への寄稿論文は78点を数える。啓蒙家であったため理論的側面については、リカードを超えるものはないが、彼の研究テーマは広く、価値論の他、貨幣及び銀行論、国際貿易政策、財政、資本と成長、貧困と移民、賃金、組合、労働時間、農業と地代などに及んでいる。

本書はマカロックの主著であるが、ミルの「経済学綱要」（1821年）とともにリカードの「政治経済学及び課税の原理」（1817年）の俗流的解説書で、リカードの主要学説たる価値論及び分配論の全部または大部分を承認し、通俗的に解り易くした著作である。

102. ミルバーン（1810頃）
「東インド貿易要覧」初版　1825年　ロンドン刊



ORIENTAL COMMERCE;

OR THE

East India Trader's Complete Guide;

CONTAINING

A GEOGRAPHICAL AND NAUTICAL DESCRIPTION

OF THE

MARITIME PARTS OF INDIA, CHINA, JAPAN, AND NEIGHBOURING COUNTRIES, INCLUDING THE EASTERN ISLANDS, AND THE TRADING STATIONS ON THE PASSAGE FROM EUROPE;

With an Account of

THEIR RESPECTIVE COMMERCE, PRODUCTIONS, COINS, WEIGHTS, AND MEASURES; THEIR PORT REGULATIONS, DUTIES, RATES, CHARGES, &c.

And a Description of

The Commodities imported from thence into Great Britain, and the Duties payable thereon;

TOGETHER WITH

A MASS OF MISCELLANEOUS INFORMATION, COLLECTED DURING MANY YEARS' EMPLOYMENT IN THE EAST INDIA SERVICE, AND IN THE COURSE OF SEVEN VOYAGES TO INDIA AND CHINA.

ORIGINALLY COMPILED

BY THE LATE

WILLIAM MILBURN,

OF THE HONOURABLE EAST INDIA COMPANY'S SERVICE:

A careful Digest having been made from the Papers left with his Executor, and the whole incorporated with much additional and valuable Matter,

BY THOMAS THORNTON, M. R. A. S.

LONDON:

PRINTED FOR KINGSBURY, PARBURY, AND ALLEN,

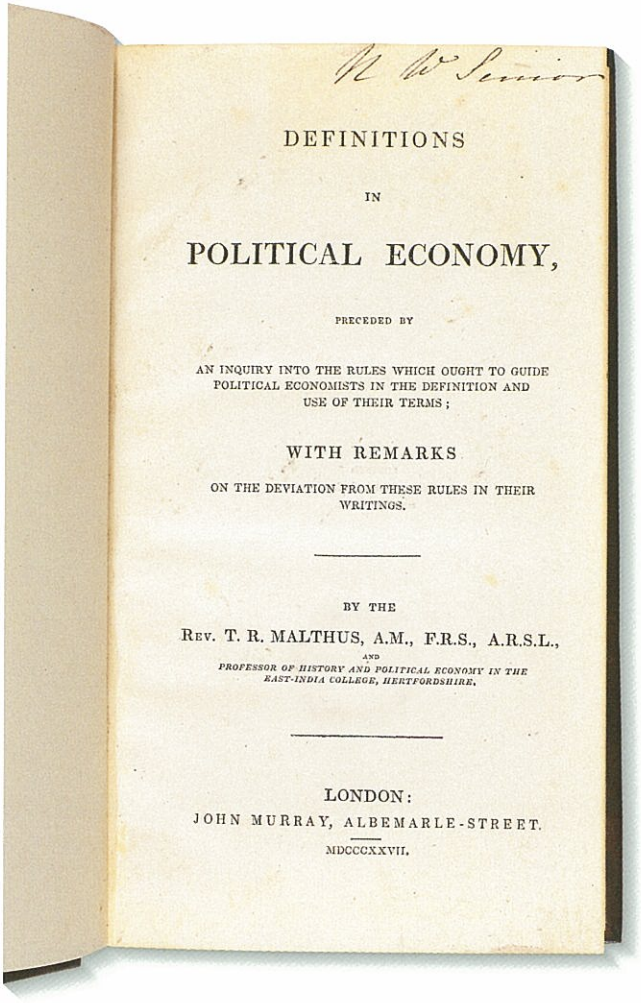
LEADENHALL STREET.

1825.

Milburn, William, fl.1810
Oriental commerce : or, The East India trader's complete guide : containing a geographical and nautical description of the maritime parts of India,China, Japan, and neighbouring countries... : with an account of their respective commerce ... and a description of the commodities imported from thence into Great Britain and the duties payable thereon : together with a mass of miscellaneous information ...
London : Kingsbury, Parbury, and Allen,　1825　[6],586p.,[20]fold. leaves of plates , maps ; 25cm
GK 24421

東インド会社の要人であったウィリアム・ミルバーンによって収集された東インド貿易に関する地誌や統計資料をもとに、19世紀イギリスのジャーナリスト、トマス・ソーントンがまとめたもので、東インド会社が交易しているすべての国の統計的データが盛り込まれている。

103. マルサス(1766～1834)
「経済学における諸定義」初版　1827年　ロンドン刊



N. W. Senior

DEFINITIONS

IN

POLITICAL ECONOMY,

PRECEDED BY

AN INQUIRY INTO THE RULES WHICH OUGHT TO GUIDE POLITICAL ECONOMISTS IN THE DEFINITION AND USE OF THEIR TERMS;

WITH REMARKS

ON THE DEVIATION FROM THESE RULES IN THEIR WRITINGS.

BY THE

REV. T. R. MALTHUS, A.M., F.R.S., A.R.S.L.,

AND

PROFESSOR OF HISTORY AND POLITICAL ECONOMY IN THE EAST-INDIA COLLEGE, HERTFORDSHIRE.

LONDON:

JOHN MURRAY, ALBEMARLE-STREET.

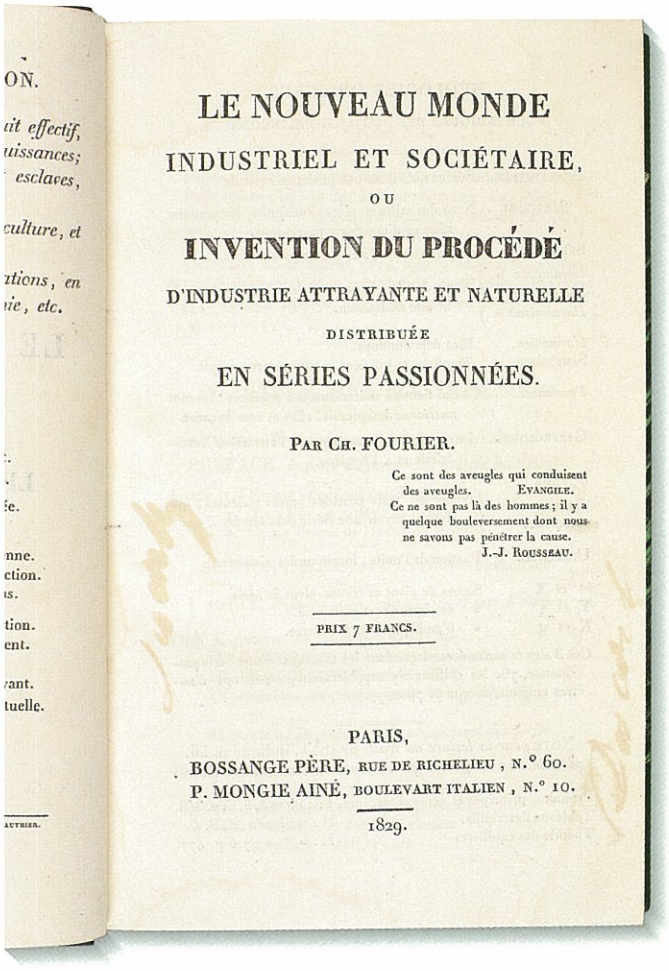
MDCCCXXVII.

Malthus,Thomas Robert, 1766-1834
Definitions in political economy, preceded by an inquiry into the rules which ought to guide political economists in the definition and use of their terms; with remarks on the deviation from these rules in their writings.
London : John Murray,　1827　viii,261p. ; 19cm
GK 25180

マルサスは本書において、経済学の定義の多様化とその曖昧な使用によって議論の厳密性が損なわれている事実を批判し、スミス、リカードなどの主導的な経済学者によって使用されている経済学用語を批判的に検討しながら鍵となる用語を定義づけることを試みている。

館蔵書は、経済学者ナッソー・シーニアの旧蔵書である。

104. フーリエ（1772～1837）
「産業的組合的新世界」初版　1829年　パリ刊



LE NOUVEAU MONDE
INDUSTRIEL ET SOCIÉTAIRE,
OU
INVENTION DU PROCÉDÉ
D'INDUSTRIE ATTRAYANTE ET NATURELLE
DISTRIBUÉE
EN SÉRIES PASSIONNÉES.

PAR CH. FOURIER.

Ce sont des aveugles qui conduisent des aveugles. EVANGILE.
Ce ne sont pas là des hommes ; il y a quelque bouleversement dont nous ne savons pas pénétrer la cause.
J.-J. ROUSSEAU.

PRIX 7 FRANCS.

PARIS,
BOSSANGE PÈRE, RUE DE RICHELIEU, N.° 60.
P. MONGIE AINÉ, BOULEVART ITALIEN, N.° 10.
1829.

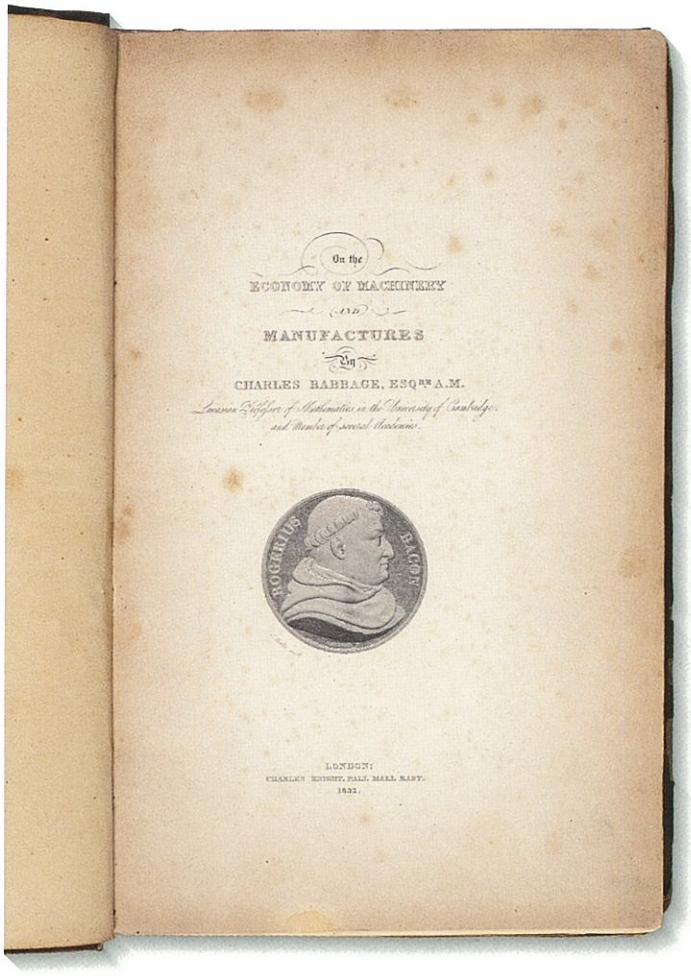
Fourier, Francois Marie Charles, 1772-1837
Le nouveau monde industriel et sociètaire, ou, Invention du procèdè d'industrie attrayante et naturelle distribuèe en sèrier passionnèes.
Paris : Bossange pere,　1829　xvi,576p. ; 20cm
GK 26035
Together with:
Le nouveau monde industriel, ou, invention du procèdè d' industrie attrayante et combinèe, distribuèe en sèrier passionnèes.
Paris : Bossange pere,　1830　p.577-664,32p ; 22cm
GK 26592

フーリエは、フランスの空想的社会主義者。富裕な毛織商の家に生まれ、商人となったが、フランス革命で財産を失った。のち旅商人などになり、各地を遍歴しながら商業投機の欺瞞性を知り、「4運動の理論」を発表して自然秩序と社会秩序に共通の原理に基づき、社会を再構成すべきことを説いた。

本書は、副題に「情念系列に配分された魅力的・自然的産業方法の発見」とあり、ニューヨークの某商会の代理商として生活の安定を得たフーリエが、1825年頃より彼の周囲に集まってきた少数の弟子たちの熱心な希望に応えるために、3ヵ年の準備を経て完成したもので、出版費は弟子の一人によって支出された。本書の内容は、序説で彼の学説の一般原理と基礎概念が説明され、ブルジョア文明のもとで産業の悪循環と未来の組合社会における産業の発展とが対比されている。本論は7部に分かれているが、要するに産業労働と人間の情念を満足させ、両者が完全に一致調和するような魅力的なものにする方法を論じたものである。

本書は、1830年に出版された「産業的新世界、別名魅力的、かつ情念系列に結合配分された産業方法の発見、その声明書」と題する小冊子に要約されている。

105. バベジ(1792～1871)
「機械および製造業経済論」初版　1832年　ロンドン刊

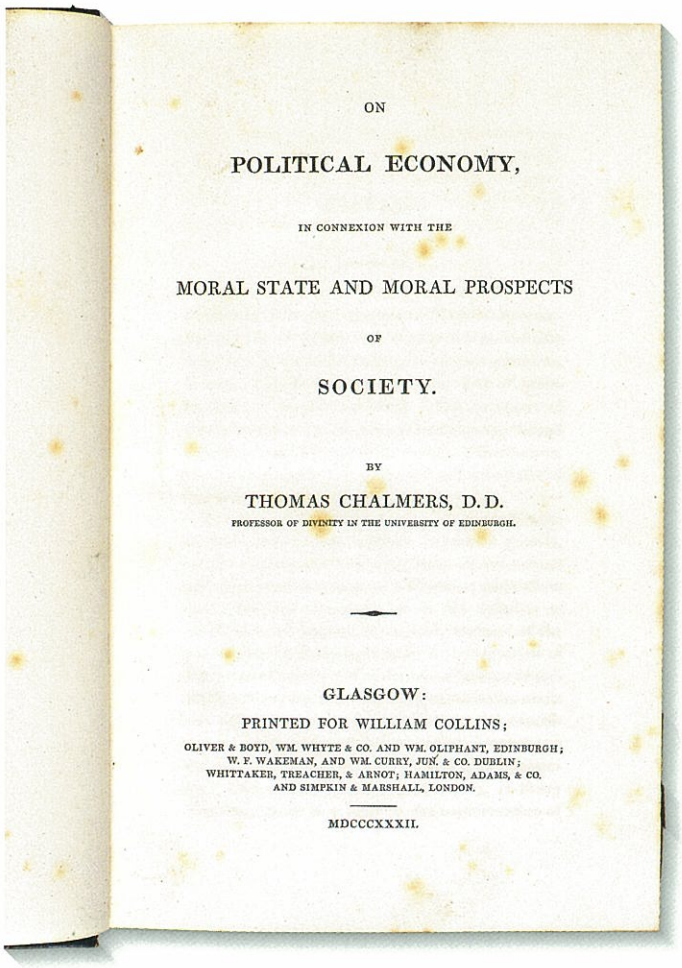

On the
ECONOMY OF MACHINERY
AND
MANUFACTURES
By
CHARLES BABBAGE, ESQRE A.M.
Lucasian Professor of Mathematics in the University of Cambridge,
and Member of several Academies.

LONDON:
CHARLES KNIGHT, PALL MALL EAST.
1832.

Babbage, Charles, 1792-1871
On the economy of machinery and manufactures.
London : Charles Knight,　1832　xvi,320,[2]p. ; 23cm
GK 27346

バベジは、イギリスの数学者でコンピュータの創始者として有名。本書は、バベジが計算機械の発明に関連して、工場の諸問題に深い関心をいだくようになり、イギリス及びヨーロッパ大陸における工場の実際的観察を介して展開した製造の技術及び経済論についての先駆的研究書である。特に製造過程や製造原価の分析並びに時間研究の使用について評価されており、テイラーの科学的管理法に先鞭をつけた著作として各国語に翻訳されている。

106. チャーマーズ(1780〜1847)
「経済学について」初版　1832年　グラスゴー刊



ON

POLITICAL ECONOMY,

IN CONNEXION WITH THE

MORAL STATE AND MORAL PROSPECTS

OF

SOCIETY.

BY

THOMAS CHALMERS, D.D.

PROFESSOR OF DIVINITY IN THE UNIVERSITY OF EDINBURGH.

GLASGOW:

PRINTED FOR WILLIAM COLLINS;

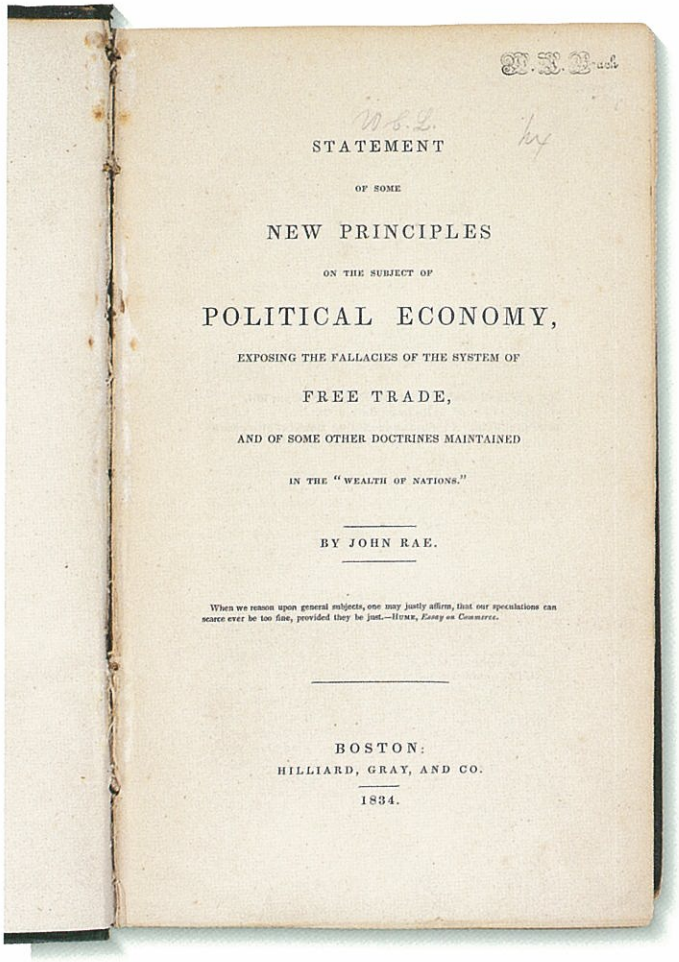
OLIVER & BOYD, WM. WHYTE & CO. AND WM. OLIPHANT, EDINBURGH;
W. F. WAKEMAN, AND WM. CURRY, JUN. & CO. DUBLIN;
WHITTAKER, TREACHER, & ARNOT; HAMILTON, ADAMS, & CO.
AND SIMPKIN & MARSHALL, LONDON.

MDCCCXXXII.

Chalmers, Thomas, 1780-1847
On political economy, in connexion with the moral state and moral prospects of society.
Glasgow : William. Collins,　1832　viii,566p. ; 22cm
GK 27260

スコットランドの牧師であったチャーマーズは、マルサスを踏襲した人口対策を主張し、救貧法や移民を否定してキリスト教的教育の必要性を説いた。また、地主階級の立場から重農主義的主張をしたチャーマーズは、本書において1808年のパンフレット「国家資源の範囲と安定性とに関する研究」を生かし、農業の重要性と商業の軽視を集約し、スミスの生産的労働論への批判を行っている。チャーマーズの学説の中では、マルサス理論に準じた収穫逓減の法則、人口論、そして地代に関するものが注目されている。また、リカードの土地差益を地代の原因とする理論に反対し、土地生産物の価格とその生産費(労賃と利潤)との間に差などがあることを地代の原因であると主張している。

107. レー（1790～1872）
「経済学新原理」初版　1834年　ボストン刊



STATEMENT

OF SOME

NEW PRINCIPLES

ON THE SUBJECT OF

POLITICAL ECONOMY,

EXPOSING THE FALLACIES OF THE SYSTEM OF

FREE TRADE,

AND OF SOME OTHER DOCTRINES MAINTAINED

IN THE "WEALTH OF NATIONS."

BY JOHN RAE.

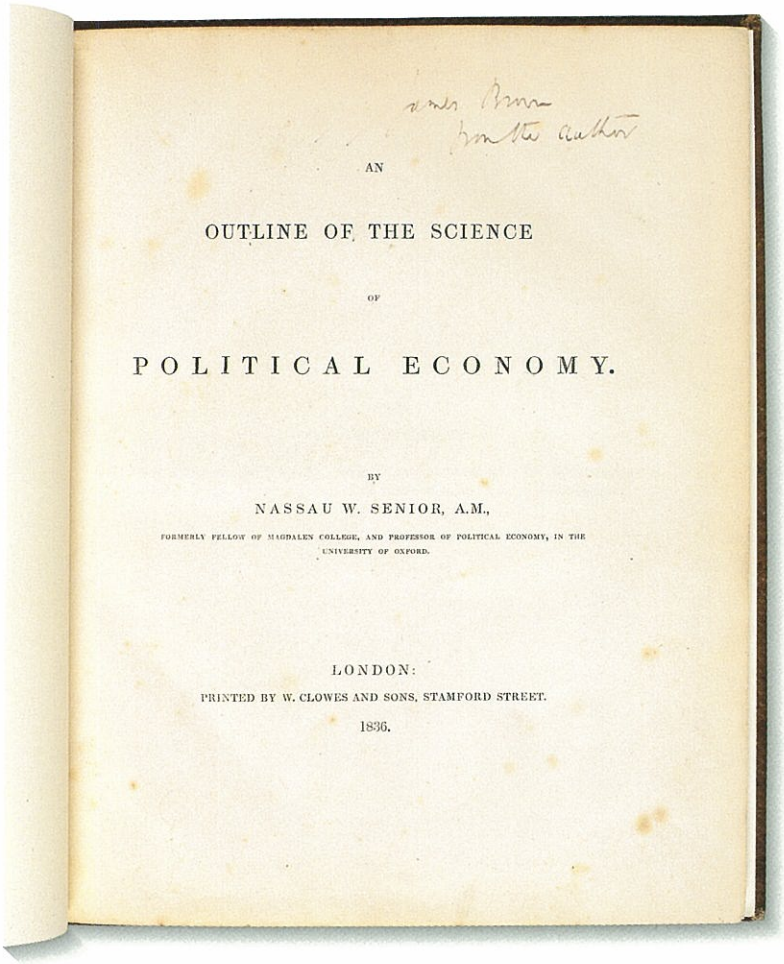
When we reason upon general subjects, one may justly affirm, that our speculations can scarce ever be too fine, provided they be just.—HUME, *Essay on Commerce.*

BOSTON:
HILLIARD, GRAY, AND CO.
1834.

Rea, John, 1790-1872
Statement of some new principles on the subject of political economy, exposing the fallacies of the system of free trade and of some other doctrines maintained in the "Wealth of nations".
Boston : Hilliard, Gray, 1834　xvi,414p. ; 24cm

ケアリ等の流れを汲むアメリカ学派の経済学者ジョン・レーの主著。レーは本書で、スミス批判を展開し、資本の性質とその増殖をスミスのように個人的な節約や蓄積に求めず社会的関係に求め、さらに資本利子の本質を現在財と将来財とに対する価値認識上の社会心理的差異に求めている。本書はのちミルの引用するところとなったが、それは資本と利子に関するものではなく、教育関税に関する主張の部分であった。以後、独創的な見解をもった著作が常にそうであったように、本書も忘れ去られていたが、ベーム・バヴェルクの理論が注目されるようになった1895年にC.G.ミックスターが本書を見出し、世の注目を浴びるようになった。ベーム・バヴェルクの「資本および資本利子」の先駆的見解を示したといわれる。

108. シーニア（1790～1864）
「経済学要綱」初版　1836年　ロンドン刊



AN

OUTLINE OF THE SCIENCE

OF

POLITICAL ECONOMY.

BY

NASSAU W. SENIOR, A.M.,

FORMERLY FELLOW OF MAGDALEN COLLEGE, AND PROFESSOR OF POLITICAL ECONOMY, IN THE UNIVERSITY OF OXFORD.

LONDON:

PRINTED BY W. CLOWES AND SONS, STAMFORD STREET.

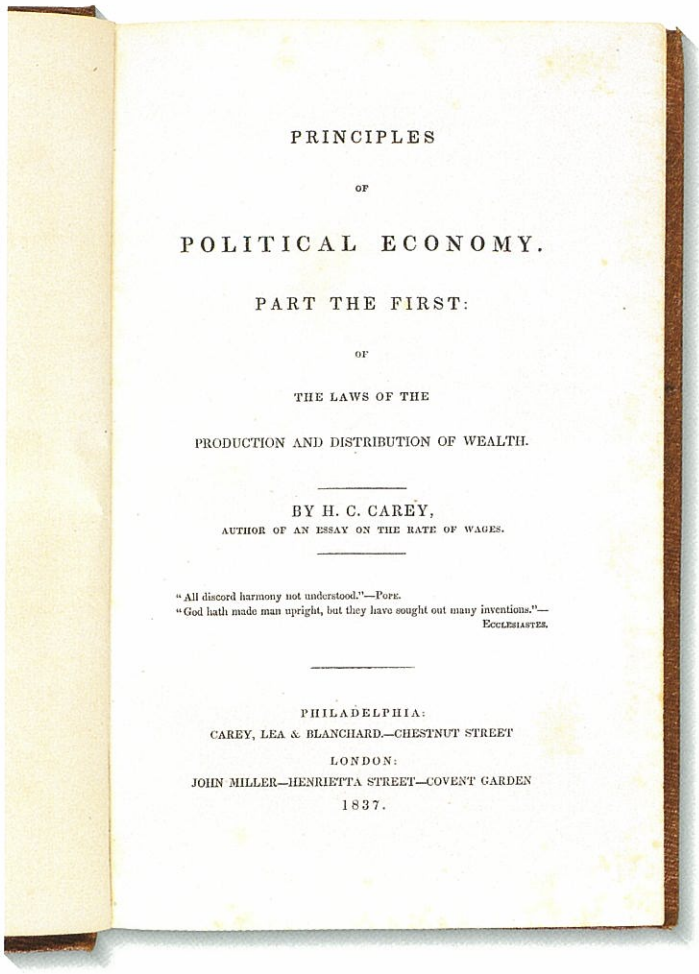
1836.

Senior, Nassau William, 1790-1864
An outline of the science of political economy.
London : W. Clowes and sons,　1836　[4],129-224p. ; 27cm
GK 29359

シーニアは、イギリスの経済学者。イートンとオックスフォードに学び、オックスフォード大学の経済学教授を務め、スミス、リカードの学説を継承し、制欲説や賃金基金説を発展させた人物として記憶される。1833年には救貧法委員会のメンバーとして任命され、翌年その報告書を書き、新救貧法の草案の作成にも携わった。その他、1837年には工場法の成立について貢献し、1841年には手織工委員会委員としても活躍した。また、40年以後は"Edingurg Review"への寄稿を通じて、社会問題について有力な発言をしている。

本要綱は、はじめ百科事典"Encyclopedia Metropolitana"中の経済学の項目として書かれたが、第2版（1850）以降は、"Political Economy"と改称の上、単行本として出版された。本書は、彼が経済学教授を務めたオックスフォード大学での講義を集大成したもので、現実の階級対立の主要な点が資本家対地主から、資本家対労働者に移行したことに即応した新しい理論を提示していたことから、その後の経済学者に与えた影響は大きい。

109. ケアリ（1793～1879）
「経済学の原理」初版　3巻　1837-1840年　フィラデルフィア刊



PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY.

PART THE FIRST:

OF

THE LAWS OF THE

PRODUCTION AND DISTRIBUTION OF WEALTH.

BY H. C. CAREY,
AUTHOR OF AN ESSAY ON THE RATE OF WAGES.

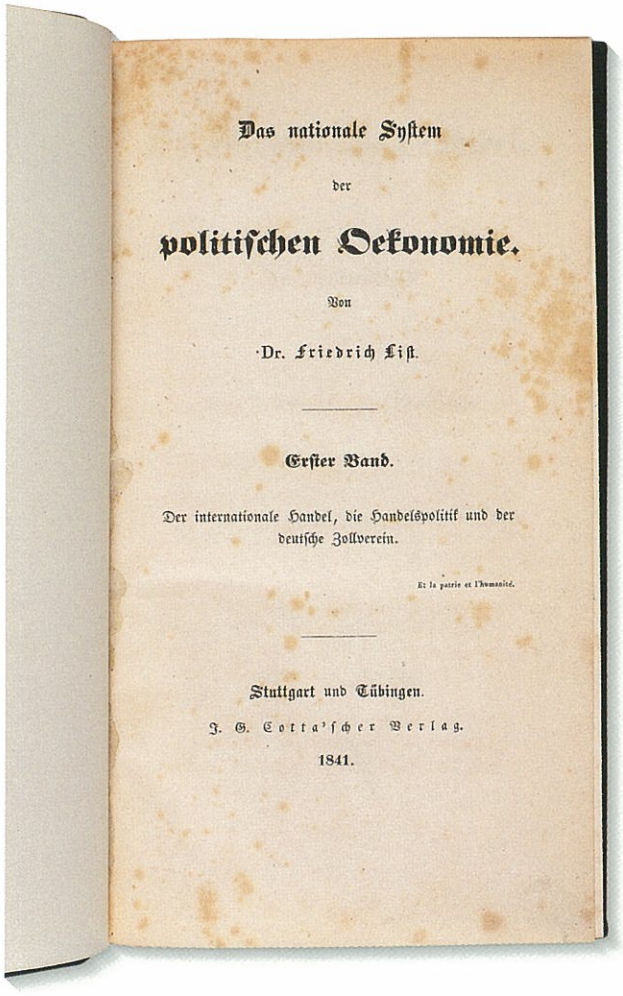
"All discord harmony not understood."—Pope.
"God hath made man upright, but they have sought out many inventions."—
Ecclesiastes.

PHILADELPHIA:
CAREY, LEA & BLANCHARD.—CHESTNUT STREET
LONDON:
JOHN MILLER—HENRIETTA STREET—COVENT GARDEN
1837.

Carey, Henry Charles, 1793-1879
Principles of political economy.
Philadelphia : Carey, Lea & Blanchard,　1837-40　3 vols. ; 23cm
GK 29768

ケアリはアメリカの経済学者。父の後を継いで書籍商や出版業を経営していたが、1835年に実業界から引退し、著述に専念した。J.S.ミル等とも親しく、1842年頃以後は国民主義の立場からアダム・スミスやリカードの古典派経済学を批判し、保護貿易論を主張した。本書はケアリが書いた最初の著作で、彼は本書において労働価値学説をとった。

110. リスト（1789～1846）
「経済学の国民的大系」初版　1841年　シュツットガルト刊



Das nationale System
der
politischen Oekonomie.
Von
Dr. Friedrich List.

Erster Band.

Der internationale Handel, die Handelspolitik und der deutsche Zollverein.

Et la patrie et l'humanité.

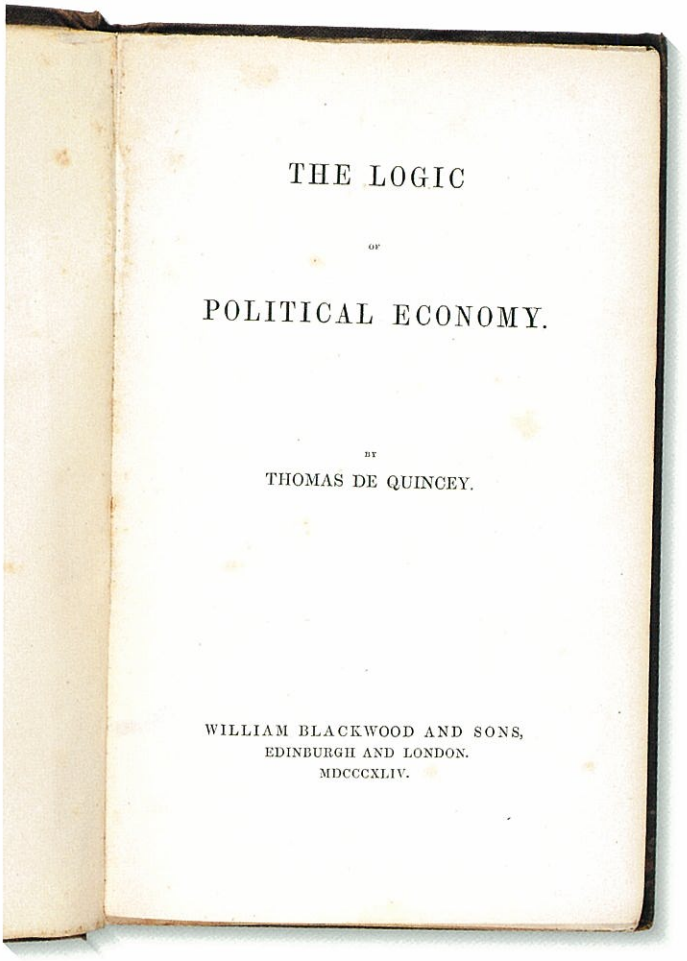
Stuttgart und Tübingen.
J. G. Cotta'scher Verlag.
1841.

List, Friedrich, 1789-1846
Das nationale System der politischen Oekonomie : erster Band
Stuttgart : J. G. Cotta,　1841　lxviii,[2],589p. ; 21cm
PMM 311　GK 31957

リストは、ドイツの経済学者。チュービンゲン大学の教授として、経済的ナショナリズムの論客として活躍した。ドイツ国内の関税統一を計り、1819年ドイツ商工業連盟を結成して、連邦内の関税撤廃及び適度な保護関税設置のために努力したが、政府の反感を買い免職処分にあった。その後アメリカに渡り、ジャーナリストとして保護関税の必要性を力説したが、迫害を受けた。彼は、自由貿易論を批判し、国家主義の経済学と保護関税論を主張し、国民生産力の発展を重視した独特の経済発展論を提唱した。また、歴史的方法を導入して、ドイツ歴史学派の先駆者ともなった。

本書は、彼の主著であり、この中で彼は国家の経済的利益を重視し、個人の経済的利益の追求は国家のそれに有害であると論じて、当時の社会から反発を招いた。しかし、ナショナリズムの勃興とともに、関税保護貿易がドイツ、イギリス、フランスなどで実施されると、この書はその理論的支柱となった。本書は、18世紀の末から産業革命の成果とともに大陸の諸国に押し寄せた古典経済学の思想に対して、批判的な立場に立った最初の著述であり、ドイツにおけるブルジョワ経済学の方向を示したものである。歴史学派経済学の先駆的な業績として評価されている。

111. ド・クインシー（1785～1859）
「経済学の理論」初版　1844年　エディンバラ刊



THE LOGIC

OF

POLITICAL ECONOMY.

BY

THOMAS DE QUINCEY.

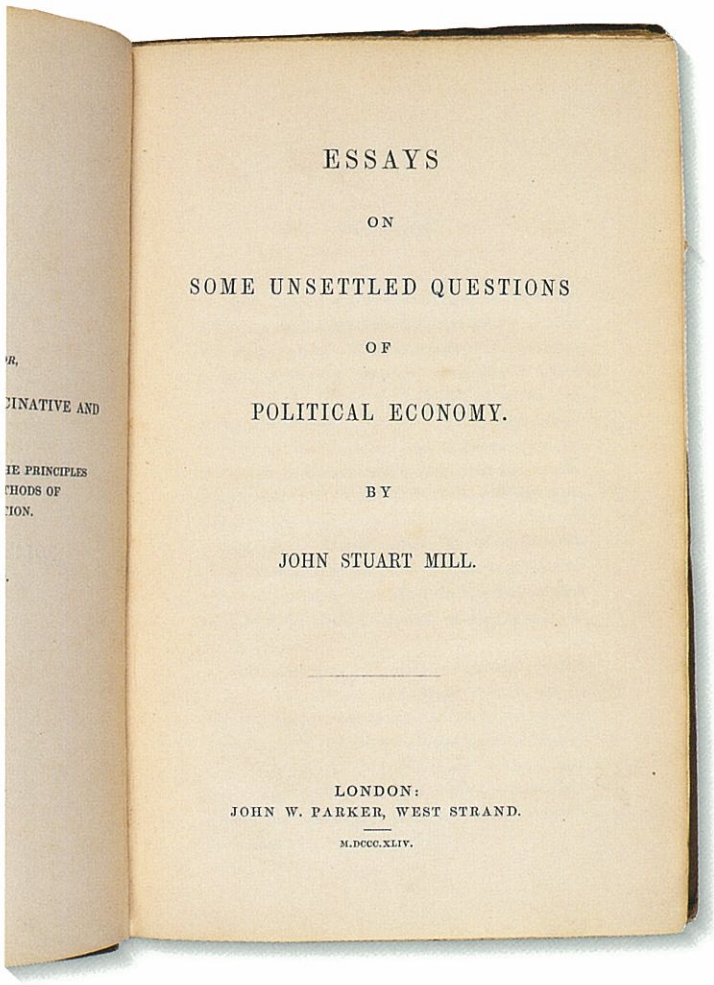
WILLIAM BLACKWOOD AND SONS,
EDINBURGH AND LONDON.
MDCCCXLIV.

De Quincey, Thomas. 1785-1859
The logic of political economy.
Edinburgh : William Blackwood and Sons,　1844　xii,260p. ; 22cm
GK 33558

ド・クインシーは、イギリスの随筆家。オクスフォード大学を中途退学在学中に陥ったアヘン服用の習慣に生涯悩んだが、1822年に刊行した『アヘン常用者の告白』で一躍有名になった。彼は、リカードの『経済学および課税の原理』を読んだことからリカード経済学に心酔し、リカード価値理論に傾注した。

本書においてド・クインシーは、古代における神託という制度と近代における金融システム、建物としての神殿と銀行の類似性を論じており、両者に共通する機能とは、金銭の本来の所有者に代わって、その財産を絶対安全に管理することであり、両者の違いは近代の貨幣経済にあっては、金銭が不可思議にも生命あるものと化して、自ら金銭を生み出すところにあるという。これは、マルクスの『資本論』を先取りした議論である。数学的正確さと抽象的理論に惹かれる傾向にあったド・クインシーが経済学という新しい学問に惹かれ、苦労を重ねて本書を書き上げたものである。しかし、独自の経済学説を展開するほどの力量はないものの、近代経済学の礎を築いたとされるジェヴォンズ以前の時代に、使用価値の概念を重要視した先見性は評価されている。

112. J.S.ミル（1806～1876）
「経済学の未決の諸問題に関する論文」初版　1844年　ロンドン刊



ESSAYS

ON

SOME UNSETTLED QUESTIONS

OF

POLITICAL ECONOMY.

BY

JOHN STUART MILL.

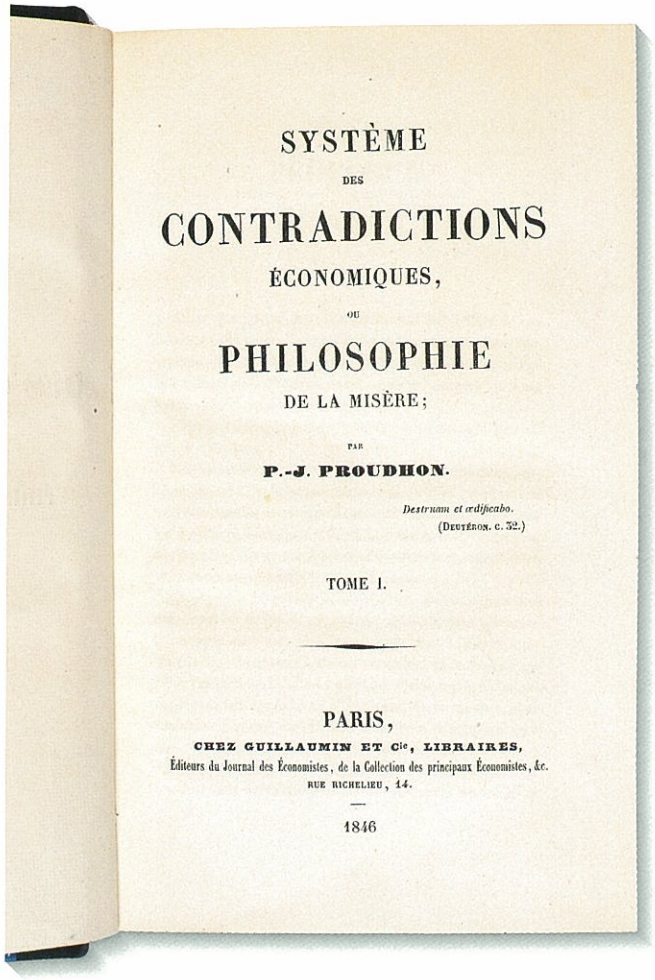
LONDON:
JOHN W. PARKER, WEST STRAND.

M.DCCC.XLIV.

Mill, John Stuart, 1806-1876
Essays on some unsettled questions of political economy.
London : J. W. Parker,　1844　vi,[2],164,4p. ; 22cm
GK 33591

1829年から1830年にかけて執筆された政治経済学に関するミルの最初の著作で、収録されている貿易論、恐慌論、利潤・利子論等に関する5論文は、古典派経済学の方法論を最も早くまとめ上げた重要な著作となっており、リカードの影響がうかがえる。

113. プルードン（1809～1865）
「経済的矛盾の体系」初版　2巻（1冊）　1846年　パリ刊



SYSTÈME
DES
CONTRADICTIONS
ÉCONOMIQUES,
OU
PHILOSOPHIE
DE LA MISÈRE;
PAR
P.-J. PROUDHON.

Destruam et ædificabo.
(DEUTÉRON. c. 32.)

TOME I.

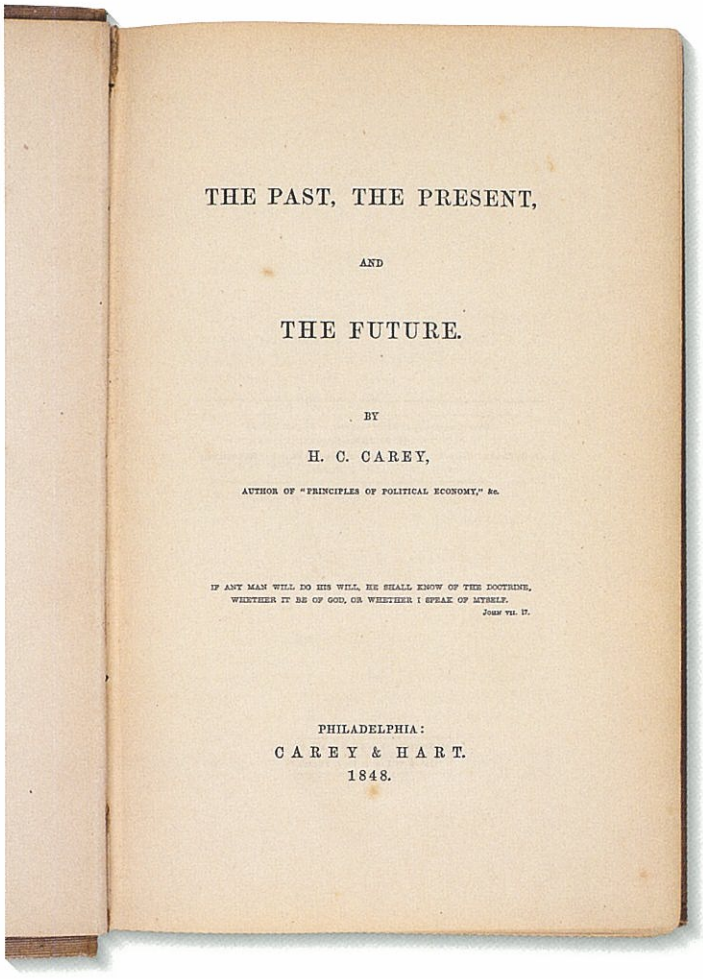
PARIS,
CHEZ GUILLAUMIN ET Cie, LIBRAIRES,
Éditeurs du Journal des Économistes, de la Collection des principaux Économistes, &c.
RUE RICHELIEU, 14.

1846

Proudhon, Pierre Joseph, 1809-1865
Système des contradictions Économiques, ou Philosophie de la misère.
Paris : Guillaumin,　1846　2 vols.(in one) ; 21cm
GK 34909

フランスの社会主義者で、近代無政府主義の創始者と言われるプルードンの主著。プルードンは幼少時代を貧困のうちに過ごし、独学を積んで1840年に「財産とは何か」を著し、その中で財産は窃盗であると批判してセンセーションを巻き起こした。本書では、“平等は社会の至高の法則である”というテーゼを一切の認識の基本として私有財産と共産主義を手厳しく攻撃、資本制経済の道徳的不可能性を指摘した。彼の、私有財産の廃止の主張に対してマルクスは、「哲学の貧困」（1847年）を著して、プルードンの平等主義的理想の幻想性、ヘーゲル弁証法の無理解等を批判した。

114. ケアリ（1793～1879）
「過去、現在および未来」初版　1848年　フィラデルフィア刊



THE PAST, THE PRESENT,

AND

THE FUTURE.

BY

H. C. CAREY,

AUTHOR OF "PRINCIPLES OF POLITICAL ECONOMY," &c.

IF ANY MAN WILL DO HIS WILL, HE SHALL KNOW OF THE DOCTRINE,
WHETHER IT BE OF GOD, OR WHETHER I SPEAK OF MYSELF.
JOHN VII. 17.

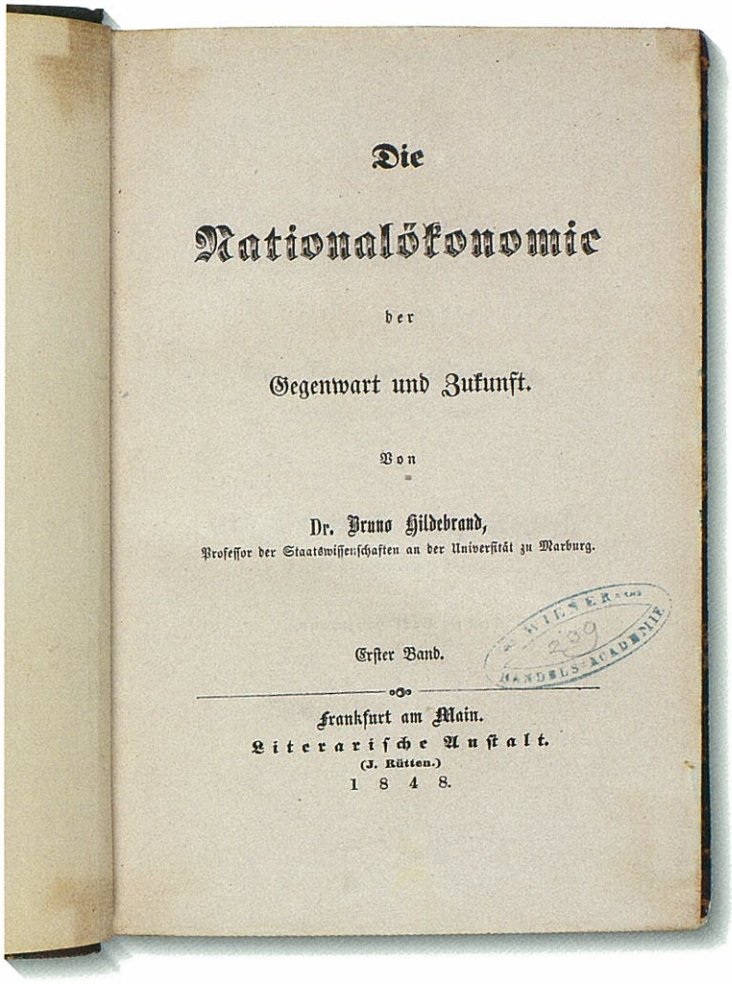
PHILADELPHIA:
CAREY & HART.
1848.

Carey, Henry Charles, 1793-1879
The past, the present, and the future .
Philadelphia : Carey & Hart,　1848　474p. ; 22cm

ケアリは、初めは英国古典学派に追随する自由貿易論者であったが、後に熱烈な保護貿易論者に転じ、「社会科学の原理」において独自の保護貿易主義的国民主義経済学を完成した。

本書は、その転換期に著された代表作で、関税による保護貿易制を訴え、またリカードの地代論を批判するなどして、ミルの「経済学原理」（1848年）においては論駁の対象となった。

115. ヒルデブラント（1812～1878）
「現在ならびに将来の国民経済学」初版　1848年　フランクフルト刊



Die

Nationalökonomie

der

Gegenwart und Zukunft.

Von

Dr. Bruno Hildebrand,
Professor der Staatswissenschaften an der Universität zu Marburg.

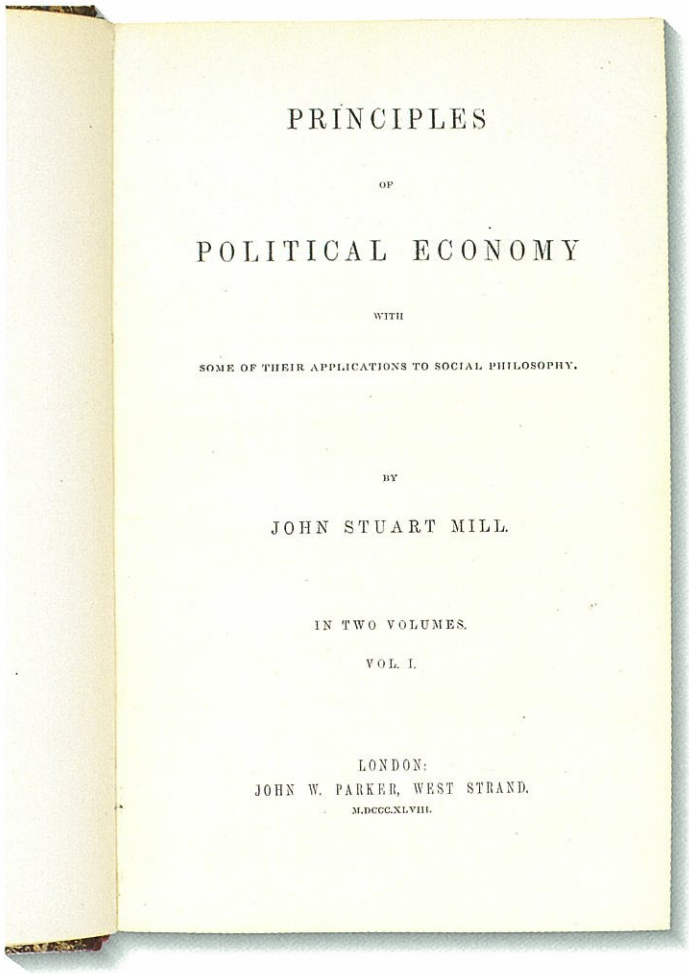
Erster Band.

Frankfurt am Main.
Literarische Anstalt.
(J. Rütten.)
1 8 4 8.

Hildebrand, Bruno, 1812-1878
Die Nationalökonomie der Gegenwart und Zukunft : erster Band.
Frankfurt : J. Rütten,　1848　xii,329[1]p. ; 19cm
GK 35506

ヒルデブラントは、歴史学を学んだのちに経済学に移り、統計機関の設立や経済学の専門雑誌の刊行にも努力した旧歴史学派の代表者の一人である。本書は、5編に分かれ、アダム・スミス、ミューラー、リストなどの学説、エンゲルスを含む社会主義経済学、及びプルードンの学説を論評している。もとは、この書の第2部として、自分の方法論を展開するはずであったが、その意図を遂げずに終わった。歴史学派のうちでは社会改良家の色彩を強く現した文献である。

116. J.S.ミル（1806～1876）
「経済学原理」初版　2巻　1848年　ロンドン刊



PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY

WITH

SOME OF THEIR APPLICATIONS TO SOCIAL PHILOSOPHY.

BY

JOHN STUART MILL.

IN TWO VOLUMES.

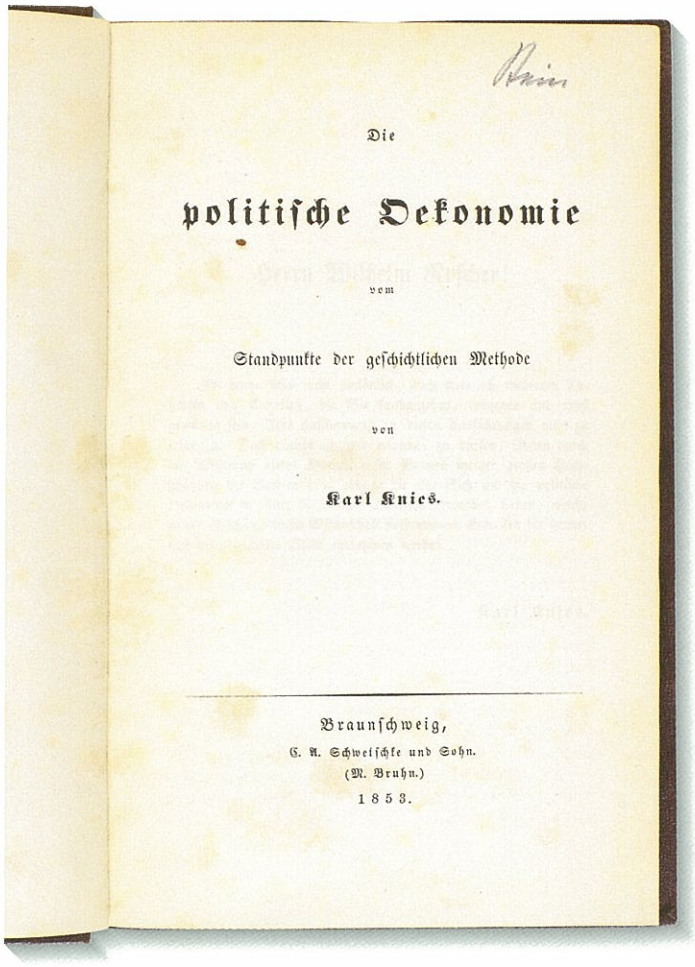
VOL. I.

LONDON:
JOHN W. PARKER, WEST STRAND.
M.DCCC.XLVIII.

Mill, John Stuart, 1806-1876
Principles of political economy : with some of their applications to social philosophy.
London : John W.Parker,　1848　2 vols. ; 22cm
GK 35525

本書は、イギリス古典経済学の最後に登場したミルの代表的著作で、新古典経済学派の原点であるといわれ、産業革命による各種の社会問題が露呈した1830年代以降の資本主義の新しい段階に応じて、古典派経済学の再編成を試みて著述されたものである。マルクスとエンゲルスの「共産党宣言」の刊行と同じ1848年に初版が刊行され、1849年に第2版、1852年に第3版と次々に版を重ね、生前に第7版（1871年）まで出版された。

117. クニース(1821～1898)
「歴史的方法の立場から見た経済学」初版　1853年　ブラウンシュヴァイク刊



Die

politische Oekonomie

vom

Standpunkte der geschichtlichen Methode

von

Karl Knies.

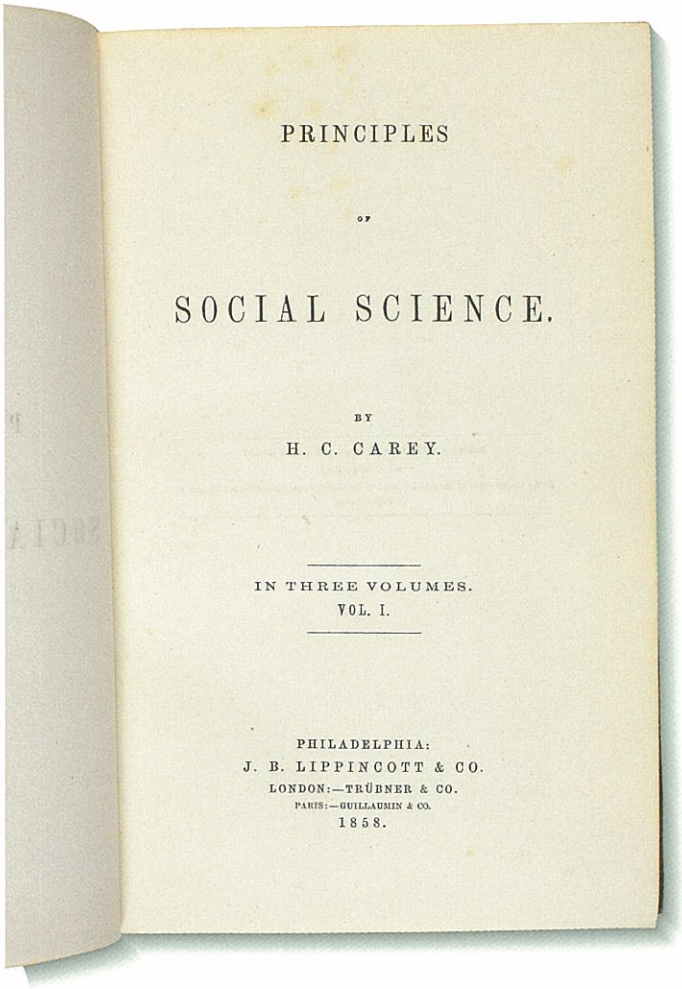
Braunschweig,
C. A. Schwetschke und Sohn.
(M. Bruhn.)
1853.

Knies, Karl Gustav Adolf, 1821-1898
Die politische Oekonomie vom Standpunckte der geschichtlichen methode.
Braunschweig : Schwetschte und Suhn,　1853　xii,355p. ; 22cm

クニースは、ドイツの経済学者。前期歴史学派の代表者の一人。フライブルク、ハイデルブルクの各大学教授として経済学、統計学を講じた。ヘーゲルの影響を受けて、ロッシャーやヒルデブラントとともに歴史学派を創始した。経済現象をその他の社会現象との関連において総合的に把握し、その歴史的進化の過程を究明すべきことを主張してシュモラーやワーグナーなど後期歴史学派に影響を与えた。

本書は、経済学における歴史学派の創始者ロッシャーを尊敬しつつ、その立場を理論的に深めようとして書かれた。クニース以前の歴史学派は、古典経済学を批判することにはしるあまり、自分たちの考えを理論づけようとする努力が不十分であった。本書は、歴史学派の経済学としては一番深い思想を盛ったものであり、新しい立場から経済学を建設しようとする苦心がうかがわれる。

118. ケアリ（1793〜1879）
「社会科学の原理」初版　3巻　1858-1865年　フィラデルフィア刊



PRINCIPLES

OF

SOCIAL SCIENCE.

BY

H. C. CAREY.

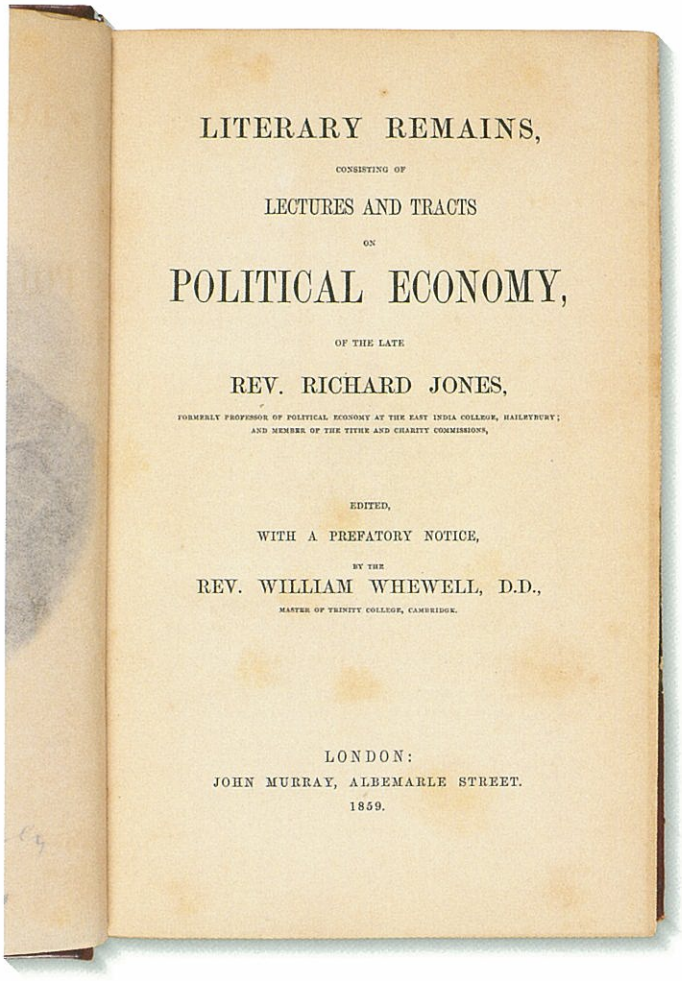
IN THREE VOLUMES.
VOL. I.

PHILADELPHIA:
J. B. LIPPINCOTT & CO.
LONDON:—TRÜBNER & CO.
PARIS:—GUILLAUMIN & CO.
1858.

Carey, Henry Charles, 1793-1879
Principles of Social Science.
Philadelphia : J. B. Lippincott,　1858-65　3 Vols. ; 22cm

ケアリは、古典派経済学の悲観的傾向に反対し、ナショナリズムの立場に立って楽観主義経済学の原理を唱え、アメリカ19世紀の社会科学建設運動史上に重要な基礎を与えた。本書は、論理学と数学を重要視する社会科学論から説きはじめ、コントやミルの影響のもとに、アメリカ伝統の結合（association）の原理による社会科学理論を展開している。結合性、個人性、責任感、進歩性の4原理をもって社会構成の条件となし、人口、職業、価値、富、財産などの諸問題を解明している。本書は、英米のみならずドイツ、フランスの学界にも知られた。

119. ジョーンズ(1790～1855)
「経済学遺稿集」初版　1859年　ロンドン刊



LITERARY REMAINS,

CONSISTING OF

LECTURES AND TRACTS

ON

POLITICAL ECONOMY,

OF THE LATE

REV. RICHARD JONES,

FORMERLY PROFESSOR OF POLITICAL ECONOMY AT THE EAST INDIA COLLEGE, HAILEYBURY;
AND MEMBER OF THE TITHE AND CHARITY COMMISSIONS,

EDITED,

WITH A PREFATORY NOTICE,

BY THE

REV. WILLIAM WHEWELL, D.D.,

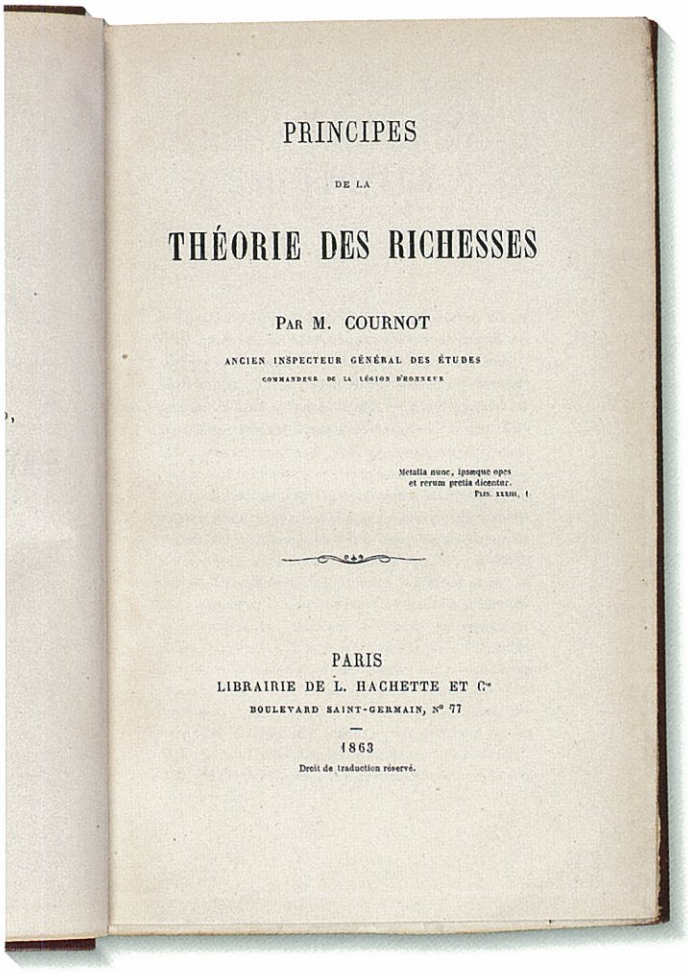
MASTER OF TRINITY COLLEGE, CAMBRIDGE.

LONDON:
JOHN MURRAY, ALBEMARLE STREET.
1859.

Jones, Richard, 1790-1855
Literary remains consisting of lectures and tracts on Political Economy.
London : John Murray,　1859　xl,620p. ; 23cm

ジョーンズは、イギリスの経済学者。ケンブリッジで神学を学び、牧師の職についた後、ロンドンのキングズ・カレッジの経済学教授となり、1835年にマルサスの後任として、ヘイリベリイの東インド・カレッジの歴史学及び経済学の教授となった。彼は、この教授を辞してまもなくカレッジの校内で死んだが、自然科学の研究方法とインドの社会状態の研究成果にも基づいて、リカード学派の俗流化に対抗して、資本主義における歴史性の認識の重要性を主張し、マルクスによって高く評価された。

120. クールノー（1801～1877）
「富の理論の原理」初版　1863年　パリ刊



PRINCIPES

DE LA

THÉORIE DES RICHESSES

PAR M. COURNOT

ANCIEN INSPECTEUR GÉNÉRAL DES ÉTUDES

COMMANDEUR DE LA LÉGION D'HONNEUR

Metalla nunc, ipsaque opes
et rerum pretia dicentur.
PLIN. XXXIII, 1

PARIS
LIBRAIRIE DE L. HACHETTE ET Cie
BOULEVARD SAINT-GERMAIN, N° 77

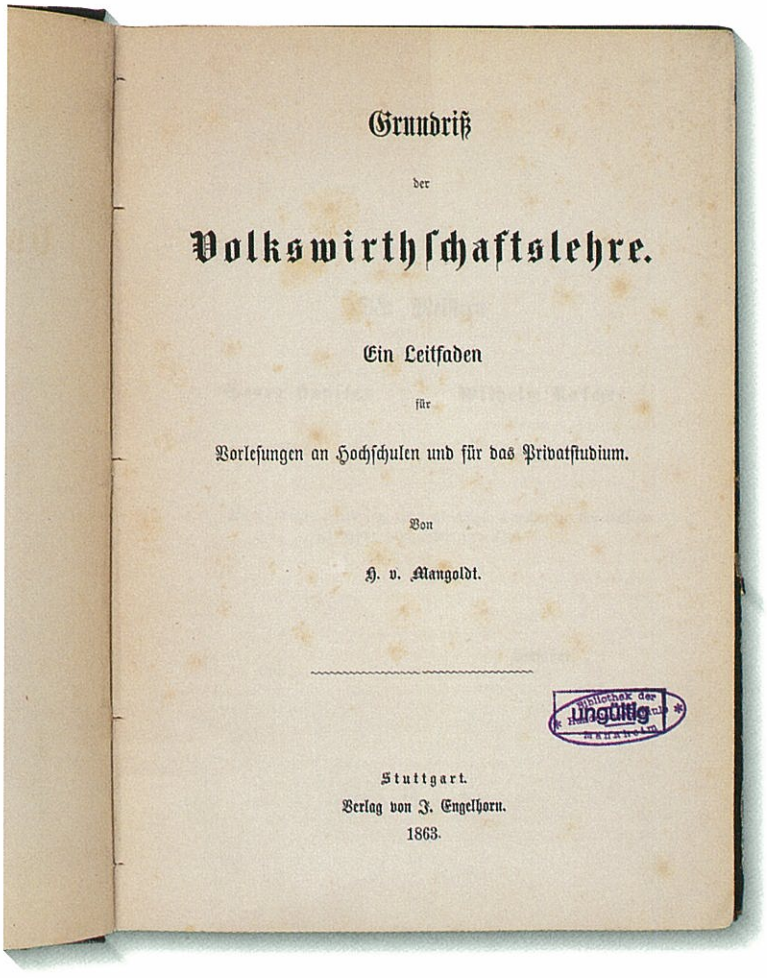
1863

Droit de traduction réservé.

Cournot, Antoine Augustin, 1801-1877
Principes de la Théorie des Richesses
Paris : L. Hachette,　1863　iv,527p. ; 23cm

クールノーは、フランスの経済学者、数学者、哲学者である。本書は12章からなり、価格と需要量との関数関係を数式で表わしたり、需要の弾力性や独占企業が利潤を極大にするための独占価格（クールノーの点）を明らかにし、完全競争の場合に価格と限界費用とが一致することなどを指摘したが、出版当時はほとんど関心を呼ばなかった。クールノーは、本来数学者であり、微積分を巧みに使用してこれらの諸問題を解いており、数理経済学を最初に確立した業績によって、本書は彼の名とともに不朽の価値を持っている。経済学者としては1870年代になってワルラスやジェヴォンズによって認められた。また、現在では数理経済学創始者の一人として高く評価されている。

121. マンゴルト（1824～1868）
「国民経済学要綱」初版　1863年　シュツットガルト刊



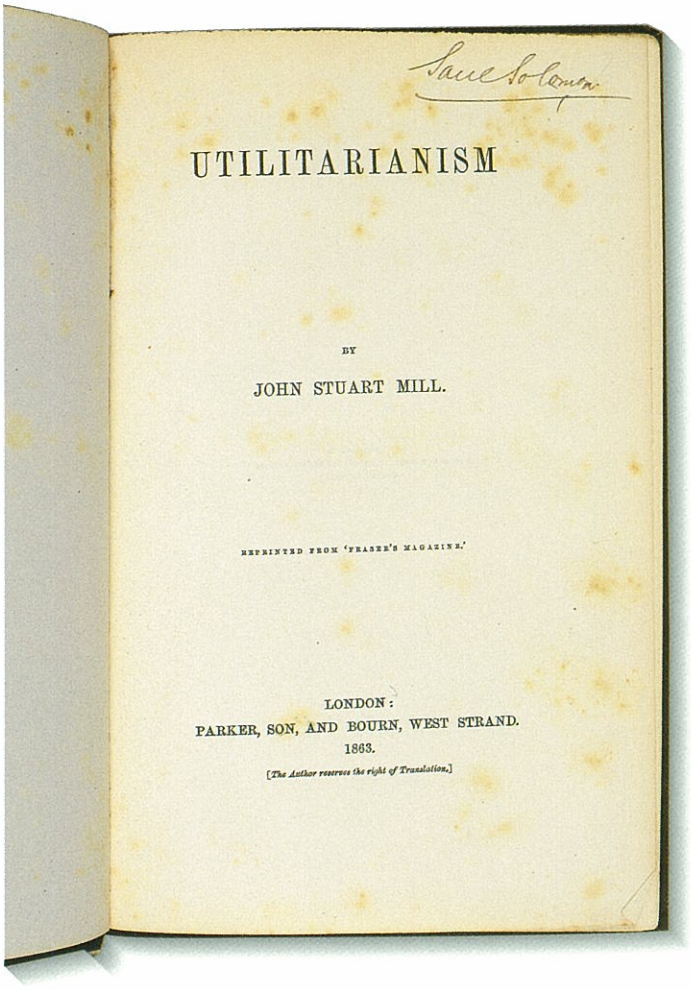
Grundriß
der
Volkswirthschaftslehre.
Ein Leitfaden
für
Vorlesungen an Hochschulen und für das Privatstudium.
Von
H. v. Mangoldt.

Stuttgart.
Verlag von J. Engelhorn.
1863.

Mangoldt, Hans von., 1824-1868
Grundriss der Volkswirthschaftslehre. ein leitfagen fur …
Stuttgart : T. Engelhorn,　1863　xvi,224p. ; 22cm

マンゴルトは、ドイツの古典派経済学者。本書は、歴史学派が華やかな時代に理論経済学の体系化に努力したマンゴルトの代表作のひとつである。彼は、本書において、イギリス古典派理論をはじめとする多くの成果を凝縮し、彼独自の図形を加え、広範な理論を展開している。特に国際価値論のための図形分析は評価が高い。19世紀経済学における最も重要な人物の一人と評されている。

122. J.S.ミル（1806～1873）
「功利主義」初版　1863年　ロンドン刊



UTILITARIANISM

BY

JOHN STUART MILL.

REPRINTED FROM 'FRASER'S MAGAZINE.'

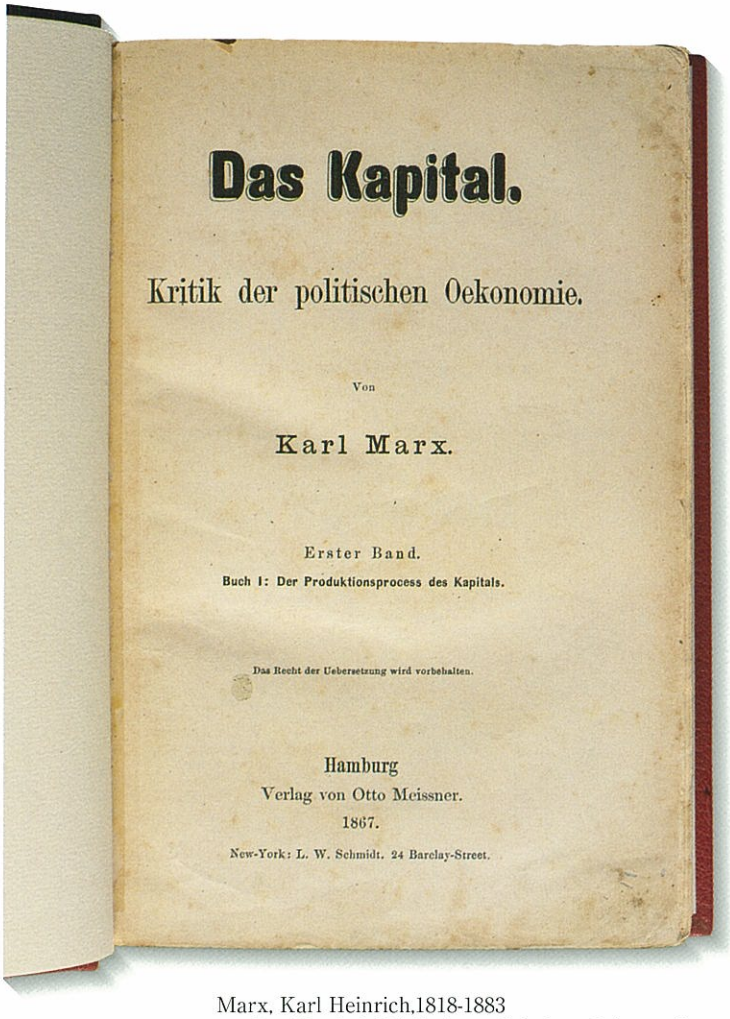
LONDON:
PARKER, SON, AND BOURN, WEST STRAND.
1863.
[The Author reserves the right of Translation.]

Mill, John Stuart, 1806-1873
Utilitarianism.
London : Parker, Son, and Bourn,　1863.　[4],95,4p. ; 23cm

ミルの生きた時代は、1848年のフランス2月革命、6月事件、オーストリアの革命、ハンガリーとイタリアの民族解放の戦い、チャーティスト運動の復活などの事件が相次いで起こった。これらはいずれも失敗に終わり、その後は自由主義の時代が展開されたが、もはや時代は変わりつつあり、帝国主義と社会主義との対立を予測させていた。ミルは、こうした時代にあって、ベンサム、J.ミル以来の功利主義の新転換を試みた。

本書は、はじめ1861年にフレーザース・マガジン誌に掲載された論文であり、全体は、概説、功利主義とは何か、功利の原理の究極的強制力について、功利の原理を認めるべき証明について、正義と功利との関連についての五つの章からなる詳論であり、ミルの功利主義の立場を明らかにしている。ベンサムらが説いた功利主義の原理を修正し、従来の功利主義の新転換を試みた。ベンサムが単純に各個人の快楽の追求が最大多数の最大幸福を実現するとみていたのに対し、ミルはその問題をさらに深く分析し、彼の時代に適応したものにしようとしたのである。

123. マルクス(1818～1883)
「資本論」初版　3巻　1867-94年　ハンブルク刊



Das Kapital.

Kritik der politischen Oekonomie.

Von

Karl Marx.

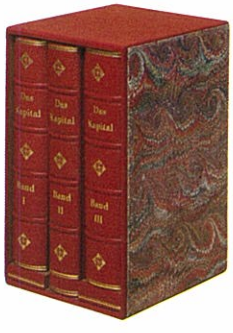
Erster Band.

Buch I: Der Produktionsprocess des Kapitals.

Das Recht der Uebersetzung wird vorbehalten.

Hamburg
Verlag von Otto Meissner.
1867.

New-York: L. W. Schmidt. 24 Barclay-Street.

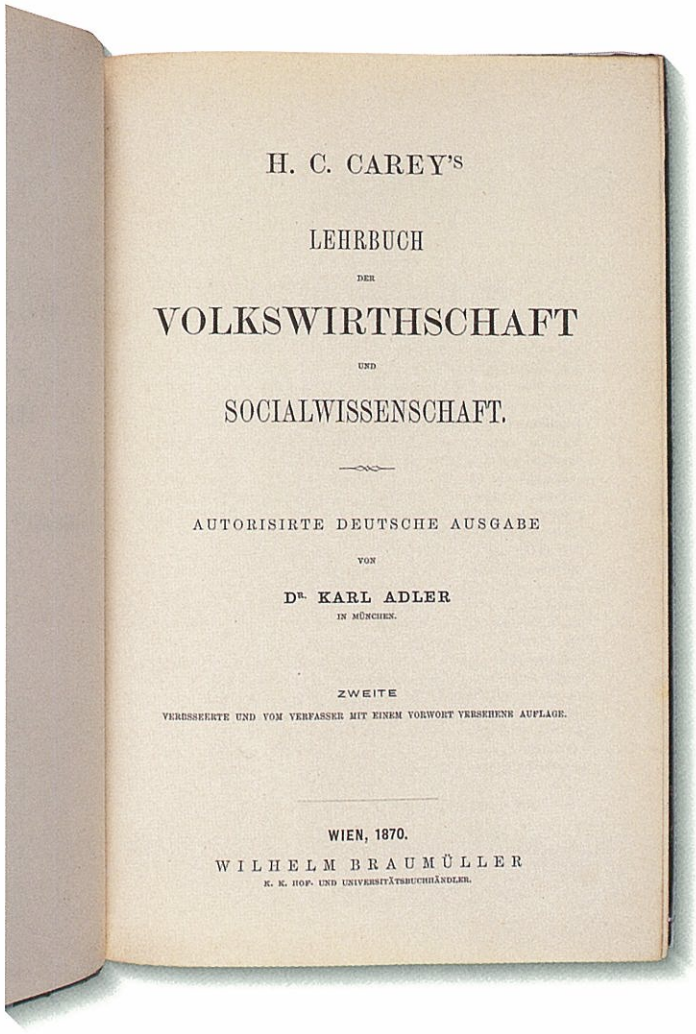


Marx, Karl Heinrich,1818-1883
Das Kapital. Kritik der politischen Oekonomie.
Hamburg : Otto Meissner,　1867-94　3Vols. ; 21-23cm
PMM 359

マルクスは、ドイツの社会主義者で、科学的社会主義(共産主義)の創始者、国際労働者運動、革命運動の指導者である。彼は、ボン、ベルリン両大学で法学、歴史、哲学を学び、卒業後イエナ大学から学位を得た。1844年にパリでエンゲルスと親交を結び、小ブルジョワ的社会主義の批判を通じ、科学的社会主義の確立を目指して生涯にわたる二人の協力が生まれた。1847年にロンドンで開催された共産主義者同盟の第2回大会に出席し、エンゲルスと共同で有名な「共産党宣言」を書き、共産主義の理論と戦術を体系的に示した。ドイツを追われた後、ロンドンに移り、「経済学批判」、「資本論」、「剰余価値学説史」の完成に努力した。マルクスは、1861～65年の間に「資本論」全3巻の草稿を書き上げ、1867年3月に出来上がった第1巻の清書原稿を手にしてハンブルクへ向い、出版業者マイスナーに原稿を手渡した。同年の9月14日にマイスナー社から初版1,000部が刊行された。「資本論」の第2巻は1885年6月に、第3巻は1894年2月にマルクスの死後、遺稿を整理したエンゲルスの手によって編集され刊行された。「資本論」第4巻として準備されていた学説史の刊行は、1905年にカウツキーの編集で「剰余価値学説史」全3巻として出版されている。

本書は、近代資本主義社会の経済的運動法則を究明し、経済学に革命を起こした政治経済学上の不朽の名著とされている。

124. ケアリ（1793～1879）
「国民経済学及び社会科学綱要」 ドイツ語初版　1870年　ウィーン刊



H. C. CAREY'S

LEHRBUCH

DER

VOLKSWIRTHSCHAFT

UND

SOCIALWISSENSCHAFT.

AUTORISIRTE DEUTSCHE AUSGABE

VON

DR. KARL ADLER

IN MÜNCHEN.

ZWEITE

VERBESSERTE UND VOM VERFASSER MIT EINEM VORWORT VERSEHENE AUFLAGE.

WIEN, 1870.

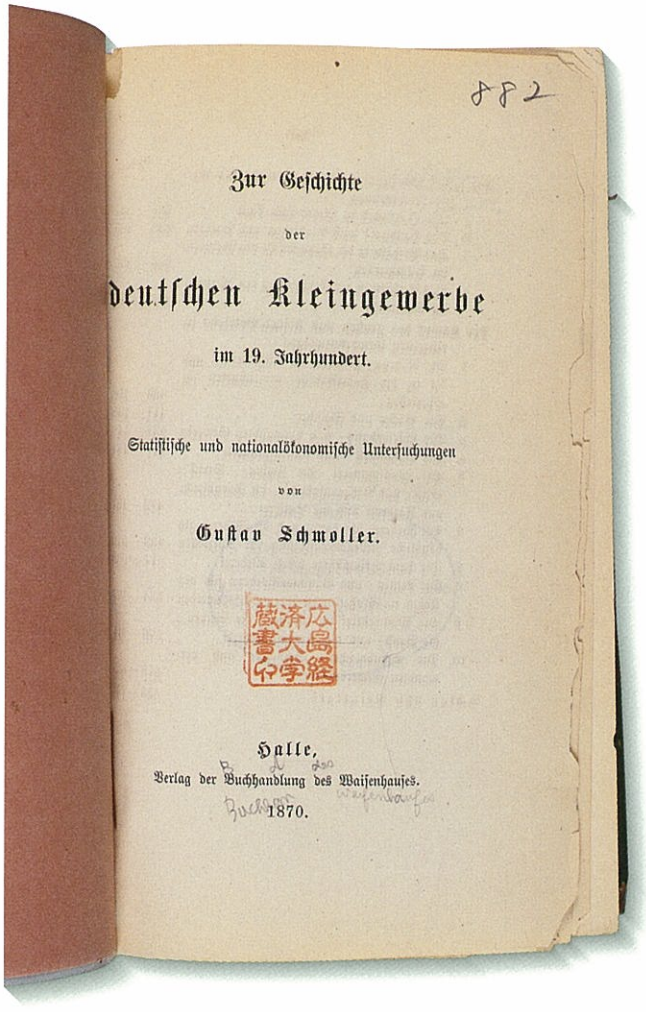
WILHELM BRAUMÜLLER

K. K. HOF- UND UNIVERSITÄTSBUCHHÄNDLER.

Carey, Henry Charles, 1793-1879
H. C. Carey's Lehrbuch der Volkswirtschaft und Socialwissenschaft./autorisirte Deutsche ausgabe von Dr. Karl Adler.
Wien : Wilhelm Braumulle,　1870　670p. ; 23cm

ケアリは、アメリカの経済学者。本書は、1842年ころから国民主義的立場をとったケアリの著作をドイツに紹介したもので、ミュンヘンのカール・アドラーの翻訳によるドイツ語版である。

125. シュモラー（1838～1917）
「19世紀ドイツ小工業史」初版　1870年　ハレ刊



Zur Geschichte
der
deutschen Kleingewerbe
im 19. Jahrhundert.
Statistische und nationalökonomische Untersuchungen
von
Gustav Schmoller.

Halle,
Verlag der Buchhandlung des Waisenhauses.
1870.

Schmoller, Gustav von., 1838-1917
Zur Geschichte der deutschen Kleingewerbe im 19. Jahrhundert.
Halle : Buchhandlung des Waifenhaufes,　1870　xvi,704p. ; 19cm

シュモラーは、ドイツの経済学者。後期歴史学派及び社会政策学会の事実上の創始者。チュービンゲン大学に学び、ハレ、シュトラスブルク、ベルリンの大学教授を歴任した。1872年にプロイセン枢密顧問官となり1890年から死にいたるまで社会政策学会の会長を務めた。

本書は、ハレ大学員外教授に招聘され、演習形式の新しい教授法で学生たちの支持を得た頃に著されたもので、シュモラーの名を学界で注目させた第一作である。

126. ブレンターノ（1844～1931）
「現代労働組合論」初版　2巻（1冊）　1871-1872年　ライプチヒ刊

DIE

ARBEITERGILDEN

DER GEGENWART

VON

LUJO BRENTANO

DOCTOR DER RECHTE UND DER PHILOSOPHIE

ERSTER BAND

ZUR GESCHICHTE DER ENGLISCHEN GEWERKVEREINE.

LEIPZIG

VERLAG VON DUNCKER & HUMBLOT

1871.

ZUR GESCHICHTE

DER

ENGLISCHEN GEWERKVEREINE

VON

LUJO BRENTANO

DOCTOR DER RECHTE UND DER PHILOSOPHIE.

LEIPZIG

VERLAG VON DUNCKER & HUMBLOT

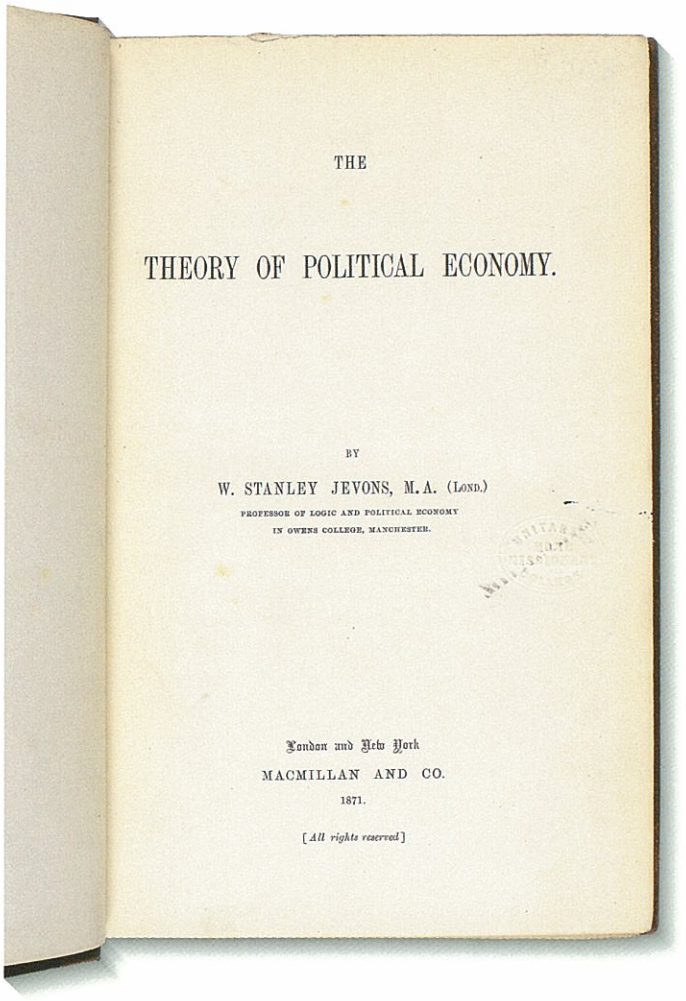
1871.

Brentano, Lujo,1844-1931
Die Arbeitergilden der gegenwart.
Leipzig : Duncker & Humblot,　1871-72　xxiii,288 ; xiv,369p. ; 22cm

ブレンターノは、ドイツの経済学者。エンゲルスとともにイギリスに渡り労働組合運動の力と意義を学び、1871～1872年にかけて本書を著した。第1巻はイギリス労働組合史であり、第2巻はイギリス労働組合批判と題されている。

館蔵書は、第1巻と第2巻が1冊に合冊製本されている。

127. ジェヴォンズ(1835～1882)
「経済学の理論」初版　1871年　ロンドン刊



THE

THEORY OF POLITICAL ECONOMY.

BY

W. STANLEY JEVONS, M.A. (LOND.)

PROFESSOR OF LOGIC AND POLITICAL ECONOMY
IN OWENS COLLEGE, MANCHESTER.

London and New York
MACMILLAN AND CO.
1871.

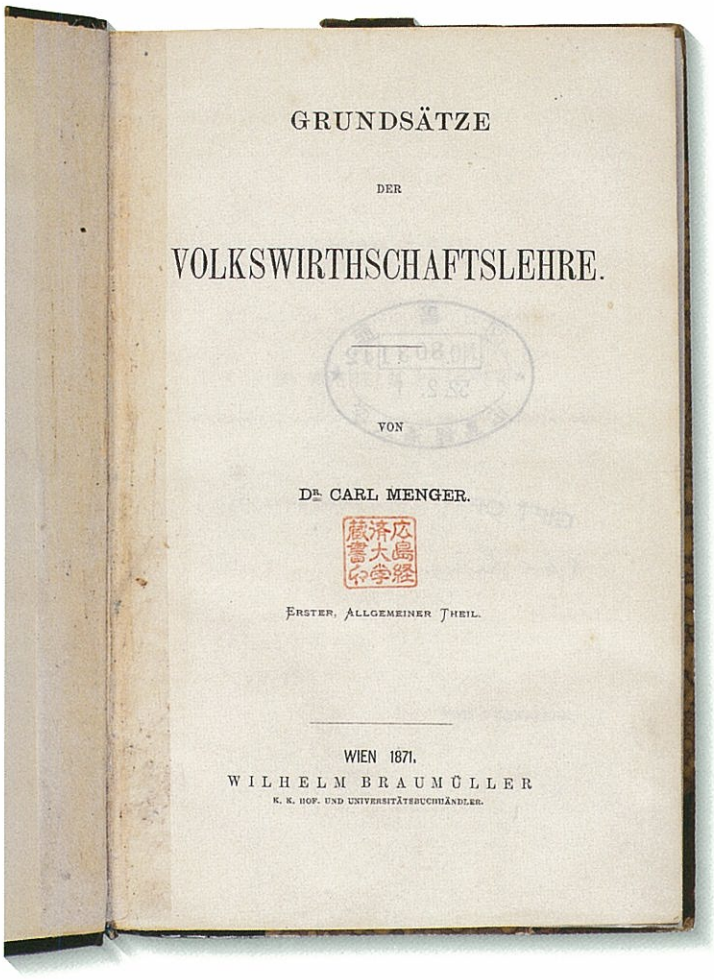
[*All rights reserved*]

Jevons, William Stanley, 1835-1882
The Theory of political economy.
London : Macmillan,　1871　xvi,267,65p. ; 22cm

ジェヴォンズは、イギリスの経済学者、論理学者。ロンドンのユニバーシティ・カレッジで数学、化学などを学び、卒業を待たずに、シドニー造幣局に分析官として勤務したが、鉄道問題などへの関心から経済学を学び、帰国して大学に再入学し、修士号を習得した。マンチェスターのオーエンズ・カレッジに就任し、論理学、科学方法論、経済学、労働問題など政策論上の著作を著し、母校で教授も勤めた。

本書は、イギリス古典学派の労働価値論に対して強い反感を持ったジェヴォンズが、経済学を新しい合理的な理論によって再建しようとして1862年に書いた論文「政治経済学の一般的数学理論」を発展させたものである。つまり、当時のイギリス経済学界に支配的地位を占めていた古典派経済学、特にJ.S.ミルの資本概念を批判し、経済学の数理科学化を推進した。本書によってジェヴォンズはのちに、オーストリアのカール・メンガー、ローザンヌのレオン・ワルラスとともに、限界効用学説の近代的確立者としての名声を与えられることになった。しかし、その出版当初は、イギリスの経済学界が経済学における数学的方法を全面的に否定していたため、必ずしも高い評価を与えられなかった。

128. メンガー（1840～1921）
「国民経済学原理」初版　1871年　ウィーン刊



GRUNDSÄTZE

DER

VOLKSWIRTHSCHAFTSLEHRE.

VON

DR. CARL MENGER.

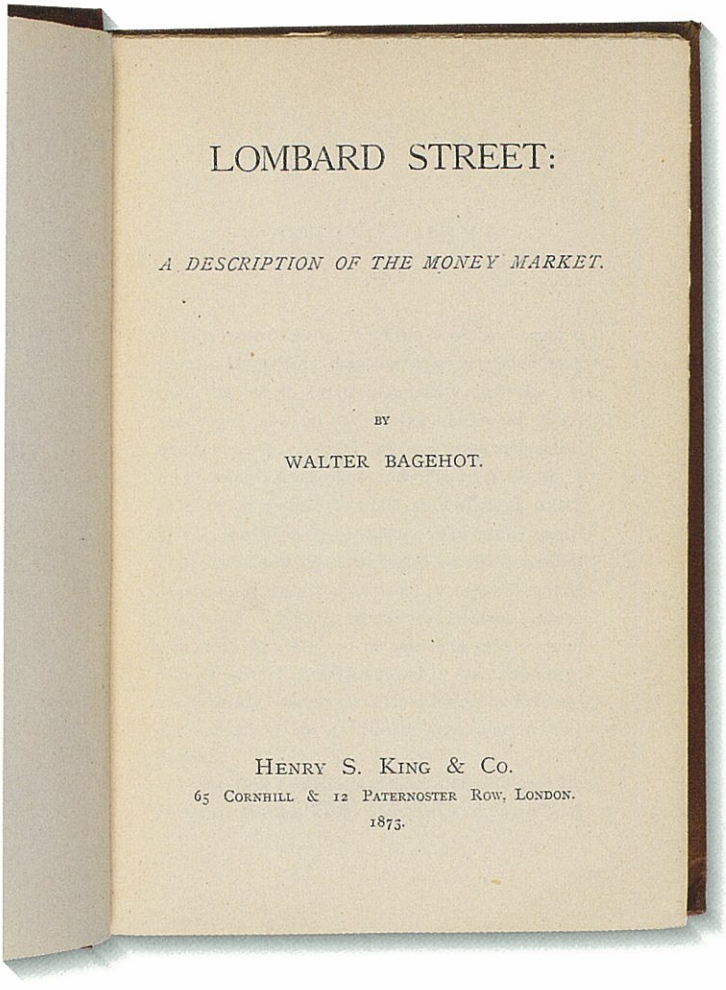
ERSTER, ALLGEMEINER THEIL.

WIEN 1871.
WILHELM BRAUMÜLLER
K. K. HOF- UND UNIVERSITÄTSBUCHHÄNDLER.

Menger, Carl, 1840-1921
Grundsätze der Volkswirthschaftslehre.
Wien : Wilhelm Braumüller,　1871　xii,285p. ; 22cm

メンガーは、オーストリアの法学者。ウィーン大学の教授で上院終身議員。ジェヴォンズ、ワルラスとともに、ほとんど同時に限界効用理論を提唱し、近代経済学の創始者の一人となった。経済学の方法に関し、新歴史学派の代表者シュモラーと論争を行うとともに、限界効用理論を基礎とするオーストリア学派を創始した。オーストリア学派は、この本を礎石として創始された。メンガーが本書で追求しようとしたものは、価格形成の原理を1個の主導的概念によって一貫させて説明することであった。しかし、本書の大部分は、その目的への道を準備するための問題に当てられ、本来の目的に対してはその糸口を与えたに過ぎなかった。この糸口の正しさは、彼の弟子、特にウィーザーやベーム=バヴェルクによって立証された。

129. バジョット（1826～1877）
「ロンバード街」初版　1873年　ロンドン刊



LOMBARD STREET:

A DESCRIPTION OF THE MONEY MARKET.

BY

WALTER BAGEHOT.

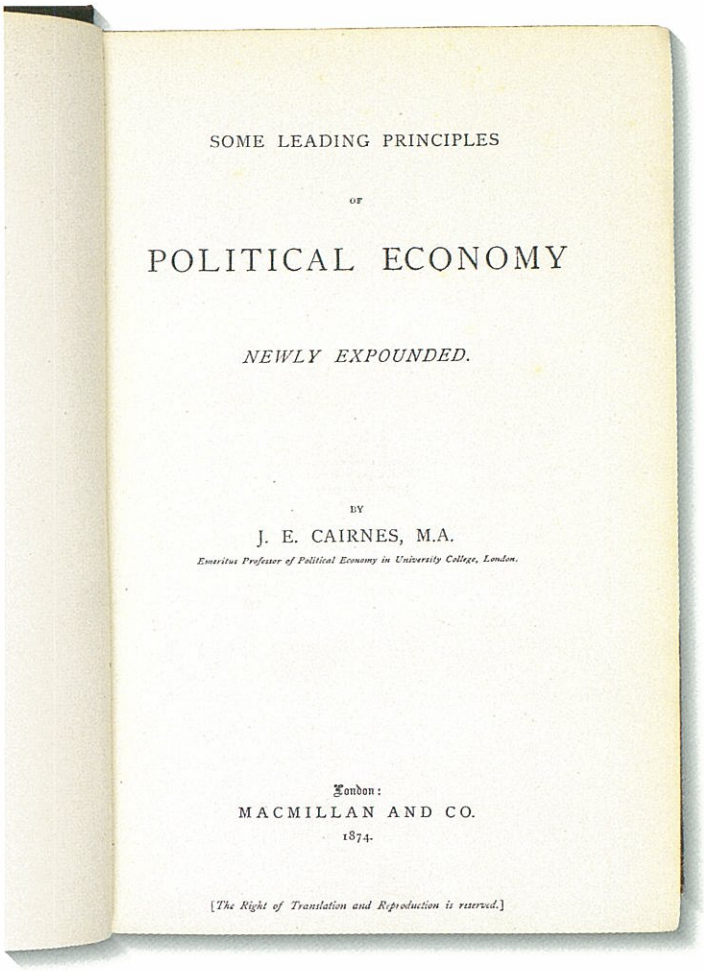
HENRY S. KING & CO.
65 CORNHILL & 12 PATERNOSTER ROW, LONDON.
1873.

Bagehot, Walter, 1826-1877
Lombard Street: a description of the Money Market.
London : Henry S. King,　1873　viii,359,32p. ; 19cm
cf.PMM 358

バジョットは、イギリスの経済学者として有名であるが、文芸評論家、政治・社会学者として、また多方面にわたるジャーナリストとして19世紀後半に活躍した。特に1855年から没年に至るまでの20年余り"The Economist"の主筆を務め、その麗文をうたわれたことはよく知られている。

本書はバジョットの代表作で、典型的な発展を辿ってきたイギリス金融市場の歴史的事情や、その機構に関する具体的事実を説明したもので、今日の複雑な金融関係の発生史的基盤の解明に有用な意義をもつ金融論の入門書である。

130. ケアンズ(1823～1875)
「経済学主要原理新考」初版　1874年　ロンドン刊



SOME LEADING PRINCIPLES

OF

POLITICAL ECONOMY

NEWLY EXPOUNDED.

BY

J. E. CAIRNES, M.A.

Emeritus Professor of Political Economy in University College, London.

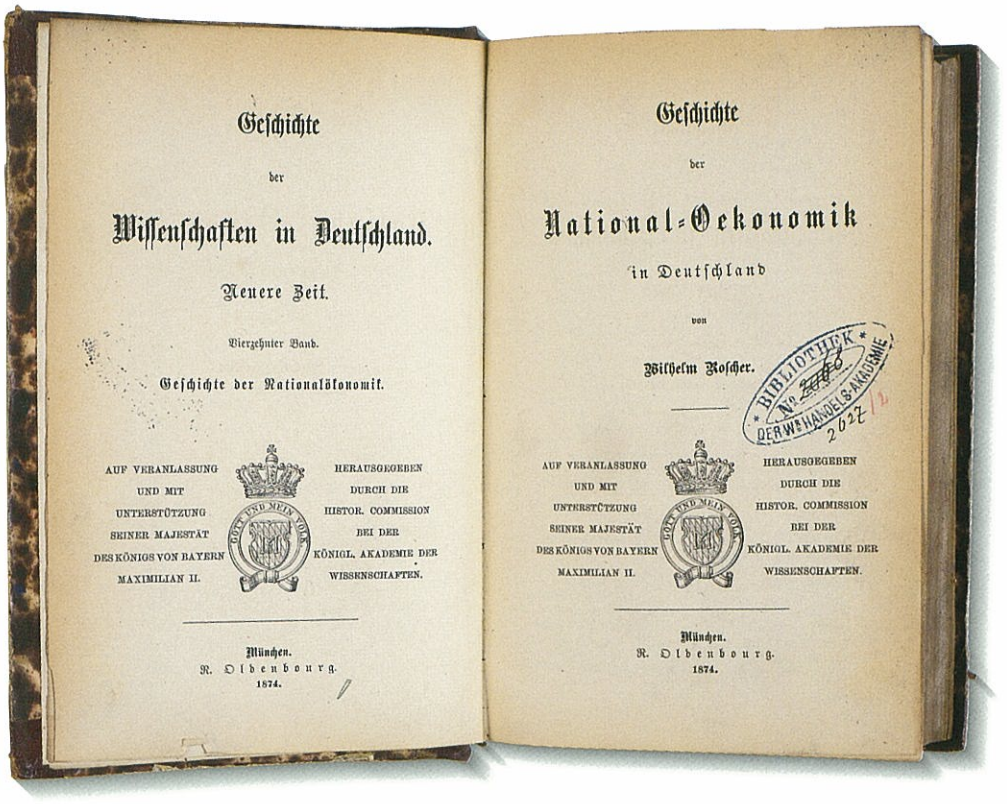
London:
MACMILLAN AND CO.
1874.

[*The Right of Translation and Reproduction is reserved.*]

Cairnes, John Elliot, 1823-1875
Some leading principles of political Economy Newly expounded.
London : Macmillan,　1874　xix,506,54p. ; 22cm

ケアンズは、学説史上ではリカード経済学の流れに属しているが、J.S.ミルからも影響を受け、需給関係、生産費、賃金基金、国際貿易と国際価値などの分析に功績があった。本書は、経済分析において重要な貢献を果たしたケアンズ最後の著作とされ、第1部では価値、第2部では労働と資本、第3部では国際貿易について論じられ、中でも労働市場における＜非競争集団＞の理論は有名である。

131. ロッシャー（1817～1894）
「ドイツ国民経済史」初版　1874年　ミュンヘン刊



Geschichte
der
Wissenschaften in Deutschland.
Neuere Zeit.
Vierzehnter Band.
Geschichte der Nationalökonomik.

AUF VERANLASSUNG UND MIT UNTERSTÜTZUNG SEINER MAJESTÄT DES KÖNIGS VON BAYERN MAXIMILIAN II.

HERAUSGEGEBEN DURCH DIE HISTOR. COMMISSION BEI DER KÖNIGL. AKADEMIE DER WISSENSCHAFTEN.

München.
R. Oldenbourg.
1874.

Geschichte
der
National-Oekonomik
in Deutschland
von
Wilhelm Roscher.

BIBLIOTHEK DER WISSENSCHAFTEN AKADEMIE
No. 2022/2

AUF VERANLASSUNG UND MIT UNTERSTÜTZUNG SEINER MAJESTÄT DES KÖNIGS VON BAYERN MAXIMILIAN II.

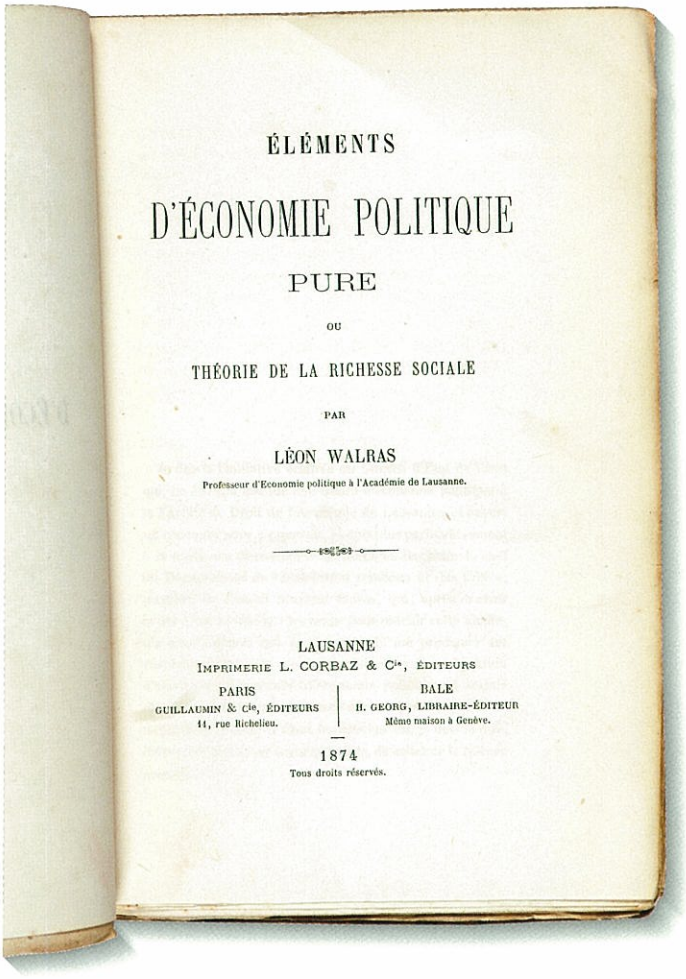
HERAUSGEGEBEN DURCH DIE HISTOR. COMMISSION BEI DER KÖNIGL. AKADEMIE DER WISSENSCHAFTEN.

München.
R. Oldenbourg.
1874.

Roscher, Wilhelm Georg Friedrich, 1817-1894
Geschichte der National-Oekonomik in Deutschland.
München : R. Oldenbourg,　1874　viii,1085p. ; 22cm

ドイツの経済学者ロッシャーは、ヒルデブラント、クニースと並ぶ歴史学派の代表者として、経済学を国民経済の歴史的発展法則の学と位置づけ、多くの著作を残した。本書は、1874年までのドイツ経済学の概論で、思想の他、個々の経済学者の人物像や著作の特徴にも触れ、百科事典的な要素を持つ資料となっている。

132. ワルラス（1834～1910）
「純粋経済学要論」初版　2巻　1874-1877年　ローザンヌ刊



ÉLÉMENTS

D'ÉCONOMIE POLITIQUE

PURE

OU

THÉORIE DE LA RICHESSE SOCIALE

PAR

LÉON WALRAS

Professeur d'Economie politique à l'Académie de Lausanne.

LAUSANNE
IMPRIMERIE L. CORBAZ & Cie, ÉDITEURS

PARIS
GUILLAUMIN & Cie, ÉDITEURS
14, rue Richelieu.

BALE
H. GEORG, LIBRAIRE-ÉDITEUR
Même maison à Genève.

1874

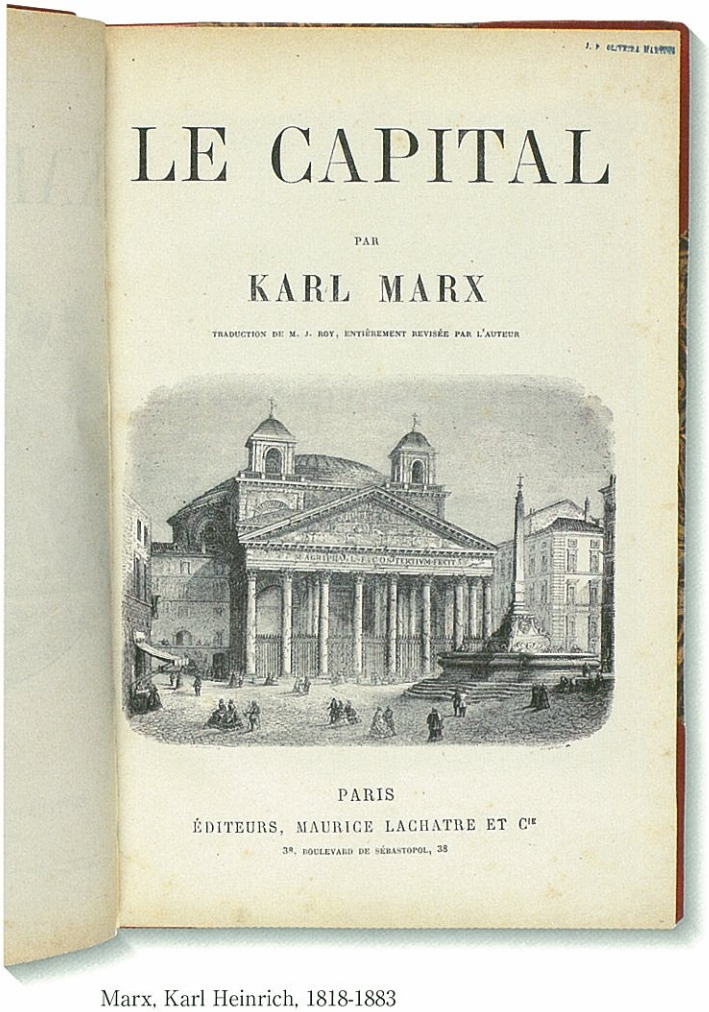
Tous droits réservés.

Walras, Léon 1834-1910
Èlèments d'èconomie politique pure ou thèorie de la richesse sociale.
London : L. Corbaz.　1874-77　2 Vols.(viii,208p. ;[211]-407p) ; 23cm

ワルラスは、フランスの経済学者。スイスの鉱山学校を中退後、文学などに熱中したのち経済学に転じ、1870年ローザンヌ大学教授となり、1892年にパレートに譲るまで数理経済学を講じた。数学的分析方法と限界原理をクールノーから学び、効用理論を父オーギュスト・ワルラスから受け継いで、ジェヴォンズ、メンガーとともに限界効用理論を確立した一人に数えられ、近代経済学の始祖の一人となった。

本書は、ワルラスの主著で491頁からなり、「社会的富の理論」という副題がある。初版は2冊に分かれ、第一分冊が1874年に、第二分冊が1877年に出版された。第一分冊は交換の理論を取り上げた三部を収録、その序文ですでに第二分冊の内容を予告しているが、出版は3年後となった。本書は、ローザンヌ大学での講義を著書として纏めたものであるが、本書の名を不朽ならしめた最大の功績は経済社会の全循環を方程式体系を用いて表現し、その一般的相互依存関係を分析する方法を確立したことである。この方法は、ローザンヌ学派と呼ばれるパレート、パンタレオーニなどによって継承された。

133. マルクス（1818～1883）
「資本論」フランス語版　1875年　パリ刊



LE CAPITAL

PAR

KARL MARX

TRADUCTION DE M. J. ROY, ENTIÈREMENT REVISÉE PAR L'AUTEUR

PARIS

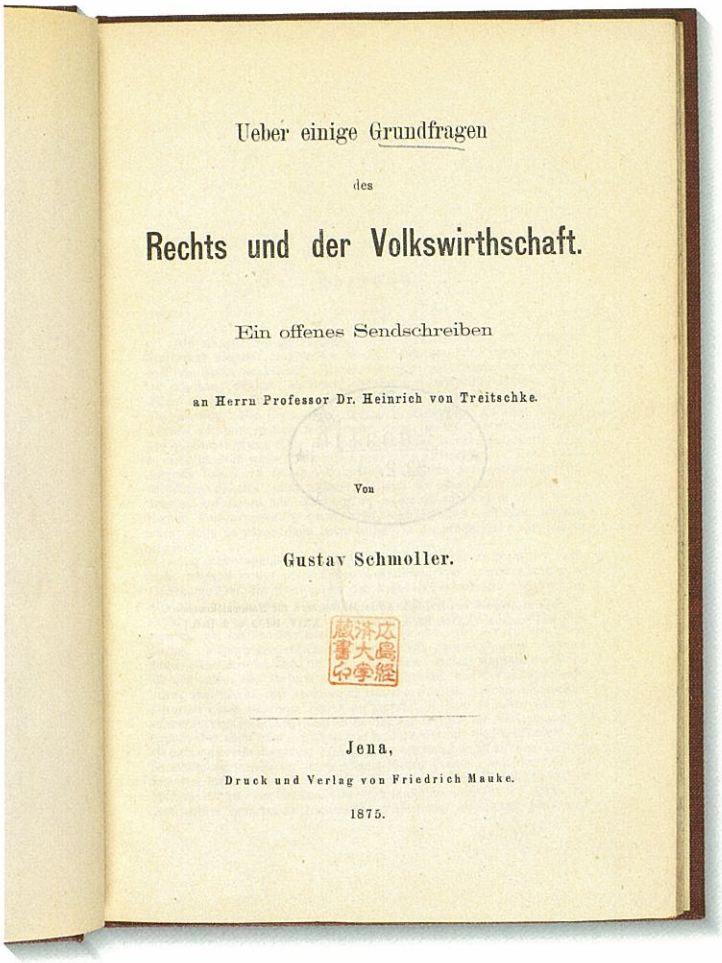
ÉDITEURS, MAURICE LACHATRE ET Cie

38, BOULEVARD DE SÉBASTOPOL, 38

Marx, Karl Heinrich, 1818-1883
Le Capital.
Paris : Maurice Lachatre,　[1875]　351p. ; 22cm

マルクスは、ドイツ語版第2版の準備と並行してフランス語翻訳者ジョセフ・ロアと知り合い、出版社ラシャトールとフランス語版の出版契約を結んだ。世に“ラシャトール版”と呼ばれているものである。フランス語版「資本論」は1875年11月に至って完結し、1冊本にまとめられた。本書には、ローマのパンティオン宮殿の絵が描かれ、本書が持っている革命的色彩が和らげられているが、これはパリ・コミューン以後の反動政府の思想的弾圧を避けるためであったといわれている。マルクスは「資本論」をフランス国民に一層わかり易いものにするため、翻訳の修正を全面的に行い、フランス語版のためにドイツ語原文を徹底的に訂正している。そのためフランス語版は原本からは独立した科学的価値を有するといわれている。マルクスは「資本論」の外国語訳の際には、原本の他にフランス語訳を必ず参照するようにと指示した。

134. シュモラー（1838～1917）
「法および国民経済の根本問題」初版　1875年　イエナ刊



Ueber einige Grundfragen

des

Rechts und der Volkswirthschaft.

Ein offenes Sendschreiben

an Herrn Professor Dr. Heinrich von Treitschke.

Von

Gustav Schmoller.

Jena,

Druck und Verlag von Friedrich Mauke.

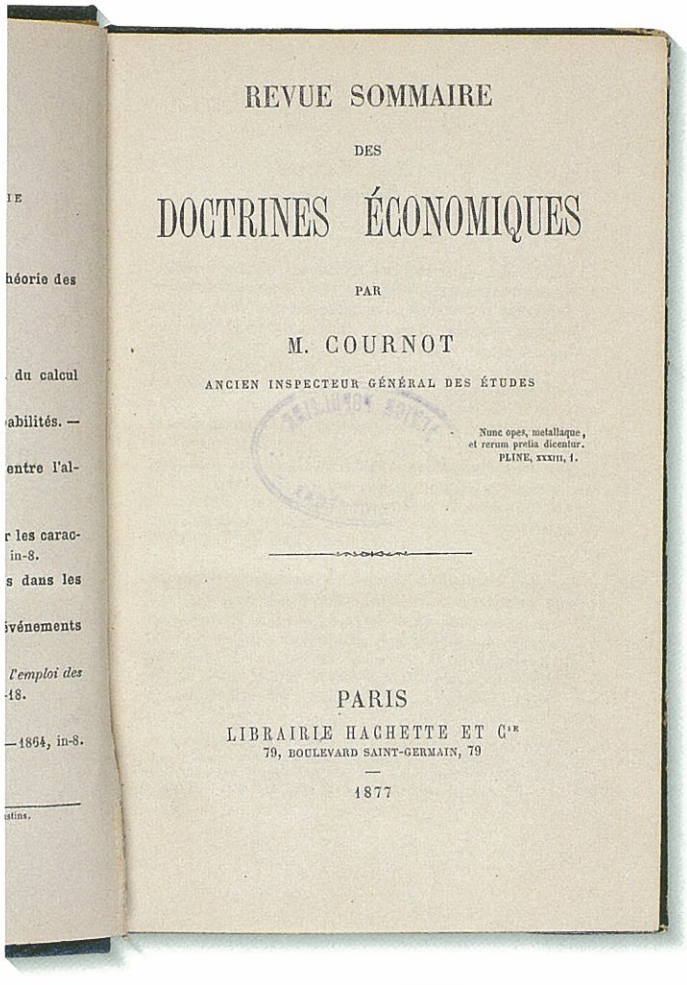
1875.

Schmoller, Gustav von., 1838-1917
Ueber einige Grundfragen des Rechts und der Volkswirthschaft.
Jena : Friedrich Mauke,　1875　viii,167p. ; 23cm

シュモラーは、1874年にベルリンで“社会問題とプロイセン国家”と題する講演をおこない、＜階級支配＞の歴史的諸相を描くとともにその克服過程としての＜階級闘争＞に時代が直面していることを説いた。この講演は、同年に「プロイセン年報」に掲載されるが、同誌の編集者トライチュケによって辛辣に批判された。本書は、国民経済の倫理的・有機的発展を提唱するドイツ後期歴史学派（新歴史学派ともいう）の領袖として、ドイツ帝国の経済学界に揺るがぬ地位を得ることになるシュモラーが、トライチュケへの反論として書き、「ヒルデブランド国民経済学および統計学年報」1874～75年に発表した論文をまとめ1875年に出版したものである。副題に「博士ハインリヒ・フォン・トライチュケ教授への公開状」とある。

本書は、16頁の小著であるが、新歴史学派の立論を知ることが出来る。

135. クールノー（1801～1877）
「経済学説要論」初版　1877年　パリ刊



REVUE SOMMAIRE

DES

DOCTRINES ÉCONOMIQUES

PAR

M. COURNOT

ANCIEN INSPECTEUR GÉNÉRAL DES ÉTUDES

Nunc opes, metallaque,
et rerum prelia dicentur.
PLINE, XXXIII, 1.

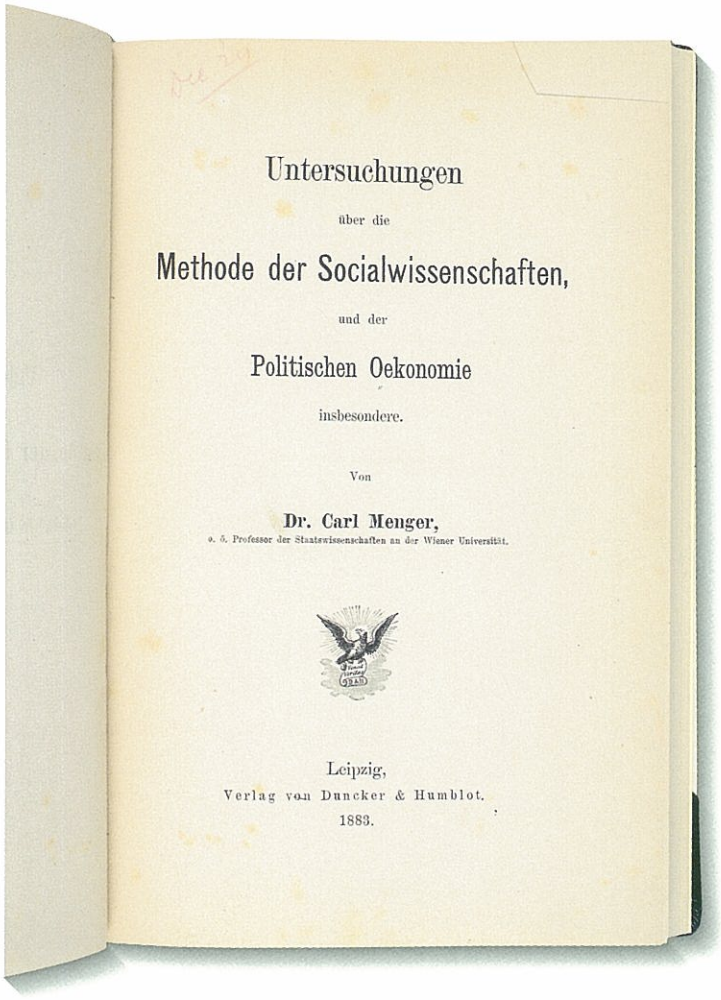
PARIS
LIBRAIRIE HACHETTE ET Cie
79, BOULEVARD SAINT-GERMAIN, 79

1877

Cournot, Antoine Augustin, 1801-1877,
Revue Sommaire des Doctorines Economiques.
Paris : L. Hachette,　1877　[4],viii,339p. ; 18cm

クールノーは、1838年に刊行した「富の理論の数学的原理に関する研究」において数理経済学の確立者としての名を不朽のものとした。しかし、さらに数学的解析では説明できなかった諸問題を一層完全にするために1863年に「富の理論の原理」を執筆したが、本書は、その新版として刊行されたものである。

136. メンガー（1840～1921）
「社会科学特に経済学の方法に関する研究」初版　1883年　ライプチヒ刊



Untersuchungen

über die

Methode der Socialwissenschaften,

und der

Politischen Oekonomie

insbesondere.

Von

Dr. Carl Menger,

o. ö. Professor der Staatswissenschaften an der Wiener Universität.

Leipzig,

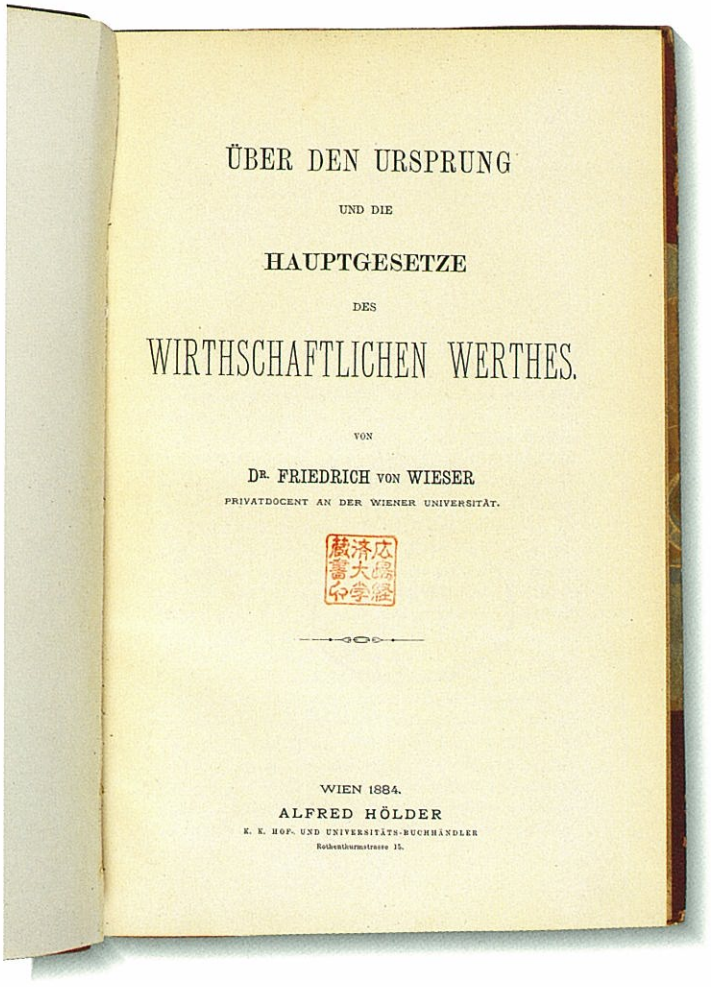
Verlag von Duncker & Humblot.

1883.

Menger, Carl, 1840-1921
Untersuchungen über die methode der socialwissenschaften,
und der politischen Oekonomie insbesondere.
Leipzig : Duncker & Humblot,　1883　xxxii,291p. ; 22cm

メンガーが「国民経済学原理」を出版した当時のドイツ経済学界は、シュモラーの率いる新歴史学派によって牛耳られていた。彼らは歴史的事実の調査収集を尊重するあまり、理論を無用のものと見るようにまでなっており、「国民経済学原理」は国内においてほとんど反響を起こさなかった。この情勢を嘆いたメンガーは、抽象的・演繹的理論の重要性を主張するために本書を刊行した。本書の刊行は、シュモラーとのいわゆる＜方法論争＞の発端となったが、メンガーの主張は、シュモラーの歴史的方法に対して、個別的研究を目指す歴史学と一般的理論の樹立を目指す経済学とを区別することにあった。しかし、この主張は、歴史学派の理論無用論に対しては有効であったが、人間の経済活動の合理性に基づく解明を重視するあまり、その非合理性を追及する点に欠け、方法論としては不十分であった。本書は、＜限界革命＞の理論により、近代経済学の始発点と見なされている。

137. ウィーザー（1851～1926）
「経済価値の起源と主要法則」初版　1884年　ウィーン刊



ÜBER DEN URSPRUNG

UND DIE

HAUPTGESETZE

DES

WIRTHSCHAFTLICHEN WERTHES.

VON

DR. FRIEDRICH VON WIESER

PRIVATDOCENT AN DER WIENER UNIVERSITÄT.

WIEN 1884.

ALFRED HÖLDER

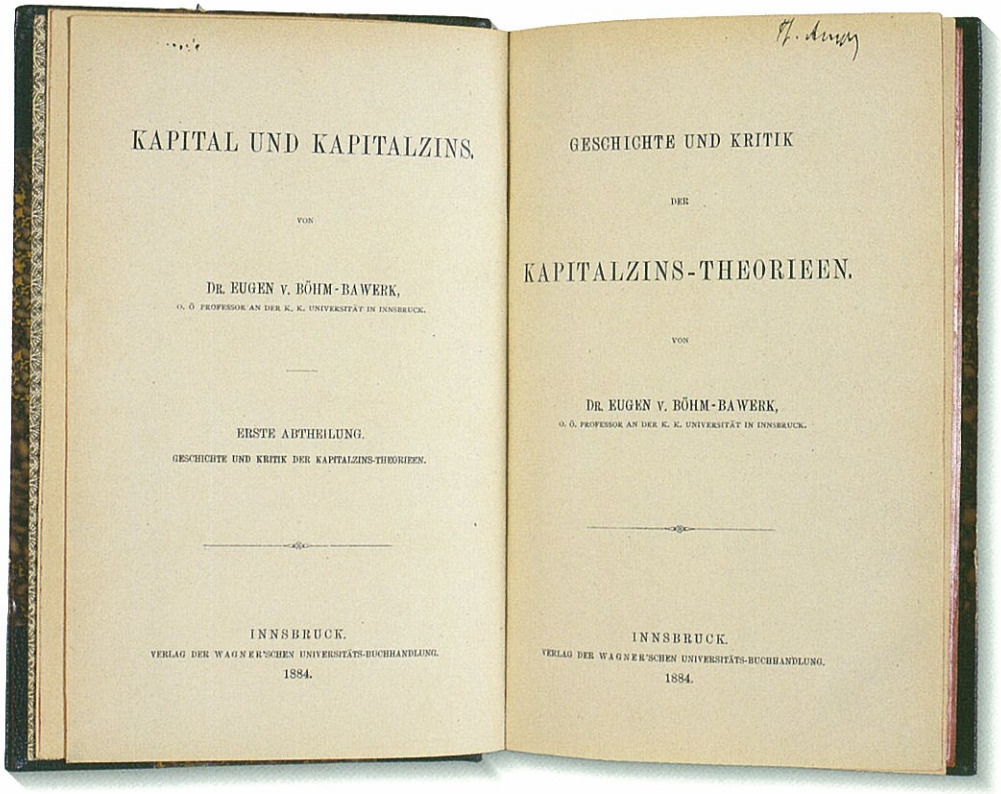
K. K. HOF- UND UNIVERSITÄTS-BUCHHÄNDLER

Rothenthurmstrasse 15.

Wieser, Friedrich von., 1851-1926
Über den Ursprung und die Hauptgesetze des Wirthschaftlichen werthes.
Wien : Alfred Holder,　1884　xiv,214p. ; 23cm

ウィーザーは、オーストリアの経済学者。ベーム・バヴェルクとともにメンガー門下の双璧をなす。本書は、ウィーザーの処女作で、主観価値説の立場から見た費用と価値の関係を説いた研究書である。バヴェルクの「経済価値の基礎理論」とともに、主観価値論の展開と普及に極めて大きな貢献をした。限界効用"Grenznutzen"という言葉がオーストリア学派としては初めて本書で使用されたが、これについては初版がすぐに絶版となり、広く流布することがなかったために、バヴェルクの貢献として誤解されることになった。

138. ベーム・バヴェルク（1851～1914）
「資本および資本利子」初版　2巻　1884-1889年　インスブルック刊



KAPITAL UND KAPITALZINS.

VON

DR. EUGEN V. BÖHM-BAWERK,
O. Ö. PROFESSOR AN DER K. K. UNIVERSITÄT IN INNSBRUCK.

ERSTE ABTHEILUNG.
GESCHICHTE UND KRITIK DER KAPITALZINS-THEORIEEN.

INNSBRUCK.
VERLAG DER WAGNER'SCHEN UNIVERSITÄTS-BUCHHANDLUNG.
1884.

GESCHICHTE UND KRITIK

DER

KAPITALZINS-THEORIEEN.

VON

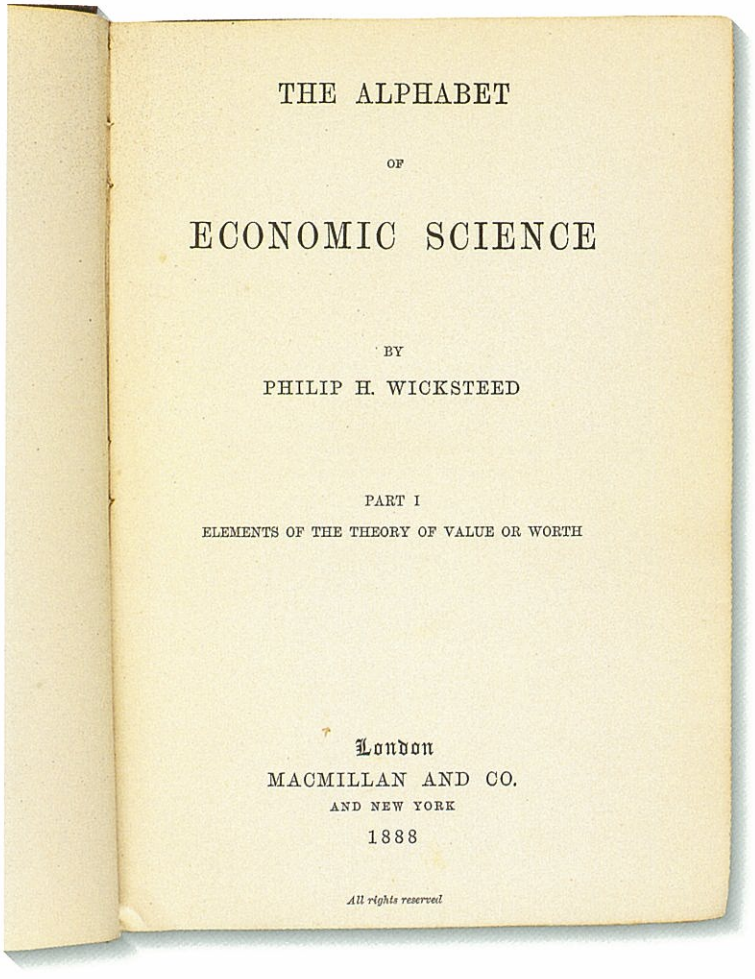
DR. EUGEN V. BÖHM-BAWERK,
O. Ö. PROFESSOR AN DER K. K. UNIVERSITÄT IN INNSBRUCK.

INNSBRUCK.
VERLAG DER WAGNER'SCHEN UNIVERSITÄTS-BUCHHANDLUNG.
1884.

Böhm-Bawerk, Eugen von., 1851-1914
Kapital und Kapitalzins.
Innsbruck : Wagner,　1884-89　2 Vols. ; 21cm

ベーム・バヴェルクは、メンガー門下の経済学者。オーストリア学派の創立者であり、オーストリア政府の要請により3度も大蔵大臣を務めた。彼の研究は、主として資本及び資本利子論に向けられ、2巻からなる本書がその主著とされている。第1巻は「資本利子論の歴史と批判」（1884年）で、従来の利子論たる生産力説、制欲説、搾取説など150人以上の学者の見解を徹底的に吟味批判し、第2巻「資本の積極理論」（1889年）では、それらに代わる彼自身の理論を展開して、彼の有名な「時差説」が主張された。

139. ウィックスティード（1844～1927）
「経済学入門」初版　1888年　ロンドン刊



THE ALPHABET

OF

ECONOMIC SCIENCE

BY

PHILIP H. WICKSTEED

PART I

ELEMENTS OF THE THEORY OF VALUE OR WORTH

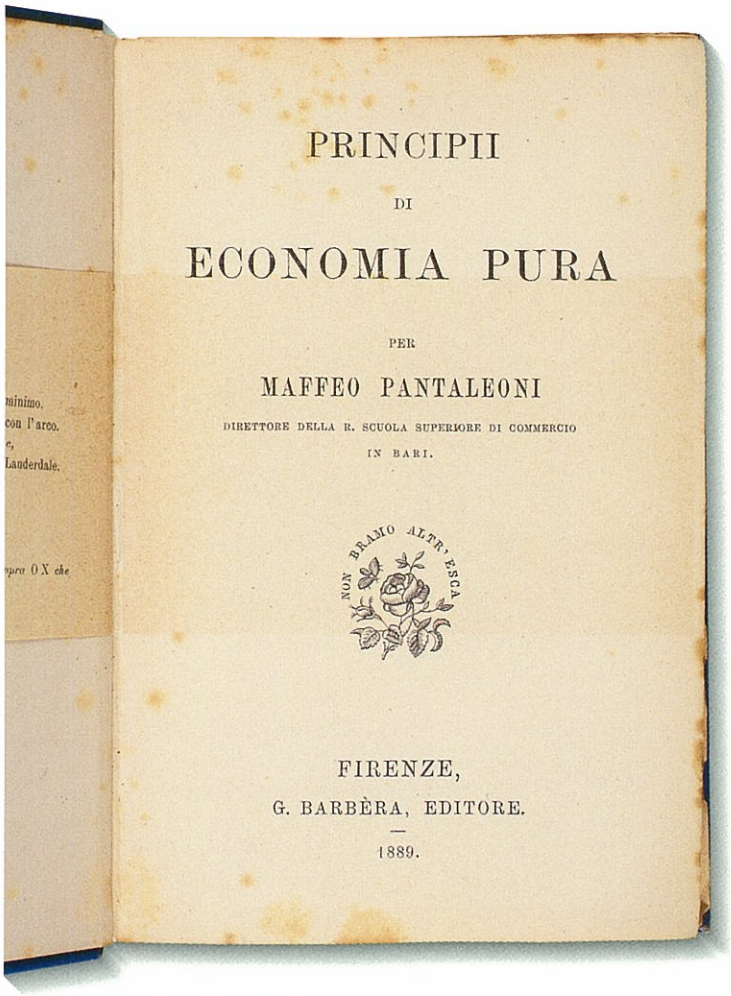
London
MACMILLAN AND CO.
AND NEW YORK
1888

All rights reserved

Wicksteed, Philip Henry, 1844-1927
The Alphabet of Economic Science.
London : Macmillan,　1888　xiii,[3],142,[2]p. ; 17cm

イギリスの経済学者ウィックスティードは、初めロンドンのユニバーシティ・カレッジにおいて古典を専攻し、父の職を継いで牧師になったが、その職をやめた後、経済学に関心を抱くようになった。彼は、ジェヴォンズの効用理論に沿い、独自の理論を展開して限界生産力説の発展に貢献した。本書は、限界効用理論の入門書で、この中で初めて限界効用のドイツ語“Grenznutzen”の訳語として“Marginal utility”という言葉が使われた。館蔵書には、著者の献辞が入っている。

140. パンタレオーニ（1857～1924）
「純粋経済学原理」初版　1889年　フィレンツェ刊



PRINCIPII

DI

ECONOMIA PURA

PER

MAFFEO PANTALEONI

DIRETTORE DELLA R. SCUOLA SUPERIORE DI COMMERCIO

IN BARI.

NON BRAMO ALTR' ESCA

FIRENZE,

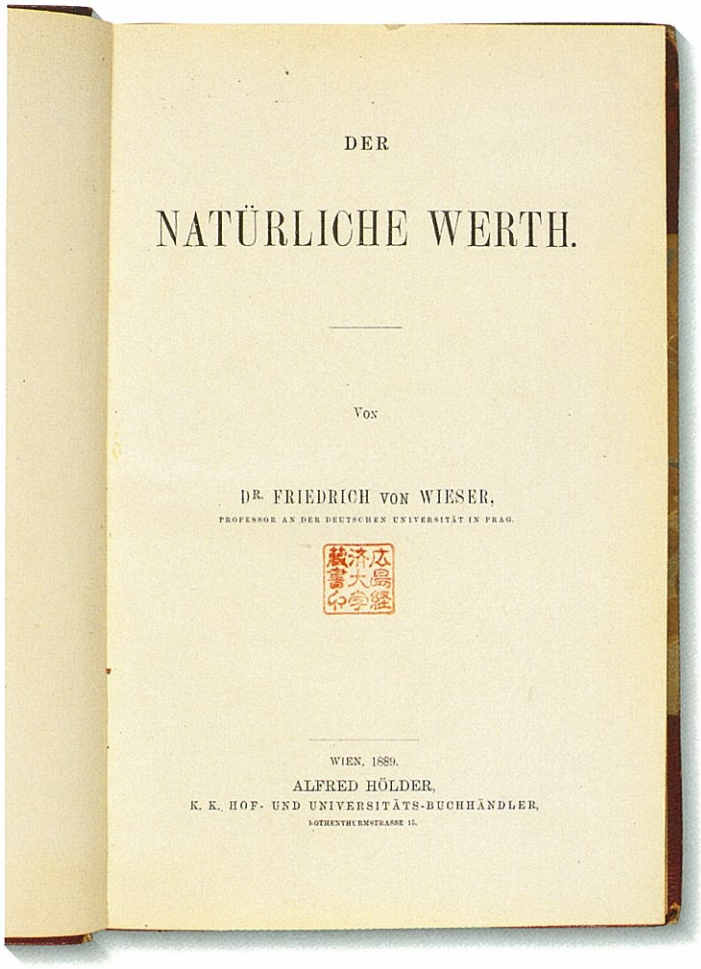
G. BARBÈRA, EDITORE.

1889.

Pantaleoni, Maffeo, 1857-1924
Principii di Economia Pura.
Firenze : G. Barbera,　1889　376p. ; 17cm

パンタレオーニは、イタリアの経済学者。ローマ大学の教授を経て、第1次大戦の前後に議員として政界で活躍した。彼は、ワルラスの後を受けてパレートとともにローザンヌ学派の中心的存在となったが、本書はその代表的著作である。本書は3編から成り、第1編は、経済学は快楽と苦痛の計算であるという前提のもとに、快楽を効用とし、苦痛を負の効用として、効用の極大を求める理論、第2編は、価値すなわち価格決定の理論、第3編は、生産財、貨幣、生産用役などの価格決定の理論を扱っている。

141 ウィーザー（1851～1926）
「自然価値論」初版　1889年　ウィーン刊



DER

NATÜRLICHE WERTH.

VON

DR. FRIEDRICH VON WIESER,
PROFESSOR AN DER DEUTSCHEN UNIVERSITÄT IN PRAG.

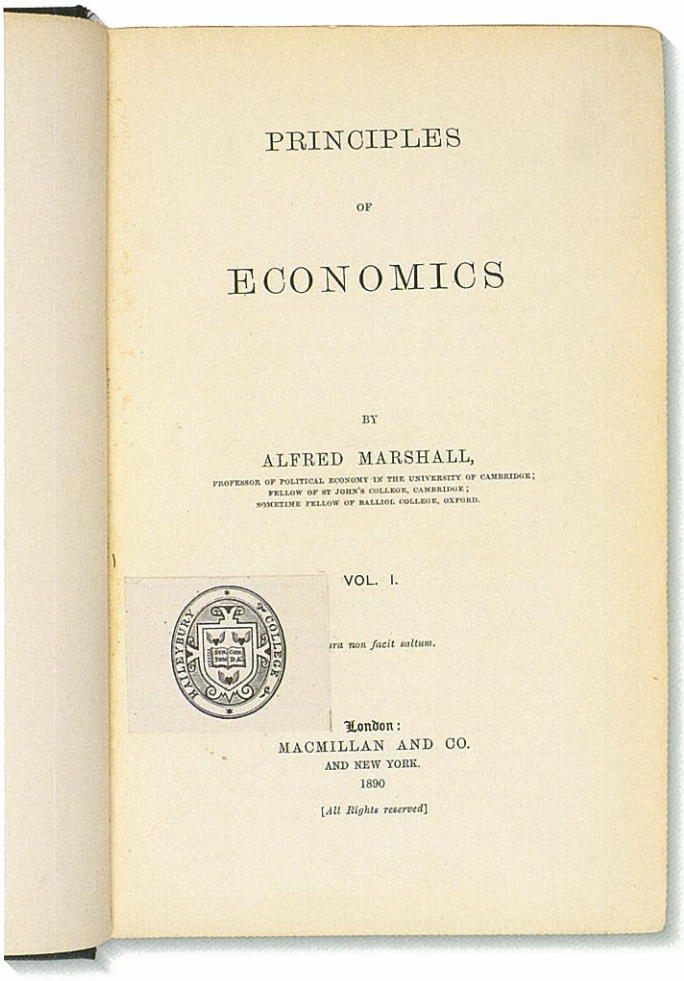
広島経済大学
蔵書印

WIEN, 1889.
ALFRED HÖLDER,
K. K. HOF- UND UNIVERSITÄTS-BUCHHÄNDLER,
ROTHENTHURMSTRASSE 15.

Wieser, Friedrich von., 1851-1926
Der Natürliche Werth.
Wien : Alfred Hölder,　1889　xvi,239p. ; 23cm

本書は、主観的価値論を唱えたオーストリアの経済学者で、限界効用の理論を生産要素の価値の説明まで発展させたウィーザーの経済学理論、特に価値論に関する絶頂期の著作である。財量と効用との社会関係から生ずる価値または共産主義国家における価値としての自然価値の概念を用いて、帰属問題、費用法則などを論じ、オーストリア学派の価値論の代表作として認められている。本書において完成された概念は、1876年にクニースのゼミナールにおいて発表されたものをもとに、1884年に著した「経済価値の起源と主要法則」を経た13年間の研究の成果であった。

142. マーシャル（1842～1924）
「経済学原理」初版　1890年　ロンドン刊



PRINCIPLES

OF

ECONOMICS

BY

ALFRED MARSHALL,

PROFESSOR OF POLITICAL ECONOMY IN THE UNIVERSITY OF CAMBRIDGE;
FELLOW OF ST JOHN'S COLLEGE, CAMBRIDGE;
SOMETIME FELLOW OF BALLIOL COLLEGE, OXFORD.

VOL. I.

ura non facit saltum.

London:
MACMILLAN AND CO.
AND NEW YORK.
1890

[*All Rights reserved*]

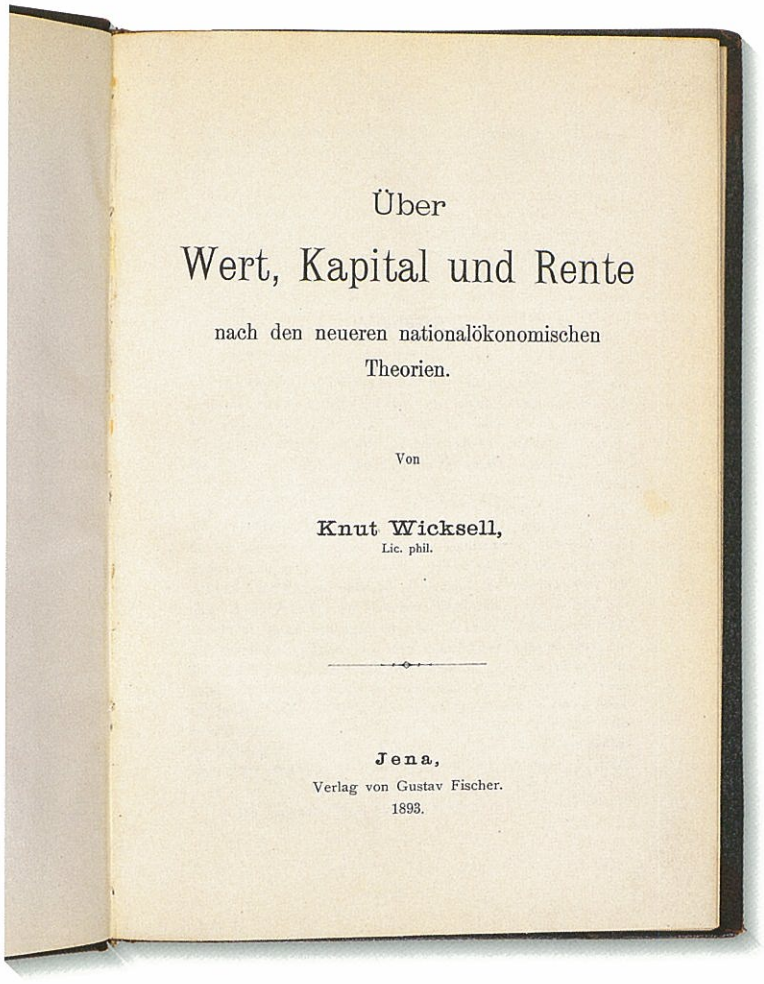
Marshall, Alfred, 1842-1924
Principles of Economics.
London and New York : Macmillan,　1890　xxviii,754,[2]p. ; 22cm

マーシャルは、イギリスの経済学者で、新古典学派またはケンブリジ学派の創始者。彼は、最初は物理学を専攻したが、倫理学に対する関心から経済学に入った。

本書は、マーシャルが経済学研究に専念し始めて20年の歳月を費やした広範な研究の成果として発表されたもので、彼の主著である。マーシャルは、経済学の説明に数学を利用したが、経済学は、具体的な経済の現実を説明できるものでなければならないと考え、数学的方法の適用範囲を狭く限定する必要を痛感した。従って本書は、現実の経済の運動を引き起こす諸力の分析を主要な課題としている。また、本書は、イギリスの旧古典学派の価値理論を受け継ぎながら、他方では、1870年代初めに確立されたジェヴォンズ流の限界効用学説にも理論上の位置を与えようとした。

第1巻が1890年に出されて幾度となく版を重ね、その間に多くの増補改正が加えられたが、第2巻はついに公刊されなかった。

143. ヴィクセル（1851～1926）
「価値、資本および地代」初版　1893年　イエナ刊



Über
Wert, Kapital und Rente
nach den neueren nationalökonomischen
Theorien.

Von

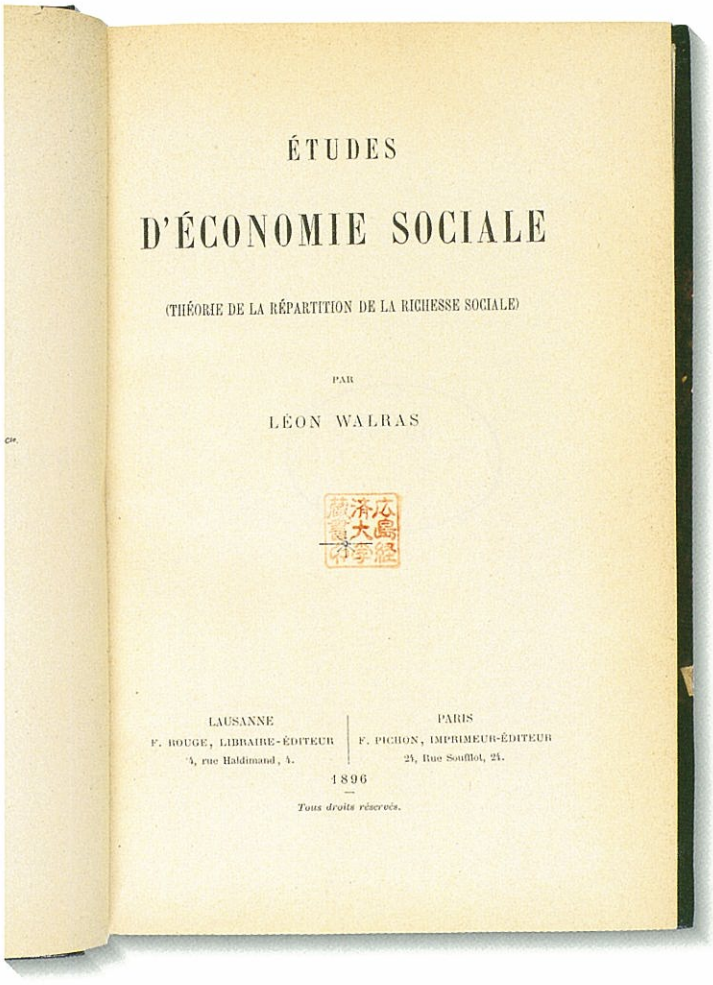
Knut Wicksell,
Lic. phil.

Jena,
Verlag von Gustav Fischer.
1893.

Wicksell, John Gustaf Kunt, 1851-1926
Über Wert, Kapital und Rente, nach den neueren nationalökonomischen theorien.
Jena : Gustav Fischer,　1893　xvi,143p. ; 23cm

ヴィクセルは、スウェーデンの経済学者。彼は、初め数学を専攻したが、貧乏の問題を契機に経済学に転じ、貧困の原因を無制限な出生に求める新マルサス主義の信奉者となった。本書は、副題に「新しい経済理論によって」と記されているように、生まれながらの数学専攻の熱血的な北欧経済学者ヴィクセルが、近代経済理論の生成に際して、ケンブリッジ学派、限界効用学派、一般均衡理論学派の3大潮流のいずれの学派にもとらわれることなく、それぞれの価値を正しく判定し、その長所を統合した画期的な書物である。本書の骨子は、近代価値論の根本原理とベーム・バヴェルクの資本理論の根本原理の解明に当てられている。彼は、古典的価値論の批判から出発し、近代価値理論の意義を明らかにし、近代価値理論の主要原理を簡潔に要約し、資本主義的生産と分配の構造、特に労賃と地代と資本利子との理論的決定について、独自の理論を展開している。

144. ワルラス（1834～1910）
「社会経済学研究」初版　1896年　ローザンヌ刊



ÉTUDES

D'ÉCONOMIE SOCIALE

(THÉORIE DE LA RÉPARTITION DE LA RICHESSE SOCIALE)

PAR

LÉON WALRAS

LAUSANNE
F. ROUGE, LIBRAIRE-ÉDITEUR
4, rue Haldimand, 4.

PARIS
F. PICHON, IMPRIMEUR-ÉDITEUR
24, Rue Soufflot, 24.

1896

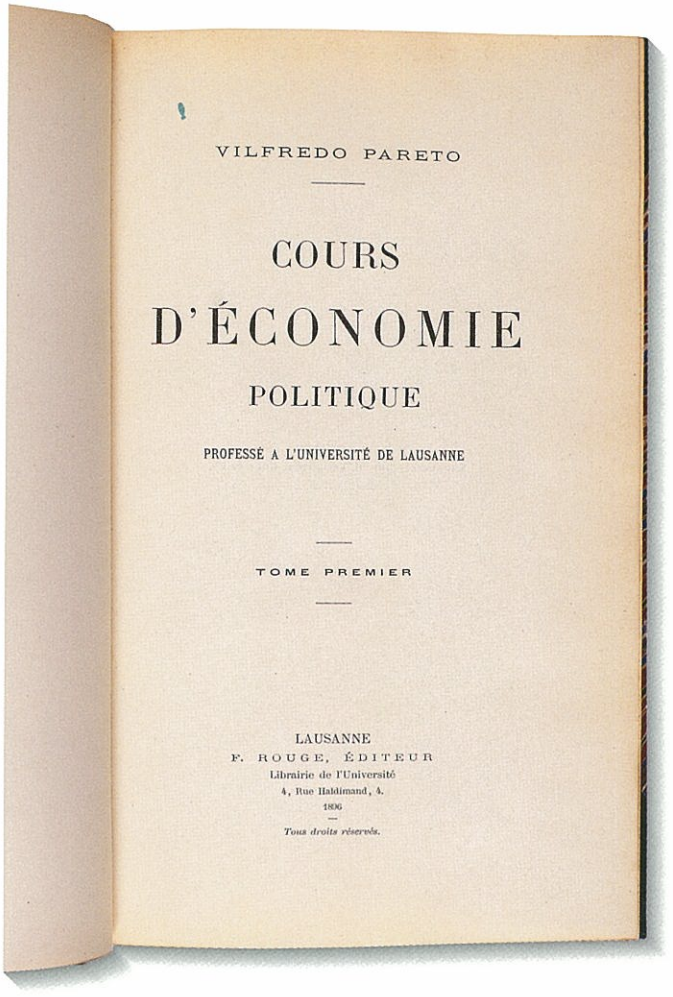
Tous droits réservés.

Walras, Léon, 1834-1910
Études d'économie sociale.
Lausanne : F. Rouge,　1896　vii,464p. ; 22cm

ワルラスは、フランスの経済学者。主として自然科学の教育を受け、のちに社会科学者に転じた。1860年ローザンヌで開かれた国際租税会議に参加したのがきっかけとなり、ワルラスは1870年にローザンヌ・アカデミーに新設された経済学講座の初代教授として招聘された。赴任してからの彼は学究生活に専念して、着々と多くの業績をあげ、1892年にパレートに講座を引き継いだ後も、終生レマン湖のほとりに居住し、「純粋経済学要論」の改訂に勤しんだ。

本書は、ワルラスの主著のひとつに数えられ、所有権及び租税による社会的富の分配に関する問題を扱った論文集となっている。

145. パレート（1848～1923）
「経済学講義」初版　2巻　1896-1897年　ローザンヌ刊



VILFREDO PARETO

COURS
D'ÉCONOMIE
POLITIQUE

PROFESSÉ A L'UNIVERSITÉ DE LAUSANNE

TOME PREMIER

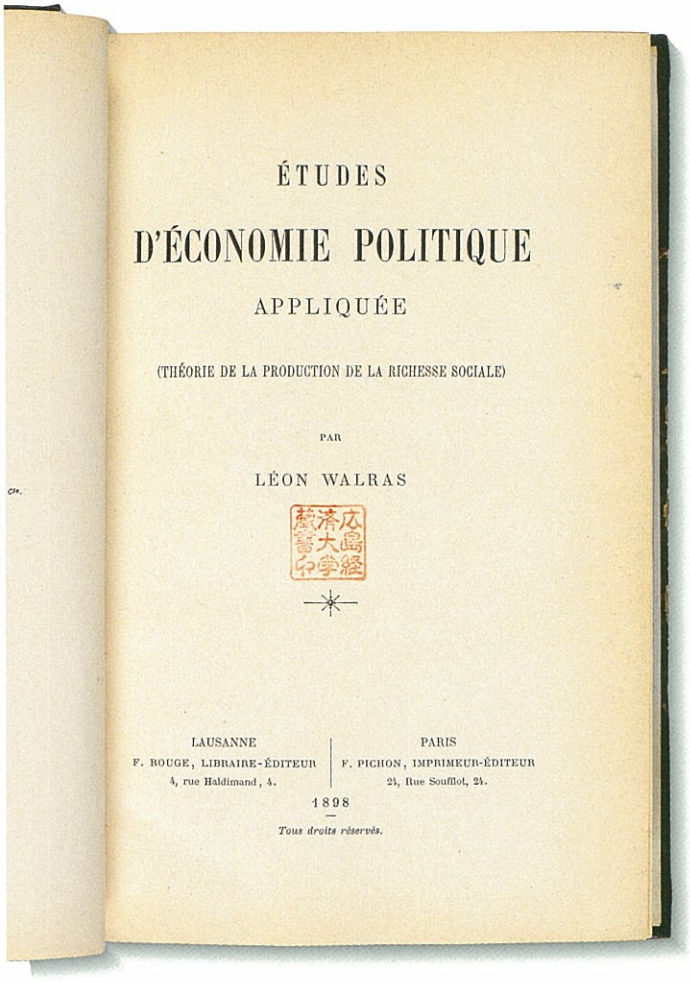
LAUSANNE
F. ROUGE, ÉDITEUR
Librairie de l'Université
4, Rue Haldimand, 4.
1896

Tous droits réservés.

Pareto, Vilfredo Federico Damaso, 1848-1923
Cours d'économie politique professé a l'université de Lausanne.
Lausanne : F. Rouge,　1896-97　2 Vols. ; 23cm

パレートはイタリアの経済学者、社会学者。パンタレオーニの影響で経済学研究を始め、ワルラスの後任としてローザンヌ大学経済学教授となった。本書は、ローザンヌ大学における初期の講義をまとめて出版したもので、第1巻は純粋経済学原理と応用経済学のうちの資本編で、“オフェリミテ（快楽度）”概念を基礎とする均衡理論が簡潔に述べられている。これは、ワルラスの希少性やジェヴォンズの効用概念と同一のものであった。第2巻は、応用経済学のうちの経済組織と分配及び消費の2編をおさめ、人口、資本、土地に関する実証的考察、社会的進化の原理、恐慌、分配、消費の考察などが展開されている。これらの理論は、10年後に刊行された「経済学提要」においてさらに発展して展開されている。

146. ワルラス（1834～1910）
「応用経済学研究」初版　1898年　ローザンヌ刊



ÉTUDES

D'ÉCONOMIE POLITIQUE

APPLIQUÉE

(THÉORIE DE LA PRODUCTION DE LA RICHESSE SOCIALE)

PAR

LÉON WALRAS

LAUSANNE
F. ROUGE, LIBRAIRE-ÉDITEUR
4, rue Haldimand, 4.

PARIS
F. PICHON, IMPRIMEUR-ÉDITEUR
24, Rue Soufflot, 24.

1898

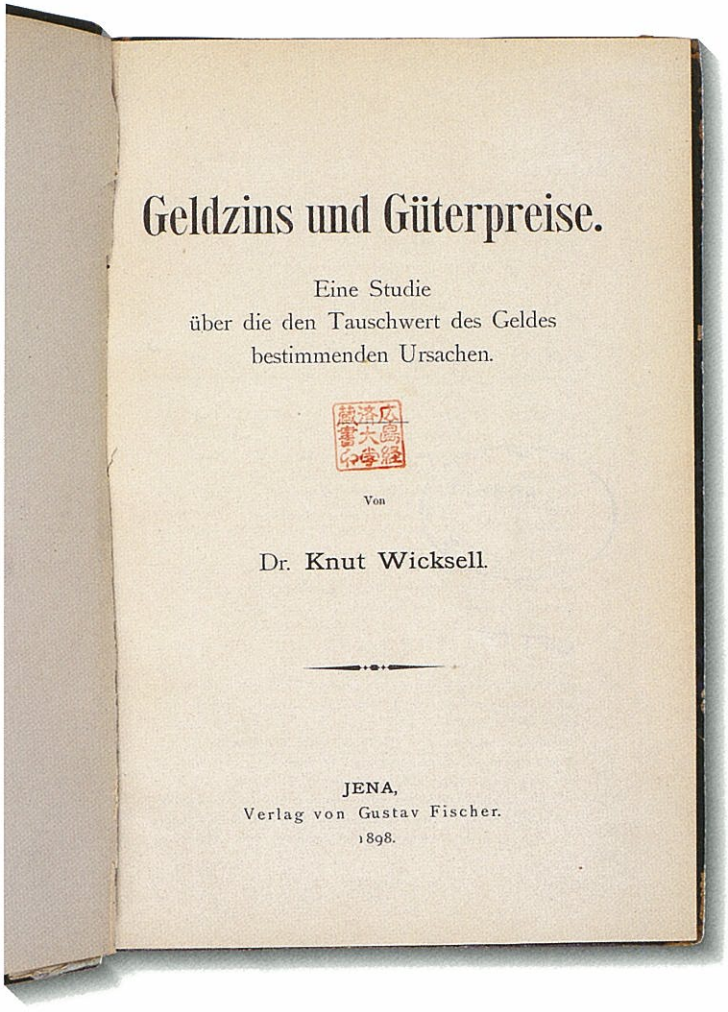
Tous droits réservés.

Walras, Léon, 1834-1910
Études d'économie politique appliquée.
Lausanne : F. Rouge,　1898　[4],499p. ; 22cm

ワルラスは、ジェヴォンズ、メンガーと並び限界効用理論の確立者の一人として位置づけられるが、このほかでも一般均衡理論の創設者、または数理経済学の先駆者として1930年代以降の経済学に大きな影響を及ぼした人物として記憶される。ワルラスの代表的著書は「純粋経済学要論」であるが、本書と「社会経済学研究」は、これに次ぐ主著であり、この3書が彼の経済学の体系を構成している。

本書は、随時に発表した論文を体系的に編集したものであり、その内容は貨幣、独占、農業・工業・商業、信用、銀行、取引所、経済学・社会学理論の素描、の7つの編に分かれており、副題は「社会的富の生産の理論」となっている。当時問題となっていた具体的な経済問題を取り上げ、これに純粋理論を適用して、社会的富をより多くつくり出す方法の理論を展開しており、広義には経済政策の理論であるといえる。

147. ヴィクセル（1851～1926）
「利子と物価」初版　1898年　イエナ刊



Geldzins und Güterpreise.

Eine Studie
über die den Tauschwert des Geldes
bestimmenden Ursachen.

Von

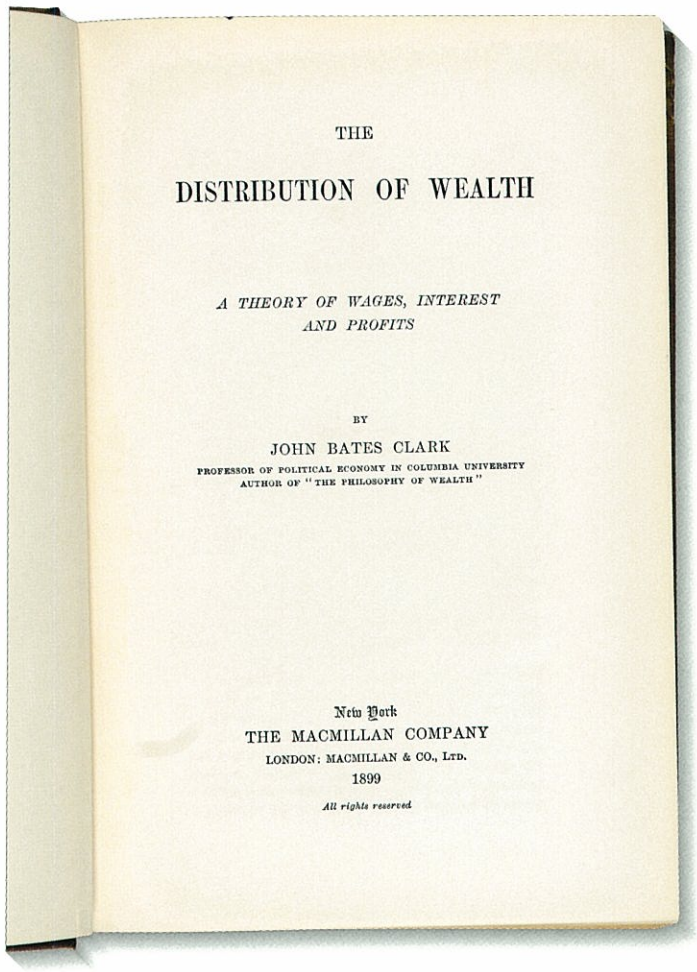
Dr. Knut Wicksell.

JENA,
Verlag von Gustav Fischer.
1898.

Wicksell, John Gustaf Kunt, 1851-1926
Geldzins und Güterpreise. Eine studie über die den Tauschwert des geldes bestimmenden ursachen.
Jena : Gustav Fischer,　1898　xi,[5],189p. ; 24cm

ヴィクセルは、経済学におけるスウェーデン学派の始祖と呼ばれ、現在もその影響力は大きい。スウェーデン学派の特色は、貨幣的要因の重視、特に資本としての貨幣の作用に関する理論的分析と現実的考察を通して、経済変動理論の現実接近を大きく推進させた点にあるが、この特色はそのままヴィクセルその人の特色である。彼は、「貨幣の交換価値を規定する諸原因についての一研究」と副題された本書において、相対価格の静的一般均衡の理論と貨幣数量説とを迂回生産理論を媒介として、有機的かつ動学的に結合しようと試みた。その結果ヒューム以来150年の伝統を持つ経済理論の“2分法”の欠陥を取り除くと同時に、理論経済学の関心を静的均衡条件の形式的・抽象的分析から、経済変動過程の動学的・現実的究明へと転回させる道を切り開いた。

148. クラーク（1847～1938）
「分配論」初版　1899年　ニューヨーク刊



THE

DISTRIBUTION OF WEALTH

A THEORY OF WAGES, INTEREST AND PROFITS

BY

JOHN BATES CLARK

PROFESSOR OF POLITICAL ECONOMY IN COLUMBIA UNIVERSITY
AUTHOR OF "THE PHILOSOPHY OF WEALTH"

New York
THE MACMILLAN COMPANY
LONDON: MACMILLAN & CO., LTD.
1899

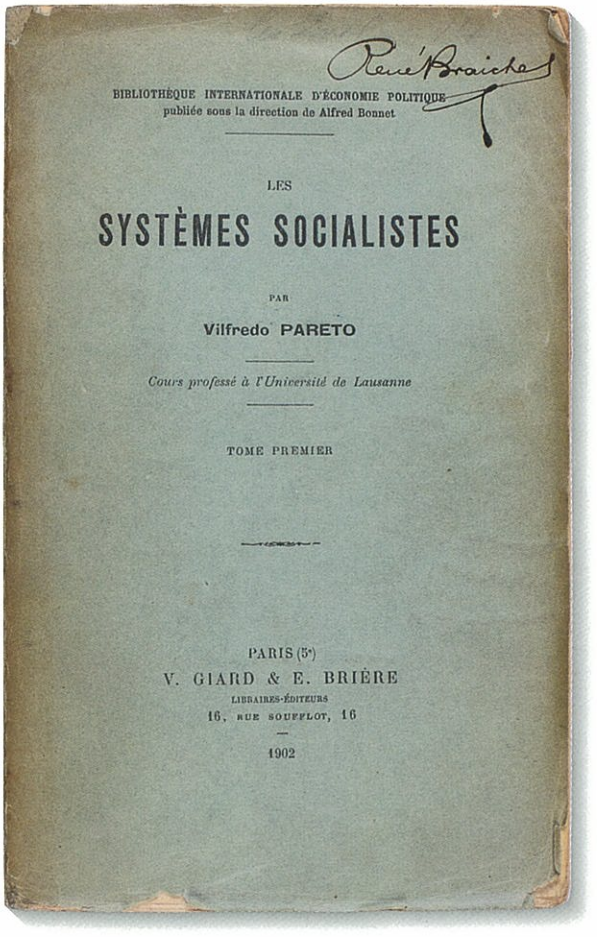
All rights reserved

Clark, John Bate. 1847-1938
The Distribution of Wealth. A theory of wages. interest and profits.
New York : Macmillan,　1899　xxviii,455p. ; 22cm

クラークは、アメリカの経済学者。アマースト大学を卒業してドイツに留学し、主としてクニースについて経済学を学び、帰国して各大学で経済学を講じ、コロンビア大学の教授となる。クラークは、アメリカにおける近代経済学の確立者として、国際的な名声を得た最初の経済理論家である。彼は、ジェヴォンズやワルラスとは独立した独自の立場からの限界効用理論および限界生産力説を構築した。

クラークは、本書において限界生産力理論を確立し、アメリカにおける限界主義理論の父となった。

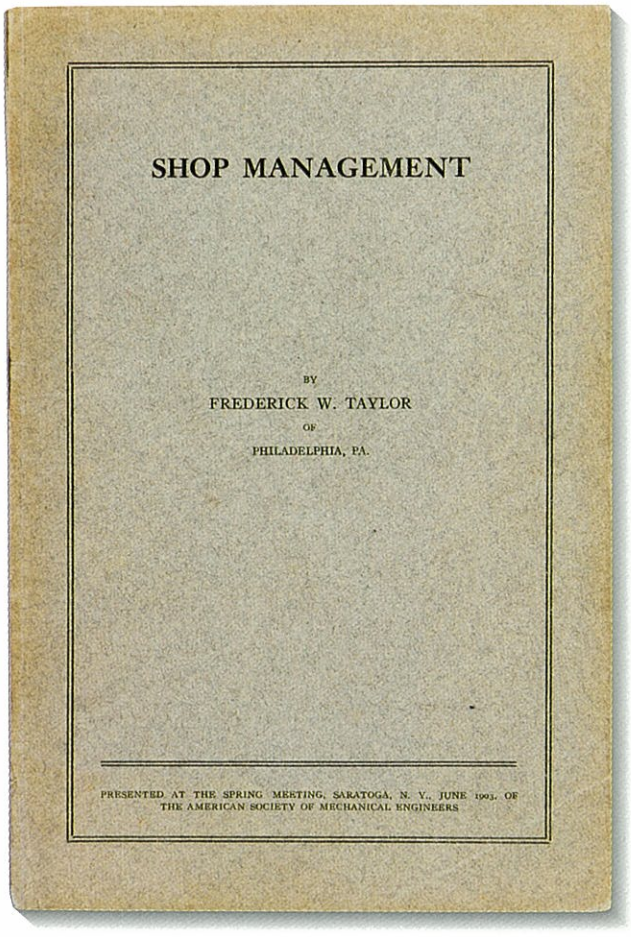
149. パレート(1848〜1923)
「社会主義体系」初版　2巻　1902年　パリ刊



Pareto, Vilfredo Federico Damaso, 1848-1923
Les Systémes Socialistes.
Paris : V. Giard & E. Briere,　1902　2 Vols. ; 23cm

パレートの社会学の見解を知る上で、「経済学提要」(1916年)と「一般社会学提要」(1921年)が重要とされているが、本書はそれに先行する社会主義批判の書として知られ、「一般社会学提要」で成熟するパレートの思想の糸口を見出す不可欠な著作として評価されている。

150. テイラー（1856～1915）
「工場管理」初出　1903年　フィラデルフィア刊

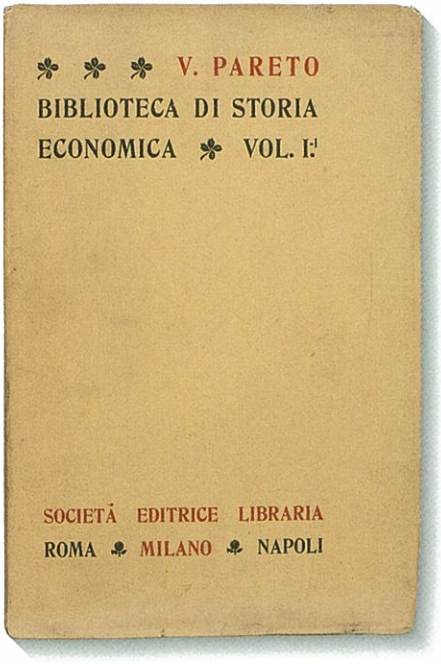


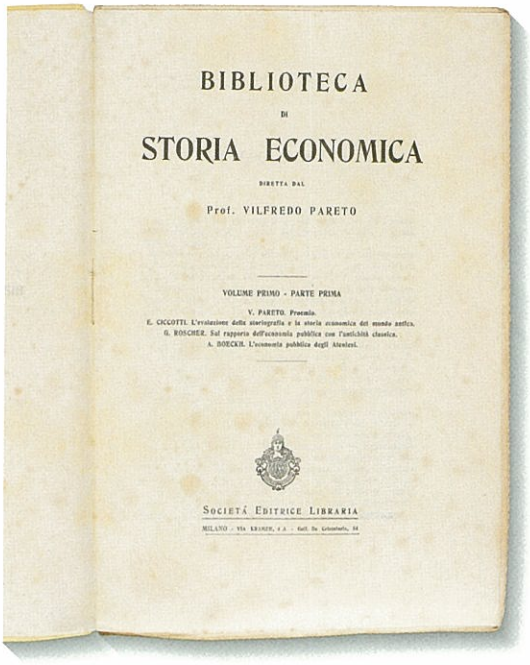
Taylor, Frederick Winslow 1856-1915
Shop management. Presented at the Spring Meeting, Saratoga, N.Y., June 1903, of the American Society of Mechanical Engineers.
Philadelphia : [offprint]　1903　p.1337-1480 ; 23cm

テイラーはアメリカの機械技師。21歳でミッドヴェル製鋼会社に旋盤工として入社し、後に技術長になった。労働者が意識的に仕事を怠けていることに気づき、こうした意識的怠業をなくすための科学的工場管理システムの構築を志すようになった。

館蔵書は1903年6月のアメリカ機会学会サラトガ大会でテイラーが発表した新たな工場管理法に関する論文で、機械技術の専門機関である「American Society of Mechanical Engineers」の会議における発表を抜刷版として刊行したものである。1911年になって初めて本の形態で出版された。37歳で能率技師とし独立しコンサルタント業を行い、管理原則を実験によって示した研究がまとめられている。

151. パレート編（1848～1923）
「経済学史叢書」初版　6巻（8冊）1903-1929年　ミラノ刊

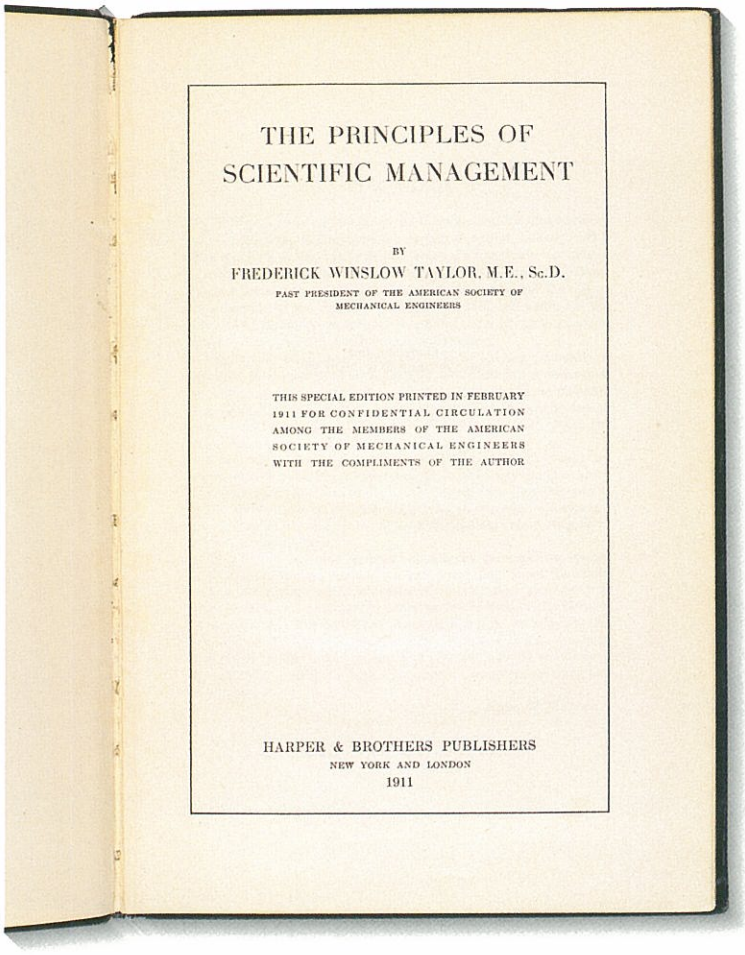




Pareto, Vilfredo Federico Damaso, 1848-1923
Biblioteca di Storia Economica.
Mirano : Societa Editrice Libraria,　1903-29　6 Vols.(in eight) ; 26cm

本書は、パレートが著した経済学史に関する著作で、全6巻の著作であるが8冊に分冊されている。

152. テイラー（1856〜1915）
「科学的管理法の原理」初版　1911年　ニューヨーク刊



THE PRINCIPLES OF
SCIENTIFIC MANAGEMENT

BY
FREDERICK WINSLOW TAYLOR, M.E., Sc.D.
PAST PRESIDENT OF THE AMERICAN SOCIETY OF
MECHANICAL ENGINEERS

THIS SPECIAL EDITION PRINTED IN FEBRUARY
1911 FOR CONFIDENTIAL CIRCULATION
AMONG THE MEMBERS OF THE AMERICAN
SOCIETY OF MECHANICAL ENGINEERS
WITH THE COMPLIMENTS OF THE AUTHOR

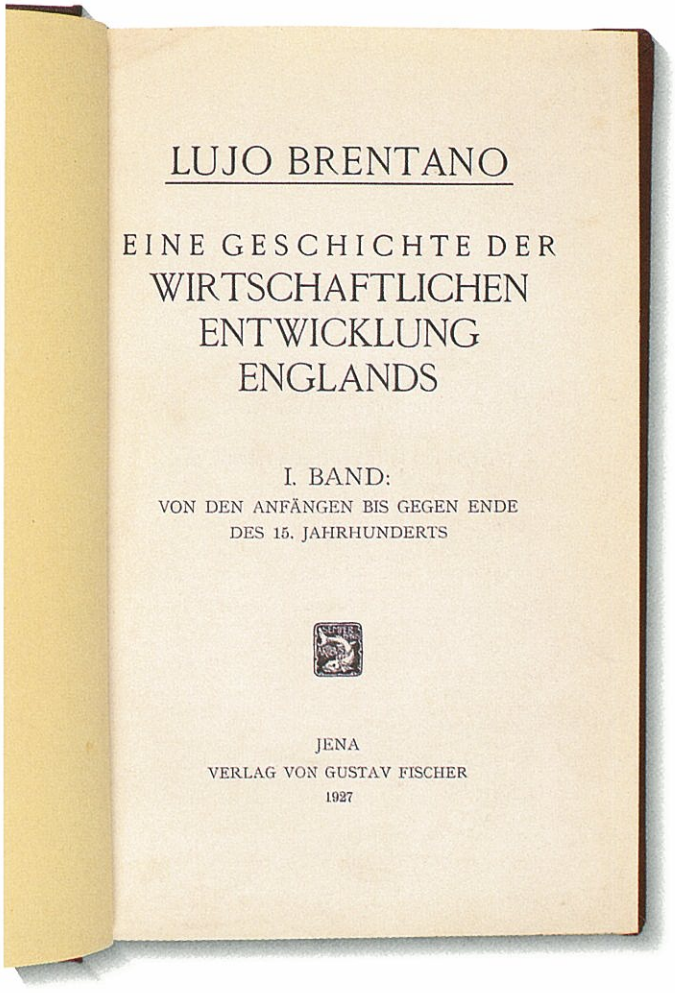
HARPER & BROTHERS PUBLISHERS
NEW YORK AND LONDON
1911

Taylor, Frederick Winslow, 1856-1915
The Principles of scientific management.
New York : Harper & Brothers Publishers,　1911　77p. ; 23cm
PMM 403

「科学的管理の父」と呼ばれるアメリカの技術者テイラーが、いわゆる科学的管理運動に対して理論的根拠を与えた快著。賃金制度の改革を発展させて工場管理の独特の方式を創案したテイラーの科学的管理法は、最初の近代的工場管理法として、後のフォードシステムとともに、世界の産業界に多大な影響を及ぼした。本書は科学的管理に対する社会一般の誤解をとき、科学的管理の正常的発展に資するために書かれたもので、制度そのものよりむしろ制度の根本原則を解明することに力点が置かれている。本書は2章から成り第1章は「科学的管理の基礎」、第2章は「科学的管理法」となっている。フランス、ドイツ、オランダ、日本などで翻訳されていることからもその影響の大きさがうかがわれる。

本書は、はじめ1911年2月にアメリカ機械工学者協会の会員に配布され、その後館蔵書に見られるように1911年1月16日付の著者の序文と補遺3ページを入れて特別に印刷されたが、同年に両者を削除して公刊されている。

153. ブレンターノ（1844～1931）
「イギリス経済発展史」初版　3巻（4冊）　1927-1929年　イエナ刊



LUJO BRENTANO

EINE GESCHICHTE DER
WIRTSCHAFTLICHEN
ENTWICKLUNG
ENGLANDS

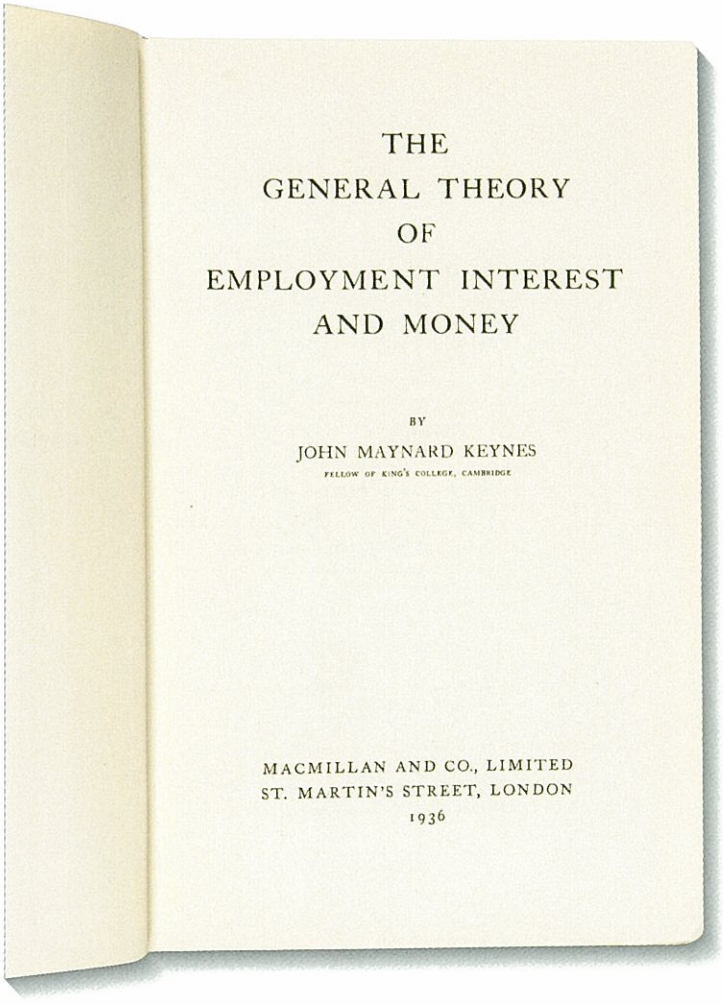
I. BAND:
VON DEN ANFÄNGEN BIS GEGEN ENDE
DES 15. JAHRHUNDERTS

JENA
VERLAG VON GUSTAV FISCHER
1927

Brentano, Lujo, 1844-1931
Eine Geschichte der wirtschaftlichen Entwicklung Englands.
Jena : Gustav Fischer,　1927-29　3 Vols.(in four) ; 23cm

ブレンターノは、「現代労働組合論」の発表後、労働問題や社会問題に興味を持ち、社会政策学会設立の際には指導的役割を果し、ドイツの労働組合運動や労働保険、中世ギルド研究に大きな足跡を残した。本書はケルト定住の古代から第一次世界大戦終了までを発展段階的にまとめた大著で「現代労働組合論」、「歴史における経済人」と並んでブレンターノの主著となっている。第1巻ではケルトの定住、ローマ人移住から封建経済組織のもとにおける自然経済時代とその解体をほぼ15世紀まで著述している。第2巻では重商主義の時代、第3巻第1分冊では1760年以降に展開する自由主義思想による解放と新組織の時代としてほぼ1870年代までを扱い、つづく第3巻第2分冊はそれ以降の帝国主義的展開に当てている。現在でもイギリス経済史に関するすぐれた古典的概説書として高く評価されている。

154. ケインズ（1883～1946）
「雇用、利子および貨幣の一般理論」初版　1936年　ロンドン刊



THE
GENERAL THEORY
OF
EMPLOYMENT INTEREST
AND MONEY

BY
JOHN MAYNARD KEYNES
FELLOW OF KING'S COLLEGE, CAMBRIDGE

MACMILLAN AND CO., LIMITED
ST. MARTIN'S STREET, LONDON
1936

Keynes, John Maynard 1883-1946
The General Theory of Employment, Interest and Money.
London : Macmillan,　1936　xii,403p. ; 22cm
PMM 423

ケインズはイギリスの経済学者。インド省に勤め、その間、確率論の研究に没頭し、マーシャルが引退した年にケンブリッジ大学の特別研究員になり、貨幣論を講じた。ケインズは数多くの分野で活躍したが、ほとんど終生、経済学を業とした。1919年に『平和の経済的帰結』を公にして一躍有名になった。第二次世界大戦が始まると再び大蔵省やイングランド銀行に迎えられ、国際通貨基金の設立や英米金融協定の妥結に重要な役割を果たした。経済学者としての処女作は、『インドの通貨と金融』であるが、「ケインズ革命」の言葉を生むに至った彼の独創性は、本書によって初めて結実した。

参考文献

「西洋をきずいた書物」 J.カーター、P.H.ムーア編　西洋書誌研究会訳　雄松堂書店　1977
「世界名著大事典」全8巻　下中 邦彦編　平凡社　1978
「岩波西洋人名辞典増補版」 岩波書店編集部編　岩波書店　1981
「世界地名辞典」 世界地名辞典編集部編　東京堂　1958
「世界地名大事典」全8巻　渡辺 光［等］編集　朝倉書店　1973
「書物語辞典」 八木 佐吉編著　丸善　1976
「世界伝記大事典 世界編」 ほるぷ出版　1980-1981
「経済学大辞典（第2版）」全3巻　熊谷 尚夫、篠原 三代平編　東洋経済新報社　1980
「経済学88物語」 根井 雅弘編　新書館　1997
「小林昇経済学史著作集Ⅲ」 小林 昇　未来社　1980
「高橋誠一郎経済学史著作集第1～4巻」 高橋　誠一郎　創文社　1993-1994
「本邦所在インキュナブラ目録第2版」 雪嶋 宏一編　雄松堂出版　2004
「アメックス文庫 稀覯書展」 日本大学経済学部　1989
「欧米古書稀覯書展示即売会目録1986～2008」 丸善　1986-2008
「東京国際稀覯書展示即売会第18～20回」 雄松堂書店　1993−1995
「西洋稀覯書展1993～2008」 紀伊国屋書店　1993-2008

Catalogue of Books Printed in the XVth Century Now in the British Museum
London : The Trustees of the British Museum , 1963-[1963]
Copinger, W. A.,
Supplement to Hain's 'Repertorium bibliographicum', Part I(London, 1895)
Goldsmith' -Kress Library of Economic Literature. 5 Vols.
(Research Publications, 1976-1986)
Hiroshi, Matsuda:
A Catalogue of Western Economic Literature in Japanese Universities 1501-1700.
Maruzen,1995
Reichling, Dietericus(ed.):
Appendices ad Hainii-Copingeri Repertorium bibliographicum:
additiones et emendationes facicvlvs 1-4 (Gorlich Editore,1953)
Norman, Jeremy M. & Diana H. Hook (ed.):
The Haskell F.Norman Library of Science and Medicine. Pt.1-3 (Jeremy Norman & Co., Inc. 1998)
http://catalogue.library.uwa.edu.au/search~ /a
Incunabula Short Title Catalogue（http://www.bl.uk/catalogues/istc/index.html）

A

Accarias de Sarionne, Jacques ……64

B

Babbage, Charles ……111
Bagehot, Walter ……135
Balley, Samuel ……106
Barbon, Nicholas ……29
Baudeau, Nicolas ……75
Böhm-Bawerk, Eugen von ……144
Boulainvilliers, H Henri, comte de ……44
Brentano, Lujo ……132,159
Broggia, Carlo Antonio ……47

C

Cairnes, John Elliot ……136
Canard, Nicolas Franmmis ……88
Cantillon, Richard ……53
Carey, Henry Charles ……115,120,124,130
Cary, John ……27,30,31
Chalmers, Thomas ……112
Child, Josiah Sir. ……21
Clark, John Bate ……154
Condillac, Etienne Bonnot de ……76
Cournot, Antoine Augustin ……126,141

D

Dafforne, Richard ……16
Davenant, Charles ……32,36,37,38
Defoe, Daniel ……43,45
De Quincey, Thomas ……117
Du Pont de Nemours, Pierre Samuel ……63,70,95

E

Everett, Alexander Hill ……105

F

Fourier, Francois Marie Charles ……110

G

Galiani, Ferdinando ……50,74
Gentleman,W.S ……10
Godwin, William ……86,99

H

Harris, Joseph ……58
Hildebrand, Bruno ……121

J

Jevons, William Stanley ……133
Jones, Richard ……125

K

Keynes, John Maynard ……160
King, Charles ……42
Knies, Karl Gustav Adolf ……123

L

Lauderdale, James Maitland ……92
Law, John ……39
Le Mercier de la Riviere, Pierre-Paul ……66
Le Trosne, G. F. ……78
List, Friedrich ……116
Locke, John ……26,28,33

M

Malthus, Thomas Robert ……87,89,100,109
Malynes, Gerard ……12
Mandeville, Bernard ……41
Mangoldt, Hans von ……127
Marshall, Alfred ……148
Marx, Karl Heinrich ……129,139
Massie, Joseph ……54
Mathon de la Cour, C. J. ……82
McCulloch, John Ramsay ……107
Menger, Carl ……134,142
Milburn, William ……108

Mill, James ····· 102
Mill, John Stuart ····· 118,122,128
Milne, Joshua ····· 94
Mirabeau, Victor de Riquetti, Marquis de ··· 55,61,62,67,73
Misselden, Edward ····· 13
Moheau, Jean-Baptiste ····· 79
Moreau de Beaumont, Jean Louis ····· 72
Mun, Thomas ····· 11,14,18

N

Necker, Jacques ····· 80,81
North, Dudley Sir. ····· 24

P

Pacioli, Luca ····· 7
Pantaleoni, Maffeo ····· 146
Pareto, Vilfredo Federico Damaso ····· 151,155,157
Paterson, William ····· 51
Petty, Sir. William ····· 22,23,25
Place, Francis ····· 104
Pollexfen, John ····· 34,35
Postlethwayt, Malachy ····· 52,56
Proudhon, Pierre Joseph ····· 119

Q

Quesnay, Francoi ····· 48,68

R

Rea, John ····· 113
Ricardo, David ····· 96,97
Roscher, Wilhelm Georg Friedrich ····· 137
Rousseau, Jean Jacques ····· 59

S

Sand, Thomas ····· 34
Say, Jearn-Baptiste ····· 90,101
Schmoller, Gustav von ····· 131,140
Senior, Nassau William ····· 114
Sismondi, Jean Charles Leonard Simonde de ····· 91,98
Smith, Adam ····· 60,77,85
Smith, Charles ····· 65
Smith, John ····· 49
Staford, William ····· 10
Steuart, James Denham, Sir. ····· 69
Sully, Maximilien De Bethune ····· 17

T

Tagliente, Giovanni Antonio e Girolamo ····· 9
Taylor, Frederick Winslow ····· 156,158
Torrens, Robert ····· 103
Tucker, Josiah ····· 57
Turgot, Anne-Robert-Jacques ····· 83

V

Vanderlint, Jacob ····· 46
Vauban, Sébastian Le Prestre de ····· 40
Vaughan, Rice ····· 19

W

Walras, Léon ····· 138,150,152
Wicksell, John Gustaf Kunt ····· 149,153
Wicksteed, Philip Henry ····· 145
Wieser, Friedrich von ····· 143,147

Y

Yarranton, Andrew ····· 20
Ympyn, Jan Christoffels ····· 8
Young, Arthur ····· 71,84

あとがき

広島経済大学図書館は、2000年4月に「知の系譜−広島経済大学所蔵稀覯書目録−」を刊行しました。この目録は、広島経済大学の開学30周年記念事業として建築された新図書館の落成記念に刊行されたもので、本学が所蔵する「知の系譜」文庫に収蔵されている稀覯書を網羅的に紹介しており、2000年度私立大学図書館協会の協会賞を受賞しました。爾来、「知の系譜」文庫は、「印刷によって人類の発展に寄与した名著を収集する」という収集方針に沿って、着実に蔵書を増やし成長を続けてまいりました。2007年10月には学園創立100周年を記念して「書物のルネサンス展」を開催し、「知の系譜」文庫を広く一般の皆様にも公開させていただきました。

本書は、図録「知の系譜」の新版として石田学園創立100年を記念して刊行するものです。2000年4月以降「知の系譜」文庫に収蔵された稀覯書50点余りを新たに加え、前版の誤りを訂正・加筆し、装丁も一新しました。構成は、前版同様「知の系譜」を三つの分野に分け、それぞれを分冊として刊行しました。古代から近世にかけて学問的分類がこのような形でなされてきたわけではなく、人類の叡智を三つに分類することは、もとより無理なことであることは承知しております。しかし、本学が所蔵する「知の系譜」文庫をわかりやすく紹介するために、「知の系譜」を敢えて三つに分類致しました。そのため、分類が不適当で疑問を持たれるケースもあろうかと存じます。また、著作の解説、書誌記述につきましては、力のおよぶ限り調査したつもりではありますが、浅学非才のための過誤も多くあろうかと存じます。本目録の内容、記述等に過誤がございましたらどうか忌憚の無いご意見、ご叱正を賜りたく存じます。

本目録の作成に際し、早稲田大学の雪嶋宏一先生には大変お世話になりました。貴重なご助言をいただいた上、お忙しい中を序文のご寄稿をお引き受けいただきました。また、丸善株式会社の木村潤一郎氏には、前版の原稿を再掲載することを快諾していただきました。お二人には心より感謝申し上げます。また、(株)広島朝日広告社の小山裕子氏には企画の段階から本目録の刊行についてご尽力いただきました。原稿が遅れたため刊行予定が大幅に伸びてしまい大変ご迷惑をお掛けしました。御詫びとお礼を申し上げます。最後に、この様な貴重な仕事をさせて下さいました本学園の石田恒夫理事長に心から感謝申し上げます。

平成21年6月

広島経済大学図書館
部長　西川 英治

新版 知の系譜 — A Genealogy of Knowledge —
広島経済大学図書館所蔵稀覯書目録

2000年4月1日　初版発行
2009年6月1日　新版発行

編　集　石田 恒夫
　　西川 英治

発　行　学校法人石田学園 広島経済大学図書館
　　〒731-0192 広島市安佐南区祇園5丁目37番1号
　　電話(082)871-1662(直通)

発　売　(株)雄松堂出版
　　〒112-0012 東京都文京区大塚3-42-3
　　電話(03)3943-5791

企　画　(株)広島朝日広告社
　　〒730-0013 広島市中区八丁堀11番28号
　　電話(082)228-0131(代表)

撮　影　森本 勝義

印　刷　(株)DNP西日本
　　〒815-0031 福岡市南区清水2-16-36
　　電話(092)553-4031